TOSHIBA

取扱説明書

REGZA

液晶テレビ

形名 32S22H/43S22H



「付属品を確認する」、「テレビを設置する」、「はじめての設定」などの **準備** は 14〜27 をご覧ください。

安全上のご注意

準備をする

テレビを見る

録画機器を使う

接続機器を使う

インターネットに接続する

調整・設定をする

さまざまな情報

困ったときには

使用上のお願いとご注意

お客様登録サービス「Room1048（ルームトウシバ）」に登録をお願いします!

Room1048は東芝デジタル商品のお客様登録サービス※です。
ご登録いただくと、さまざまなサービスやサポートが受けられます。
※お客様登録は、Web限定のサービスです。

※キャンペーン情報もこちらをご覧ください。

>>>ご登録はこちらから!<<<

https://toshibadirect.jp/room1048/

：：必ず最初に「安全上のご注意」8 をご覧ください。

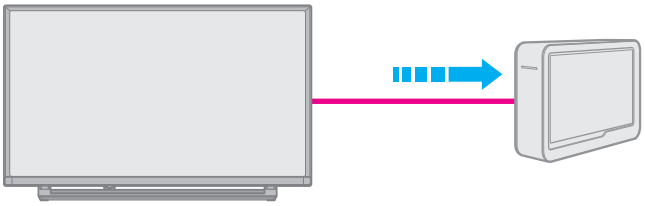
：：映像や音声が出なくなった、操作ができなくなったなどの場合は、「困ったときには」をご覧ください。

このたびは東芝テレビをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
お求めのテレビを安全に正しく使っていただくため、お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みください。
お読みになったあとは、いつも手元に置いてご使用ください。

本機の特長 ～こんなことができます～

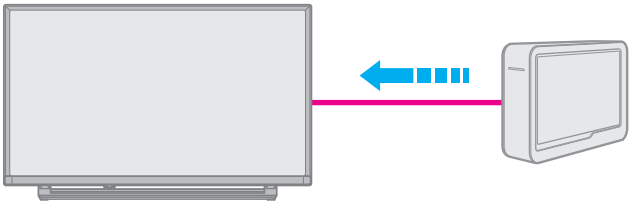
録画する ➡ 50 ～ 56

市販のUSBハードディスクにデジタル放送の録画・予約録画ができます。



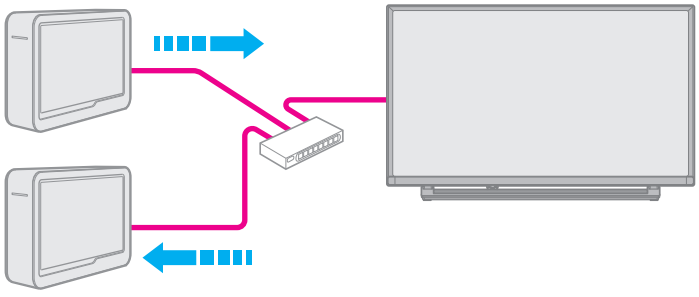
見る ⇨ 57 ～ 61

市販のUSBハードディスクに録画した番組の再生ができます。



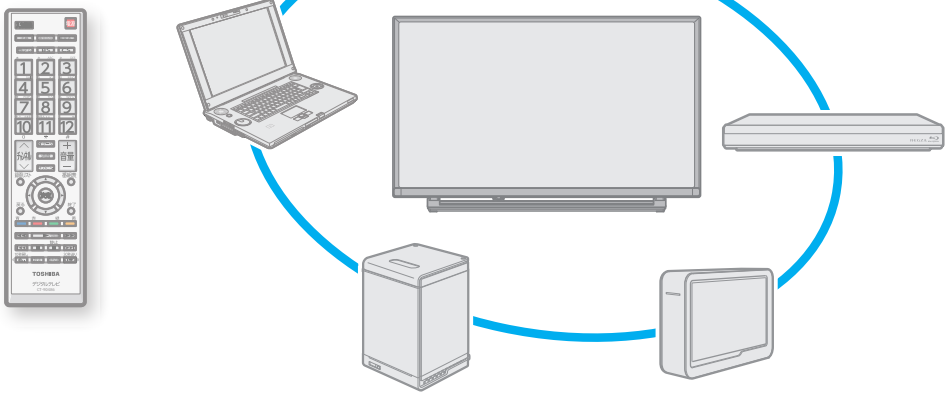
残す（ムーブする） ➡ 65

市販のUSBハードディスクに録画した番組を別の市販のUSBハードディスクに移動ができます。



接続機器の映像・音声を楽しむ ➡ 66 ～ 74

HDMI連動機器を本機のリモコンで操作したり、接続機器の録画番組・動画を楽しんだりすることができます。



アラーム、オフタイマー機能 43 ～ 44

●アラーム機能では、設定した日時にお知らせをしたり、オフタイマーでは、設定した時間後に電源を「待機」にしたりできます。

多彩な映像モード

●周囲の環境や映像に合わせて選択できる「あざやか」、「標準」、「ライブ」、「映画」、「ゲーム」などの多彩な映像モードが用意されています。 78

●お好みに合わせて調整することもできます。78 ～ 80

節電機能 42

●「減1」、「減2」の二つの節電モードが用意されています。

もくじ

安全上のご注意 …… 8

準備をする

付属品を確認する …… 14
各部のなまえ …… 15
前面 …… 15
背面 …… 15
本体ボタンと入出力端子 …… 16
リモコン …… 17
スタンドを取り付ける …… 18
テレビを設置する …… 20
正しい置きかた …… 20
転倒・落下防止のしかた …… 20
miniB-CAS（ミニビーキャス）カードを挿入する …… 22
挿入のしかた …… 22
取り出しかた …… 22
デジタル放送の種類と特徴 …… 23
アンテナを接続する …… 23
お願いとご注意 …… 23
地上放送と衛星放送が個別のアンテナの場合 … 24
地上放送と衛星放送が混合のアンテナの場合（マンションの共聴アンテナなど） …… 24
録画機器を経由する場合 …… 24
リモコンの準備をする …… 25
乾電池を入れる …… 25
リモコンの使用範囲について …… 25
電源を入れる …… 26
電源コードを接続する …… 26
電源を入れる …… 26
電源を「待機」にする／切る …… 26
お願い…電源プラグの取り扱いについて … 26
「はじめての設定」をする …… 27
「はじめての設定」について …… 27
「はじめての設定」の流れ …… 27
①地上デジタルチャンネル～③映像モードの設定をする …… 27
「はじめての設定」をやり直すとき …… 27

テレビを見る

テレビ番組を楽しむ …… 28
リモコンで番組を選ぶ …… 28
音量を調節する／音を一時的に消す／字幕を表示させる …… 29
本体ボタンによる「機能切換」について …… 29
操作ガイドについて …… 30
サブメニューについて …… 31
番組情報や番組説明を見る …… 32
番組情報を見る …… 32
番組説明を見る …… 32
番組表で番組を探す …… 33
番組表を使う …… 33
番組を見ながら他の番組を探す（ミニ番組表） … 34
番組表を便利に使う …… 34
条件を絞りこんで番組を探す …… 37
データ放送やラジオ放送を楽しむ …… 39
連動データ放送を楽しむ …… 39
独立データ放送やラジオ放送を楽しむ …… 39
便利な機能を使う …… 40
画面サイズを切り換える …… 40
降雨対応放送について …… 40
他の映像・音声・データを切り換える …… 41
映像を静止させる …… 42
省エネ設定をする …… 42
ヘッドホンで聴く …… 42
外部スピーカーで聴く …… 43
時計を表示する …… 43
アラームを使う …… 43
アラームの動作について …… 44
アラームを一時的に解除する …… 44
オフタイマーを使う …… 44

録画機器を使う

録画機器の準備をする 45

録画・予約機能について ····· 45
録画できる機器と番組 ····· 45
接続・設定と録画前の準備 ····· 45
USBハードディスクの接続をする ····· 46
USBハードディスクを接続する ····· 46
USBハードディスクの設定をする ····· 47
USBハードディスクを本機に登録する ····· 47
USBハードディスクの設定をする ····· 47
録画の基本的な設定をする ····· 49
録画に使用する機器を設定する ····· 49
チャプター分割のしかたを設定する ····· 49

録画・予約をする 50

番組を録画する ····· 50
番組表で予約をする ····· 51
メッセージが表示された場合 ····· 51
マルチ表示の番組表で予約するとき ····· 51
連続ドラマを予約する ····· 52
日時を指定して予約をする／番組を検索して録画・予約をする ····· 53
日時を指定して予約をする ····· 53
番組を検索して録画・予約をする ····· 53
録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき ··· 54
予約の確認・変更・取り消しをする ····· 55
予約・録画の優先順位と予約の動作について ··· 56
予約・録画の優先順位について ····· 56

再生する 57

録画した番組を再生する ····· 57
再生の基本操作とさまざまな再生のしかた ··· 57
録画番組の再生中にできるリモコン操作 ···· 58
録画番組の情報や番組説明を見る ····· 59
録画番組を修復する ····· 59
見たい録画番組を探して再生する ····· 60
録画リストのさまざまな機能を使う ····· 61
繰り返し再生の設定を変える ····· 61
番組を並べ替える ····· 61
ほかの機器を選択する ····· 61
連ドラ予約をする ····· 61
機器の情報を確認する ····· 61
ハードディスクの残量を確認する ····· 61

不要な録画番組を消す／誤って消さないように保護する 62

不要な録画番組を消す／誤って消さないように保護する ····· 62
一つの録画番組を消す ····· 62
複数の録画番組を消す ····· 62
グループ内の録画番組をすべて消す ····· 62
自動的に消す(自動削除設定) ····· 62
誤って消さないように保護する ····· 62

編集・ムーブする 63

チャプター編集をする ····· 63
録画済番組の再生中に編集する ····· 63
グループ名を変更する ····· 63
ほかのグループに移動する ····· 64
録画番組をムーブ(移動)する ····· 65

接続機器を使う

外部機器を接続する 66

外部機器を接続する ····· 66
外部機器接続例 ····· 66
アナログ音声入力端子付のオーディオ機器で聴くとき ··· 67
デジタル音声(光)端子付のオーディオ機器で聴くとき ··· 68
HDMI連動対応のオーディオ機器で聴くとき ··· 68
外部入力の機能を設定する ····· 69
入力切換時に画面に表示される機器名を設定する ··· 69
使用しない外部入力をスキップする ····· 69
HDMI入力のRGBレンジを設定する ····· 69
ビデオ入力の音声入力を設定する ····· 69
HDMI連動について ····· 70
HDMI連動機能でできること ····· 70
HDMI連動機能について ····· 71
本機のリモコンでHDMI連動機器を操作するための設定をする ····· 71
外部入力の画面に切り換える ····· 72
本機のリモコンで対応機器を操作する ····· 73
機器を操作する ····· 73
本機のリモコンでできるおもな操作 ····· 73
オーディオ機器(サウンドシステム)で聴く ··· 74
オーディオ機器のスピーカーで聴く ····· 74

もくじ つづき

インターネットに接続する

インターネットに接続する 75

インターネットを利用するための接続をする ··· 75
本機をインターネットに接続したときに できること ····· 75
接続のしかた ····· 75

インターネットを利用するための設定をする ··· 76
IPアドレス設定 ····· 76
DNS設定 ····· 76
プロキシ設定 ····· 76
接続テスト ····· 77
ネットワーク情報 ····· 77

調整・設定をする

映像を調整する 78

お好みの映像モードを選ぶ ····· 78
お好みの映像に調整する ····· 78
バックライト ····· 79
コントラスト ····· 79
黒レベル ····· 79
色の濃さ ····· 79
色あい ····· 79
精細感・ノイズ調整 ····· 79
コントラスト感調整 ····· 80
色温度 ····· 80
映像調整の初期化 ····· 80

音声を調整する 81

お好みの音声に調整する ····· 81
高音 ····· 81
低音 ····· 81
バランス ····· 81
デジタル音声出力 ····· 81
デジタル音声出力タイミング ····· 82
ヘッドホン／音声出力設定 ····· 82

その他の設定をする 83

アンテナを調整する ····· 83
電波の強さ(信号強度)を確認する ····· 83
アンテナを調整する ····· 83
BS・110度CS用アンテナの電源供給の設定を変更する ····· 84
アンテナ線がショートしたとき ····· 84
チャンネルを追加したり設定を変更したりするとき ····· 85
地上デジタルチャンネルを自動で設定する ··· 85
チャンネルをお好みに手動で設定する ····· 86
視聴しないチャンネルをスキップする ····· 87
チャンネル設定を最初の状態に戻すには ···· 87
データ放送の設定をする ····· 88
郵便番号と地域を設定する ····· 88
災害発生時に文字情報を表示させる ····· 88
データ放送用メモリーの割当画面が表示されたら ··· 89
視聴できる番組を制限する ····· 90
制限するために暗証番号を設定する ····· 90
番組の視聴を制限する ····· 90
お買い上げ時の設定に戻すには(設定内容を初期化するには) ····· 91
設定メニュー 一覧 ····· 92

さまざまな情報

ソフトウェアを更新する ····· 93
ソフトウェアの更新機能について ····· 93
ソフトウェアの自動ダウンロードについて ··· 93
ソフトウェアのバージョンを確認するには ··· 93
お知らせを見る ····· 94
B-CASカード情報を確認する ····· 94
文字を入力する ····· 95

アイコン一覧 ····· 96
番組についてのアイコン ····· 96
お知らせ、予約、その他についてのアイコン ··· 96
Basic Operations ····· 97
画面サイズについて ····· 99
対応フォーマット ····· 101
本機で対応しているHDMI入力信号フォーマット ··· 101
ライセンスおよび商標などについて ····· 101
本機で使われるソフトウェアのライセンス情報 · 102

困ったときには

こんな場合は故障ではありません ・・・・・・・126
症状に合わせて解決法を調べる ・・・・・・・・・126
テレビが操作できなくなったとき－テレビをリセットする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 126
操作 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 127
映像 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 127
音声 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 128
地上デジタル放送 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 128
BS・110度CSデジタル放送・・・・・・・・・・・・・・ 129
番組表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129
お知らせアイコン ⓘ が何度も表示される ・・・ 129
録画・再生 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 130
HDMI連動機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 131
ネットワークが利用できない・・・・・・・・・・・・・ 131
エラーメッセージが表示されたとき ・・・・・・133
全般 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 133
USBハードディスクに関するエラー表示・・・ 134
LAN端子を使った通信に関するエラー表示・・・ 135

使用上のお願いとご注意

使用上のお願いとご注意 ・・・・・・・・・・・・・・・・136
取り扱いについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 136
電源プラグをコンセントから抜く際のご注意・・・ 136
録画・録音について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 136
本機を廃棄、または他の人に譲渡するとき ・・・ 136
免責事項について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 136
お手入れについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・137
お手入れの際のご注意 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 137
キャビネットと画面のお手入れ ・・・・・・・・・・・ 137
仕様 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・138
さくいん ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・140
保証とアフターサービス ・・・・・・・・・・・・・・・・・143

この取扱説明書内のマークの見かた

お知らせ　機能などの補足説明、参考にしていただきたいこと、制限事項などを記載しています。

用語　用語の説明をしています。(分野によっては、同じ用語を別の意味で使用していることがあります)

関連する内容が記載されているページの番号を示しています。

お願い　取扱上のお願いを記載しています。

ご注意　取扱上のご注意を記載しています。

お知らせ

- この取扱説明書は、32S22H ／ 43S22Hで共用です。記載しているイラストは32S22Hのものです。他の機種はイメージが多少異なります。

安全上のご注意

商品および取扱説明書には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。
次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

【表示の説明】

表　示	表示の意味
⚠ 警告	“取り扱いを誤った場合、人が死亡、または重傷＊1を負うことが想定されること”を示します。
⚠ 注意	“取り扱いを誤った場合、人が軽傷＊2を負うことが想定されるか、または物的損害＊3の発生が想定されること”を示します。

＊1：重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温・化学）、感電、骨折、中毒などで、後遺症をもたらすもの、および治療に入院や長期の通院を要するものをさします。
＊2：軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などをさします。
＊3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

【図記号の例】

図記号	図記号の意味
 禁　止	“⃠”は、**禁止（してはいけないこと）**を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
 指　示	“●”は、**指示する行為の強制（必ずすること）**を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
 注　意	“△”は、**注意**を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

⚠ 警告

異常や故障のとき

■ 煙が出ている、変なにおいがするときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く


プラグを抜け

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙が出なくなるのを確認し、お買い上げの販売店にご連絡ください。

■ 画面が映らない、音が出ないときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く


プラグを抜け

そのまま使用すると、火災の原因となります。
お買い上げの販売店に、点検をご依頼ください。

■ 内部に水や異物がはいったら、すぐに電源プラグをコンセントから抜く


プラグを抜け

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
お買い上げの販売店に、点検をご依頼ください。

■ 落としたり、キャビネットを破損したりしたときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く


プラグを抜け

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
キャビネットが破損したままで取り扱うと、けがのおそれがあります。
お買い上げの販売店に、点検・修理をご依頼ください。

警告

■ 電源コードや電源プラグが傷んだり、発熱したりしたときは、本体ボタンの中央部を押して電源を切り、電源プラグが冷えたことを確認し、コンセントから抜く


プラグを抜け

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
コードが傷んだら、お買い上げの販売店に交換をご依頼ください。

設置するとき

■ 本機はコンセントから電源プラグが抜きやすいように設置する


指　示

万一の異常や故障のとき、または長期間使用しないときなどに役立ちます。

■ 屋外や浴室など、水のかかるおそれのある場所には置かない


風呂、シャワー室での使用禁止

火災・感電の原因となります。

■ ぐらつく台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かない


禁　止

テレビが落下すると、重大なけがや死亡の原因となります。

多くのけが、特にお子様のけがは以下のような簡単な予防措置を取ることで回避できます。

- スタンドは本機に付属のスタンドを付属のネジで本機の本体に固定して使用する。
- 本機を安全に保持できるテレビ台などの専用の家具を使用する。
- 本機は設置するテレビ台などの家具の端からはみ出さないように設置する。
- 背の高い家具（食器棚や本棚など）の上には本機と家具の両方を頑丈な柱や壁などに確実に固定した場合以外は設置しない。
- 本機と本機を設置するテレビ台などの家具の間には、布など何も敷かない。
- お子様には、本機やリモコンを操作するために本機を設置したテレビ台などの家具によじ登ると危険であることをよく説明して教え、お子様がテレビを設置した家具によじ登らないように注意する。

これまで使用していたテレビを使い続ける場合や別の場所に移動する場合にも上記と同様な対応が必要です。
テレビ台を使用するときは、その取扱説明書もよくお読みください。

■ 振動のある場所に置かない


振動禁止

振動でテレビが移動・転倒し、けがの原因となります。

■ 電源プラグは交流100Vコンセントに根元まで確実に差し込む


指　示

交流100V以外を使用すると、火災・感電の原因となります。
差し込みかたが悪いと、発熱によって火災の原因となります。
傷んだ電源プラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

■ 電源コードのコネクターは、本体のAC IN端子に確実に差し込む


指　示

差し込みかたが悪いと、発熱によって火災の原因となります。本機を移動したりしたときは、差込部分のゆるみがないかご確認ください。

■ 上にものを置いたり、ペットをのせたりしない


上載せ禁止

金属類や、花びん・コップ・化粧品などの液体、ペットの尿・体毛などが内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。
重いものなどが置かれて落下した場合、けがの原因となります。

■ miniB-CASカードを乳幼児の手の届く所に置かない


放置禁止

誤って飲み込むと窒息またはけがのおそれがあります。万一、飲み込んだと思われる場合は、すぐに医師にご相談ください。
miniB-CASカードは、台紙（説明書）から取り出し、速やかに本機のminiB-CASカード挿入口に挿入してください。22

安全上のご注意　つづき

⚠警告

設置するとき　つづき

■ **壁に取り付けて使用する場合、壁掛工事は、お買い上げの販売店に依頼する**


指　示

工事が不完全だと、けがの原因となります。

■ **転倒・落下防止の処置をする**


指　示

転倒・落下防止の処置をしないと、テレビの転倒・落下によってけがなどの危害が大きくなります。
転倒防止のしかたは20ページをご覧ください。

使用するとき

■ **修理・改造・分解はしない**


分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電・火災の原因となります。
内部の点検・調整および修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ **電源コード・電源プラグは、**


禁　止

- **傷つけたり、延長するなど加工したり、加熱したり（熱器具に近付けるなど）しない**
- **引っ張ったり、重いものを載せたり、はさんだりしない**
- **無理に曲げたり、ねじったり、束ねたりしない**

火災・感電の原因となります。

■ **異物を入れない**


異物挿入禁止

通風孔などから金属類や紙などの燃えやすいものが内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。
特にお子様にはご注意ください。

■ **雷が鳴りだしたら、テレビ・電源コード・アンテナ線および本機に接続した機器やケーブル・コードに触れない**


禁　止

感電の原因となります。

■ **包装に使用しているビニール袋でお子様が遊んだりしないように注意する**


指　示

かぶったり、飲み込んだりすると、窒息のおそれがあります。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

■ **電源コードは、本機の付属品を使用する**


指　示

付属品以外の電源コードを使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

■ **本機に付属されている電源コードを他の機器に使用しない**


禁　止

他の機器に使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

お手入れについて

■ **時々電源プラグを抜いて点検し、刃や刃の取り付け面にゴミやホコリが付着している場合は、きれいに掃除する**


指　示

電源プラグの絶縁低下によって、火災の原因となります。

⚠注意

設置するとき

■ 温度の高い場所に置かない


禁　止

直射日光の当たる場所やストーブのそばなど、温度の高い場所に置くと火災の原因となることがあります。
また、キャビネットの変形や破損などによって、感電の原因となることがあります。

■ 通風孔をふさがない


禁　止

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

壁に押しつけないでください。(10cm以上の間隔を空ける)
押し入れや本箱など風通しの悪いところに押し込まないでください。
テーブルクロス・カーテンなどを掛けたりしないでください。
じゅうたんや布団の上に置かないでください。
あお向け・横倒し・逆さまにしないでください。

■ 湿気・油煙・ホコリの多い場所に置かない


禁　止

加湿器・調理台のそばや、ホコリの多い場所などに置くと、火災・感電の原因となることがあります。

■ 移動したり持ち運んだりする場合は、


指　示

- **包装箱から出すとき、持ち運ぶときは、二人以上で取り扱う**
  一人で取り扱うと、身体を痛めたり、テレビを落としてけがをしたりする原因となることがあります。
- **離れた場所に移動するときは電源プラグ・アンテナ線・機器との接続線および転倒防止をはずす**
  はずさないまま移動すると、電源コードが傷つき火災・感電の原因となったり、テレビが転倒してけがの原因となったりすることがあります。
- **車(キャスター)付きのテレビ台に設置している場合、移動させるときは、キャスターの固定を解除し、テレビを支えながら、テレビ台を押す**
  テレビを押したり、テレビを支えていなかったりすると、テレビが落下してけがの原因となることがあります。
- **衝撃を与えないように、ていねいに取り扱う**
  テレビが破損してけがの原因となることがあります。

■ 車(キャスター)付きのテレビ台に設置する場合は、キャスターが動かないように固定する


指　示

固定しないとテレビ台が動き、けがの原因となることがあります。
畳やじゅうたんなど柔らかいものの上に置くときは、キャスターをはずしてください。キャスターをはずさないと、揺れたり、傾いたりして倒れることがあります。

使用するとき

■ テレビ台を使用するときは、


禁　止

- **不安定な台を使わない**
- **片寄った載せかたをしない**
- **テレビ台のトビラを開けたままにしない**
- **耐荷重が本機の質量より軽いテレビ台を使わない**
- **テレビ台の端からはみ出さない**
- **本機とテレビ台の間には布など何も敷かない**

倒れたり、破損したり、指をはさんだり、引っ掛けたりして、けがの原因となることがあります。特にお子様にはご注意ください。

■ コンセントや配線器具の定格を超える使いかたはしない


禁　止

タコ足配線をしないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張って抜かない


引っ張り禁止

電源コードを引っ張って抜くと、電源コードや電源プラグが傷つき火災・感電の原因となることがあります。
電源プラグを持って抜いてください。

■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない


ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

安全上のご注意　つづき

⚠注意

■ テレビやテレビ台にぶら下ったり、上に乗ったりしない


禁　止

落ちたり、倒れたり、壊れたりしてけがの原因となることがあります。
特にお子様にはご注意ください。

■ 旅行などで長期間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜く


プラグを抜け

万一故障したとき、火災の原因となることがあります。
本体ボタンの中央部を押したり、リモコンの電源ボタンを押して画面を消した場合は、本機への通電は完全には切れていません。本機への通電を完全に切るには、電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ ヘッドホンやイヤホンを使用するときは、音量を上げすぎない


禁　止

耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

■ リモコンに使用している乾電池は、


禁　止

- **指定以外の乾電池は使用しない**
- **極性表示⊕と⊖を間違えて挿入しない**
- **充電・加熱・分解したり、ショートさせたりしない**
- **火や直射日光などの過激な熱にさらさない**
- **表示されている「使用推奨期限」の過ぎた乾電池や、使い切った乾電池はリモコンに入れておかない**
- **長期間使用しないときは、乾電池をリモコンに入れておかない**
- **種類の違う乾電池、新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しない**

これらを守らないと、液もれ・発熱・発火・破裂などによって、やけど・けがの原因となることがあります。
もれた液が目にはいったり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいったり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。
衣服についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。
器具についたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

■ 液晶テレビの画面をたたいたり、衝撃を加えたりしない


禁　止

ガラスが割れて、けがの原因となることがあります。
もしも、ガラスが割れて液晶（液体）がもれたときは、液晶に触れないでください。
もれた液が目にはいったり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいったり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。
衣服などについたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。
床や周囲の家具、機器などについたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

■ テレビの周囲に薬品、芳香剤、消臭剤、化粧品、洗剤などを置かない


禁　止

薬品・芳香剤・消臭剤・化粧品・洗剤などの中には、プラスチックに付着すると劣化やひび割れを生じさせるものがあります。（詳しくは、下の「お知らせ」をご覧ください）
テレビのキャビネットやスタンド部分が破損すると、感電の原因となったり、テレビが転倒してけがの原因となったりすることがあります。
薬品・芳香剤・消臭剤・化粧品・洗剤などがテレビに付着したときは、すぐにきれいにふき取ってください。
テレビのキャビネットやスタンド部分などにひび割れなどの破損が生じたときは、すぐにお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

お知らせ

- 本機のキャビネット、スタンドなどにはプラスチックが多く使われています。薬品・芳香剤・消臭剤・化粧品・洗剤などの中にはプラスチックに付着したままにしておくと、プラスチックの劣化・ひび割れ（ケミカルストレスクラック）の原因となるものもあります。
「ケミカルストレスクラック」とは、製品荷重などの応力が加わっているプラスチック部分に、薬品・芳香剤・消臭剤・化粧品・洗剤などが付着すると、付着物がプラスチック内部に浸透して応力との相互作用でひび割れや破損が発生する現象です。こぼれたこれらの液体などが、製品底面のプラスチック部分と設置台のすき間に浸み込んだ場合でも、放置すると発生することがあります。

⚠注意

お手入れについて

■ お手入れのときは、電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜け

感電の原因となることがあります。
お手入れのしかたは137をご覧ください。
（電源プラグを抜く前に、「電源プラグをコンセントから抜く際のご注意」136をお読みください）

■ 1年に一度は内部の清掃を、お買い上げの販売店にご相談ください

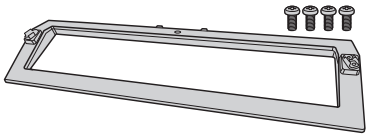
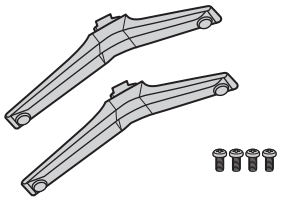
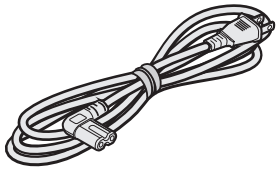
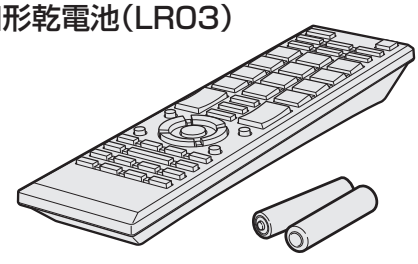
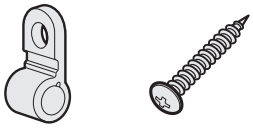


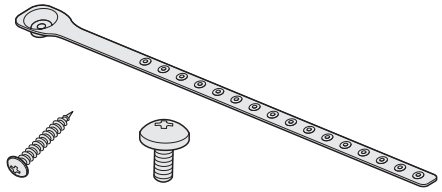
指　示

本体の内部にホコリがたまったまま使用すると、火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと効果的です。内部清掃費用については、お買い上げの販売店にご相談ください。

付属品を確認する

- 本機には以下の付属品があります。お確かめください。
- アンテナや外部機器などに接続するためのケーブルやコード、器具・機器などは付属されておりません。機器の配置や端子の形状、使用環境などに合わせて適切な市販品を別途お買い求めください。

付属品/名称	付属数
スタンド(32S22H) ● 本体に取り付けます。18 ● 底部に、転倒防止用バンドを取り付け済みです。21  ＊付属のネジは以下になります。 M4 小ネジ、長さ 16mm（4 本）	スタンド 1 個 ネジ 4 本
スタンド(43S22H) ● 本体に取り付けます。18  ＊付属のネジは以下になります。 M4 小ネジ、長さ 25mm（4 本）	スタンド 2 個 ネジ 4 本
電源コード 	1 本
リモコン(CT-90486) **単四形乾電池(LR03)** 	リモコン 1 個 乾電池 2 本
ネジ（長）、クリップ **(32S22H)** ● テレビの転倒・落下防止に使います。20 	ネジ（長） 1 本 クリップ 1 個

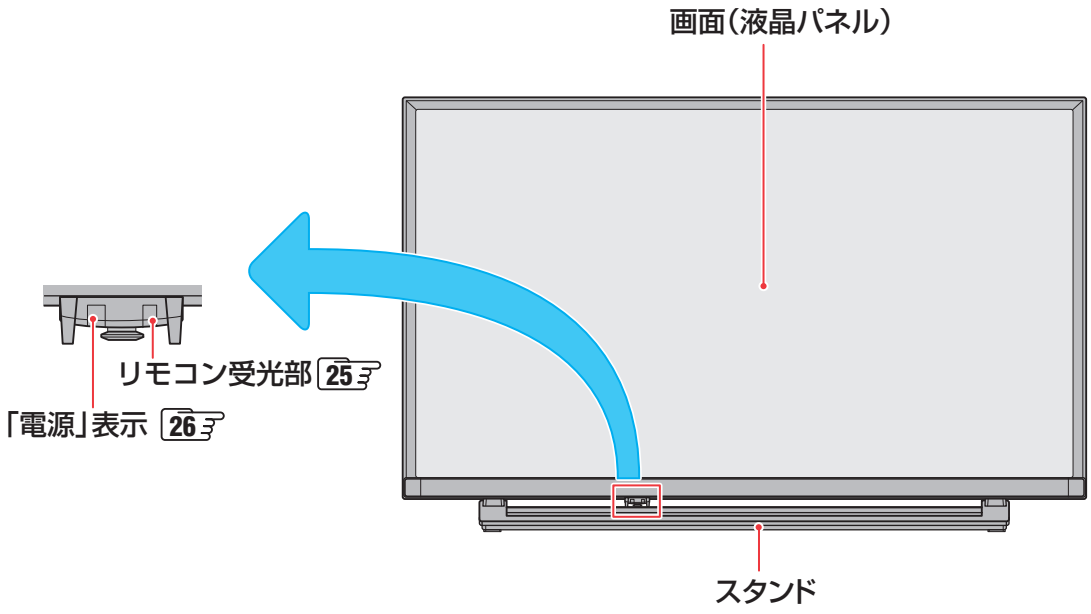
付属品/名称	付属数
ネジ（長）、ネジ（短）、転倒防止バンド **(43S22H)** ● テレビの転倒・落下防止に使います。20 	ネジ（長） 1 本 ネジ（短） 1 本 バンド 1 本
miniB-CASカード ● miniB-CASカードは付属品袋の中に収納されています。 本機の側面に挿入します。22	1 枚
取扱説明書(本書) **スタンド取付説明書** **「お客様登録サービス」のチラシ**	各 1 部

※ 付属品紛失の際は弊社部品をお求めください。

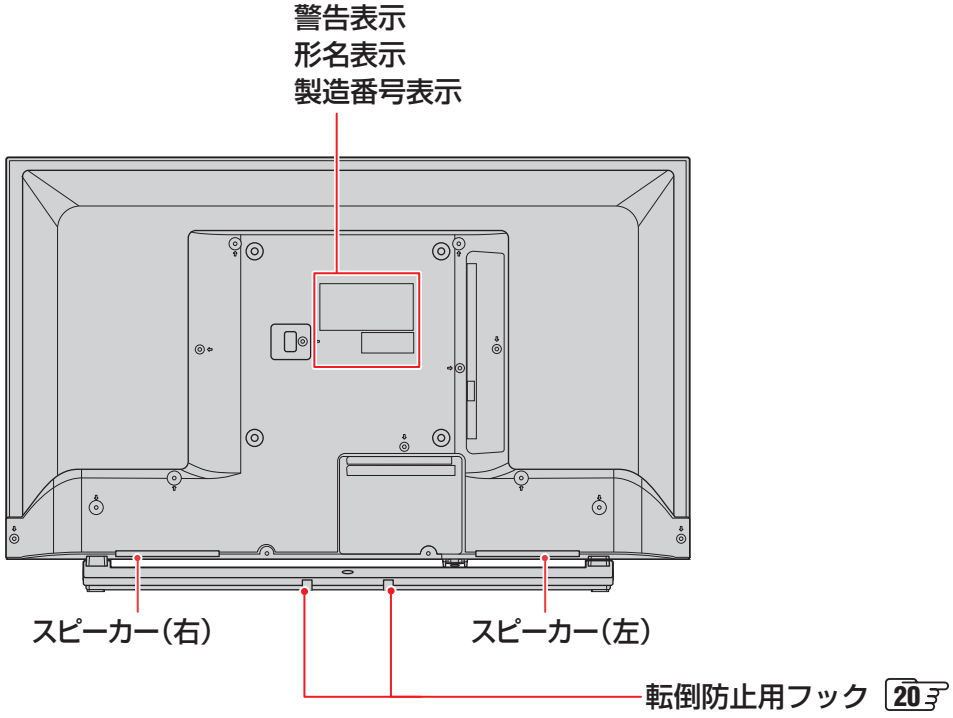
各部のなまえ

- 製品イラストは32S22Hです。他の機種はイメージが多少異なります。
- 詳しくは☞内のページをご覧ください。(代表的なページを示しています)

前面

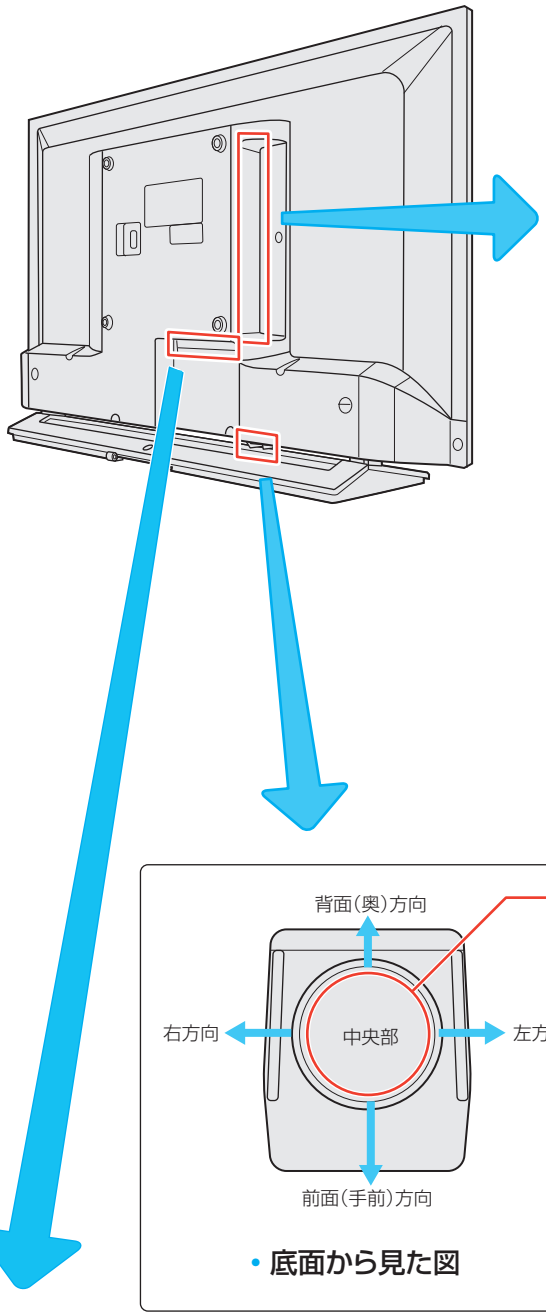


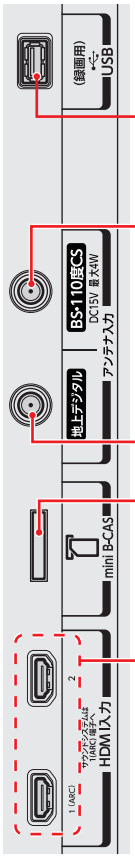
背面



各部のなまえ つづき

本体ボタンと入出力端子





録画専用USB端子 46
- USBハードディスクを接続して録画・再生ができます。

BS・110度CSアンテナ入力端子 23

地上デジタルアンテナ入力端子 23

miniB-CASカード挿入口 22

HDMI入力1、2端子 66
- 映像機器やHDMI連動対応のオーディオ機器を接続します。

- 底面から見た図

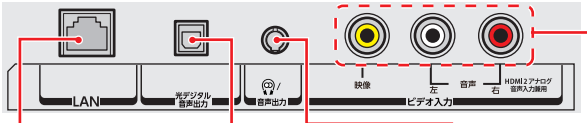
本体ボタン

電源 26
- 中央部を押すと電源を切／入します。

機能切換 29
- 手前に動かすたびに、本体ボタンを左右に動かしたときの機能が切り換わります。

音量 29
- 通常は、左右に動かすと音量の調節をします。本体ボタンを手前に動かすたびに、機能が切り換わります。

消音
- 奥に動かすと、音を一時的に消します。もう一度奥に動かすと音が出ます。



ビデオ入力端子 66
- 映像機器を接続します。
- 音声入力端子をHDMI入力2のアナログ音声入力端子として使用できます。

LAN端子 75
- インターネットに接続します。

光デジタル音声出力端子 68
- 光デジタル音声入力端子を備えたオーディオ機器などに接続します。

ヘッドホン／音声出力端子 67
- ヘッドホンや外部スピーカーで聴くときに、プラグをここに差し込みます。

リモコン

- 本書に記載している操作で使用するリモコンのボタンと、そのおもな機能は以下のとおりです。(ボタンによっては、通常の操作時と機能の異なるものがあります)
- 詳しくは☞内のページをご覧ください。(代表的なページを示しています)

- 電源を入れる/待機にする…… 26
- 外部入力機器の画面に切り換える…… 72

- 字幕の表示／非表示を切り換える …… 29
- 番組の説明を見る …… 32
- 番組名や放送局名、放送時間などを見る…… 32

- 放送の種類を切り換える…… 28

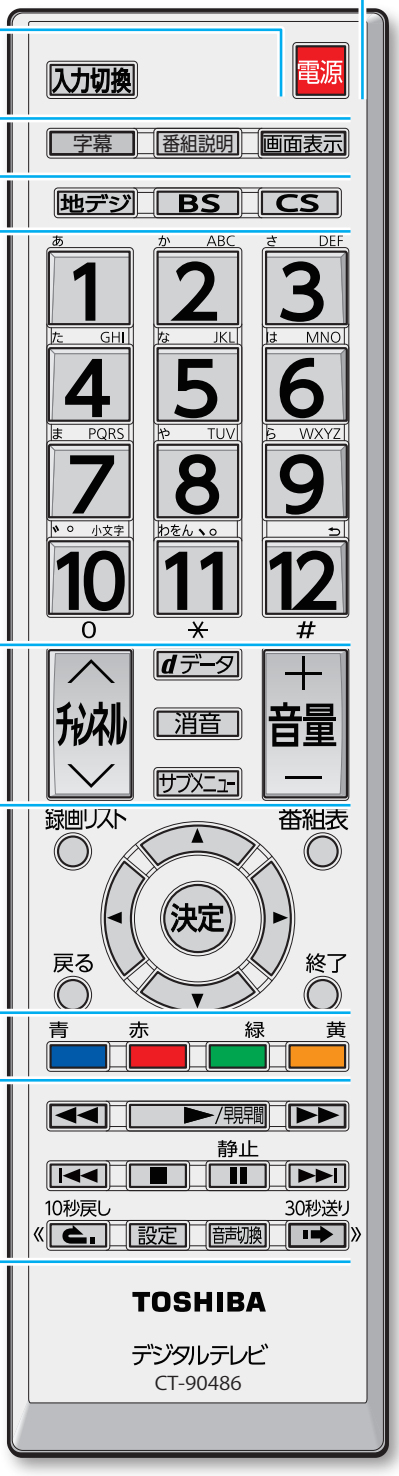
- チャンネルを選ぶ(ワンタッチ選局)…… 28
- 文字を入力する …… 95

- チャンネルを順番に選ぶ …… 28
- データ放送を見る…… 39
- 音を消す…… 29
- サブメニューを表示させる…… 31
- 音量を調節する …… 29

- 録画リストを表示させる…… 57
- 番組表で番組を選ぶ …… 33
- メニューから選ぶ、決定する
- メニュー操作で一つ前の画面に戻る
- 操作を終了する

- カラーボタン……多様な用途があります

- 再生、早見早聞再生をする…… 58
- 早送り、早戻しをする …… 58
- チャプタースキップをする…… 58
- 録画や再生を停止させる …… 50 58
- 再生を一時停止させる…… 58
- 映像を静止させる…… 42 58
- ワンタッチリプレイ(10秒戻す) …… 58
- ワンタッチスキップ(30秒飛ばす)…… 58
- 番組表などでページを切り換える
- 設定メニューを表示させる
- 音声を切り換える …… 41



スタンドを取り付ける

ご注意

■ **二人以上で作業をする**
一人で作業をすると、身体を痛めたり、けがをしたりする原因になります。

■ **画面を強く握らない**
画面を強く握ると、割れるおそれがあります。

■ **本機は本体を横に寝かせてスタンドを取り付けます。**
■ **その際に包装材を簡易テーブルとして使用します。**

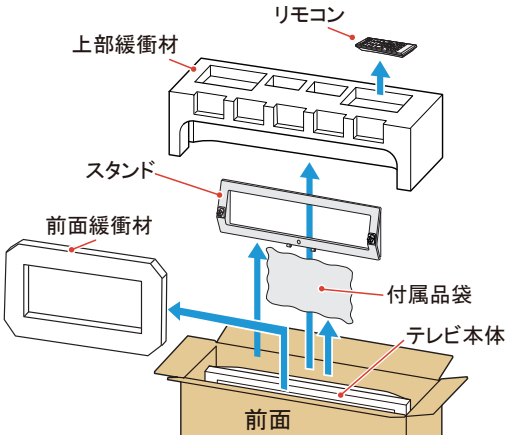
● スタンドの取り付けかたについては、付属の別紙「スタンド取付説明書」にも記載しています。

お願い

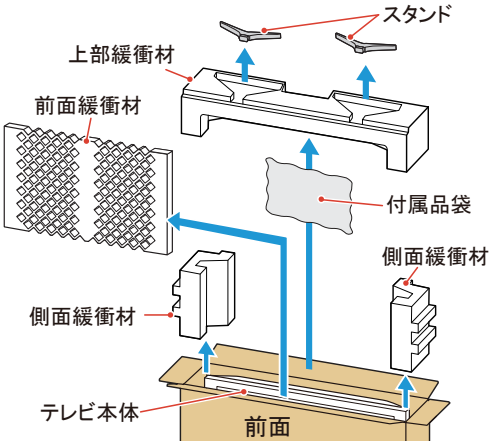
● プラスドライバー（JIS 2番、直径6mm）をご用意ください。
※ 製品についている保護フィルムは、設置作業が終わってから取りはずすようにしてください。（図では省略しています）

● スタンド本体は包装箱の下図の場所に、スタンド固定用ネジは付属品袋の中に収納されています。

■ **32S22H**



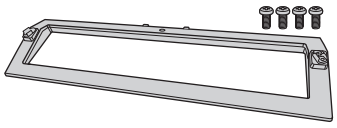
■ **43S22H**



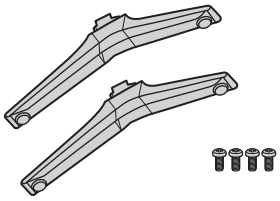
1 スタンド組立用部品を確認する

● 以下の部品がそろっているか、ご確認ください。

■ **32S22H**
- ネジ　4本
- スタンド本体　1個



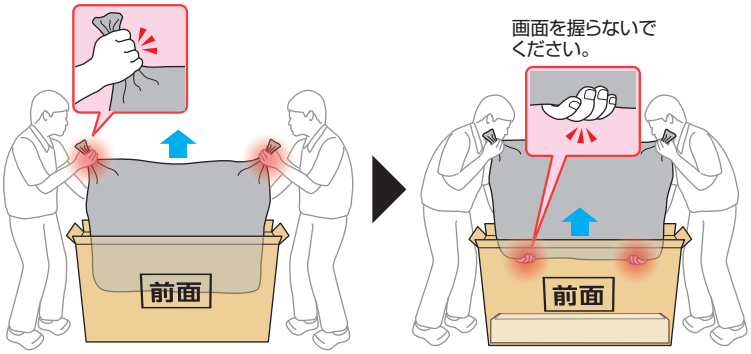
■ **43S22H**
- ネジ　4本
- スタンド本体　2個



2 本体を包装箱から取り出す

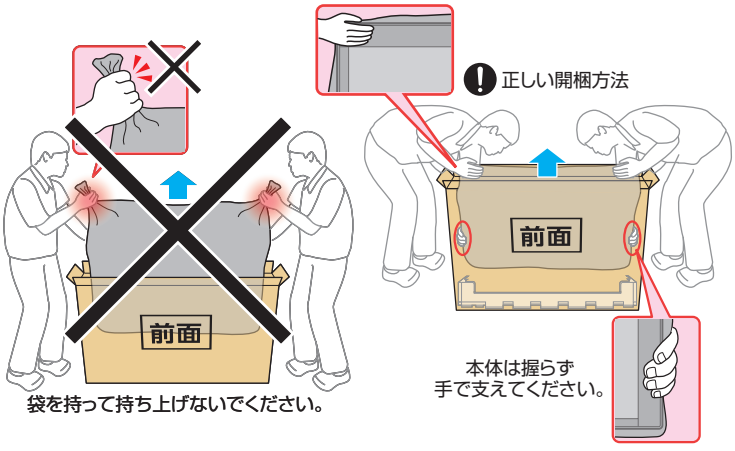
■**32S22H**

● 袋を持ってテレビ本体を包装箱から取り出してください。
● テレビ本体の背面側をもう片方の手で支えてください。
● 画面を強く握らないでください。



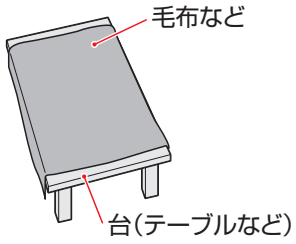
■**43S22H**

● 本体の下側を手で支えて取り出してください。
● 画面を強く握らないでください。



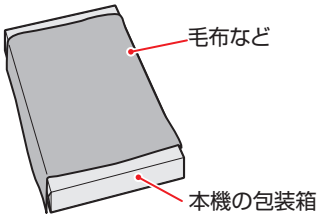
3 作業用の台を用意する

- 本体よりも大きなテーブルを用意し、上に毛布などの柔らかい布を敷きます。
- テーブルがない場合は、本機の包装箱で代用することができます。



本機の包装箱で代用する場合

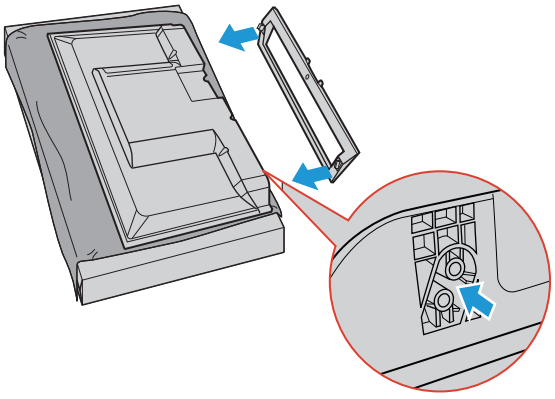
- 包装箱の中から製品(テレビ本体および付属品)を取り出します。
- 補強のため、緩衝材は入れておきます。
- テレビ本体は別に用意した毛布などの上に仮置きしておきます。



■32S22H

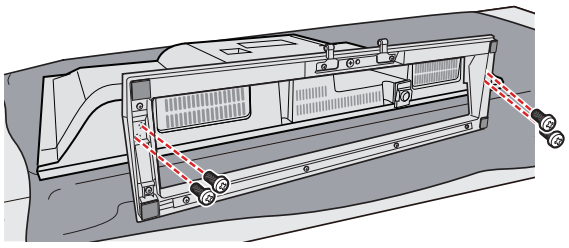
4 本体にスタンドを取り付ける

- 本体の画面側を下にして作業用の台からはみださないように置きます。
- 本体下部の窪みに突起が差し込まれるようにして取り付けます。



5 本体とスタンドをネジ4本で固定する

- ネジはしっかりと締めてください。



ご注意

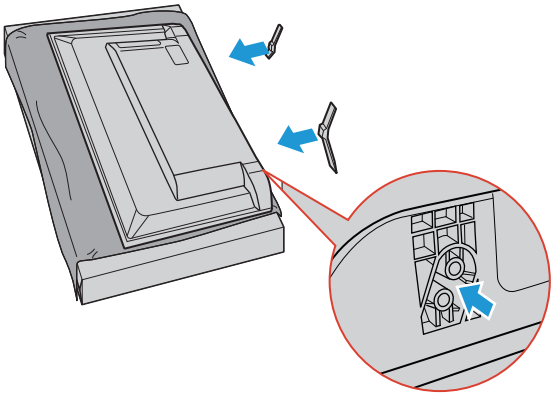
- スタンドの突起が本体の穴に確実に入っていることを確認してください。
(正しく入っていない状態でネジを締めると本機が傾きます。)

■43S22H

4 本体にスタンドを取り付ける

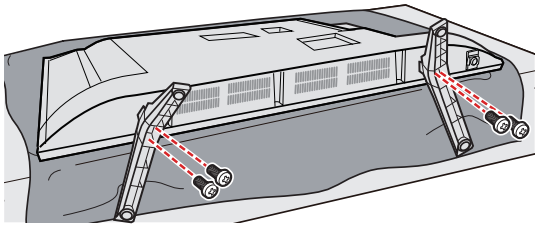
- 本体の画面側を下にして作業用の台からはみださないように置きます。
- 短い側の脚が背面側になるようにして、本体下部の窪みに突起が差し込まれるように取り付けます。

※ スタンドは左右で共通です。



5 本体とスタンドをネジ4本で固定する

- ネジはしっかりと締めてください。



ご注意

- スタンドの突起が本体の穴に確実に入っていることを確認してください。
(正しく入っていない状態でネジを締めると本機が傾きます。)

お知らせ

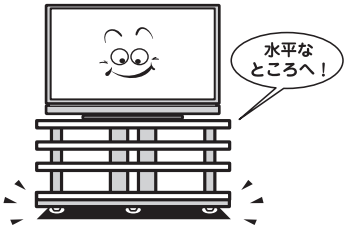
- 電動ドライバーをご使用の場合、トルクはおよそ1.0N·m(10kgf·cm)に設定してください。

テレビを設置する

- 設置の前に「安全上のご注意」8 ～ 13 を必ずお読みください。
- 製品イラストは32S22Hです。他の機種はイメージが多少異なります。

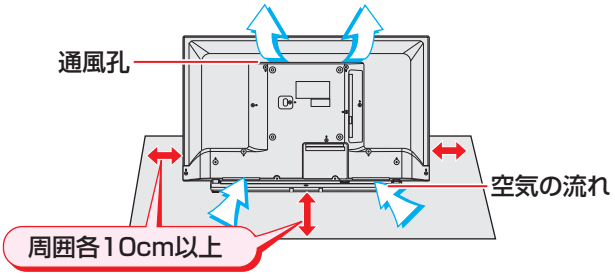
正しい置きかた

■丈夫で水平な安定したところに設置してください



■周囲から離して置いてください

- 通風孔をふさがないように本機の上および周囲に10cm以上の空間を設けてください。



■テレビ台を使用する場合

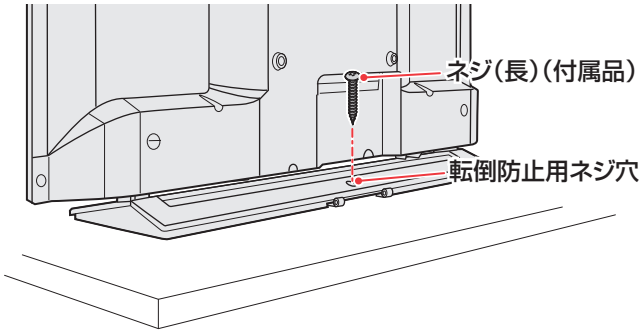
- テレビ台の取扱説明書をご覧ください。

転倒・落下防止のしかた

- 転倒・落下防止器具を取り付ける台や壁の強度によっては、転倒・落下防止効果が大幅に減少します。その場合は、適当な補強を施してください。以下に記載した転倒・落下防止のしかたは、けがなどの危害の軽減を意図したものですが、すべての地震に対してその効果を保証するものではありません。

※ 固定後は、本機を押したり、持ち上げたりしないでください。破損の原因になります。

■32S22H



お願い

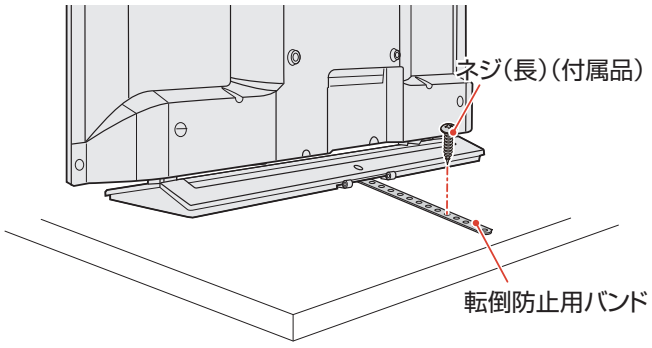
- 他のデジタル機器や電子レンジなどから出る電磁波によって、本機の映像が乱れたり、雑音が出たりすることがあります。相互に影響しない位置に設置してください。

その他の転倒・落下防止方法

転倒防止用バンドを使用して固定するとき

■ 32S22H

● スタンド底面に取り付けられている転倒防止用バンドを引き出し、設置する台の確実に支持できる天面に付属のネジ(長)で固定します。

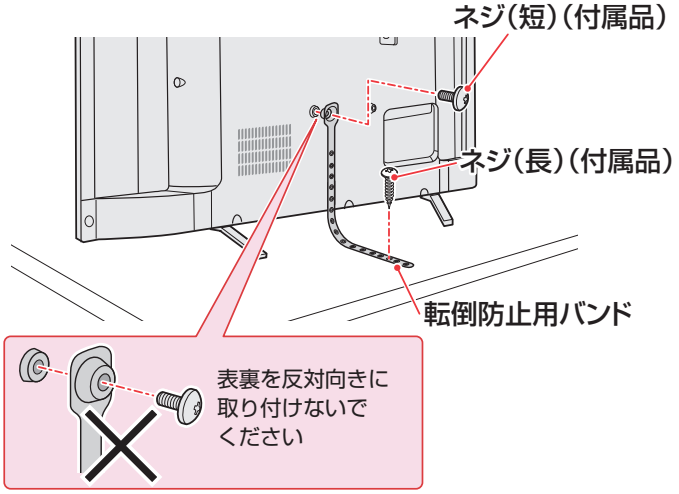


※ 後方には倒れることがあります。固定後は台を壁などに近付けて設置し、お子様がはいれないようにしてください。

■ 43S22H

● 付属の転倒防止バンド1本を、本体背面の図の位置に付属のネジ(短)でしっかりと取り付け、設置する台の確実に支持できる天面に付属のネジ(長)で固定します。

※ バンドはへこんだ側が表になるように取り付けてください。反対向きに取り付けるとバンドが破損することがあります。



※ 後方には倒れることがあります。固定後は台を壁などに近付けて設置し、お子様がはいれないようにしてください。

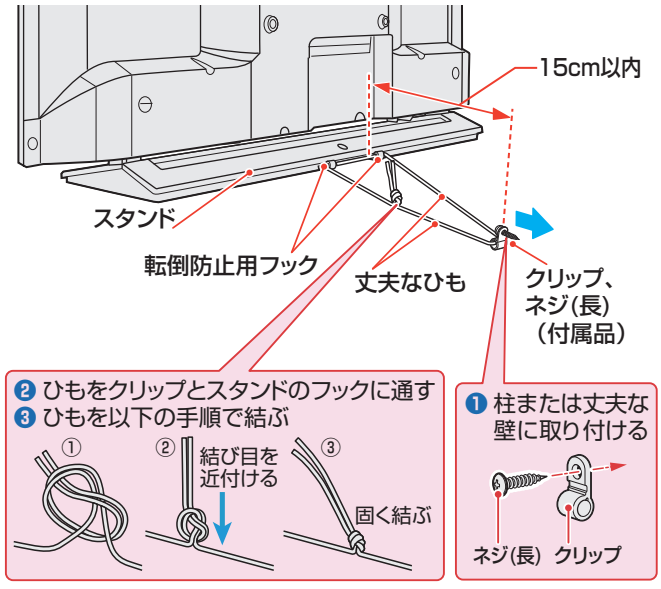
壁または柱などに固定するとき

● スタンド背面の転倒防止用フックと付属のクリップを使用し、確実に支持できる壁または柱などを選び、丈夫なひもで固定します。

● クリップはスタンド背面の転倒防止用フックと同じくらいの高さの場所に付属のネジで取り付けます。

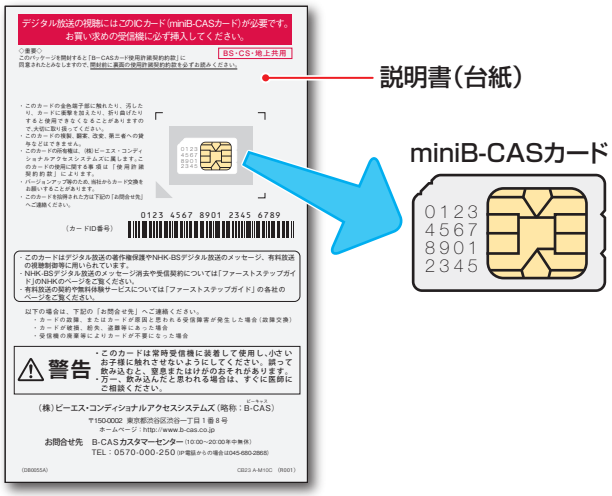
※ 針金や鎖など金属製のものは、瞬間的な衝撃に対する柔軟性が乏しく、本機や柱などの取付部分が破損する原因になりますので使用しないでください。

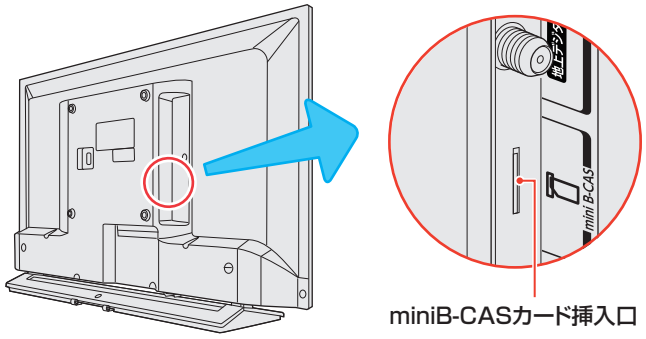
■ 32S22H



miniB-CAS（ミニビーキャス）カードを挿入する

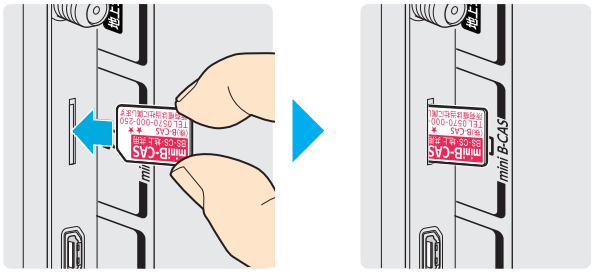
- miniB-CASカードは付属品袋の中に収納されています。
- miniB-CASカードは、デジタル放送や「放送局からのお知らせ」の受信などに必要です。常に本機に挿入しておいてください。
- 説明書（台紙）は裏面もよくお読みのうえ、大切に保管してください。



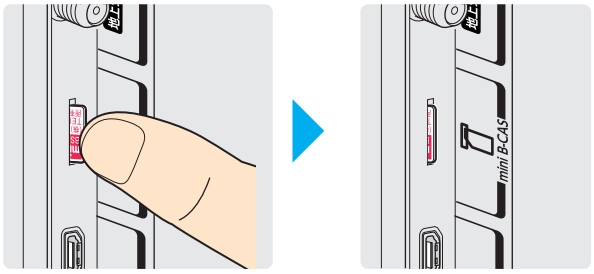


挿入のしかた

1 miniB-CASロゴ印刷面を本体の背面側に向け、角が欠けたほうから差し込む



2 指先でカチッと音がするところまで押す



取り出しかた

1 指先でカチッと音が鳴るまで押す

- ロックが解除され、miniB-CASカードが少し出てきます。

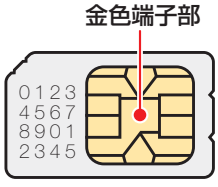
2 指先でカードを滑らせて取り出す

- 金色端子部に触れないように注意しながら取り出します。

ご注意

■ miniB-CASカードの取り扱いについて

- miniB-CASカードを抜き差しするときは、本機の電源を切って、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 金色端子部が汚れるとデジタル放送を受信できなくなることがあります。金色端子部に触れないようにご注意ください。



- 乾いたきれいな手で取り扱ってください。
- 金色端子部が指紋がつくなど、汚れてしまった場合は、乾いたきれいな柔らかい布でふき取ってください。

miniB-CASカードID番号記入欄

- 下欄にminiB-CASカードのID番号をご記入ください。お問い合わせの際に役立ちます。
- miniB-CASカードのID番号は設定メニューで確認できます。94

デジタル放送の種類と特徴

● 本機は以下のデジタル放送を受信することができます。

地上デジタル放送

地上波のUHF帯を使用したデジタル放送です。

● **UHF帯の電波を使って行う放送で、高品質の映像と音声、さらにデータ放送が特徴です**

● **本機は「CATVパススルー対応」です**
ケーブルテレビ局が再送信する地上デジタル放送を受信することができます。

BSデジタル放送/110度CSデジタル放送

● 受信にはBS・110度CS共用アンテナを使用します。

● **BSデジタル放送**
デジタル方式の放送衛星（Broadcasting Satellite：通称BS）を使用したデジタル衛星放送です。
- **日本全国どこでも同じ放送を楽しむことができ、一部に視聴契約が必要な有料チャンネルがあります**
- **2種類のデータ放送（連動データ放送、独立データ放送）や双方向サービスがあります**

● **110度CSデジタル放送（CS）**
BSデジタル放送の衛星と同じ東経110度に打ち上げられている通信衛星（Communication Satellite：通称CS）を利用して、スカパー JSAT（株）が運用しているデジタル衛星放送です。
- **さまざまなテレビ番組や専門チャンネル、データ放送などの多彩な放送があります**
- **多くのチャンネルで有料の視聴契約が必要です**

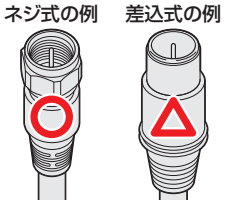
アンテナを接続する

お願いとご注意

※ **アンテナ工事には技術と経験が必要です。アンテナの設置・調整については、お買い上げの販売店にご相談ください。**

● **アンテナや接続に必要なアンテナ線（同軸ケーブル）、混合器、分波器、分配器などは付属されておりません。**
機器の配置や端子の形状、受信する放送の種類（電波の種類）などに合わせて適切な市販品を別途お買い求めください。

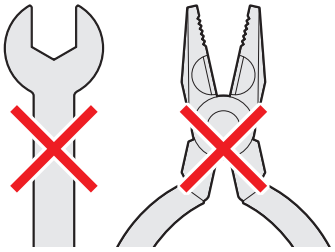
● **F型コネクターがネジ式のアンテナ線をおすすめします。**
差込式のものを使用する場合は、本機のアンテナ端子のネジ部分と確実に接触するものをご使用ください。接触が悪いと、受信できなかったり、時々映らなくなったりすることがあります。



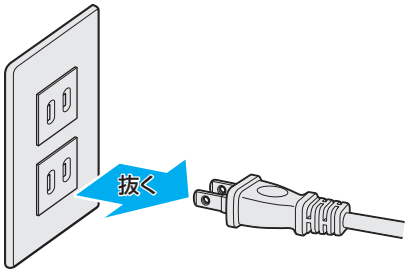
● **F型コネクターのピンが曲がっていないか確認してください。**曲がったままで接続すると、折れたり、ショートしたりすることがあります。



● **アンテナ線のF型コネクターは、ゆるまない程度に手で締めつけてください。**
工具などで締めつけすぎると、壁のアンテナ端子や本機のアンテナ入力端子、背面パネルが破損するおそれがあります。

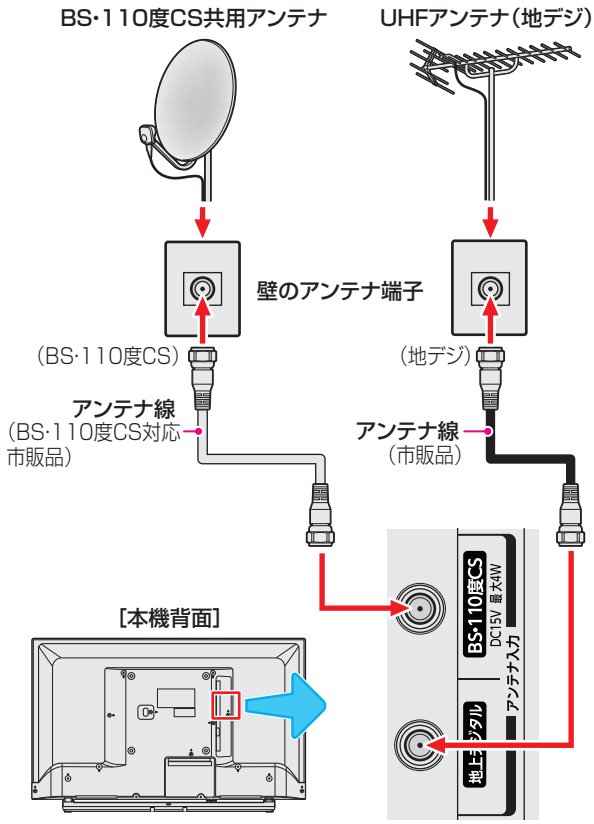


● **アンテナを接続するときは必ず本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。**



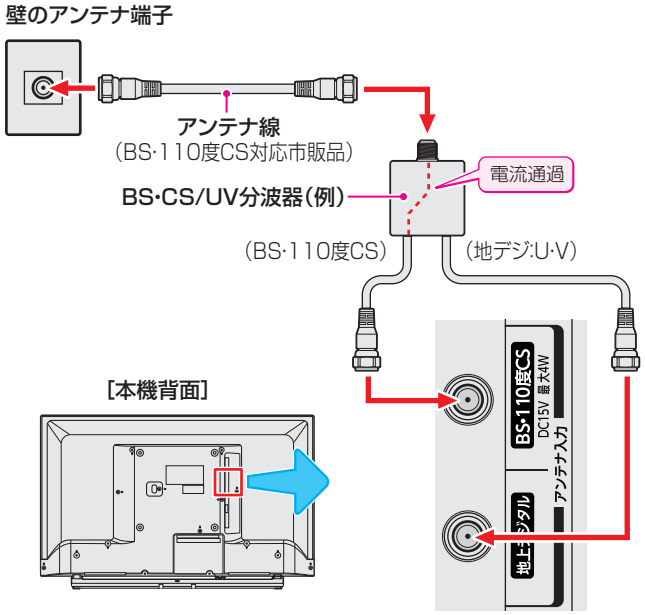
アンテナを接続する つづき

地上放送と衛星放送が個別のアンテナの場合



地上放送と衛星放送が混合のアンテナの場合（マンションの共聴アンテナなど）

- 地上放送と衛星放送の電波が混合されて壁のアンテナ端子に届いている場合は、以下のように接続します。
- マンションなどでの共聴システムの場合は、視聴できる放送の種類についてマンションなどの管理会社にご確認ください。

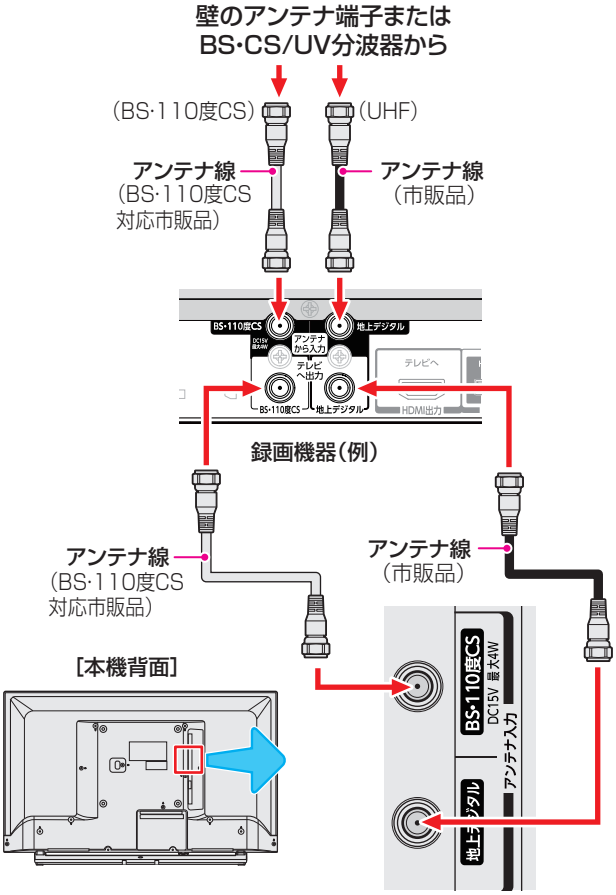


- BS・110度CS共用アンテナは電源を必要とします。BS・CS/U・V混合器や分波器は、本機のBS・110度CSアンテナ入力端子からアンテナ電源が供給できるように、電流通過型のものが必要になります。

※ マンションなどでの共聴システムの場合は、本機からBS・110度CS共用アンテナ用の電源を供給する必要はありません。（「はじめての設定」27 のあとで「BS・110度CSアンテナ電源供給」を「供給しない」に設定してください。詳しくは84 をご覧ください）

録画機器を経由する場合

- 録画機器のBS・110度CSアンテナ電源が供給される設定になっていることを確認してください。詳しくは、録画機器の取扱説明書をご覧ください。



テレビが映らないとき

- 「はじめての設定」27 をしてもテレビが映らない、または映りが悪いような場合は、録画機器を経由しないで本機に直接接続してみてください。改善される場合、本機の問題ではありません。
  - 録画機器の電源プラグが抜けていると、アンテナ出力端子に電波が出力されないことがあります。
- 症状が改善されない場合は、「アンテナを調整する」83 をご覧ください。

お知らせ

- 録画機器で受信した番組や録画した番組を見るための接続については、「外部機器を接続する」66 をご覧ください。

リモコンの準備をする

乾電池を入れる

● 単四形乾電池を2本ご使用ください。
お買い上げ時は単四形乾電池LR03が2本付属されています。

1 電池カバーをはずす

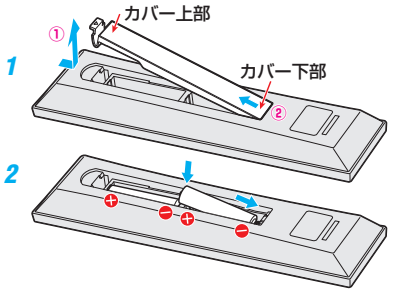
● カバー上部のツメをカバー下部方向に押しながらすくい上げ、電池カバーを取りはずします。

2 乾電池を入れる

● 極性表示⊕と⊖を確かめて、間違えないように入れます。

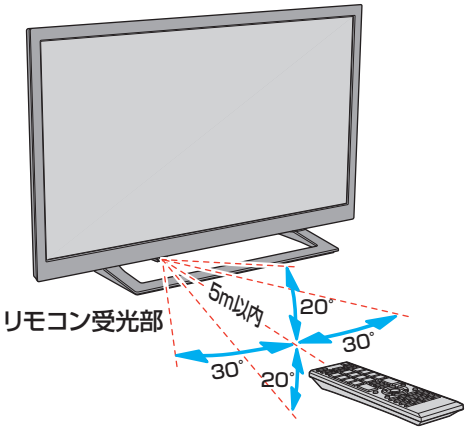
3 電池カバーを閉める

● カバー下部の突起をリモコン本体のみぞに差し込んで、パチンと音がするまでカバー上部を押し込みます。



リモコンの使用範囲について

● リモコンは、本体のリモコン受光部に向けて使用します。
● リモコン受光部に強い光を当てないでください。リモコンが動作しないことがあります。
● リモコン受光部とリモコンの間に障害物を置かないでください。動作しなかったり、動作しにくくなったりします。



● リモコン受光部から
距離……5m以内
角度……左右30°以内、上下20°以内

ご注意

■リモコンの取り扱い
●落としたり、振りまわしたり、衝撃などを与えたりしないでください。
●水をかけたり、ぬれたものの上に置いたりしないでください。
●分解しないでください。
●高温になる場所や湿度の高い場所に置かないでください。

お願い

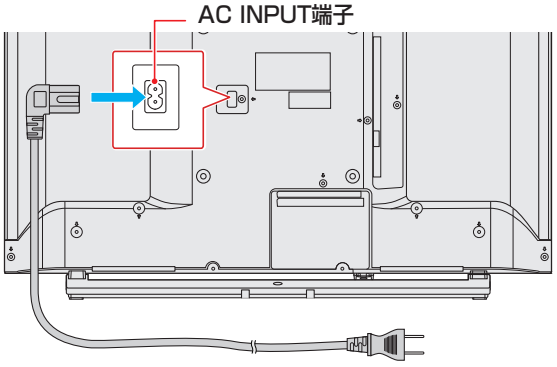
■乾電池について
● 乾電池の寿命はご使用状態によって変わります。リモコンが動作しにくくなったり、操作できる距離が短くなったりしたら2本とも新しい乾電池と交換してください。
● 使用済の乾電池は、地方自治体またはお住まいの地域で定められた規則に従って廃棄してください。

電源を入れる

電源コードを接続する

1 付属の電源コードのコネクターを本機背面のAC INPUT端子に接続する

- 製品イラストは32S22Hです。他の機種はイメージが多少異なります。
- 奥までしっかりと差し込みます。
  ※ 電源コードを差し込む際は本体を倒さないよう注意してください。



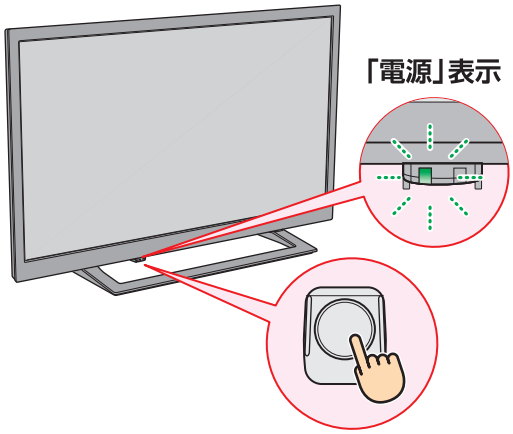
電源を入れる

「電源」表示が消えているとき(「切」のとき)

「電源」表示が消えているとき、リモコン操作はできません。

❶ 本体底面の本体ボタンの中央部を押す

- 電源が「入」になり、本体前面の「電源」表示が**緑色**に点灯します。



「電源」表示が赤色に点灯しているとき(「待機」のとき)

❶ リモコンの電源を押す

- 電源が「入」になり、「電源」表示が**緑色**に点灯します。

電源を「待機」にする／切る

電源を「待機」にする

❶ 電源が「入」のときに、リモコンの電源を押す

- 電源が「待機」(リモコン操作待受状態)になり、「電源」表示が**赤色**に点灯します。

電源を切る

❶ 「電源」表示が赤色または緑色に点灯しているときに、本体底面の本体ボタンの中央部を押す

- 電源が「切」になり、「電源」表示が**消灯**します。

※ リモコンでの操作ができなくなります。

お願い…電源プラグの取り扱いについて

普段はコンセントに差し込んでおく

- 電源プラグは、非常時や機器の接続、お手入れなどをするとき以外はコンセントに差し込んでおいてください。

※ **電源プラグを抜いたままにしておくと…**

- デジタル放送の番組情報が取得できません。
- 予約した番組の録画ができません。

電源プラグをコンセントに差し込んでおけば、予約した番組の録画は、電源が「待機」や「切」の場合でも行われます。

ご注意

- 旅行などで長期間使用しないときは、安全のためコンセントから抜いてください。

電源プラグを抜くときは

- **非常の場合は、速やかに電源プラグをコンセントから抜いてください。**
- 外部機器の接続や取りはずし、本体や電源プラグのお手入れ、周辺の清掃などで電源プラグを抜く場合は、その前に以下の確認をしてください。

❶ **本機に接続したUSBハードディスクで録画やムーブをしている場合は終了させる**

- 「録画を中止するとき」50や「ムーブを中止するとき」65の手順で確認してください。

❷ **録画予約が設定されていないか確認する**

- 「予約の確認・変更・取り消しをする」55の手順で、電源プラグを抜いている間に始まる予約がないか確認してください。電源プラグが抜かれていると、予約した番組は録画されません。

❸ **本体ボタンの中央部を押して電源を切る**

❹ **電源プラグをコンセントから抜く**

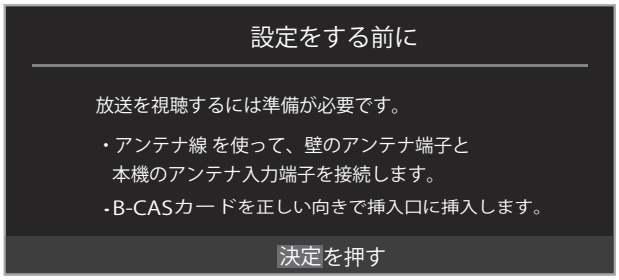
「はじめての設定」をする

「はじめての設定」について

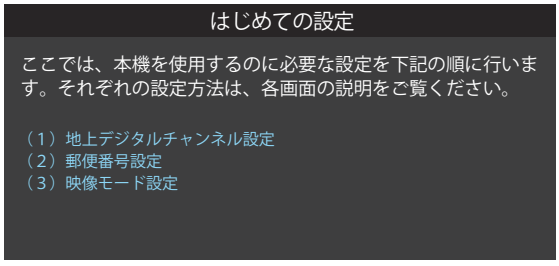
※ B-CASカードが正しく挿入されていないと「はじめての設定」ができません。あらかじめご確認ください。

※「電波の状態が良くありません。」のメッセージが表示されたときは、受信状態が良くなってから「はじめての設定」をやり直すときの操作で「はじめての設定」をやり直してください。

はじめて電源を入れたときに、「設定をする前に」画面が表示されます。内容をよくお読みになり、決定を押します。



「はじめての設定」の説明画面が表示されます。



画面の説明を読んだら決定を押します。

「はじめての設定」の流れ

● 本機を使用できるようにするための基本的な設定をします。

① 地上デジタルチャンネル設定

お住まいの地域情報を設定することで、地上デジタル放送の受信チャンネルが自動設定されます。

② 郵便番号設定

郵便番号を設定することで、お住まいの地域に密着したデータ放送（たとえば、地域の天気予報など）や緊急警報放送を視聴できるようになります。

③ 映像モード設定

いくつか用意されている映像モードの中から選んで、お好みのメニューに設定します。

① 地上デジタルチャンネル～③映像モードの設定をする

● 画面の説明に従って以下の方法で設定していきます。

▲·▼·◀·▶で項目を選び、決定で決定して進んでいきます。

「郵便番号設定」では、1～10(0)も使います。

「はじめての設定」をやり直すとき

● 「はじめての設定」をしてもアンテナ接続の不具合などで地上デジタル放送が映らなかった場合は、不具合の対処をしたあとで、「はじめての設定」をやり直すことができます。

1 設定を押し、▲·▼と決定で「初期設定」⇨「はじめての設定」の順に進む

● 「はじめての設定」の説明画面が表示されます。

2 画面の説明を読んで、決定を押す

● ワンタッチ選局ボタンのチャンネル設定を手動でお好みに設定したあとで「はじめての設定」をやり直すと、手動で設定した内容が消去されます。その場合は、もう一度手動設定をしてください。

● 県外への転居などで「はじめての設定」をやり直すと、データ放送用メモリーの割当画面が表示されることがあります。その場合は、「データ放送用メモリーの割当画面が表示されたら」89 を参照して設定してください。

● データ放送を視聴している状態で「はじめての設定」をやり直した場合、放送によっては設定終了後そのままの状態では設定内容は反映されません。設定終了後にデータ放送を選局し直してください。

お知らせ

■「地上デジタルチャンネル設定」について

● 「はじめての設定」または「初期スキャン」85 をすることで、地上デジタル放送の受信可能なチャンネルを本機が探し、リモコンの1～12に自動設定します。（**「はじめての設定」または「初期スキャン」をしないと、地上デジタル放送は受信できません**）

■ 地方と地域の設定について

● チャンネルの自動設定は、「はじめての設定」で設定された地方、地域に基づいて行われます。

● チャンネル設定の地域は必ずしもお住まいの地域とは限らないため、地域に密着したデータ放送を視聴するために郵便番号を設定します。

テレビ番組を楽しむ



リモコンで番組を選ぶ

1 地デジ、BS、CSで放送の種類を選ぶ

● 今見ている放送と同じ種類の放送を見る場合は、この操作は不要です。

2 チャンネルを選ぶ(選局する)

● 以下の3とおりの選局方法があります

ワンタッチ選局ボタンで選局する(ワンタッチ選局)

● ワンタッチ選局ボタン 1 ～ 12 で選局します。(下の「お知らせ」をご覧ください)
● BSデジタル放送のワンタッチ選局には、2種類あります。
- 通常はグループA（BS101（NHKBS1）～BS222（BS12トゥエルビ））のワンタッチ選局になります。
- グループB（BS231（放送大学BS1）～BS258（ディーライフ））の放送局をワンタッチ選局する場合は、手順1でBSデジタル放送を選んだあと BS を押し、選局ガイドを表示している状態で、1 ～ 12 ボタンを押します。(選局ガイド表示中は BS を押すたびに、選局ガイド表示が切り換わります)

チャンネル∧・∨ボタンで選局する(順次選局)

● チャンネル∧∨でチャンネルが順次に切り換わります。

チャンネル番号を入力して選局する(ダイレクト選局)

● チャンネル番号は番組表で確認できます。

❶ **サブメニューを押し、▲·▼と決定で「その他の操作」⇨「チャンネル番号入力」と進む**
- 視聴中の放送の種類に応じて、画面の右上に 地デジ--- 、BS--- 、CS--- のどれかが表示されます。

❷ **1 ～ 10(0) でチャンネル番号を入力する**

例 103チャンネルを選ぶ場合⇨ 1 10(0) 3 の順に押します。(「0」は 10 で入力)
- 入力した番号を消すには、◀を押します。
- 11(✱) を使った入力ができます。 例 3 11 →300番以降の最小チャンネル

■ 枝番のついた放送一覧が表示されたとき
- ▲·▼で選んで決定を押すか、10(0) ～ 9 で枝番を指定して選びます。



お知らせ

● 視聴できるデジタル放送のチャンネルやワンタッチ選局ボタンの番号は、番組表 33 で確認することができます。
● 1 ～ 12 でワンタッチ選局ができるのは以下のとおりです。(「チャンネルをお好みに手動で設定する」 86 で変更できます)
- 地デジ を押したとき→「はじめての設定」 27 で各ボタンに登録されたチャンネル
- BS を押したとき→各ボタンにあらかじめ登録されているチャンネル
- CS を押したとき→110度CSデジタル放送の一部のチャンネル(1 と 2 だけ)
◆ 一つの放送局が複数のチャンネルで異なった番組を放送している場合、その放送局のチャンネルボタンを繰り返し押せばチャンネルを順番に選局できます。
● 枝番のついた放送一覧は、地上デジタル放送で隣接地域の同じチャンネル番号の放送を複数受信できたときに表示されます。
● 視聴制限のある番組の視聴には視聴制限設定が必要です。詳しくは「視聴できる番組を制限する」 90 をご覧ください。



音量を調節する／音を一時的に消す／字幕を表示させる

音量を調節する

❶ リモコンの［＋音量－］を押す

音を一時的に消す

❶ リモコンの［消音］を押す

● 画面右下に［消音］が表示されます。もう一度［消音］を押すと音が出ます。

字幕放送番組で字幕の表示/非表示を切り換える

❶ リモコンの［字幕］を押す

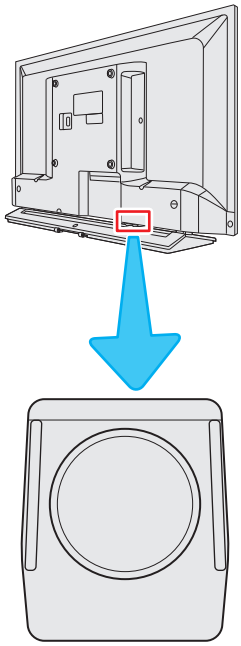
サブメニューから切り換えるには

❶ ［サブメニュー］を押し、▲·▼と(決定)で「字幕」を選ぶ

❷ ▲·▼で「字幕オン」または「字幕オフ」を選び、(決定)を押す

本体ボタンによる「機能切換」について

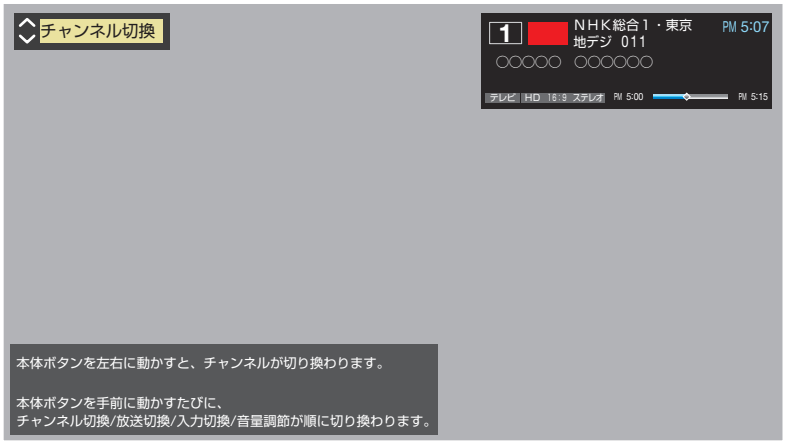
● 本体ボタンを左右に動かすと通常「音量調節」（上記）をおこないますが、手前に動かすたびに機能が切り換わります。



1 本体ボタンを手前に動かす

● 本体ボタンを手前に動かすと、画面左上に現在選択している機能が表示されます。
希望の機能を選ぶには、機能表示が消える前に手順2の操作をします。

例



● 本体ボタンを手前に動かしたあと8秒間以上操作をしないと、音量調節機能に戻ります。

2 本体ボタンを繰り返し手前に動かして機能を選び、左右に動かして切り換えまたは調節をする

● 本体ボタンを手前に動かすたびに以下のように機能が切り換わります。

→ チャンネル切換 → 放送切換 → 入力切換 → 表示なし（音量調節）→

- **チャンネル切換** …… チャンネルが順次に切り換わります。
- **放送切換** …… 「地デジ」、「ＢＳ」、「ＣＳ」が順次に切り換わります。
- **入力切換** …… 入力が順次に切り換わります。72

テレビ番組を楽しむ つづき

操作ガイドについて

- 番組表や操作画面などには、そのときに使用できる(または使用する)リモコンボタンの操作ガイドが表示されます。
- よく使う機能がカラーボタン(青、赤、緑、黄)やサブメニューに割り当てられています。

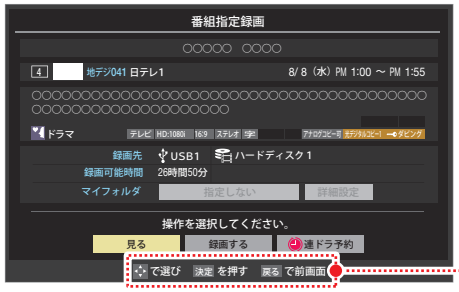
例 録画リスト



例 番組表



例 操作画面





サブメニュー の表示
サブメニューがあることを示します。

青 赤 緑 黄 の表示
カラーボタンでさまざまな操作ができることを示します。

《 》 の表示
ページやリストの切り換えができることを示します。

決定 戻る の表示
選んで決定したり、前の画面に戻ったりすることができることを示します。

サブメニューについて

- サブメニューを押してサブメニューを表示させ、さまざまな便利機能を使うことができます。
- サブメニューの内容は、サブメニューを押すときの場面によって変わります。
- サブメニューで選択できる項目は、入力の種類や外部機器の有無、あるいはテレビの動作状態によって変わります。
  選択できない項目は、薄くなって表示されます。

例 デジタル放送のテレビ番組を視聴中

サブメニュー

サブメニュー	機　能　（一部省略しています）	詳細記載ページ
番組説明	視聴中の番組の詳しい情報を確認できます。	32
連ドラ予約	視聴中の連続ドラマが毎回録画されるように予約することができます。	52
予約リスト	予約リストを表示させることができます。	55
時計	時計表示やアラームの設定、オフタイマーの設定ができます。	43
字幕	字幕放送番組で字幕の表示／非表示を切り換えられます。	29
画面サイズ切換	見ている映像の種類に応じて、画面サイズを切り換えることができます。	40
スピーカー切換	テレビのスピーカーで聴くか外部システムのスピーカーで聴くか選べます。	43
その他の操作		

その他の操作

その他の操作		
信号切換		
チャンネル番号入力	チャンネル番号を入力して選局します。	28
アンテナレベル表示	映りが悪いときなどに、アンテナレベルを確認できます。	83
データ放送終了	データ放送の視聴を終了します。	39
ﾃﾚﾋﾞ/ﾗｼﾞｵ/ﾃﾞｰﾀ切換	視聴する放送メディアを切り換えます。	36
親切ヘッドホン音量	親切モードでのヘッドホンの音量を調節することができます。	42
お知らせ	本機や放送局からのお知らせがあったときに内容を確認します。	94
ソフトウェアバージョン	本機のソフトウェアバージョンを確認します。	93

信号切換

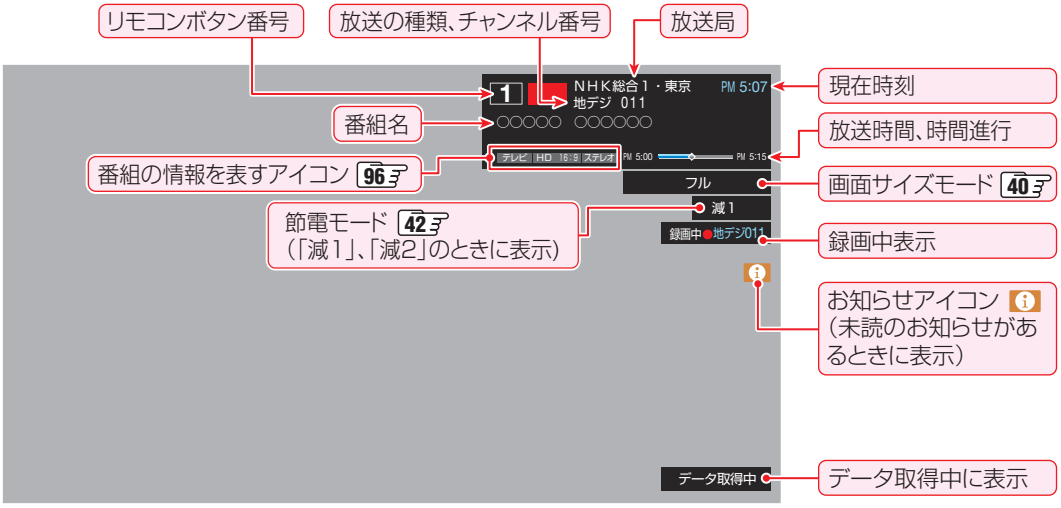
信号切換		
映像信号切換	一つの番組で複数の映像が送られている場合に切り換えられます。	41
音声信号切換	一つの番組で複数の音声が送られている場合に切り換えられます。	41
音多切換	二か国語放送など、音声多重放送の場合に聴きたい音声を選びます。	41
データ信号切換	一つの番組で複数のデータが送られている場合に切り換えられます。	41
降雨対応放送切換	豪雨などの影響で降雨対応放送が行われた場合に切り換えられます。	40

番組情報や番組説明を見る

番組情報を見る

1 画面表示を押す

- 現在視聴しているチャンネルや番組の情報が表示されます。(チャンネル以外の表示は数秒後に消えます)
- 表示を消すには、もう一度画面表示を押します。
- 選局時には一部省略された状態で表示されます。



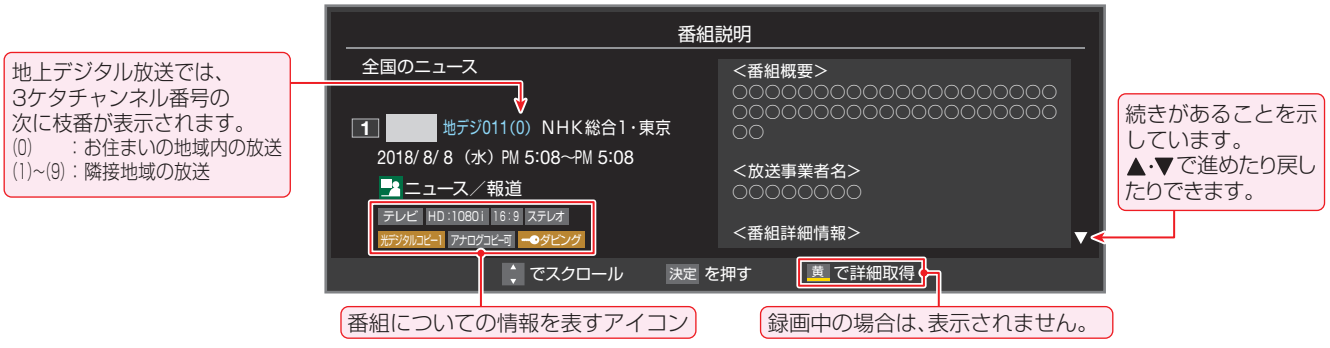
番組説明を見る

1 番組説明を押す、あるいはサブメニューを押し、▲・▼で「番組説明」を選び、決定を押す

2 さらに詳しい説明を見るときは▼を押す

- 「詳細情報を取得していません」が表示されたときは、黄を押します。
  - 詳細情報が取得できなかった場合には、「詳細情報を取得できませんでした」と表示されます。

3 説明画面を消すには、決定を押す



お知らせ

- 画面に表示されるアイコン(ステレオ、HD:1080i などの記号)についての説明は、「アイコン一覧」96 をご覧ください。
- 番組情報の表示や詳細情報の取得には時間がかかることがあります。
- 番組情報を取得するタイミングによっては、最新の情報が表示されないことがあります。
- 番組によっては、録画、録音が制限されることがあります。その場合は、番組説明の画面でアイコンが表示されます。

番組表で番組を探す

番組表を使う

- 番組表は、放送電波で送られてくる番組情報を基にして表示されます。
- お買い上げ直後や電源を入れた直後、放送の種類を変えたときなどには、番組内容の表示に時間がかかることがあります。
- 番組表を最新にしておくために、本機の電源を毎日2時間以上「切」または「待機」にすることをおすすめします。

1 番組表を押す

- 通常番組表が表示されます。(「週間番組表」については「週間番組表を表示させる」34 をご覧ください)
- 放送の種類を変えるときは、地デジ、BS、CS を押します。
- 独立データ放送の番組表に切り換えるときは、サブメニューの「テレビ/ラジオ/データ切換」で選びます。
- 番組表を消すときは、終了 を押します。

2 番組を▲·▼·◀·▶で選ぶ

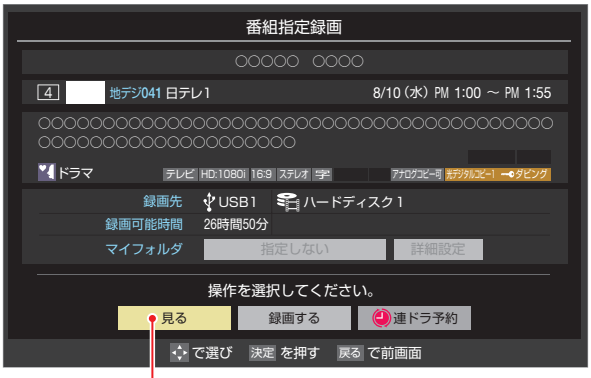
- 選んだ番組の番組説明を見るには、リモコンの番組説明を押す、あるいはサブメニューを押し、▲·▼で「番組説明」を選び決定を押します。
- 番組表に表示しきれていないチャンネルを表示させるには◀·▶または«10秒戻し・30秒送り»を押します。

3 決定を押す

- 「番組指定録画」画面が表示されます。
- これから放送される番組を選んだときは、「番組指定予約」画面になります。51 の手順3をご覧ください。

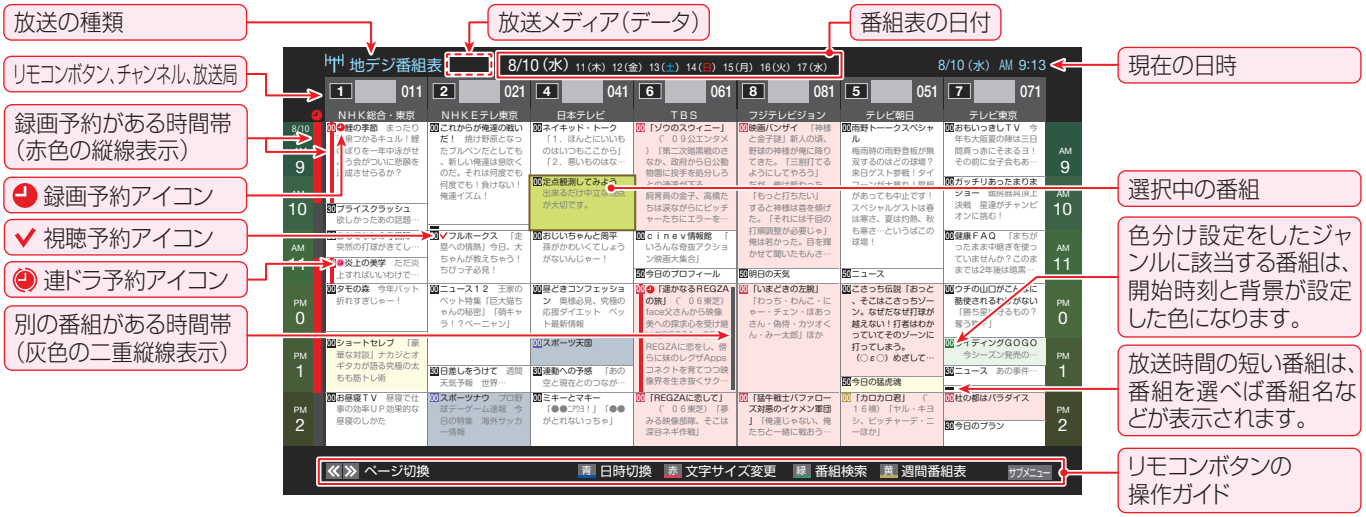
4 現在放送中の番組を見るときは、▲·▼·◀·▶で「見る」を選び、決定を押す

- 画面の図は、現在放送中の番組でUSBハードディスクが接続されている場合の例です。



- 「番組指定録画」画面からは、録画 50 、連ドラ予約 52 の操作ができます。
- 「番組指定予約」画面からは、視聴予約 51 、録画予約 51 、連ドラ予約 52 の設定ができます。

[通常番組表画面：7チャンネル表示の例]



お知らせ

- テレビを視聴している条件などによっては番組表が空欄になることがあります。この場合は、空欄の部分を選んでから、「番組表を更新する」34 の操作をしてください。
- 番組表に表示できる番組情報は最大8日分です。
- 「チャンネルスキップ設定」87 で、「スキップ」に設定したチャンネルの番組表は表示されません。
- データ放送の視聴中は番組表に切り換わらないことがあります。その場合は、テレビ放送に切り換えてから操作してください。
- 番組の中止・変更・延長などによって、実際の放送内容が番組表と異なることがあります。番組表や番組情報などで表示される内容および利用した結果について、当社は一切の責任を負いません。

番組表で番組を探す つづき

視聴制限番組について

- 手順4で視聴制限番組を選んだ場合、「見る」、「録画する」、「連ドラ予約」を選択して決定を押すと、メッセージが表示されます。◀·▶を押して「はい」を選び、決定を押すと暗証番号入力画面が表示されます。1～10(0)で暗証番号を入力すると、番組表の視聴制限が一時解除されます。
  「いいえ」を選んだときは、前の画面に戻ります。

※ 視聴制限番組について、詳しくは「視聴できる番組を制限する」90をご覧ください。

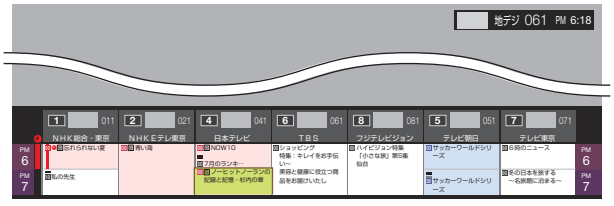
※ 番組表で視聴制限を一時解除するときは、「番組表で視聴制限を一時解除する」36をご覧ください。

番組を見ながら他の番組を探す(ミニ番組表)

- 番組を見ながら、画面の下側にミニ番組表を表示させて番組を探すことができます。

1 番組表を表示中に番組表を押す

- ミニ番組表が表示されます。
- もう一度押すと、ミニ番組表が消えます。
- 操作方法は、前ページの通常番組表の場合と同じです。



番組表を便利に使う

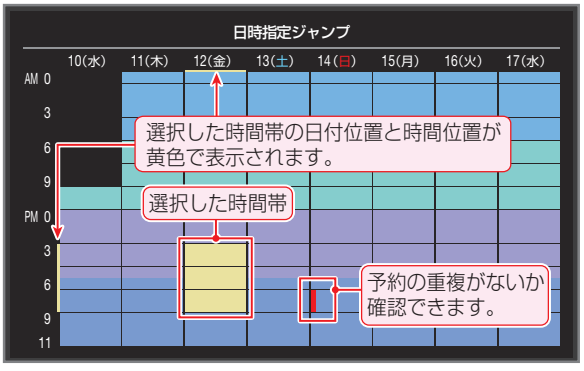
- カラーボタンや番組表のサブメニューで、さまざまな便利機能を使うことができます。
- 番組表またはミニ番組表が表示されているときに以下の操作をします。(ミニ番組表では一部の機能を使用できません)

指定した日時の番組表を表示させる

- 日付と時間帯を選んで番組表を表示させることができます。

1 青(日時切換)を押す

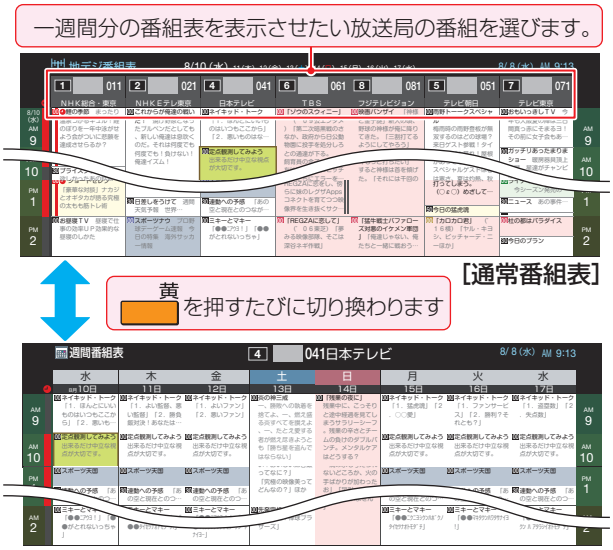
2 ▲·▼·◀·▶で日時を選び、決定を押す



週間番組表を表示させる

- 選んだ放送局の一週間分の番組表を表示させることができます。

1 ◀·▶で週間番組表を表示させたいチャンネルを選び、黄(週間番組表)を押す



- 操作方法は、前ページの通常番組表の場合と同じです。
- 番組表の表示を週間番組表にしているときは、「マルチ表示」35に切り換えることはできません。

番組説明を見る

- 選択中の番組の番組説明を見ることができます。

1 サブメニューを押し、▲·▼で「番組説明」を選び決定を押す

番組表を更新する

- 番組表の中が空になっているときや、最新の番組情報に更新するときは、以下の操作をします。

1 サブメニューを押し、▲·▼で「番組情報の取得」を選んで決定を押す



※ 番組録画中は、番組情報の取得ができません。

◇ 番組表で選択している放送局の情報が更新されます。
(地上デジタル放送は選択した番組が含まれる放送局が更新されます)

お知らせ

- 番組表の操作ガイドに表示される緑(番組検索)については、「条件を絞りこんで番組を探す」37をご覧ください。

- 番組情報取得中にほかの操作をすると、情報の取得が中止されることがあります。
- 番組情報の取得を中止するときは、番組情報取得中にサブメニューを押し、サブメニューから「番組情報の取得中止」を選択します。

1チャンネル表示とマルチ表示を切り換える

- BSデジタル放送や地上デジタル放送（どちらもテレビ放送だけ）では、放送事業者ごとの代表チャンネル表示（1チャンネル表示）とマルチチャンネル表示（マルチ表示）の切り換えができます。

1 切り換える放送局の番組をどれか選び、サブメニューを押す

2 ▲·▼で「1チャンネル表示」（または「マルチ表示」）を選び、決定を押す

- 番組表の表示によって、「マルチ表示」または「1チャンネル表示」が表示されています。
- 「1チャンネル表示」、「マルチ表示」を選ぶと、以下のように切り換わります。



［1チャンネル表示］

［マルチ表示］

- 「マルチ表示」での番組予約について、51をご覧ください。

用語

■（放送の）ネットワーク
デジタル放送の放送の単位。チャンネルや番組についての情報は、このネットワークごとに送られてきます。

文字サイズを大きくする

- 番組表の文字が小さくて見えにくいときなどに、文字の大きさを切り換えることができます。

1 赤を押して文字の大きさを切り換える

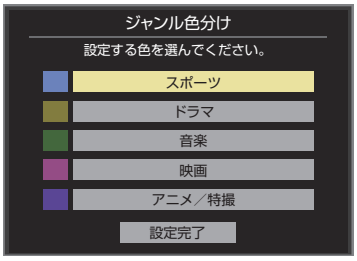
- ボタンを押すたびに、文字の大きさが変わります。文字の大きさに合わせて、表示する時間帯も変わります。

ジャンル別に色分けする

- 番組のジャンル（分野）別に色分けをすれば、見たい番組を探すのに便利です。
- お買い上げ時に設定されている色分けを、以下の操作で変更することができます。

1 サブメニューを押し、▲·▼で「ジャンル色分け」を選んで決定を押す

2 設定する色を▲·▼で選び、決定を押す



3 ▲·▼·◀·▶でジャンルを選び、決定を押す

- 決定を押すと手順2の画面に戻ります。ほかの色の設定を変える場合は、操作を繰り返します。
- 「指定しない」を選ぶと、色分け表示がなくなります。



4 ▲·▼で「設定完了」を選び、決定を押す

番組表で番組を探す つづき

番組記号の説明を見る

● 新、再、字などの番組記号の意味を調べることができます。

1 サブメニューを押し、▲·▼で「番組記号一覧」を選んで決定を押す

- 番組記号の説明が表示されます。
- 表示されるのは番組記号の一部です。
- 見終わったら、決定を押します。

表示させるチャンネル数を設定する

● 番組表に表示させるチャンネル数を切り換えることができます。

1 サブメニューを押し、▲·▼と決定で「番組表表示設定」⇨「表示チャンネル数」の順に進む

2 ▲·▼で表示させるチャンネル数を選び、決定を押す

チャンネルの並び順を設定する

● 番組表に表示させるチャンネルの並び順を切り換えることができます。

1 サブメニューを押し、▲·▼と決定で「番組表表示設定」⇨「チャンネル並び順」の順に進む

2 ▲·▼で以下のどちらかを選び、決定を押す

- **通常**……放送局推奨の並び順になります。
- **チャンネルボタン優先**…ワンタッチ選局ボタン 1 ～ 12 の番号順に並びます。

番組概要の表示／非表示を設定する

● 番組の概要説明を表示させるかどうかを設定します。

1 サブメニューを押し、▲·▼と決定で「番組表表示設定」⇨「番組概要表示」の順に進む

2 ▲·▼で「表示する」、「表示しない」のどちらかを選び、決定を押す

地上デジタル放送局の表示位置を設定する

● 地上デジタル放送の番組表で放送局の表示位置を設定します。

1 サブメニューを押し、▲·▼と決定で「番組表表示設定」⇨「地デジ表示」の順に進む

2 ▲·▼で以下のどちらかを選び、決定を押す

- **視聴チャンネル中央表示**…視聴中のチャンネルが番組表の中央に表示されます。
- **チャンネル順優先表示**…お住まいの地域のチャンネル順に表示されます。

番組表の放送メディアを切り換える

● 番組表に表示させる放送メディア（ラジオ、テレビ、独立データ）を選びます。

● 放送が運用されていない放送メディアに切り換えることはできません。

1 サブメニューを押し、▲·▼で「テレビ/ラジオ/データ切換」を選んで決定を押す

2 ▲·▼で「テレビ」、「ラジオ」、「データ」から選んで決定を押す

番組表で視聴制限を一時解除する

● 番組表を表示中に視聴制限の一時解除ができます。

1 番組表で、視聴制限番組を選ぶ

2 サブメニューを押し、▲·▼で「視聴制限一時解除」を選んで決定を押す

● 暗証番号入力画面が表示されます。

※ すでに一時解除されている場合や、地上デジタル放送などの場合は、「視聴制限一時解除」は選べません。

3 1 ～ 10 (0) で暗証番号を入力する

● 番組表の視聴制限が一時解除されます。

用語

■ **放送メディア**

デジタル放送の媒体（テレビ放送、データ放送）をさします。

条件を絞りこんで番組を探す

● 番組のジャンル(分野)やキーワードなどの条件を指定して、見たい番組を探すことができます。

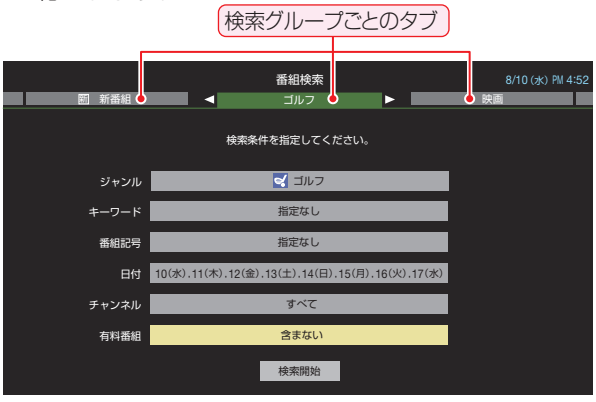
1 番組表を押して、番組表を表示させる

2 緑(番組検索)を押す

● 番組検索画面が表示されます。

3 検索するグループのタブを◀·▶で選ぶ

● 以降の手順で指定する検索条件のうち、「ジャンル」、「キーワード」、「番組記号」は検索グループごとに記憶されます。



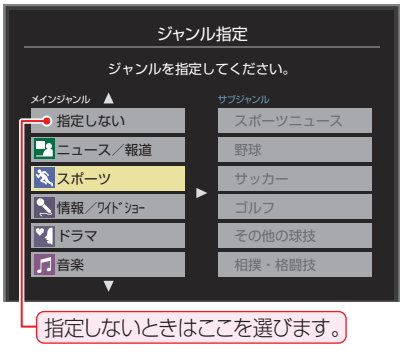
4 検索条件を指定する

● 「ジャンル」、「キーワード」、「番組記号」のどれかは必ず指定してください。

「ジャンル」を指定するとき

❶ ▲·▼で「ジャンル」を選び、決定を押す

❷ 指定するジャンルを▲·▼·◀·▶で一つ選び、決定を押す

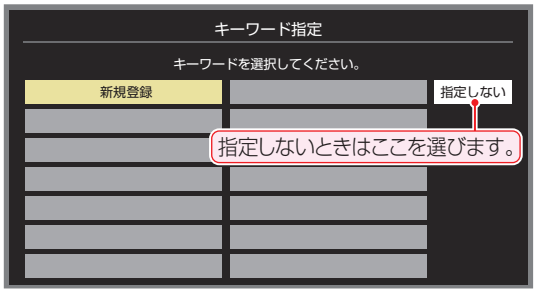


「キーワード」を指定するとき

❶ ▲·▼で「キーワード」を選び、決定を押す

❷ 指定するキーワードを▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

● お買い上げ時は登録されていません。



■新しいキーワードを登録する場合

① ▲·▼·◀·▶で「新規登録」を選び、決定を押す

● 文字入力画面が表示されます。

② キーワードを入力して、決定を押す

● 文字入力方法は、95をご覧ください。

● キーワードは14個まで登録できます。

■キーワードを編集する場合

① 編集するキーワードを▲·▼·◀·▶で選び、青を押す

② キーワードを編集し、決定を押す

■キーワードを削除する場合

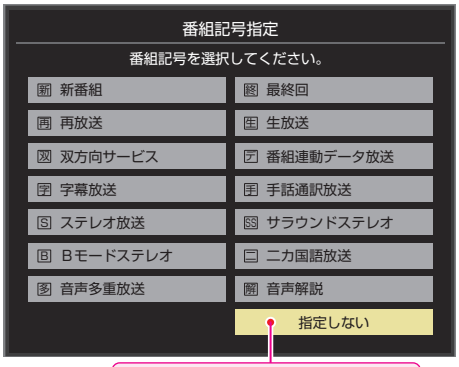
① 削除するキーワードを▲·▼·◀·▶で選び、赤を押す

② ◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

「番組記号」を指定するとき

❶ ▲·▼で「番組記号」を選び、決定を押す

❷ 指定する番組記号を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す



お知らせ

● 番組の詳細情報はキーワード検索の対象になっていません。

● 「チャンネルスキップ設定」87で、「スキップ」に設定したチャンネルの番組は番組検索の対象になりません。

● 番組検索の結果は指標としてお使いください。内容および利用した結果について、当社は責任を負いません。

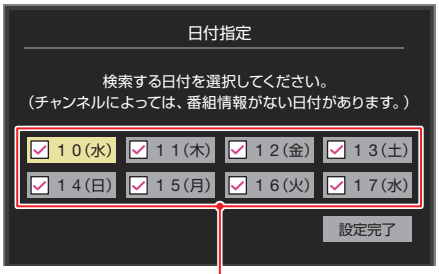
条件を絞りこんで番組を探す つづき

「日付」を指定するとき

❶ ▲·▼で「日付」を選び、決定を押す

❷ 指定する日付を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

- 決定を押すたびに、☑(指定する)と☐(指定しない)が交互に切り換わります。
- 7日先まで指定できます。

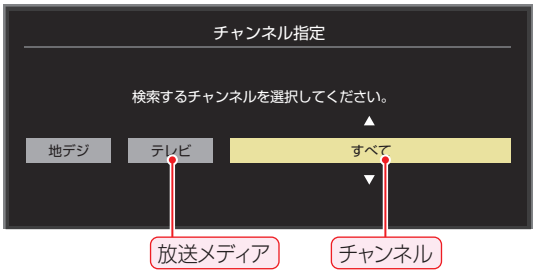


❸ 指定が終わったら、▲·▼·◀·▶で「設定完了」を選び、決定を押す

「チャンネル」を指定するとき

❶ ▲·▼で「チャンネル」を選び、決定を押す

❷ 指定する項目を◀·▶で選び、▲·▼で内容を選ぶ



- **放送の種類**……すべて／BS／CS／地デジ
- **放送メディア**……すべて／テレビ／ラジオ(BS、110度CSのみ)／データ
- **チャンネル**……指定した放送の種類やメディアに該当するチャンネル／すべて

❸ 指定が終わったら、決定を押す

「有料番組」を指定するとき

- 有料番組を検索対象に含めるかどうかを指定します。

❶ ▲·▼で「有料番組」を選び、決定を押す

❷ ▲·▼で「含む」、「含まない」のどちらかを選び、決定を押す

5 ▲·▼で「検索開始」を選び、決定を押す

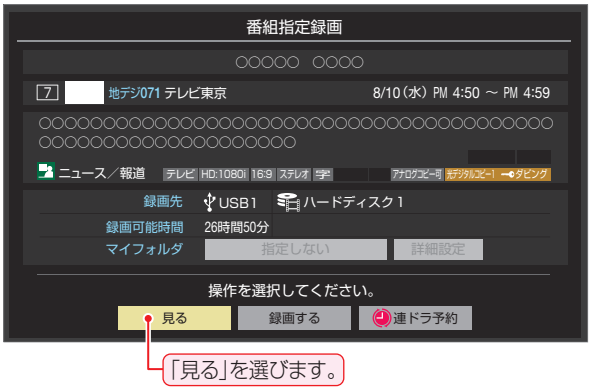
- 選択中のタブの検索グループに、手順3で指定した検索条件が上書きで保存されます。

6 「番組検索結果」画面から、見たい番組を▲·▼で選んで決定を押す



- 「番組指定録画」画面が表示されます。
- これから放送される番組を選んだときは、「番組指定予約」画面が表示されます。51ページの手順3をご覧ください。

7 ▲·▼·◀·▶で「見る」を選び、決定を押す



- 選んだ番組の放送画面になります。

データ放送やラジオ放送を楽しむ

データ放送について

- デジタル放送では映像や音声によるテレビ放送以外に、データ放送があります。
- データ放送には、テレビ放送チャンネルで提供されている番組連動データ放送や、番組案内、ニュース、天気予報などのデータ放送があります。

デジタル放送の双方向サービスについて

- インターネットや電話回線を利用して、視聴者と放送局との間で双方向に通信できるサービスです。クイズ番組に参加して回答したり、ショッピング番組で商品を購入したりすることができます。(本機は、電話回線を利用した双方向サービスには対応しておりません)
- 地上デジタル放送の双方向サービスには、放送番組に連動した通信サービスと、放送番組とは無関係な通信サービスがあります。

非リンク型サービス
放送番組とは無関係な通信サービスのときに表示されます。(文字表示は数秒で消えます)

暗号通信
本機はSSL(Secure Sockets Layer) 等の暗号通信に対応しています。そのサービスの際に、このアイコンが表示されます。

ラジオ放送について

- ラジオ放送が運用された場合、本機で放送を聴くことができます。

連動データ放送を楽しむ

- 一部の番組には番組連動データ放送があります。双方向サービスが行われている番組連動データ放送では、番組に参加して楽しむことができます。
- テレビ放送チャンネルで、天気予報やニュース、番組案内などのデータ放送を提供している場合があります。

1 dデータを押す

- 番組によっては押す必要がない場合があります。
- 放送画面に表示される操作メニューや操作説明などに従って操作をします。

2 データ放送を終了するには、サブメニューを押し、▲·▼と決定で「その他の操作」⇨「データ放送終了」の順に進む

独立データ放送やラジオ放送を楽しむ

- BSデジタル放送などで運用される独立データ放送チャンネルやラジオ放送チャンネルを選ぶときの操作です。

1 放送の種類を選ぶ

- BSデジタルの独立データ放送やラジオ放送を視聴する場合は、BSを押します。

2 サブメニューを押し、▲·▼と決定で「その他の操作」⇨「テレビ/ラジオ/データ切換」の順に進む

3 ▲·▼で「データ」または「ラジオ」を選び、決定を押す

- 予約/CH で他のチャンネルに切り換えられます。
  チャンネル番号を入力して選ぶこともできます。
- データ放送やラジオ放送を終了するには、上記の操作で「テレビ」を選びます。

お知らせ

- 放送データの取得中は一部の操作ができないことがあります。
- 本体ボタンによる放送切換操作やチャンネル切換操作では、データ放送とラジオ放送の選択やチャンネル切換はできません。
- 放送画面の操作説明などで、dデータは「データボタン」、「データ放送ボタン」等と表示される場合があります。
- データ放送は録画できません。

■ 双方向サービスについて

- 双方向サービスを利用する場合は、あらかじめインターネットへの接続と設定(75 ～77)をしてください。また、双方向サービスの利用には登録の申し込みなどが必要な場合があります。
- 双方向サービスでは、お客様の個人情報の入力を要求されることがありますが、接続先のサイトによってはSSLなどによる通信時のセキュリティ対策が行われていない場合があります。
- 双方向サービスの利用時は、通信に時間がかかり、次の操作がすぐにできないことがあります。
- 本機が動作中に電源プラグを抜かないでください。本機が記憶している双方向サービスでのお客様のポイント情報などが更新されないことがあります。

便利な機能を使う

画面サイズを切り換える

● 視聴している映像の種類に応じて、画面サイズを切り換えることができます。

1 **サブメニュー を押し、▲·▼で「画面サイズ切換」を選び、決定 を押す**

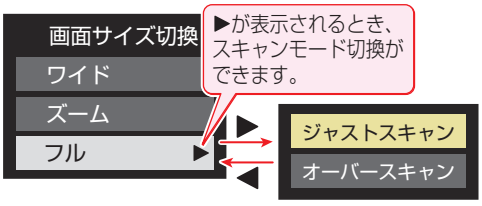
2 **お好みの画面サイズを▲·▼で選び、決定 を押す**

● 画面の見えかたについては「画面サイズについて」99 をご覧ください。

▶が表示されるとき

● 決定 を押す前に、必要に応じて以下の操作をします。

❶ ▶を押し、お好みのモードを▲·▼で選ぶ



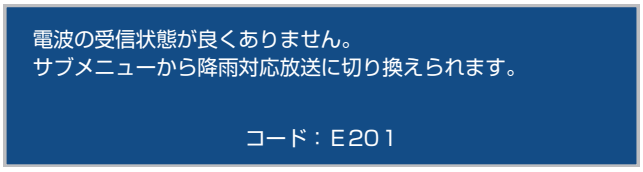
- **ジャストスキャン**…16:9の映像が画面内におさまるように表示させます。
- **オーバースキャン**…16:9の映像を少し大きめに表示させます。

降雨対応放送について

● BSデジタル放送や110度CSデジタル放送を視聴中に、雨や雪などで衛星からの電波が弱まった場合、放送局が運用していれば、降雨対応放送に切り換えて見ることができます。

※ 図のメッセージが表示された場合は、以下の手順で降雨対応放送に切り換えられます。

※ 降雨対応放送は、通常の放送よりも画質が低下します。



1 **サブメニュー を押し、▲·▼と 決定 で「その他の操作」⇨「信号切換」⇨「降雨対応放送切換」の順に進む**

2 **▲·▼で「降雨対応放送」を選ぶ**

● 降雨対応放送をやめるには、「通常の放送」を選びます。

● 電波が強くなると、自動的に通常の放送に戻ります。

他の映像・音声・データを切り換える

音声多重番組で聴きたい音声を選ぶ

- 音声多重放送番組の場合、主音声、副音声、主：副を切り換えることができます。
- 番組情報画面に 二重音声 のアイコンが表示されます。

1 音声切換 を押す

- 音声切換 を押すたびに以下のように切り換わります。

  → 主音声 → 副音声 → 主：副 →

- サブメニューの「音多切換」でも音声の切り換えができます。

音声を切り換える

- 複数の音声で放送されている番組の場合、音声1、音声2などの音声信号を切り換えることができます。
- 番組情報画面に 信号切換 のアイコンが表示されます。

1 音声切換 を押す

- 音声切換 を押すたびに以下のように切り換わります。

  → 音声1 → 音声2 → 音声3… →

- サブメニューの「音声信号切換」（次の説明）でも音声の切り換えができます。

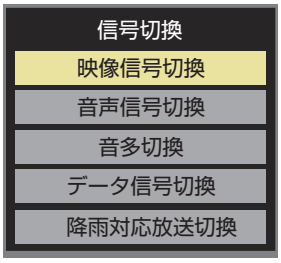
映像、音声、データを切り換える

- デジタル放送では、一つの番組に複数の映像や音声、データがある場合があり、お好みで選択することができます。
- 映像、音声、データが切り換えられる番組は、番組説明画面に 信号切換 のアイコンが表示されます。

1 サブメニュー を押し、▲·▼と 決定 で「その他の操作」⇨「信号切換」の順に進む

2 切り換える信号を▲·▼で選び、決定 を押す

- 視聴中の番組で切り換えのできない信号は、薄くなって表示されます。



3 視聴したい映像、音声、データを▲·▼で選び、決定 を押す

- 「信号切換」のサブメニューに表示される「音声信号切換」、「音多切換」は、音声切換 で選択する機能と同じです。

お知らせ

■ **信号切換について**

- 選局操作をすると、信号切換で選択した状態は取り消されます。（基本の信号を選択した状態になります）
  ただし音多切換と字幕切換では、選局しても状態は取り消されません。

便利な機能を使う つづき

映像を静止させる

● 映像の動きを止めることができます。料理番組のレシピや、視聴者プレゼントの応募先などをメモするときに便利です。

1 静止 を押す

● 解除するときは、もう一度 静止 を押します。
● 映像の静止中でも音声は流れ続けます。

お知らせ
● データ放送視聴中は静止画にできません。また、映像の静止中にデータ放送の操作はできません。
● 字幕放送の場合、映像の静止中に字幕は表示されません。
● 選局操作をすると静止画が解除されます。
● テレビを公衆に視聴させることを目的として喫茶店、ホテルなどで「静止画」を使用すると、著作権法で保護されている権利を侵害するおそれがありますので、ご注意ください。
● 映像を静止中に、入力されている信号が切り換わると、静止が解除されることがあります。

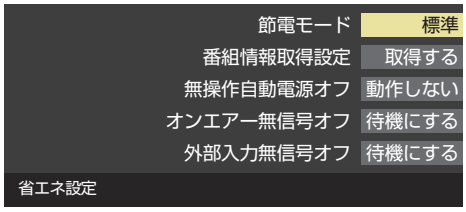
省エネ設定をする

● 省エネに関するさまざまな設定をすることができます。

1 設定 を押し、▲·▼と 決定 で「機能設定」⇨「省エネ設定」の順に進む

● 「省エネ設定」の画面が表示されます。

2 設定する項目を▲·▼で選び、決定 を押す



3 お好みの設定を▲·▼で選び、決定 を押す

● 以降の説明を参照し、設定してください。

節電モード

● 液晶画面のバックライトの明るさを抑えることで本機の節電ができます。
● 「減1」、「減2」に切り換えた場合、画面の明るさを抑えて、画面の明るさに適した画質に自動調整されます。(「映像モード」78ページ が「ライブ」、「映画」の場合、画質は変わりません)

- **標準**…… 標準の明るさです。
- **減1**…… 画面の明るさを「標準」よりも抑えて、節電します。
- **減2**…… 画面の明るさを「減1」よりも抑えて、さらに節電します。

番組情報取得設定

● 番組表機能や予約機能を正しく働かせるために、「取得する」で使用することをおすすめします。

- **取得する**…· 電源が「待機」や「切」のときに、デジタル放送の番組情報を取得します。取得時に電力を消費します。
- **取得しない**… 番組情報を取得しません。そのため、番組表の内容が表示されなかったり、予約できなかったり、番組検索ができなかったりすることがあります。

無操作自動電源オフ

- **待機にする**… 本機の無操作状態が約3時間続くと、電源が「待機」になります。
- **動作しない**… 本機の無操作状態が続いても電源は「入」のままです。

オンエアー無信号オフ

- **待機にする**… 放送受信時に、無信号状態が約15分間続くと、電源が「待機」になります。
- **動作しない**… 無信号状態が続いても電源は「入」のままです。

※外部入力を選んでいるときは機能しません。

外部入力無信号オフ

- **待機にする**… 外部入力選択時に、無信号状態が約15分間続くと、電源が「待機」になります。
- **動作しない**… 無信号状態が続いても電源は「入」のままです。

ヘッドホンで聴く

● ヘッドホンで聴くときの音の出かたを設定します。
● ヘッドホンモードには「通常モード」と「親切モード」があります。お買い上げ時は「通常モード」に設定されています。
※ ヘッドホンモードの設定のしかたについては、「ヘッドホン／音声出力設定」82ページ をご覧ください。

1 設定 を押し、▲·▼と 決定 で「音声設定」⇨「ヘッドホン／音声出力設定」⇨「ヘッドホンモード」の順に進む

- **通常モード**…… ヘッドホンだけで音声を聞くモードです。ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーから音声が出なくなります。
- **親切モード**…… ヘッドホンとスピーカーの両方で音声を聞くモードです。家族で視聴する場合など、スピーカーの音声が聞き取りにくい人がヘッドホンまたはイヤホンで聴くというような使いかたができます。

● 親切モードのとき、スピーカーの音量は 音量 で調節します。

ご注意
● ヘッドホンで聴くときは、必ず「ヘッドホン／音声出力設定」の「出力設定」を「ヘッドホン」82ページ にしてください。

ヘッドホンの音量調節のしかた

- 「通常モード」に設定しているときは、＋音量－で調節します。
- 「親切モード」に設定して、ヘッドホンを接続しているときは、以下の手順で調節します。

❶ サブメニューを押し、▲·▼と決定で「その他の操作」⇨「親切ヘッドホン音量」の順に進む

- ヘッドホンを接続していないときは、選択できません。

❷ ◀·▶で音量を調節する

- ＋音量－でも調節できます。

外部スピーカーで聴く

- ヘッドホン／音声出力端子に音声出力機器を接続して聴くときの音の出かたを設定します。

1 サブメニューを押し、▲·▼で「スピーカー切換」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「外部スピーカー」を選んで決定を押す

- テレビのスピーカーからは音は出ません。
- 「外部スピーカー出力設定」が「固定」の場合は、接続した外部音声出力機器で音量を調節します。「可変」の場合は、本機のリモコンで音量を調節できます。

※「外部スピーカー出力設定」の設定のしかたについては、「ヘッドホン／音声出力設定」82をご覧ください。

時計を表示する

- 画面に時計を表示させます。

1 サブメニューを押し、▲·▼で「時計」⇨「時計表示」の順に進む

2 ▲·▼で「オン」または「オフ」を選び、決定を押す

- 「オフ」を選ぶと時計を消します。

アラームを使う

- 設定した時刻にアラームでお知らせすることができます。本機の電源「待機」のときは、電源が「入」になります。

1 サブメニューを押し、▲·▼と決定で「時計」⇨「アラーム設定」の順に進む

2 以降の手順で設定する

アラーム

❶ ▲·▼で「アラーム」を選び、決定を押す
❷ ▲·▼で「オン」を選び、決定を押す

- アラームを使用しないときは、「オフ」を選びます。
- アラーム設定画面を表示中は、青を押すたびに「アラーム」の「オン」と「オフ」を切り換えることができます。

日時

- アラームでお知らせする日時を設定します。

❶ ▲·▼で「日時」を選び、決定を押す
❷ 設定する項目を◀·▶で選び、▲·▼で日時を選ぶ

- 曜日は「毎日」、「１回」、「毎週(日)」～「毎週(土)」、「月～木」、「月～金」、「月～土」の中から選びます。

❸ 設定が終わったら、決定を押す

サウンド

- アラームでお知らせするときの効果音を設定します。

❶ ▲·▼で「サウンド」を選び、決定を押す
❷ ▲·▼でお好みの音を選ぶ

- 黄を押すと、選んだ音を聴いて確認することができます。

※ テレビの状態によっては、「再生できません」が表示され、効果音の確認ができない場合があります。

❸ 設定が終わったら、決定を押す

音量

- アラームでお知らせするときの音量を設定します。

❶ ▲·▼で「音量」を選び、決定を押す
❷ ▲·▼でお好みの音量を選ぶ

- 黄を押すと、選んだ音量を聴くことができます。

❸ 設定が終わったら、決定を押す

※ サウンドシステムスピーカーから音声が出力されている場合は、設定は出力に反映されません。この場合、黄を押しても、選んだ音量を聴くことができません。

便利な機能を使う つづき

チャンネル

● アラームでお知らせした後に、画面に映すチャンネルを設定します。

❶ ▲·▼で「チャンネル」を選び、決定を押す

❷ 設定する項目を◀·▶で選び、▲·▼で内容を選ぶ

- **放送の種類**……ラストチャンネル／地デジ／BS／CS
  ※ ラストチャンネルは、アラームでお知らせする前に見ていたチャンネルです。
  電源「待機」のときは、電源を切る前に見ていたチャンネルになります。
- **チャンネル**……設定した放送の種類に該当するチャンネル

❸ 設定が終わったら、決定を押す

アラームの動作について

● アラームで設定した時刻になると次のように動作します。

設定した「音量」、「サウンド」でアラームが鳴り、アラーム停止画面が表示される

● 電源が「待機」のときは、電源が「入」になります。

● ◀·▶で「停止」を選んで決定を押すと、アラームを停止します。

● ◀·▶で「スヌーズ」を選んで決定を押すと、アラームを一度停止し、スヌーズ動作になります。

スヌーズ動作：
5分後、再度アラームが鳴り、アラーム停止画面が表示されます。
アラームを停止するときは、アラーム停止画面で「停止」を選びます。
スヌーズ中は、終了を押してスヌーズ解除画面を表示させ、「はい」を選んで決定を押します。

スヌーズで無音状態中に音量の操作をすると、アラームの音量も操作した音量になります。

※ **アラームを停止しないと：**
「サウンド」で選んだ音が5分後に停止し、無音状態になります。さらに5分経過すると、再度選んだ音が鳴ります。
アラームを停止するまで上記動作を繰り返します。（「無操作自動電源オフ」42ページの設定に従います）
※ アラームで電源がはいったときは、上記を繰り返し、操作をせずに1時間が経過すると、自動的に電源が「待機」になります。

アラームを一時的に解除する

● アラームの設定を残したまま、一時的に解除することができます。

1 サブメニューを押し、▲·▼と決定で「時計」⇨「アラーム設定」の順に進む

2 ▲·▼で「オフ」を選び、決定を押す

● 「オン」を選ぶと、アラームが再開されます。

オフタイマーを使う

● オフタイマーを設定すると、設定時間後に電源が切れて、「待機」の状態になります。

1 サブメニューを押し、▲·▼と決定で「時計」⇨「オフタイマー設定」の順に進む

● すでにオフタイマーが設定されているときは、「オフタイマー設定」に電源が切れるまでの時間も表示されます。

2 ▲·▼で、電源を「待機」にするまでの時間を選んで決定を押す

● オフタイマーが動作して、あと1分になると画面にメッセージが表示されます。

録画・予約機能について

録画できる機器と番組

● 本機背面のUSB（録画専用）端子に接続した**USBハードディスク**にデジタル放送番組を録画できます。
（データ放送、外部入力（HDMI 1 ～ 2 、ビデオ入力）で視聴している動画の映像・音声は録画できません）
• USBハードディスクの接続は次ページをご覧ください。

接続・設定と録画前の準備

録画する機器	録画前の準備
USBハードディスク(注)	• USBハードディスクの電源を入れておきます。 • USBハードディスクの残量を確認します。61 • 「すべて」のタブの録画リストで「録画番組数」を確認します。57 ※ 残量不足や番組数超過（3000を超過）になりそうな場合は、不要な番組を削除します。62

(注) USBハードディスクは、本機に登録しないと録画できません。

● 録画や録画予約の操作をしたときに接続した機器が選択できないときは、47を参照し、登録してください。
● **USBハードディスクは専用のACアダプターを接続してご使用ください。ACアダプターを使用しない場合は動作保証できません。本機で接続確認済のUSBハードディスクについては、ホームページ（http://www.toshiba.co.jp/regza/）をご覧ください。**

※ USBハードディスクの最大予約件数は128です。最大録画番組数は3000です。

USBハードディスクの自動削除機能について

● USBハードディスクの容量が足りない場合に、保護されていない日付の古い録画済番組から自動的に削除する機能で、お買い上げ時は「自動削除設定」62が「削除しない」に設定されています。

ご注意

● **USBハードディスクについて**
USBハードディスクは精密機器であり、使用環境などによっては数年で故障する可能性があります。
本機に接続したUSBハードディスクに録画した内容の長期保存は保証できません。一時的な保存・再生機能としてご使用ください。

お知らせ

● USBハードディスクでの録画中に停電したり、電源プラグを抜いたりすると、途中まで録画した番組は正しく保存されません。（「録画番組を修復する」59の操作をすれば、録画された内容を再生できるようになることがあります）
● 予約録画の開始時に、自動削除機能によって削除される番組が多い場合は、番組の冒頭部分が録画されないことがあります。
● 録画番組の再生中に予約録画の開始時刻になると、再生が自動的に停止することがあります。
● 万一、本機の故障や受信障害などによって正常に録画・録音できなかった場合の補償は一切できませんので、あらかじめご了承ください。

USBハードディスクの接続をする

● 本機に接続したUSBハードディスクで以下のことができます。

できること	記載ページ
本機で受信したテレビ放送番組の録画、録画予約	50 51
録画番組の再生、ムーブ	57 65

ご注意

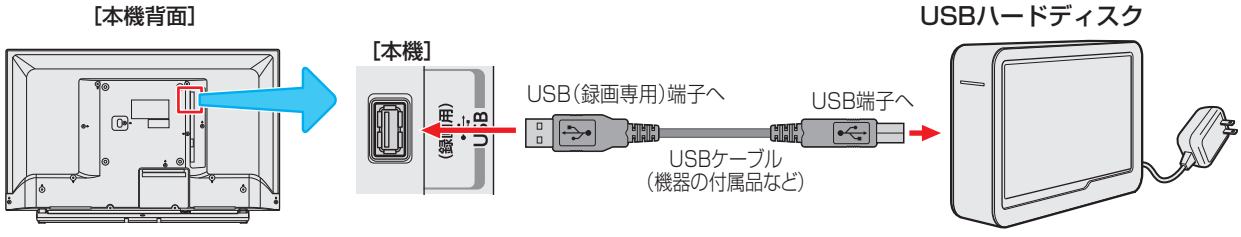
- パソコンや他のテレビ、録画機器などで使用していたUSBハードディスクを本機に接続して登録すると、それまでに保存されていたデータや録画番組などはすべて消去されます。
- 本機で使用していたUSBハードディスクをパソコンで使用するには、パソコンで初期化する必要があります。その際に、本機で録画した番組はすべて消去されます。
- 本機に接続したUSBハードディスクを取りはずす場合は、未登録の機器を含めて「USBハードディスクの設定をする」47 の手順で「機器の取りはずし」の操作をしてください。
- USBハードディスクの動作中は、USBハードディスクの電源を切ったり、接続ケーブルを抜いたりしないでください。録画した番組が消えたり、USBハードディスクが故障したりする原因となります。

USBハードディスクを接続する

● **USBハードディスクやUSBハブは専用のACアダプターを接続してご使用ください。本機で接続確認済の機器でもACアダプターを接続しない場合は動作保証できません。**

USBハードディスクが1台のとき

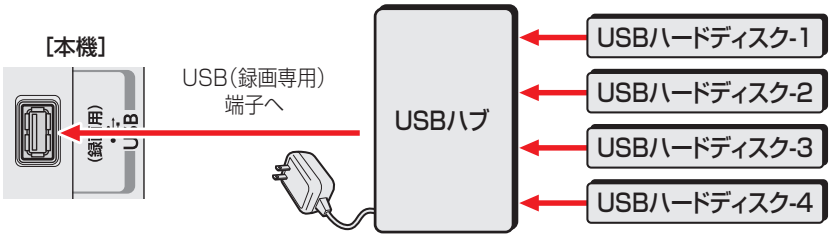
● USBハードディスクは、USB(録画専用)端子に接続します。



USBハードディスクが複数のとき

● USBハブを使用すれば、複数のUSBハードディスクを接続することができます。

※ 8台までのUSBハードディスクを本機に登録できます。ただし、同時に接続できるのは4台までです。



お願い

- 複数の未登録USBハードディスクを接続した状態で本機の電源を入れると、不特定の順番で登録が始まります。USBハードディスクの登録名や接続場所などを特定しやすくするために、1台ずつ接続して登録の処理が終わったら次のUSBハードディスクを接続するようにしてください。
- 登録の手順については、次ページの「USBハードディスクを本機に登録する」をご覧ください。

お知らせ

- 複数台のUSBハブを経由して本機にUSBハードディスクを接続することはできません。
- 本機で接続確認済のUSBハードディスクとUSBハブについては、ホームページ(http://www.toshiba.co.jp/regza)をご覧ください。
- 接続確認済機器でも、すべての動作を保証するものではありません。

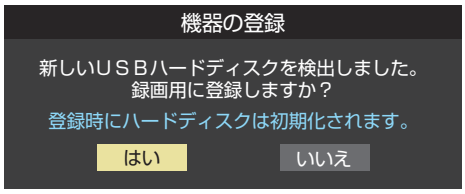
USBハードディスクの設定をする

USBハードディスクを本機に登録する

● 本機が未登録のUSBハードディスクを検出すると、「機器の登録」の画面が表示されます。以下の手順で本機に登録します。

1 ◀·▶で「はい」を選んで決定を押す

● 登録しないときは「いいえ」を選びます。



※「いいえ」を選択した場合、そのUSBハードディスクは「機器の登録」の画面で「未登録」となります。「未登録」のUSBハードディスクを登録する場合は、次の「USBハードディスクの設定をする」で「機器の登録」の操作をしてください。

2 初期化の確認画面で、◀·▶で「はい」を選んで決定を押す

● 登録の処理が始まり、終わると次の手順の画面が表示されます。

3 登録名を変更する場合は、◀·▶で「はい」を選んで決定を押す

● 表示された登録名のままでよければ「いいえ」を選びます。
● 「はい」を選んだ場合は、文字入力画面が表示されます。登録名を入力して、決定を押します。
● 文字入力方法については、95ページをご覧ください。
● ␣(スペース)だけの名称は登録できません。

4 登録したUSBハードディスクを録画機器にする場合は、◀·▶で「はい」を選んで決定を押す

● 録画や予約などでの録画機器の初期候補が、今登録したUSBハードディスクになります。
※ 録画機器は、録画や予約の際に変更することもできます。

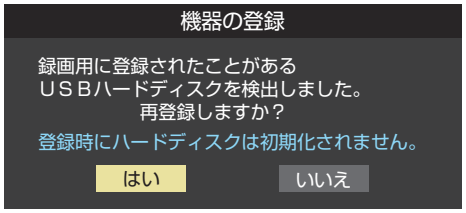
5 〈録画／ムーブのご注意〉などの内容を読み、決定を押す

● 録画中やムーブ中および録画予約が設定されているときは、本機やUSBハードディスクおよびハブなどの電源プラグを抜かないようにしてください。

6 登録結果の内容を確認し、終了を押す

使用履歴のあるUSBハードディスクを接続したとき

● 本機に登録して使用し、登録を解除したUSBハードディスクを接続した場合、以下の確認画面が表示されます。



● 「はい」を選んで決定を押すと登録の処理が始まり、終わると登録機器のリスト画面が表示されます。

※ 再登録の場合、ハードディスクは初期化されません。

修理などで、本機内部のハードディスク登録情報記憶部が含まれる部分を交換した場合や、本機を交換した場合は、それまでに使用していたハードディスクは未登録(新しいハードディスク)として認識され、初期化して使用することになります。初期化の際に録画内容はすべて消去されます。

USBハードディスクの設定をする

● USBハードディスクを使用する場合は、必要に応じて以下の設定をします。

1 設定を押し、▲·▼と決定で⇨「外部機器設定」⇨「USBハードディスク設定」の順に進む



2 設定する項目を▲·▼で選んで決定を押し、以降の手順で設定する

機器の登録

● リストに「未登録」と表示されているUSBハードディスクを登録したり、機器の登録名を変更したり、登録を解除したりすることができます。
※ 登録できるのは8台までです。
※ USBハードディスクによっては、機器の登録画面でモデル名が正しく表示されないことがあります。

USBハードディスクの設定をする つづき

機器を登録するとき

※ はじめて登録するときには、USBハードディスクに保存されている内容はすべて消去されます。

❶登録する機器を▲·▼で選び、決定を押す
❷登録の確認画面で、◀·▶で「はい」を選んで決定を押す
❸初期化の確認画面で、◀·▶で「はい」を選んで決定を押す
- 初期化と登録の処理が始まります。

❹終わったら、登録結果の内容を確認し、決定を押す

登録名を変更するとき

❶登録名を変更する機器を▲·▼で選び、決定を押す
❷◀·▶で「はい」を選び、決定を押す
❸文字入力画面で登録名を入力する
- 文字入力方法については、95ページをご覧ください。

登録を解除するとき

❶登録を解除する機器を▲·▼で選び、赤を押す
❷◀·▶で「はい」を選び、決定を押す
- 録画予約が設定されているUSBハードディスクの登録を解除するときは、再登録を促すメッセージ付の登録解除確認画面が表示されます。

省エネ設定

- 複数のUSBハードディスクに対して個別に設定を変えることはできません。

※「省エネモード」に設定した場合、USBハードディスクが動作するまでに時間がかかることがあります。「ハードディスクがありません。」や、録画可能時間が「--時間--分」と表示されるような場合は、少し待ってから操作してください。
※ USBハードディスクによっては、機器の表示ランプが「待機」と「入」の状態を正しく示さないことがあります。
※ USBハードディスクによっては、「オフ」に設定していても、USBハードディスク側の省エネ機能によって、待機状態になることがあります。
※ 本機の電源が「切」または「待機」のときでも、「自動スキャン」や「番組情報の取得」が内部で動作している場合には、USBハードディスクの電源が「入」になることがあります。
※ USBハブを使用している場合、本機の電源が「切」または「待機」のときでも、USBハブからの電源供給によって、USBハードディスクの電源が「入」になることがあります。

❶▲·▼で以下から選び、決定を押す
- **オン**……USBハードディスクの電源は、使用しない状態がしばらく続くと待機状態になり、使う操作をすると自動的に「入」になります。
- **オフ**……本機の電源が「入」のとき、USBハードディスクの電源は常時「入」の状態です。

機器の取りはずし

- USBハードディスクの電源を切ったり、接続ケーブルを抜いたりするときには、その前にこの操作をします。

❶取りはずす機器を▲·▼で選び、決定を押す
❷確認画面で、◀·▶で「はい」を選んで決定を押す
- 停止の処理が始まり、終了すると「USBハードディスクを取りはずしできます。」のメッセージが表示されます。

❸USBハードディスクを取りはずし、決定を押す

動作テスト

- USBハードディスクで以下の動作ができるかテストします。

❶テストする機器を▲·▼で選び、決定を押す
- テストが始まります。終了までに数分間かかります。
- テストが終わると結果が表示されます。テスト結果が「OK」となった動作ができます。
  - **録画**……ハイビジョン画質で録画ができるか
  - **録画中の再生**…ハイビジョン画質で録画しながら番組再生ができるか
  - **録画中の早見早聞**…録画中に早見早聞58ページができるか

※ テスト結果は目安です。結果どおりの動作にならないことがあります。

機器の初期化

- 正常に使用できなくなったUSBハードディスクは、初期化をすれば使用できるようになることがあります。

※ 初期化をすると、USBハードディスクに保存されている内容はすべて消去されます。

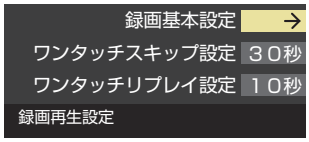
❶初期化する機器を▲·▼で選び、決定を押す
❷初期化の確認画面で、◀·▶で「はい」を選んで決定を押す
❸初期化終了の画面で決定を押す

録画の基本的な設定をする

● USBハードディスクでの録画・再生に関する基本的な設定をすることができます。

1 設定 を押し、▲·▼と決定で「外部機器設定」⇨「録画再生設定」の順に進む

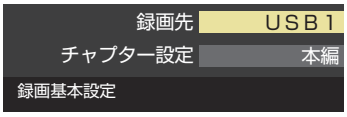
2 以降の手順で設定する



録画に使用する機器を設定する

● 複数のUSBハードディスクを本機に登録している場合に、録画に使用する機器を設定します。

❶ ▲·▼と決定で「録画基本設定」⇨「録画先」の順に進む



❷ 録画に使用する機器を▲·▼で選び、決定を押す



チャプター分割のしかたを設定する

● シーンの変わり目でチャプター分割(章分け)されるように設定できます。(チャプター分割をすると、再生時にチャプタースキップができるようになります)

❶ ▲·▼と決定で「録画基本設定」⇨「チャプター設定」の順に進む

❷ チャプター分割の場面を▲·▼で選び、決定を押す



- **本編**……本編とCMの間でチャプター分割されます。
- **音楽**……楽曲の前後でチャプター分割されます。
- **本編と音楽**…上記の両条件でチャプター分割されます。
- **オフ**……チャプター分割をしません。

※ 音楽の検出は番組のメインジャンルが「音楽」または、メインジャンルが「バラエティ」でサブジャンルが「音楽バラエティ」のときにだけ行われます。

番組を録画する

● テレビ放送番組を録画するときは、以下の操作をします。
※ USBハードディスクに録画中はこの操作はできません。

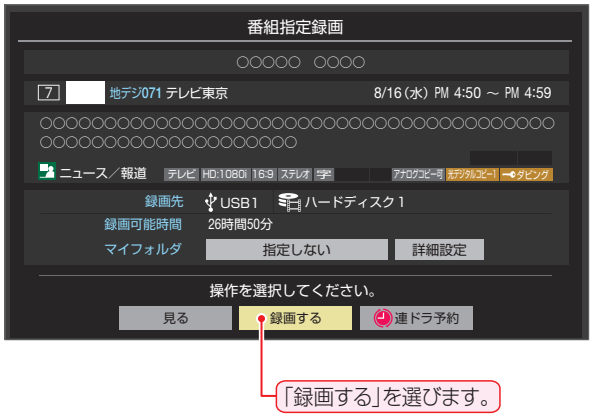
1 テレビ放送を見ているときに番組表を押す

● 番組表が表示されます。
● ミニ番組表 34 からも録画できます。

2 録画する番組(放送中)を▲・▼・◀・▶で選んで、決定を押す

● 番組指定録画画面が表示されます。

3 ▲・▼・◀・▶で「録画する」を選び、決定を押す



● 現在の設定で録画が開始されます。
設定を変更して録画する場合は、右の説明をご覧ください。
● 外出する場合は、本機(テレビ)の電源を「待機」または「切」にします。(録画は継続されます)
※ 予約録画が始まるときは、この操作での録画は中止されます。

録画を中止するとき

● 録画を途中でやめるときは、以下の操作をします。録画予約での録画中の場合も同様です。
● USBハードディスクの残量がなくなった場合は録画が自動的に停止します。

❶ 録画中に終了または■を押す

❷「録画中止」の画面で、◀・▶で「はい」を選んで決定を押す

録画の設定を変更してから録画するとき

❶ 手順3で「録画する」を選んでから「詳細設定」を選び、決定を押す



● 詳細設定画面が表示されます。

詳細設定画面でできる設定

● 録画先の機器の変更

❶「録画先」で録画機器を選び、決定を押す

❷ ▲・▼で「設定完了」を選び、決定を押す

● 放送時間の変更

❶「放送時間」で「連動する」または「連動しない」を選び、決定を押す

- **連動する**： 放送局から番組遅延の情報が送信されると、最大3時間までの遅れに連動して録画します。
- **連動しない**： 番組遅延の情報とは連動せずに、録画を開始するときに番組指定録画画面に表示される番組終了時間まで録画します。

❷ ▲・▼で「設定完了」を選び、決定を押す

その他の録画設定を変更するとき

● 「録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき」 54 をご覧ください。

留守録機能について

● 本機は、録画予約を設定することで自動的に番組を録画できます。
※ 録画中でも、地デジ・BS・CSが視聴可能です。

番組表で予約をする

● 番組表で録画したい番組を選んで予約します。

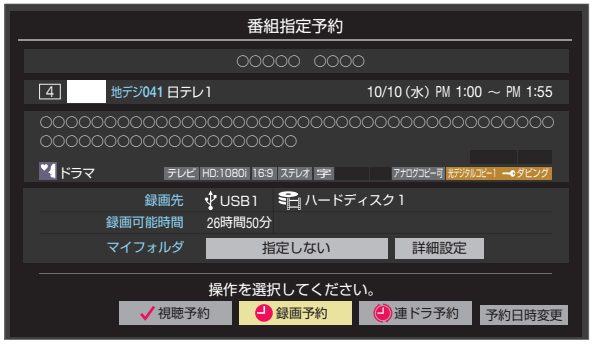
1 番組表を押して、番組表を表示させる

2 予約する番組を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

● 番組指定予約画面が表示されます。

3 以下の操作で予約をする

● 録画機器や設定を変更する場合は、「録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき」54 の操作をします。



❶ ▲·▼·◀·▶で「視聴予約」、「録画予約」、「連ドラ予約」のどれかを選び、決定を押す

- **視聴予約**：指定した番組の視聴を予約します。
- **録画予約**：指定した番組の録画を予約します。
- **連ドラ予約**：同じ番組を毎回録画します。52

❷「予約を設定しました。」が表示されたら、決定を押す

予約する日時を変更する場合

● 再放送番組などで、1話から3話まで連続して放送される場合など、1話目を番組表で予約し、以下の操作で終了時間を3話目の終了時間に変更すると、1話から3話まで一つの録画予約にすることができます。

❶ ▲·▼·◀·▶で「予約日時変更」を選び、決定を押す

❷ メッセージが表示されたら、◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

❸「日時を指定して予約をする」53 の手順3 以降の操作をする

視聴制限番組について

● 手順3 で視聴制限番組を選んで視聴予約をしたときは、「予約を設定しました。」が表示されます。視聴開始時間に視聴制限番組のメッセージが表示されます。

● 手順3 で視聴制限番組を選んで録画予約または連ドラ予約をしたときは、メッセージが表示されます。◀·▶を押して「はい」を選び、決定を押すと暗証番号入力画面が表示されます。1 ～ 10(0) で暗証番号を入力すると、選んだ番組の視聴制限が一時解除されます。
「いいえ」を選んだときは、前の画面に戻ります。

※ 視聴制限番組について、詳しくは「視聴できる番組を制限する」90 をご覧ください。

※ 番組表で視聴制限を一時解除するときは、「番組表で視聴制限を一時解除する」36 をご覧ください。

メッセージが表示された場合

「設定した時間帯はこれ以上予約ができません。」が表示された場合

❶ ◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

● 新規予約をやめる場合は、「いいえ」を選びます。

❷ 予約を取り消す番組を▲·▼で選び、決定を押す

● 決定を押すたびに☑と☐が交互に切り換わります。
● ✓をつけた番組の予約が取り消されます。

❸ 赤 を押して、取り消しを実行する

「予約数がいっぱいです。」が表示された場合

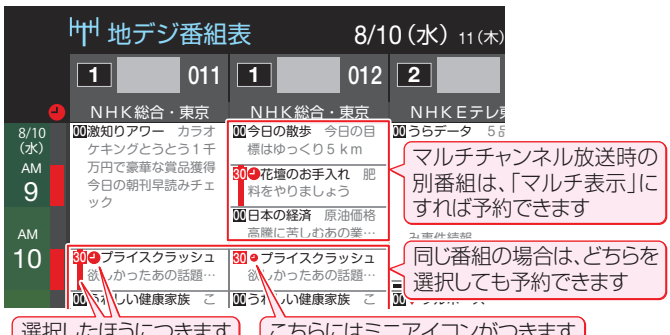
❶ 決定を押す

❷「予約の確認・変更・取り消しをする」55 の操作をして、予約を一つ以上取り消してから、再度予約をする

マルチ表示の番組表で予約するとき

● 一つの放送局で別の番組を放送している場合、その番組を予約するには番組表を「マルチ表示」35 に切り換えます。

● マルチ表示の番組表で同じ番組が並んでいる場合は、どちらを選択しても予約できます。



お知らせ

- 放送局の変更があった場合、予約どおりに動作しないことがあります。
- 複数の番組が連続して予約されている場合、番組の最後の部分が録画されません。
- 予約をした時間帯は番組表に赤色の帯で表示されます。33
- 予約の確認や取り消しについては55 を、予約の優先順位については56 をご覧ください。

連続ドラマを予約する

● 連続ドラマや連日放送されている同じ番組などを、毎回自動的に録画されるように予約することができます。

1 番組表を押して、番組表を表示させる

2 連ドラ予約をする番組を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

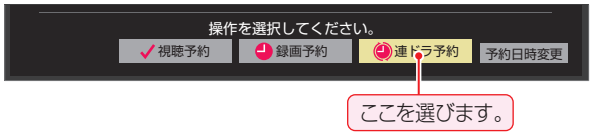
● 現在放送中の番組を選んだ場合は「番組指定録画」画面が、これから放送される番組を選んだ場合は、「番組指定予約」画面が表示されます。

3 番組の録画先をUSBハードディスクに設定する

● 「録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき」54の操作で、「録画先」を設定します。

4 ▲·▼·◀·▶で「連ドラ予約」を選び、決定を押す

● 画面の図は、「番組指定予約」画面の場合の例です。



5 「連ドラ予約」画面で内容を確認する

● 番組名(連ドラ)や追跡基準の曜日などが正しく表示されているか確認してください。

「連ドラ予約」がより正しく実行されるために

「録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき」54の操作で「詳細設定」の画面を表示させ、「追跡キーワード」の確認・編集をすることをおすすめします。

6 ▲·▼·◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

7 「予約を設定しました。」が表示されたら、決定を押す

視聴中の番組を連ドラ予約する場合

❶ サブメニューを押し、▲·▼で「連ドラ予約」を選んで決定を押す

❷ 手順5～7の操作をする

録画中の番組を連ドラ予約する場合

● 録画実行中のため、次回から予約します。

❶ サブメニューを押し、▲·▼で「連ドラ予約」を選んで決定を押す

❷ 手順5～7の操作をする

連ドラ予約の動作について

● 連ドラ予約は、追跡基準(指定した番組の放送曜日と開始時刻)と、追跡キーワード(番組名など)を基に、次回の番組を検索して自動的に録画予約をする機能です。
※ 追跡基準(開始時刻)の前後約2時間が検索されます。

● 追跡キーワードには連ドラ予約をした番組の番組名、追跡基準には番組の放送時間が自動で設定されます。

お知らせ

● 電源を「入」にしてからしばらくの間は連ドラ予約ができません。
● 連ドラ予約後に、番組情報が取得できなくなった場合や、追跡キーワードに該当する番組が検出できなかった場合は録画されません。
● 𠮷などの囲い文字は[映]などと表示されます。また、漢字の旧字などの特殊な文字は表示されないことがあります
● 予約の確認や取り消しについては55を、予約の優先順位については56をご覧ください。

日時を指定して予約をする／番組を検索して録画・予約をする

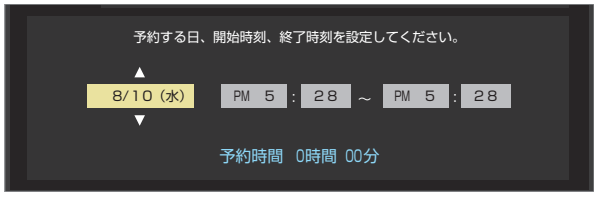
日時を指定して予約をする

1 サブメニューを押し、▲·▼で「予約リスト」を選んで決定を押す

2 青を押す

● 日時指定予約画面が表示されます。

3 録画予約の日時を設定する

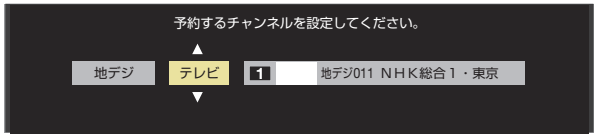


❶設定する項目を◀·▶で選び、▲·▼で日時を設定する

- 6週間先まで指定できます。
- 特定の日のほかに、「毎日」、「毎週（日）」～「毎週（土）」、「月～木」、「月～金」、「月～土」などの繰り返し録画も選べます。
- 設定できる時間は最大23時間59分です。

❷設定が終わったら、決定を押す

4 録画するチャンネルを設定する



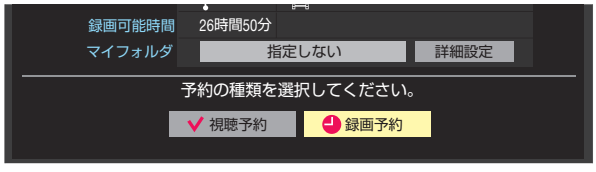
❶設定する項目を◀·▶で選び、▲·▼で内容を選ぶ

- 放送の種類……地デジ／BS／CS
- 放送メディア……テレビ／ラジオ（BS、110度CSのみ）／データ
- チャンネル……指定された放送の種類やメディアに該当するチャンネル

❷設定が終わったら、決定を押す

5 録画設定を変更する場合は、54ページの手順で操作をする

6 ▲·▼·◀·▶で「視聴予約」または「録画予約」を選び、決定を押す



7 「予約を設定しました。」が表示されたら、決定を押す

メッセージなどが表示された場合

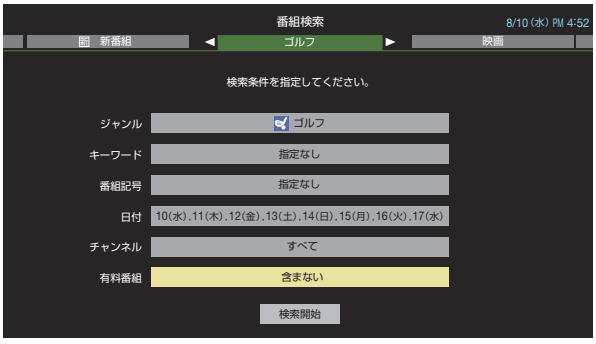
● 「設定した時間帯はこれ以上予約ができません。」、「予約数がいっぱいです。」のメッセージ表示された場合の操作については、51ページをご覧ください。

番組を検索して録画・予約をする

1 番組表を押して、番組表を表示させる

2 緑（番組検索）を押す

● 番組検索画面が表示されます。



3 「条件を絞りこんで番組を探す」37ページの手順3 ～ 5の操作をして、録画・予約したい番組を検索する

4 「番組検索結果」画面から録画したい番組を▲·▼で選び、決定を押す



5 録画・予約をする

● 操作方法は、「番組表で予約する」51ページの手順3と同じです。

● 放送予定の番組を選んで予約をした場合には、「番組検索結果」の画面に戻ります。ほかの番組の予約を続けることができます。

お知らせ

- 日時指定予約では放送時間連動の設定はできません。
- 予約の確認や取り消しについては55ページを、予約の優先順位については56ページをご覧ください。

録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき

1 録画・録画予約・連ドラ予約画面などで、「詳細設定」を▲·▼で選び、決定を押す

● 録画・録画予約の「マイフォルダ」の設定は、画面上の「マイフォルダ」を選んで変更します。

「マイフォルダ」を変更するとき

❶ 録画・録画予約画面で、「マイフォルダ」を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

❷ ▲·▼で設定したいフォルダグループを選び、決定を押す

2 設定する項目を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

3 ▲·▼で内容を選び、決定を押す

4 ▲·▼·◀·▶で「設定完了」を選び、決定を押す

項　目	内　容
録画先	• 録画をする機器を選びます。
マイフォルダ	• 番組の再生時に探しやすくするために、録画時にフォルダ分けします。 再生のときに録画リストを「マイフォルダ別」の表示にすれば、保存した「マイフォルダ」の中から番組を探すことができます。「マイフォルダ」の名称は変更することができます。63
チャプター設定	• 「本編」に設定すると、本編とCMの間でチャプター（章）が分割されます。 • 「音楽」に設定すると、楽曲の前後でチャプターが分割されます。（メインジャンルが「音楽」またはメインジャンルが「バラエティ」でサブジャンル「音楽バラエティ」のときのみ） • 「本編と音楽」に設定すると、「本編」と「音楽」の両方の条件でチャプターが分割されます。 • チャプターの機能を使わないときは、「オフ」に設定します。 • 録画済の番組でチャプター編集をすることもできます。63 ※ 番組内容などによってはチャプター分割ができなかったり、分割位置がずれたりすることがあります。 ※ チャプター数の上限（100個）に達すると、それを超えるチャプターの作成はできなくなります。
保護	• 録画する番組を保護する（消さないようにする）かどうかを設定します。 録画後に設定することもできます。62
連ドラ	• 文字入力画面が表示され、必要に応じて連ドラの名称を編集することができます。（再生の際に「連ドラ別」の録画リストから番組を探しやすい名称などに編集します） • 文字入力のしかたは、95をご覧ください。 • 連ドラの名称（連ドラグループ名）はあとで変更することもできます。63
追跡キーワード	• 文字入力画面が表示され、必要に応じて連ドラ予約の追跡キーワードを編集することができます。（1回の放送に限られるようなキーワードは削除しておきます）
追跡基準	• 必要に応じて、連ドラ予約をする番組の録画曜日と時間を設定することができます。
上書き録画	• 連ドラ予約の場合に上書き録画の設定をします。 上書き録画にすると前回の録画番組が削除されます。
放送時間	• 放送局から番組遅延の情報が送信されると、最大3時間までの遅れに連動して録画をする機能です。（放送時間の繰り上げには対応できません） • ほかの予約と時間帯の一部が重なったときの優先順については56をご覧ください。

予約の確認・変更・取り消しをする

● 予約の確認や取り消し、録画設定や連ドラ設定の変更をすることができます。

1 サブメニューを押し、▲·▼で「予約リスト」を選んで決定を押す

2 予約の確認や変更、取り消しをする番組を▲·▼で選び、決定を押す

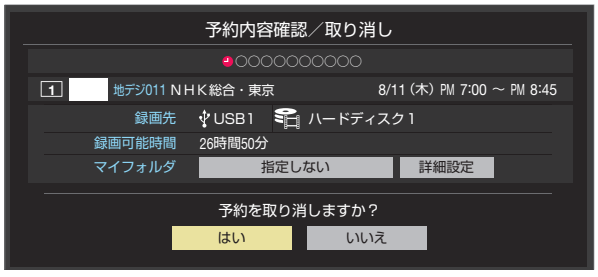


録画や予約状況、上書き保存などのアイコンが表示されます。

3 以下の操作をする

予約を取り消すとき

❶ ◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

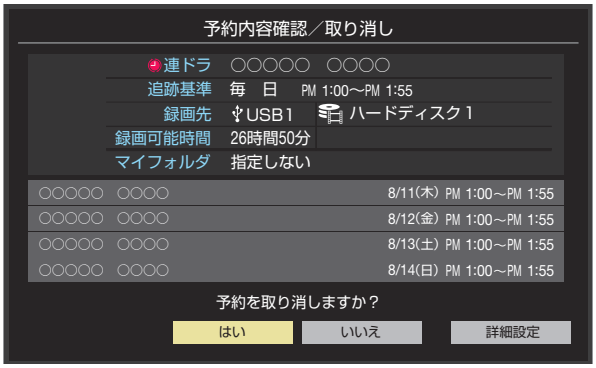


録画設定を変更するとき

● 前ページの「録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき」の操作をします。

連ドラ予約を取り消すとき

❶ ◀·▶で「はい」を選び、決定を押す



※ 連ドラ予約を取り消すと、直近の録画予約番組（録画中を含む）から予約が取り消されます。

予約内容を変更する場合

❶ ▲·▼·◀·▶で「詳細設定」を選び、決定を押す

❷ ▲·▼で設定を変更する項目を選び、決定を押す

● 設定画面に表示されている項目の内容については、前ページの「録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき」の表を参照してください。

❸ ▲·▼·◀·▶で「設定完了」を選び、決定を押す

予約・録画の優先順位と予約の動作について

予約・録画の優先順位について

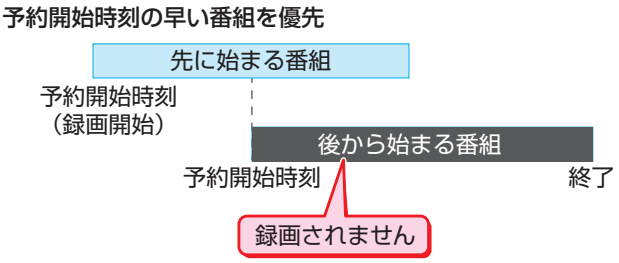
「録画予約」が最優先されます

● 録画予約と他の録画や視聴予約などが重なった場合、録画予約が優先され、他の録画や視聴予約は中止または取り消しになります。

優先順1位 録画予約 > 優先順2位 現在番組の録画 > 優先順3位 視聴予約

予約時間の一部が重なっているとき

● 予約録画が重なった場合後発の予約は実行されません



● 先に始まる番組の終了時刻と後から始まる番組の開始時刻が同じときは、先に始まる番組の終わりの約15秒が録画されません。

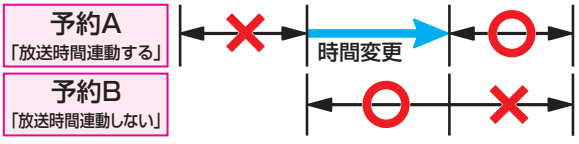
放送時間が変更されたとき

● 予約した番組の放送時間が変更されて、他の予約番組と重なったときは、以下の優先順位で録画されます。

「放送時間」を「連動する」に設定した予約番組と「連動しない」に設定した番組が重なった場合

● 「放送時間」を「連動する」に設定した番組が優先されます。

例 「放送時間」を「連動する」に設定していた予約Aが時間変更に対応したため、予約Aと重なった部分の予約Bは録画されません。

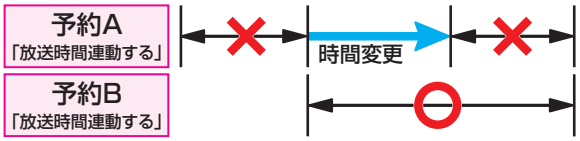


「放送時間」を「連動する」に設定した複数の予約番組が重なった場合

❶ 開始時刻が変更された場合

● 開始時刻の早い予約が優先されます。

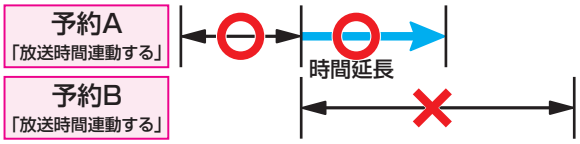
例 予約Aの変更後の開始時刻よりも、予約Bの開始時刻が早くなるので、予約Aは取り消されます。



❷ 放送時間が延長された場合

● 先に録画を開始した番組の時間延長が優先されます。

例 先に録画を開始し、放送時間延長に対応した予約Aが優先されます。開始時刻の遅い予約Bは取り消されます。



❸ 複数の予約番組の開始時刻が同じになった場合

● 最初に予約設定した番組が優先され、2番目以降に設定した番組の予約は取り消されます。

録画した番組を再生する

● USBハードディスクに録画した番組を見るには、以下の操作をします。

再生の基本操作とさまざまな再生のしかた

1 録画リストを押す

2 必要に応じて録画リストの表示を変える

● 分類タブとグループタブについては、下の図を参照してください。

❶「10秒戻し・30秒送り」で分類タブを切り換える

- **すべて**……すべての録画番組が表示されます。
- **未視聴**……未再生の録画番組が表示されます。
- **曜日別**……録画した曜日ごとに表示されます。
- **ジャンル別**……ドラマや映画などのジャンルごとに表示されます。番組情報がない場合は、「その他」に分類されます。
- **連ドラ別**……「連ドラ予約」の予約ごとに表示されます。
- **マイフォルダ別**…指定した「マイフォルダ」ごとに表示されます。

❷ ◀·▶でグループタブを切り換える

● 分類が「すべて」と「未視聴」の場合はグループタブはありません。

● 分類が「すべて」以外の場合は、分類タブとグループタブで選ばれた番組だけリストに表示されます。

● 分類が「未視聴」の状態で、録画リストを表示しなおした場合、分類は「すべて」の状態になります。

3 見たい番組を▲·▼で選び、決定を押す

● 選んだ番組の再生が始まります。

● 前回、再生を途中で停止した番組を選んだ場合は、続きから再生されます(レジューム再生)。

● 番組を最後まで再生し終わると、そのまま静止状態になり、しばらくするとテレビ放送になります。

● 再生中にできるリモコン操作については、次ページをご覧ください。

4 番組再生を終了するには、■または終了を押す

● 放送画面などに戻ります。

番組の冒頭から再生する―頭出し再生

❶ 再生する番組を選んでから、サブメニューを押し、▲·▼で「頭出し再生」を選んで決定を押す

録画中の番組を再生する―追っかけ再生

❶ 録画中の番組を▲·▼で選んで決定を押す

チャプターの一覧画面から再生する

● チャプターが分割されている録画番組でできます。

❶ 再生する番組を▲·▼で選んで緑を押す

● チャプター一覧画面が表示されます。

❷ 再生するチャプターを▲·▼·◀·▶で選んで決定を押す

● 選択したチャプターの先頭から再生が始まります。

再生中にタイムサーチで再生位置を指定する

❶ サブメニューを押し、▲·▼で「サーチ」を選んで決定を押す

● 画面右上に サーチ –:–:– が表示されます。

❷ 1～10(0)で時間を指定する

例 冒頭から1時間25分5秒後の位置を指定するとき
10(0) 1 2 5 10(0) 5 の順に押します。

録画リスト(例)



お知らせ

● 番組冒頭部分の約2秒間を飛ばして再生が始まります。(録画は番組開始時刻の約2秒前から開始されるようになっています)

■ **録画リストについて**

● 録画開始直後の番組は、録画リストに表示されるまでに少し時間がかかります。

● 録画リストに表示できる最大数は3000番組までです。これを超えた機器では正しく動作しないことがあります。

● 機器に記録されている情報によっては、選択中の録画番組の情報が正しく表示されないことがあります。

録画した番組を再生する つづき

録画番組の再生中にできるリモコン操作



ボタン	内　容
▶/視聴	一時停止、早送り/早戻し再生から通常の再生に戻します。 • 再生中に繰り返し押すと、1.5倍の速さの音声付早送り再生「早見早聞」と通常の再生が交互に切り換わります。 • 放送番組の視聴中に押すと、USBハードディスクで前回再生した番組の続きから再生されます。
静止 ⏸	再生中に押すと一時停止になり、もう一度押すと再生が再開されます。
■	再生を終了し、放送画面などに戻ります。
▶▶	早送り再生をします。(押すたびに速さが変わります) • 一時停止中に1秒ほど押し続けるとスロー再生になります。スロー再生中に押すと、押すたびにスロー再生の速さが変わります(3段階)。
◀◀	早戻し再生をします。(押すたびに速さが変わります) • 一時停止中に1秒ほど押し続けると連続コマ戻し再生になります。
30秒送り	再生中または早見早聞での再生中に押すと、30秒ほど先に進んで再生します。(ワンタッチスキップ)
10秒戻し	再生中または早見早聞での再生中に押すと、10秒ほど戻って再生します。(ワンタッチリプレイ)
▶▶|	次のチャプターの先頭にスキップして再生します。 • チャプターのない録画番組では録画日時が一つ次の番組を再生します。
|◀◀	現在のチャプターの先頭にスキップして再生します。再生してから4秒以内に押した場合は、一つ前のチャプターの先頭にスキップします。 • チャプターのない録画番組では再生中の番組の先頭に戻って再生します。再生してから4秒以内に押した場合は、録画日時が一つ前の番組の先頭にスキップします。
録画リスト	再生中に押すと、録画リストが表示されます。 • 放送番組視聴時などに押した場合も録画リストが表示されます。

※ 録画番組によっては、「早見早聞」が正しく動作しないことがあります。
※ 録画中の番組再生での早送り/早戻し再生などの特殊再生機能は、正しく動作しないことがあります。
※ 録画番組によっては、一時停止やワンタッチスキップなどの特殊再生操作をしたときに映像が表示されなくなることがあります。その場合は、▶/視聴で通常再生に戻してから再度特殊再生の操作をしてください。

ワンタッチスキップ／ワンタッチリプレイの時間を変更する

● ワンタッチスキップとワンタッチリプレイの時間を変更することができます。お買い上げ時の設定のように、飛ばす時間よりも戻す時間を短く設定しておくと、飛ばしすぎて戻すときに便利です。

❶ 設定を押し、▲·▼と決定で「外部機器設定」⇨「録画再生設定」の順に進む

❷ ▲·▼で「ワンタッチスキップ設定」または「ワンタッチリプレイ設定」を選び、決定を押す

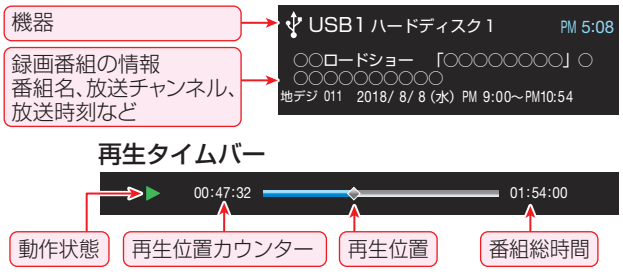
❸ ▲·▼で時間を選び、決定を押す

録画番組の情報や番組説明を見る

番組の情報を見る

❶再生中に[画面表示]を押す

- 再生中の番組の情報が表示されます。
- しばらくすると番組情報の表示は消えます。



❷表示を消すには、もう一度[画面表示]を押す

番組説明を見る

❶録画リスト表示中または番組の再生中に[番組説明]を押すか、あるいは[サブメニュー]を押し、▲·▼で「番組説明」を選び(決定)を押す

- 番組説明画面が表示されます。

❷番組説明画面を消すには、(終了)を押す

- しばらく放置した場合にも消えます。

録画番組を修復する

- 録画中に停電したり、電源プラグを抜いてしまったりすると録画番組が正しく保存されず、そのままでは再生できません。このような場合、「録画番組の修復」をすると、録画された内容を再生できるようになることがあります。

❶[設定]を押し、▲·▼と(決定)で「外部機器設定」⇨「USBハードディスク設定」の順に進む

❷▲·▼で「録画番組の修復」を選び、(決定)を押す

❸番組を修復する機器を▲·▼で選び、(決定)を押す

❹確認画面で、◀·▶で「はい」を選び、(決定)を押す

- 修復の処理が始まります。終わるまでそのままお待ちください。

❺「録画番組の修復を行いました。」が表示されたら、(決定)を押す

- この操作には、30分程度かかることがあります。
- 録画番組を修復できなかった場合は、「録画番組の修復ができませんでした。」が表示されます。

※ 録画番組が修復できた場合でも、通常再生以外の再生機能は正しく動作しないことがあります。

見たい録画番組を探して再生する

- USBハードディスクに録画した番組の中から、視聴したい番組を探すことができます。
- ジャンル、キーワードなどの検索条件を指定して録画番組を検索します。
- 録画番組のグループ(タブ)ごとに検索条件を設定できます。

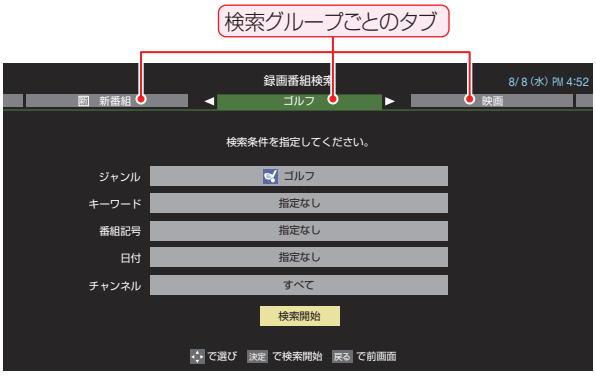
※ USBハードディスクへの録画中は検索できません。

1 録画リストの表示中にサブメニューを押す

2 ▲·▼で「番組検索」を選び、決定を押す

- 録画番組検索画面が表示されます。

3 検索するグループのタブを◀·▶で選ぶ



4 検索条件を指定する

- 「ジャンル」、「キーワード」、「番組記号」の指定方法は、「条件を絞りこんで番組を探す」37の手順4と同じです。ほかの項目は以下の手順で指定します。

「日付」を指定するとき

❶ ▲·▼で「日付」を選び、決定を押す



❷ ◀·▶で左端の欄に移動し、▲·▼で「指定する」を選ぶ

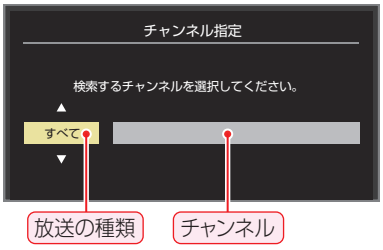
❸ ◀·▶で欄を移動し、検索範囲の開始～終了の年、月、日を▲·▼で選ぶ

❹ 指定が終わったら、決定を押す

「チャンネル」を指定するとき

❶ ▲·▼で「チャンネル」を選び、決定を押す

❷ 指定する項目を◀·▶で選び、▲·▼で内容を選ぶ



- **放送の種類…** すべて／BS／CS／地デジ
- **チャンネル…** 指定した放送の種類に該当するチャンネル／すべて

❸ 指定が終わったら、決定を押す

5 ▲·▼·◀·▶で「検索開始」を選び、決定を押す

- 検索にはしばらく時間がかかることがあります。
- 検索が終わると、検索結果画面が表示されます。

6 見たい録画番組を▲·▼で選び、決定を押す



- 選んだ番組の再生が始まります。

録画リストのさまざまな機能を使う

● 録画リストの表示中に以下のさまざまな機能を使うことができます。

繰り返し再生の設定を変える

● 録画番組の繰り返し再生(リピート再生)を設定することができます。
● 設定した状態は本機に記憶されます。

1 サブメニューを押し、▲·▼で「再生設定」を選んで決定を押す

2 ▲·▼で以下から選び、決定を押す

- 1コンテンツリピート…選択した一つの番組の再生を繰り返します。
- リピート……すべての番組の連続再生を繰り返します。
- オフ……繰り返し再生をしません。

● リピート再生をしているときは、画面左上にリピート再生アイコンが表示されます。(1コンテンツリピート:↻1、リピート:↻)
● 録画中の番組はリピート再生ができません。

番組を並べ替える

● 録画リストに表示される番組の並び順を変えることができます。
● 設定は機器ごとに記憶されます。

1 サブメニューを押し、▲·▼で「並べ替え」を選んで決定を押す

2 ▲·▼で以下から選び、決定を押す

- 新しい順……日付の新しい順に表示されます。
- 古い順……日付の古い順に表示されます。

ほかの機器を選択する

● 再生する機器を変更するには以下の操作をします。

1 青を押す
● 機器選択画面が表示されます。
※ 機器が1台しか接続されていない場合は、メッセージが表示されます。

2 使用する機器を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

連ドラ予約をする

● 録画リストに表示されている番組を選んで、「連ドラ予約」をすることができます。

1 連ドラ予約にする番組を▲·▼で選び、サブメニューを押す

2 ▲·▼で「連ドラ予約」を選び、決定を押す

3 「連ドラ予約」画面で内容を確認し、◀·▶で「はい」を選んで決定を押す
● 番組名や追跡基準の曜日などが正しく表示されているか確認します。
● 設定を変更する場合は、「録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき」54ページの操作をします。

機器の情報を確認する

● 使用中の機器の情報を確認できます。

1 サブメニューを押し、▲·▼で「機器の情報」を選んで決定を押す
● 機器情報画面が表示されます。

2 情報画面を消すには、決定を押す

ハードディスクの残量を確認する

● USBハードディスクの残量を画面で確認できます。
※ 残量表示や録画可能時間表示は、あくまでも目安であり、保証するものではありません。
※ USBハードディスクの残量は、BS·110度CSデジタルハイビジョン放送(24Mbps)の録画が可能な時間を基準に算出しています。地上デジタルハイビジョン放送(約17Mbps)の録画番組などを削除した場合、残量の増加分は削除した番組の時間よりも少なくなります。

1 サブメニューを押し、▲·▼で「ハードディスク残量表示」を選んで決定を押す
● 残量表示画面が表示されます。

2 残量表示画面を消すには、決定を押す

不要な録画番組を消す／誤って消さないように保護する

● 見終わった録画番組などを消したり、消さないように保護したりする場合は、録画リストの表示中に以下の操作をします。

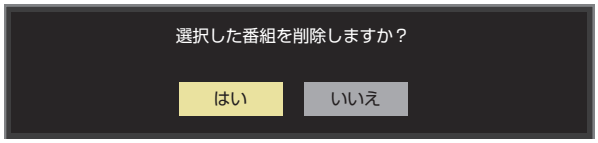
一つの録画番組を消す

1 消す番組を▲·▼で選び、赤(削除)を押す

● 保護されている録画番組を消す場合は、保護を解除(右下参照)してから赤を押してください。

2 ▲·▼で「1件削除」を選び、決定を押す

3 確認画面で、◀·▶で「はい」を選んで決定を押す



4 削除が終了したら、決定を押す

複数の録画番組を消す

1 消す番組のどれかを▲·▼で選び、赤(削除)を押す

2 ▲·▼で「複数削除」を選び、決定を押す

3 消す番組を▲·▼で選び、決定を押す

● 決定を押すたびに、☑と☐が交互に切り換わります。削除する番組に✓をつけます。

● 保護された番組を消す場合は、その番組を選び、青を押して保護を解除してから決定を押します。



4 選択が終わったら赤(削除実行)を押す

5 確認画面で、◀·▶で「はい」を選んで決定を押す

6 削除が終了したら、決定を押す

グループ内の録画番組をすべて消す

1 まとめて消すグループの録画リストを表示させる

● 「録画した番組を再生する」57 の手順2 をご覧ください。

2 赤(削除)を押し、▲·▼で「グループ内全削除」を選び、決定を押す

3 確認画面で、◀·▶で「はい」を選んで決定を押す

4 削除が終了したら、決定を押す

自動的に消す(自動削除設定)

● お買い上げ時は、USBハードディスクの容量が足りなくなったときに、保護されていない古い録画番組が自動的に削除されないように設定されています。削除されるようにする場合は「削除する」に設定してください。

1 サブメニューを押し、▲·▼で「自動削除設定」を選んで決定を押す

2 ▲·▼で「削除する」または「削除しない」を選び、決定を押す

誤って消さないように保護する

● 自動削除機能で削除されたり、誤って消してしまったりしないように、録画番組を保護することができます。

※ 録画中にこの操作はできません。

1 保護する番組を▲·▼で選び、サブメニューを押す

2 ▲·▼で「保護」を選び、決定を押す

● 選択した番組が保護されます。(🔒がつきます)

● 保護されている番組を選択してサブメニューを表示させると、「保護解除」ができます。

チャプター編集をする

録画済番組の再生中に編集する

● 録画済番組の再生中にチャプターの分割と結合ができます。

1 録画リストを表示させる（57ページ *1*～*2*）

2 チャプター編集をする録画済番組を▲·▼で選び、決定を押す

3 各種の再生操作をして、チャプター分割をしたい場面で静止を押す

● 画面右下に操作ガイドと再生タイムバーが表示されます。



● ◀◀·▶▶を長押しすると、連続コマ戻しやスロー再生ができます。連続コマ戻しやスロー再生中に静止を押すと、簡単に分割したい場面を選ぶことができます。

4 青または赤でチャプター編集をする

● 青を押すと、一時停止した場面でチャプターが分割されます。
● 赤を押すと、一時停止したチャプターとその前のチャプターが結合されます。
● 必要に応じて、手順*3*と*4*を繰り返します。

グループ名を変更する

● 「マイフォルダ別」の録画リストで表示されるグループのタブ名を変更することができます。
● 「連ドラ別」の場合にも同様の操作ができます。その場合は、グループ名を変更すると予約リストの予約番組名も同じ名前に変更されます。
● ハードディスクが複数接続されている場合、機器ごとにグループ名を変更することはできません。
● 番組の録画中にこの操作をすることはできません。

1 「マイフォルダ別」の録画リストを表示させる（57ページ *1*～*2*）

● 連ドラグループ名を変更する場合は、「連ドラ別」の録画リストを表示させます。

2 名前を変更するグループのタブを◀·▶で選ぶ

例「わたし」のグループを選択



3 サブメニューを押し、▲·▼と決定で「編集・管理」⇨「マイフォルダ管理」⇨「マイフォルダ名の変更」の順に進む

● 「連ドラ別」のグループ名を変更する場合は、「編集・管理」⇨「連ドラグループ名の変更」の順に進みます。

4 文字入力画面でグループ名を入力する

● お好みの分類名にすることができます。
● 文字入力のしかたは、95ページをご覧ください。
● 全角文字で10文字まで入力できます。
● 文字入力の操作が終わると、録画リストのグループタブ名が変更されます。

例「わたし」⇨「まさみのお気に入り」に変更



ほかのグループに移動する

● 録画番組をほかのグループに移動することができます。
たとえば、録画時の設定で「わたし」に分類した番組を、録画後に「お気に入り2」に移すことができます。
※ USBハードディスクでの録画中は、この操作はできません。

1 「マイフォルダ別」の録画リストを表示させる（57ページ 1～2）

2 移動する番組が保存されているグループのタブを◀·▶で選ぶ

3 移動する番組を▲·▼で選ぶ

4 サブメニューを押し、▲·▼と決定で「編集・管理」⇨「マイフォルダ管理」⇨「マイフォルダの変更」の順に進む

5 ▲·▼で以下から選び、決定を押す

- **1件変更**……選択中の番組を別のグループに移動します。
- **複数変更**……複数の番組を選択して、まとめて別のグループに移動します。
- **グループ内全変更**……選択中のグループの全番組を別のグループに移動します。

6 移動先のグループを▲·▼で選び、決定を押す

● グループアイコンとグループ一覧（お買い上げ時の設定）

	みんな	1	お気に入り1
	おとうさん	2	お気に入り2
	おかあさん	3	お気に入り3
	ぼく	4	お気に入り4
	わたし	5	お気に入り5
	おじいちゃん	6	お気に入り6
	おばあちゃん		指定しない

7 「複数変更」の場合は以下の操作をする

❶ 移動する番組を▲·▼で選び、決定を押す

● 決定を押すたびに、☑と☐が交互に切り換わります。移動する番組に✓をつけます。
● 保護されている番組も移動できます。



❷ 移動する番組をすべて選んだら黄を押す

8 確認画面で、◀·▶で「はい」を選んで決定を押す

録画番組をムーブ(移動)する

● 本機でUSBハードディスクに録画した番組を他のUSBハードディスクにムーブ(移動)することができます。
※ USBハードディスクへの録画中はムーブできません。
※ ムーブ中に機器の接続を変更したり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。
※ ムーブ中は再生できません。

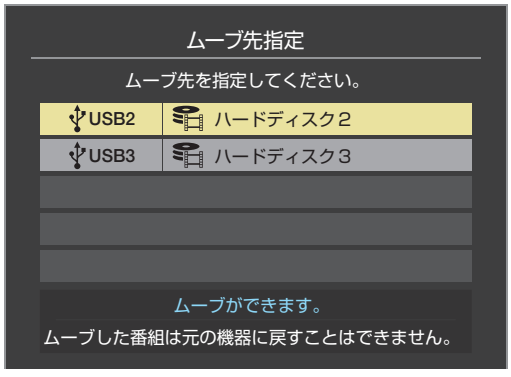
1 録画リストを表示させる(57ページ 1～2)

2 ムーブする番組を▲·▼で選び、黄を押す

3 ▲·▼で「1件ムーブ」または「複数ムーブ」を選び、決定を押す

4 ムーブ先を▲·▼で選び、決定を押す

● ムーブ先に指定できる機器が1台の場合、この手順はありません。



5 「複数ムーブ」の場合は以下の操作をする

❶ ムーブする番組を▲·▼で選び、決定を押す

● 決定を押すたびに、☑と☐が交互に切り換わり、✓をつけた番組がムーブされます。
● 保護された番組をムーブする場合は、その番組を選び、青を押して保護を解除してから決定を押します。



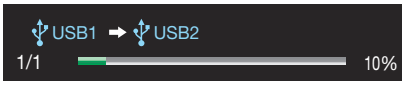
❷ ムーブする番組をすべて選んだら黄を押す

● 一度にムーブできるのは16番組までです。

6 「ムーブ」画面で、◀·▶で「はい」を選んで決定を押す



● ムーブが始まってしばらくすると、画面の右下に進行状況が表示されます。



ムーブを中止するとき

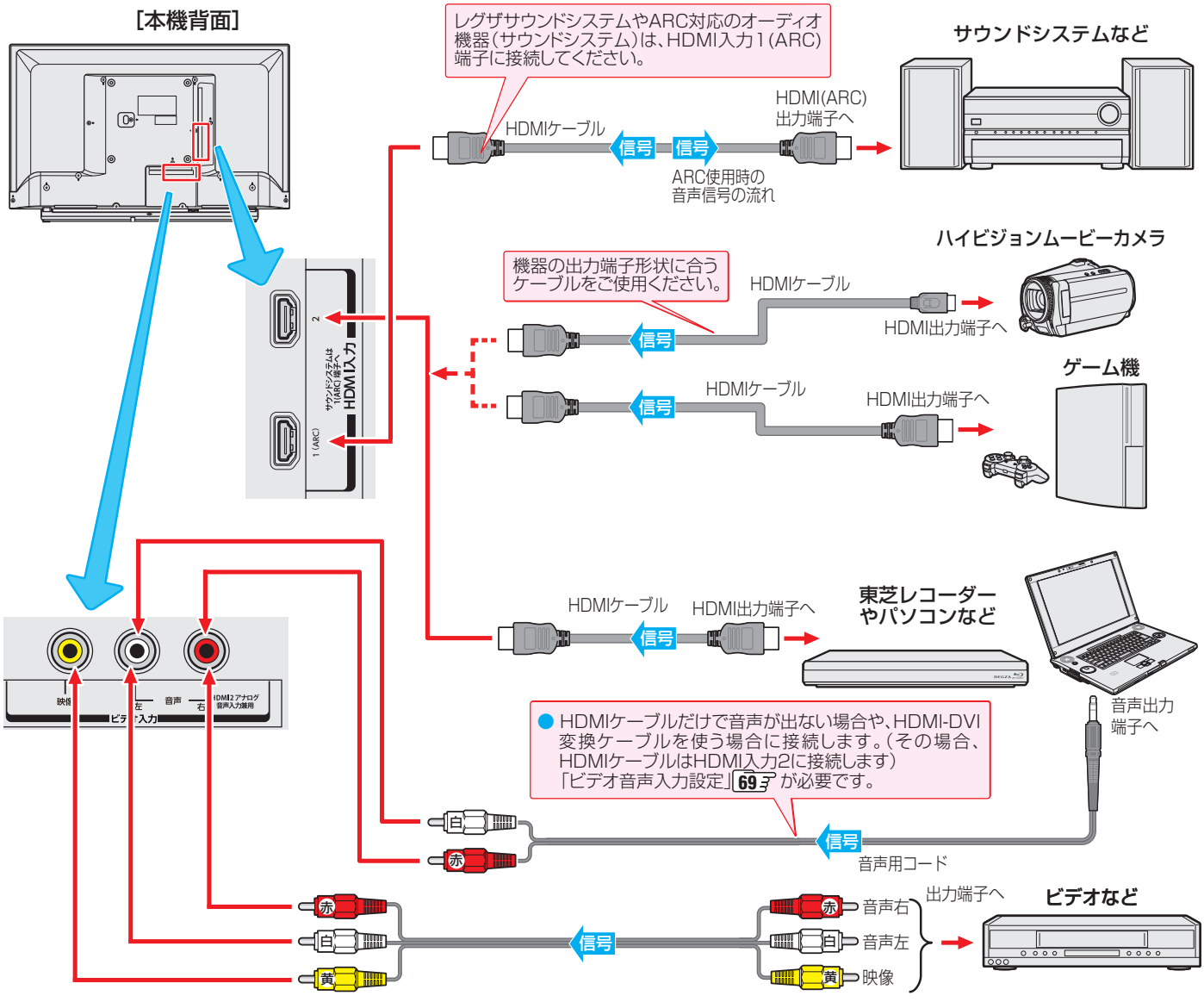
● ムーブを途中でやめるときは、以下の操作をします。

❶ ムーブ中に終了または■を押す
❷ 「ムーブ中止」の画面で◀·▶で「はい」を選んで決定を押す

外部機器を接続する

外部機器接続例

- レコーダーなどの録画機器の場合、アンテナの接続については、24 をご覧ください。
- 接続が終わったら、「外部入力の機能を設定する」69 を参照して必要な設定をしてください。
- HDMI連動機器では、本機との連動機能によって、システムスタンバイの機能を使ったり、本機のリモコンで機器の基本操作をしたりすることができます。詳しくは、「HDMI連動について」70 をご覧ください。
  必要に応じて「HDMI連動機能」71 の設定をしてください。
- AVアンプなどのオーディオ機器がARC(オーディオリターンチャンネル)に対応している場合、従来必要だった光デジタルケーブルを無くし、ARC対応のHDMIケーブル1本で接続できます。ARC対応していないオーディオ機器とHDMIケーブルで接続する場合は、「HDMI連動対応のオーディオ機器で聴くとき」68 をご覧ください。



お知らせ

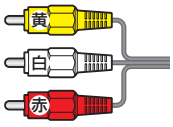
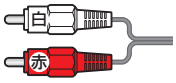
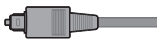
※ 本機の「ピクチャーエンハンサー設定」79 と同様の高画質機能を備えた機器を接続した場合、本機の機能との相互作用で画面のノイズが目立つことがあります。その場合には、接続機器の高画質機能または本機の「ピクチャーエンハンサー設定」をオフにしてください。

- 本機のHDMI入力端子が対応している入力信号およびHDMIケーブルについては次ページをご覧ください。

■ **パソコンについて**

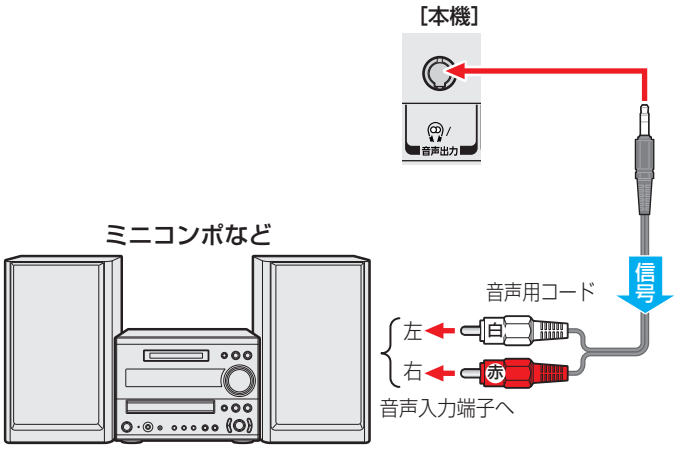
- 外部モニターで表示できるように設定し、本機が対応しているHDMI入力信号フォーマットの信号101 を入力してください。(本機が対応している信号を入力しても、パソコンによっては本機が認識できないことがあります)
- パソコンのDVD再生ソフトなどで再生した映像は、本機の画面で正しく表示されなかったり、映像の動きが不自然になったりすることがあります。

- 本機に接続できる接続ケーブル(接続コード)の種類と本機で対応している信号の種類および、これらの中で比較した画質・音質の関係を下表に示します。
- 接続ケーブルの端子形状などは一例です。設置場所や機器の仕様などに合わせて、適切な市販品をご使用ください。
- HDMIケーブルは、HDMIロゴ(HDMI)の表示があるケーブルをご使用ください。また、外部機器から1080pの映像信号を入力する場合は、ハイスピードHDMI®ケーブルをご使用ください。(標準HDMI®ケーブルでは、正常に動作しないことがあります)

接続ケーブル(接続コード)	画質・音質	本機の入出力対応信号
HDMIケーブル(入力用) 	画質・音質ともに最高	**デジタル映像信号** 480i、480p、720p、1080i、1080p **デジタル音声信号** リニアPCM、MPEG-2 AAC サンプリング周波数:48kHz、44.1kHz、32kHz
映像・音声用コード(入力用) 	画質・音質ともに標準	**アナログ映像信号** 480i **アナログ音声信号**
音声用コード(入力用) 	標準の音質	**アナログ音声信号**
オーディオ用光デジタルケーブル(出力用) 	最高の音質	**デジタル音声信号(光)** リニアPCM サンプリング周波数:48kHz MPEG-2 AAC サンプリング周波数:48kHz、44.1kHz、32kHz
音声用コード(出力用) 	標準の音質	**アナログ音声信号**

アナログ音声入力端子付のオーディオ機器で聴くとき

- ヘッドホン/音声出力端子を使って、アナログ音声入力端子付のオーディオ機器に接続することができます。
- 「ヘッドホン/音声出力設定」の「出力設定」82を「外部スピーカー」に設定してください。
- 「外部スピーカー出力設定」82で音量を「固定」または「可変」に設定することができます。



ご注意

- 接続する機器の取扱説明書もよくお読みください。
- 他の機器を接続するときは、必ず本機および接続する機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

お知らせ

■ **ヘッドホン/音声出力端子について**

- ヘッドホン/音声出力端子からは、テレビのスピーカー音声と同じ音声のアナログ信号が出力されます。ただし、音声調整の「低音」、「高音」は使用できません。

外部機器を接続する つづき

デジタル音声(光)端子付のオーディオ機器で聴くとき

● ミニコンポなどのオーディオ機器に接続するとき

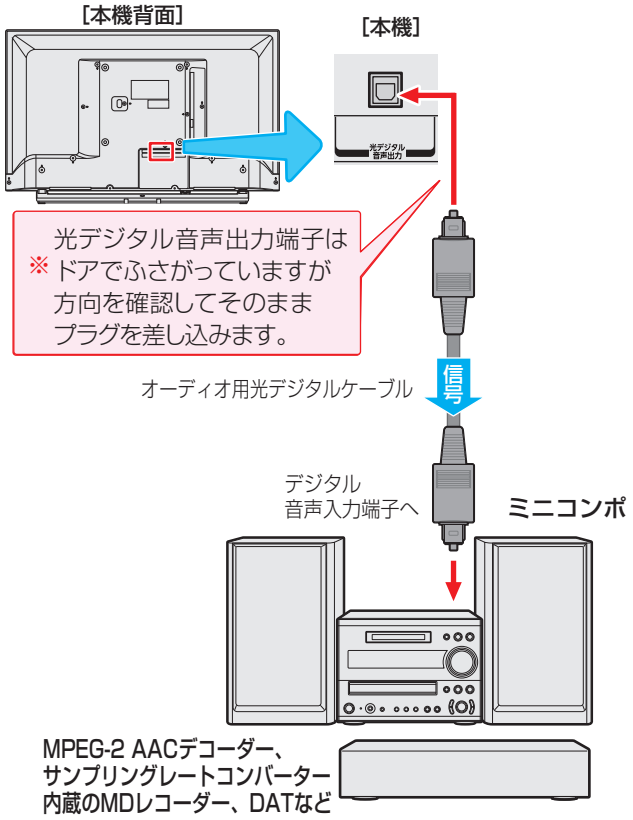
- 本機の音量を最小に調節し、ミニコンポなどのオーディオ機器側で音量を調節してご使用ください。
- オーディオ機器が対応しているデジタル音声入力に従って、「デジタル音声出力」81の設定をします。

● サンプリングレートコンバーター内蔵のMDレコーダーやDATに接続するとき

- MDレコーダーやDATの光デジタル音声入力端子に接続すれば、高音質で録音して楽しむことができます。
- 「デジタル音声出力」81を「PCM」に設定します。

● MPEG-2 AACデコーダーに接続するとき

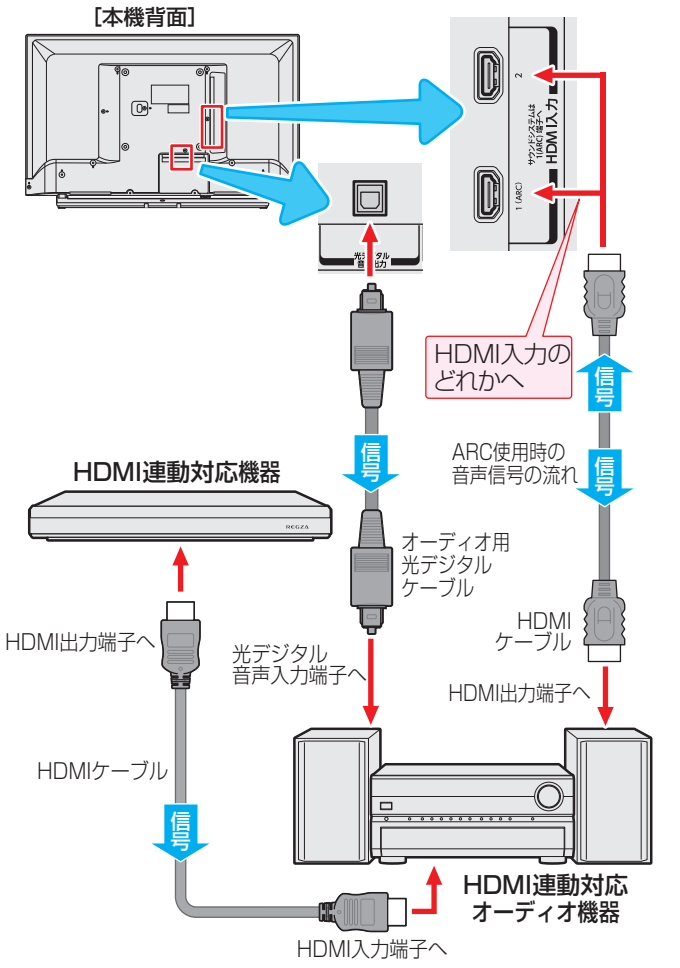
- デジタル放送のMPEG-2 AAC方式の信号を、MPEG-2 AACデコーダーで楽しむことができます。
- 「デジタル音声出力」81を「デジタルスルー」または「サラウンド優先」に設定します。



※ デジタル音声ケーブルのプラグには2種類の形状があります。接続する機器の端子形状に合ったケーブルをお買い求めください。
本機側に差し込むプラグの形状は、です。

HDMI連動対応のオーディオ機器で聴くとき

- HDMI連動対応のオーディオ機器を本機にHDMIケーブルで接続すれば、本機のリモコンでオーディオ機器の音量を調節するなどの操作ができます。66
- オーディオ機器のHDMI入力端子にHDMI連動機器を接続することができます。
- オーディオ機器が対応しているデジタル音声入力に従って、「デジタル音声出力」81の設定をします。また、必要に応じて「HDMI連動設定」71をしてください。
- ARC対応のオーディオ機器はHDMI入力1(ARC)端子に接続してください。



※ ARC対応のオーディオ機器を、ARC対応のHDMIケーブルでHDMI入力1(ARC)端子に接続する場合は、デジタル音声ケーブルの接続は不要です。

お知らせ

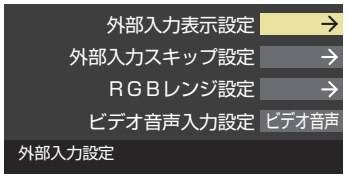
- 光デジタル音声出力端子またはHDMI入力1(ARC)端子からは、テレビのスピーカー音声と同じ音声のデジタル信号が出力されます。ただし、音声調整の効果は得られません。
- サンプリングレートコンバーターを内蔵していないMDレコーダーには、デジタル信号での録音はできません。
- MPEG-2 AAC音声の場合には、主音声・副音声の切換は本機では行われません。MPEG-2 AACデコーダー側で切り換えてください。
- HDMI入力の選択時に、入力信号が著作権保護されている場合は、光デジタル音声出力端子またはHDMI入力1(ARC)端子から出力される信号を他の機器に録音することはできません。
- 本機のHDMI入力端子が対応している入力信号およびHDMIケーブルについては67をご覧ください。

外部入力の機能を設定する

● 外部入力のさまざまな機能を設定することができます。必要に応じて設定してください。

1 設定を押し、▲·▼と決定で「機能設定」⇨「外部入力設定」の順に進む

2 以降の手順で設定する



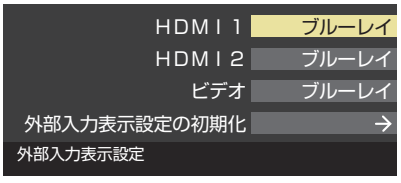
入力切換時に画面に表示される機器名を設定する

● 入力切換をしたときに表示される機器の名称(ブルーレイ、DVDなど)を変更することができます。

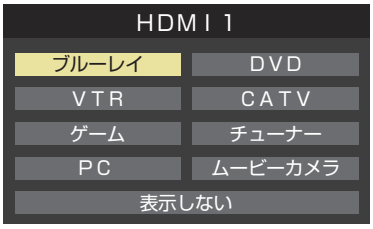
❶ ▲·▼で「外部入力表示設定」を選び、決定を押す

❷ 設定する外部入力を▲·▼で選び、決定を押す

● 「外部入力表示設定の初期化」を選択すると、お買い上げ時の設定に戻すことができます。



❸ 表示させる機器名を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す



使用しない外部入力をスキップする

● 入力切換をするときに、使っていない入力を自動でスキップする(飛び越す)ことができます。

❶ ▲·▼で「外部入力スキップ設定」を選び、決定を押す

❷ 設定する外部入力を▲·▼で選び、決定を押す

● 決定を押すたびに「スキップ」が「する」、「しない」に交互に切り換わります。



- **する**……入力切換時に入力をスキップします。
- **しない**……入力切換時にスキップしません。

HDMI入力のRGBレンジを設定する

● 本機がRGBレンジを自動識別できない機器を接続している場合は、機器の仕様に合わせて設定します。

❶ ▲·▼で「RGBレンジ設定」を選び、決定を押す

❷ 設定するHDMI入力を▲·▼で選び、決定を押す



❸ ▲·▼で以下の設定から選び、決定を押す

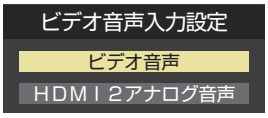
- **オート**……自動切換になります。
- **フルレンジ**……RGBレンジが0～255の機器の場合に選びます。
- **リミテッドレンジ**…RGBレンジが16～235の機器の場合に選びます。

ビデオ入力の音声入力を設定する

● HDMI入力2に接続した機器からの音声を本機から出したいときに、ビデオ入力の音声入力端子をHDMI入力2のアナログ音声入力端子として使用するように設定できます。

❶ ▲·▼で「ビデオ音声入力設定」を選び、決定を押す

❷ ▲·▼で以下の設定から選び、決定を押す



❸ ▲·▼で以下の設定から選び、決定を押す

- **ビデオ音声**……ビデオ入力の音声入力端子として使用します。(お買い上げ時の設定)
- **HDMI2アナログ音声**…HDMI入力2のアナログ音声入力端子として使用します。

HDMI連動について

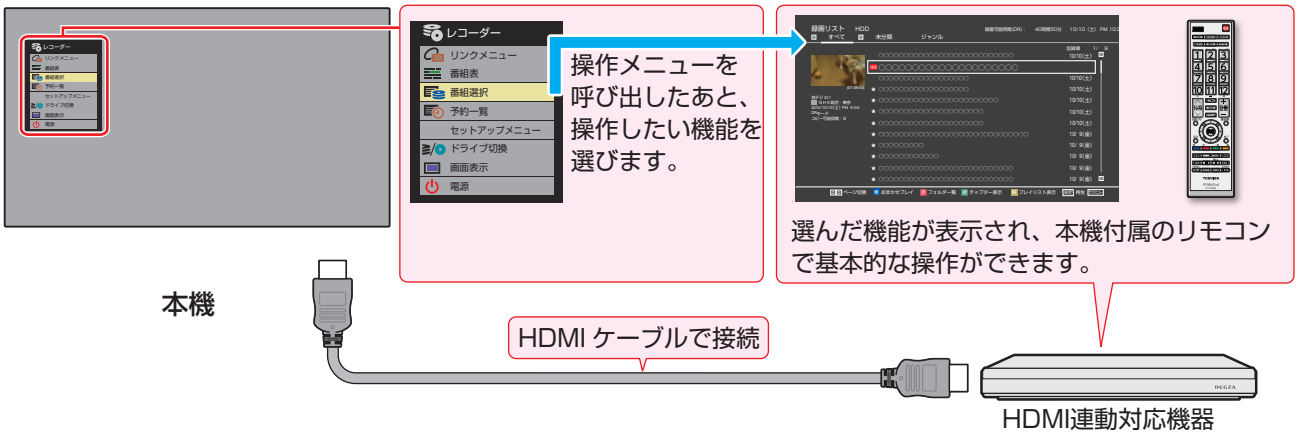
HDMI連動機能でできること

● 本機は以下のHDMI連動に対応しています。

本機のリモコンで対応機器の操作をする

● 本機に接続したHDMI連動対応の録画機器や再生機器などの操作が本機のリモコンでできます。73

例



電源の入／切や入力切り換えの動作を連動させる

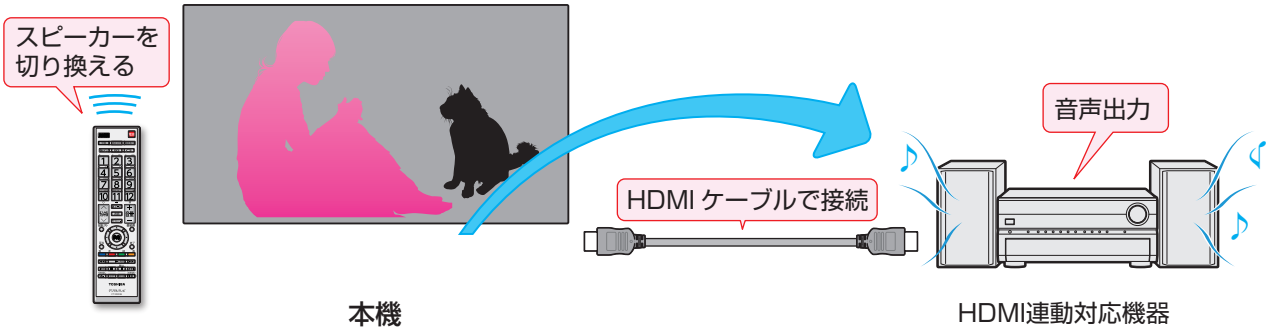
● **ワンタッチプレイ** …… HDMI連動対応機器を操作すると、機器に連動して本機の電源がはいり、操作した機器に合わせて入力が切り換わります。

● **システムスタンバイ** …… 本機の電源を「切」にすると、機器も連動して電源が「切」(待機)になります。

オーディオ機器と連携させる

● オーディオ機器に接続されているスピーカーで聴いたり、本機のリモコンでオーディオ機器の音量を調節したりすることができます。74

例 音声を対応機器のスピーカーで聴く



準備をする

機器	接続・設定	機器についてのお知らせ
HDMI連動対応の映像機器やオーディオ機器	映像機器の接続：66 オーディオの接続：68 本機の設定：71	● HDMI連動機能を使うには、接続機器それぞれの設定が必要です。詳しくは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

オーディオ機器について

● オーディオ機器の入力状態によっては、本機から音声が出ないことがあります。

● オーディオ機器の連動操作中にオーディオ機器側の入力を切り換えると、実際の映像と画面右上の接続機器表示が一致しないことがあります。

HDMI連動機能について

- 本機のHDMI連動機能では、HDMIで規格化されているHDMI CEC（Consumer Electronics Control）を利用し、機器間で連動した操作をすることができます。
- 接続したHDMI連動機器によっては、一部またはすべての連動操作ができないことがあります。
- HDMI連動機器の接続、設定を変更した場合は以下の操作をしてください。
  - 接続機器の電源をすべて「入」の状態にして、本機の電源を入れ直してください。
  - すべての接続機器の動作を確認してください。

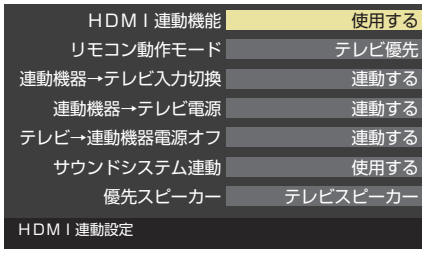
※ 機器に割り振られる番号は接続形態によって変化することがあります。

本機のリモコンでHDMI連動機器を操作するための設定をする

- 本機のリモコンでHDMI連動機器の基本操作をしたり、各種の連動動作をさせたりするための設定をします。
- お買い上げ時、本機はHDMI連動機能を使用するように設定されています。接続機器側の設定も必要です。ご確認ください。

1 設定を押し、▲·▼と決定で「外部機器設定」⇨「HDMI連動設定」の順に進む

2 設定する項目を▲·▼で選び、決定を押す



3 設定したい項目を▲·▼で選び、決定を押す

HDMI連動機能

- 本機のリモコンでのHDMI連動機器操作、および以下の各種連動機能を使用するかどうかを設定します。

リモコン動作モード

- 本機からの操作に対応したHDMI連動対応機器を接続している場合、「連動機器優先」に設定すると、本機のリモコンで操作できる機能が増えます。

連動機器→テレビ入力切換

- 連動機器の再生操作をしたときに、本機が自動的に入力切換をして、その機器を選択する機能です。本機の電源が「入」の場合に動作します。

連動機器→テレビ電源

- 連動機器の再生操作をしたときに本機の電源が「入」になり、連動機器の電源を「待機」にしたときに本機の電源も「待機」になる機能です。

※ この機能と、「連動機器→テレビ入力切換」を「連動する」に設定しておくと、本機の電源が「入」になったあとに自動的に入力が切り換わります。

※ 本体ボタンで電源を切った場合、この機能は働きません。リモコンの電源ボタンで電源を「待機」にしてください。

テレビ→連動機器電源オフ

- 本機の電源を「待機」にしたときに、連動機器の電源も「待機」になる機能です。（録画中の機器など、動作状態によっては「待機」にならないことがあります）

※ 本機の「省エネ設定」42 や「アラーム」43 とも連動します。

サウンドシステム連動

- 「使用する」に設定すると、HDMI連動対応のオーディオ機器とそのスピーカーを接続している場合、本機のリモコンで以下のことができます。
  - 音声をテレビから出すか、オーディオ機器のスピーカーから出すかの切換
  - オーディオ機器の音量調節や消音

優先スピーカー

- 「サウンドシステム連動」を「使用する」に設定した場合に、優先するスピーカーを選択します。
  - **テレビスピーカー**
    本機のスピーカーから音声が出ます。
  - **サウンドシステムスピーカー**
    オーディオ機器の電源が「入」のときは、オーディオ機器のスピーカーから音声が出ます。
- サブメニューでスピーカーを一時的に切り換えることもできます。74

※ 本機のヘッドホン端子は、本機のスピーカーから音声が出る条件のときに使用できます。

お知らせ

- 連動機器の機能、設定によっては、HDMI連動設定をしても、一部もしくはすべての機能が働かない場合があります。
- 本機が認識できるHDMI連動対応機器の台数は、HDMI CEC規格に従って、オーディオ機器：1台、録画機器（レグザリンク対応レコーダーなど）：3台、再生機器（東芝のプレーヤー／PCなど）：3台、チューナー：4台までに制限されます。
- 「連動機器→テレビ入力切換」を「連動する」に設定しても、本機の状態によっては自動的に入力が切り換わらないことがあります。
- HDMI連動対応機器については、メーカーのホームページをご覧ください。

※ 本機のリモコンで操作できないときは、機器のリモコンで操作してください。

■ システムスタンバイについて

- 省エネ設定の機能などで本機が待機状態になったときも同時に機器側の電源が「待機」になります。
- 接続機器側がシステムスタンバイに対応している場合、接続機器の電源を「待機」にしたときに本機の電源も「待機」にすることができます。

外部入力の画面に切り換える

- 本機の外部入力端子(HDMI入力1～2、ビデオ入力)に接続したビデオやDVD・ブルーレイディスクプレーヤー/レコーダーなどの再生番組を見たり、ゲーム機を接続して楽しんだりする場合は、以下の操作をします。
- 機器の接続や設定については、「外部機器を接続する」66 ～ 68 をご覧ください。



1 使用する機器の電源を入れる

2 入力切換を押す

- 入力切換を押すと次の入力が選択された状態で画面左上に入力一覧画面が表示され、少し待つとその入力に切り換わります。希望の入力を選ぶには、入力が切り換わる前に次の手順3の操作をします。
  - 「外部入力スキップ設定」69 が「する」になっているときは、機器が接続されていない入力は薄くなって表示され、入力切換時にスキップされるようになっています。

3 入力切換を繰り返し押すか、または▲・▼を押して入力を選ぶ

- 入力切換を押すたびに以下のように切り換わります。

→ 放送 → HDMI1 → HDMI2 → ビデオ →

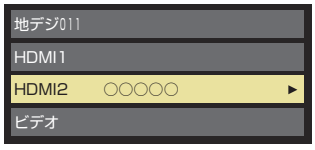
  - ▲・▼では順方向・逆方向の選択ができます。
- 少し待つと選択した入力に切り換わります。

HDMI連動機器を選ぶとき

- HDMI連動対応のオーディオ機器などにHDMI連動機器が接続されている場合は、機器の一覧が表示されます。使用する機器を以下の手順で選択できます。

入力切換または▲・▼で選ぶ

例



▶を押す

▲・▼で選んで 決定 を押す

例



4 選択した機器を操作する

- 機器のリモコンで再生などの操作をしてください。

HDMI連動機器を選んだとき

- サブメニューの「機器操作」を選んで、機器操作メニューを表示させます。

❶ サブメニューを押す

❷ ▲・▼で「機器操作」を選び、決定を押す

  - 機器操作メニューが表示されます。機器操作メニューについては、「本機のリモコンで対応機器を操作する」73 をご覧ください。
- ゲーム機を接続した入力では、「映像モード」78 を「ゲーム」にしてください。ゲームのレスポンスを重視した、ゲームに適した画質設定になります。

お知らせ

- 入力切換時に画面に表示される「ブルーレイ」などの機器名を変えることができます。「外部入力表示設定」69 をご覧ください。

本機のリモコンで対応機器を操作する

機器を操作する

- 入力切換 の操作でHDMI連動対応機器が接続された入力（HDMI1 ～ 2）を選んだあと、「サブメニュー」の「機器操作」を選ぶと、操作メニューが表示されます。

❶ サブメニュー を押し、▲·▼で「機器操作」を選んで 決定 を押す

- 本機のリモコンで、HDMI連動対応の録画機器や再生機器などの基本操作をすることができます。
- 機器操作メニューにある機能を本機のリモコンで直接操作できる場合があります。操作については下の「本機のリモコンでできるおもな操作」をご覧ください。
- 機器を操作すると機器操作メニューが消えます。（機器操作メニューを再表示させるには、手順❶の操作をします）
- すべての製品でメニューに表示されたすべての機能の操作ができることを保証するものではありません。

例



本機のリモコンでできるおもな操作

- HDMI連動機器を接続した場合、本機のリモコンで以下の操作をすることができます。

※ 以下は代表的な動作です。操作する機器によっては、動作が異なる場合があります。



本機のリモコンボタン	動作の内容
▶/視聴	番組を再生します。
静止 ⏸	再生中に押すと一時停止になります。もう一度押すと、再生が再開されます。
■	録画や再生を停止します。
▶▶|	一つ先に進んで頭出し再生をします。
|◀◀	前に戻って頭出し再生をします。
▶▶	再生中に押すと早送り再生になります。
◀◀	再生中に押すと早戻し再生になります。
▲·▼·◀·▶	メニューなどで項目を選択します。
決定	選択した内容を決定したり、選択した操作を実行したりします。
戻る	一つ前の操作に戻ります。
終了	操作を終了します。
青	各機器でカラーボタンに割り当てられた機能を操作します。
赤	
緑	
黄	
＋ 音量 －	オーディオ機器の音量を調節します。
消音	オーディオ機器の音を消します。

オーディオ機器(サウンドシステム)で聴く

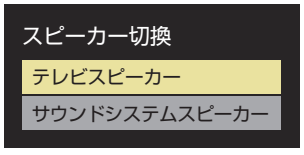
オーディオ機器のスピーカーで聴く

- オーディオ機器に接続されているスピーカーで聴いたり、本機のリモコンでオーディオ機器の音量を調節したりすることができます。
- 本機とオーディオ機器をHDMI ケーブルおよび光デジタルケーブルで接続します。ARC対応のオーディオ機器はARC対応のHDMIケーブルでHDMI入力1(ARC)端子に接続してください。66
- 光デジタルケーブルの代わりに音声用コードで接続することもできます。その場合は、「ヘッドホン／音声出力設定」の「外部スピーカー出力設定」82を「固定」に設定します。
- HDMI連動に非対応のオーディオ機器の場合、本機のスピーカーから音声を出さないときは、以下の操作をするか、または本機の音量を最小に調節してください。

1 サブメニューを押し、▲·▼で「スピーカー切換」を選んで決定を押す

2 ▲·▼で「サウンドシステムスピーカー」を選び、決定を押す

- 以下の場合に「サウンドシステムスピーカー」が表示されます。
  - 本機と音声連携が可能なオーディオ機器がHDMIケーブルで接続されていて、動作状態になっている。(オーディオ機器のスピーカーから音声が出るようになっている)
  - 「HDMI連動設定」71が以下のように設定されている。
    - HDMI連動機能……使用する
    - サウンドシステム連動……使用する
- 本機のスピーカーで聴くときは、「テレビスピーカー」を選びます。



3 音量を調節する

- HDMI連動対応のオーディオ機器では、本機のリモコンで音量調節と消音の操作ができます。

※ HDMI連動非対応のオーディオ機器を音声用コードで接続している場合は、「ヘッドホン／音声出力設定」の「外部スピーカー出力設定」82に従った方法で音量を調節してください。

- **固定**……オーディオ機器で音量を調節します。
- **可変**……本機のリモコンで音量を調節します。

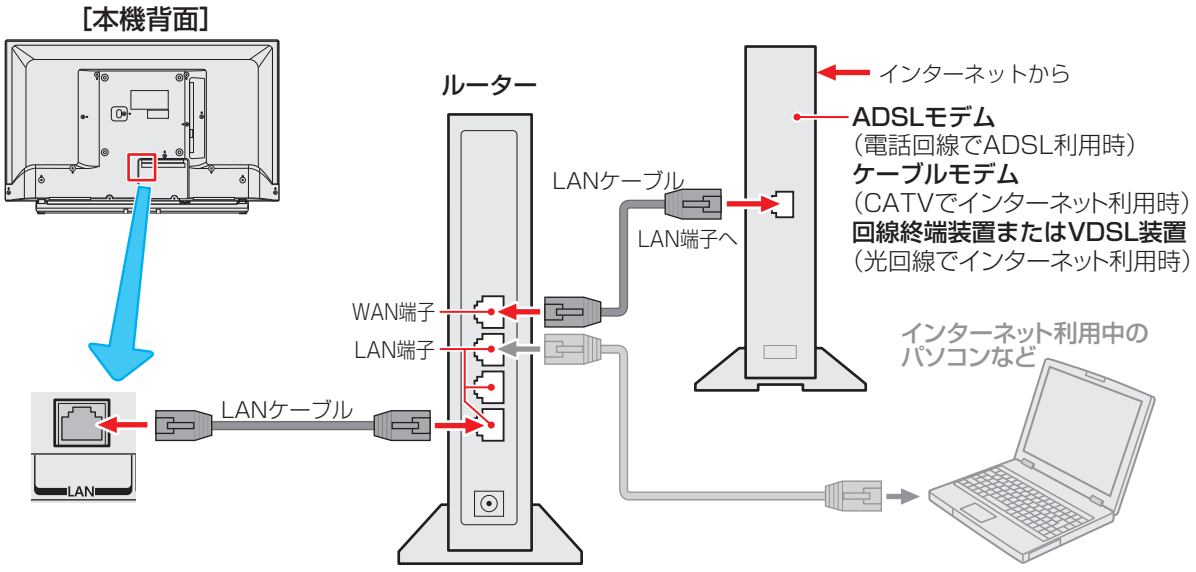
インターネットを利用するための接続をする

- はじめてインターネットを利用する場合は、通信事業者やプロバイダー(インターネット接続業者)との契約が必要です。通信事業者または取り扱いの電気店などにご相談ください。
- 接続方法でご不明な点は、裏表紙に記載の「東芝テレビご相談センター」にお問い合わせください。
- 接続が終わったら、必要に応じて次ページの「通信設定」をしてください。
- すでにパソコンでインターネットを利用している場合は、本機のLAN端子とルーターのLAN端子を市販のLANケーブルで接続するだけです。
- モデムとルーターが一体化されている場合もあります。それぞれの取扱説明書もよくお読みください。

本機をインターネットに接続したときにできること

できること	内　容	記載ページ
データ放送の 双方向サービス	● データ放送の双方向サービスを利用して、クイズ番組に参加したり、ショッピング番組で買物をしたりすることができます。 ※ 本機は電話回線を利用した双方向サービスには対応しておりません。	39

接続のしかた



ご注意

- LANケーブルを抜き差しするときは、本機および接続機器などの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

お願い

- 本機のLAN端子は、必ず電気通信端末機器の技術基準認定品ルーターなどに接続してください。
- 通信事業者およびプロバイダーとの契約費用および利用料金などは、ご自身でお支払いください。
- 以下の場合やご不明な点は、ご契約の回線事業者やケーブルテレビ会社、プロバイダーなどにお問い合わせください。
  - ご契約によっては、本機やパソコンなどの機器を複数接続できないことがあります。
  - 一部のインターネット接続サービスでは、本機を利用できないことがあります。
  - プロバイダーによっては、ルーターの使用を禁止あるいは制限している場合があります。
  - 回線の状況によっては、うまく通信できないことがあります。
  - モデムについてご不明な点など。

お知らせ

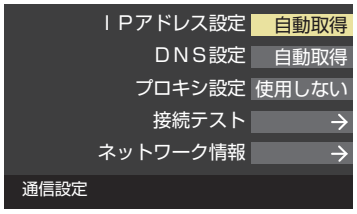
- 本機では、ルーターやルーター内蔵モデムの設定はできません。これらの機器によっては、パソコンでの設定が必要な場合があります。
- 本機はダイヤルアップ通信やISDN回線などでインターネットを利用することはできません。
- この取扱説明書で図示していない機器が接続されている場合は、正常に通信できないことがあります。
- ルーターなどが正しく設定されていない回線に本機のLAN端子を接続すると、本機が正常に動作しないことがあります。

インターネットを利用するための設定をする

● お買い上げ時の設定でインターネットが利用できない場合やネットワークの設定をやり直す場合などに、必要に応じて設定します。

1 設定を押し、▲·▼と決定で「初期設定」⇨「通信設定」の順に進む

2 設定する項目を▲·▼で選んで、決定を押す



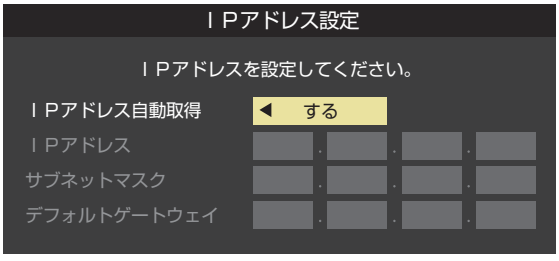
3 以降の手順で設定する

IPアドレス設定

● インターネットに接続するために、本機に割り当てられる固有の番号を設定します。

※「IPアドレス自動取得」を「しない」に設定した場合は、「DNS設定」の「DNSアドレス自動取得」は、自動的に「しない」に設定されます。その場合は、DNSアドレスを手動で設定します。

❶ IPアドレスを自動取得できる場合は、◀·▶で「する」を選ぶ



自動取得できないネットワーク環境の場合

① ◀·▶で「しない」を選ぶ

② ▲·▼で「IPアドレス」を選び、1～10(0)で入力する

③ ▲·▼で「サブネットマスク」を選び、1～10(0)で入力する

④ ▲·▼で「デフォルトゲートウェイ」を選び、1～10(0)で入力する

- ②～④では0～255の範囲の数字（左端の欄は0以外）を4箇所の欄に入力します。
- 欄を移動するには、▶を押します。

❷ 決定を押す

DNS設定

● ドメイン名をIPアドレスに置き換える機能を持ち、IPアドレスで特定されているDNSサーバーを設定します。

※「IPアドレス自動取得」を「しない」に設定した場合は、「DNSアドレス自動取得」は自動的に「しない」に設定され、「する」にはできません。その場合は、DNSアドレスを手動で設定します。

❶ DNSアドレスを自動取得できる場合は、◀·▶で「する」を選ぶ

自動取得できないネットワーク環境の場合

① ◀·▶で「しない」を選ぶ

② ▲·▼で「DNSアドレス（プライマリ）」を選び、1～10(0)で入力する

③ ▲·▼で「DNSアドレス（セカンダリ）」を選び、1～10(0)で入力する

- ②と③では0～255の範囲の数字（左端の欄は0以外）を4箇所の欄に入力します。
- 欄を移動するには、▶を押します。

❷ 決定を押す

プロキシ設定

● インターネットとの接続時にプロキシ（代理）サーバーを経由する場合に設定します。

● ご契約のプロバイダーから指定がある場合にだけ設定します。

● ここでのプロキシ設定はHTTPに関するものです。

❶ ▲·▼で「使用する」を選び、決定を押す

❷ ▲·▼で「サーバー名」を選び、決定を押す

❸ サーバー名を入力する

- 文字入力方法については、95ページをご覧ください。
- 入力できる文字は半角英字／半角数字で、記号は半角の!"#%&()*+,-.:;<=>@[¥]^{}~?_/です。

❹ ▲·▼で「ポート番号」を選び、1～10(0)でポート番号を入力する

❺ ▲·▼で「設定完了」を選び、決定を押す

接続テスト

- 「通信設定」が正しいかテストします。テストが終わると「接続テスト結果」画面が表示されます。「インターネットに接続できました。」と表示された場合は、「終了」を押します。
- 正しく接続できなかった場合は、「再テスト」を選んで(決定)を押します。再度接続テストを行い、接続テスト結果画面が表示されます。再テストを行っても接続できない場合は、「通信設定」を選んで(決定)を押し、設定をやり直してください。

通信設定の接続テスト結果について

- 接続テストの結果、正しく通信できなかった場合は、以下を確認します。

❶LAN端子の接続状態と「通信設定」を確認する

- 正しく接続・設定されているかご確認ください。設定内容については、ルーターの設定内容に関係することがありますのでご注意ください。(ルーターの設定については、ルーターの取扱説明書をご覧ください)

❷ネットワーク環境の接続確認

- 以下の手順で本機と同一ネットワーク上に接続されたパソコンからインターネットに接続できるか確認します。

①パソコンのインターネット・ブラウザ(Internet Explorerなど)を起動する

②URL欄に「www.toshiba.co.jp/」を入力し、ページが表示されることを確認する

- ページが正しく表示されない場合は、接続されているパソコンやルーターの設定が正しいか確認します(詳しくは、パソコン、ルーターの取扱説明書をご覧ください)。この場合、本機の問題ではない可能性があります。

ネットワーク情報

- 現在利用しているネットワーク情報が表示されます。

例

ネットワーク情報	
接続タイプ	有線
ＩＰアドレス設定	自動取得
ＩＰアドレス	ＸＸＸ．ＸＸＸ．ＸＸＸ．ＸＸＸ
サブネットマスク	ＸＸＸ．ＸＸＸ．ＸＸＸ．ＸＸＸ
デフォルトゲートウェイ	ＸＸＸ．ＸＸＸ．ＸＸＸ．ＸＸＸ
ＤＮＳ設定	自動取得
ＤＮＳアドレス（プライマリ）	ＸＸＸ．ＸＸＸ．ＸＸＸ．ＸＸＸ
ＤＮＳアドレス（セカンダリ）	ＸＸＸ．ＸＸＸ．ＸＸＸ．ＸＸＸ
プロキシ設定	使用しない
サーバ名	
ポート番号	
有線ＭＡＣアドレス	ＸＸ－ＸＸ－ＸＸ－ＸＸ－ＸＸ－ＸＸ

ネットワークに関するお知らせ・用語

お知らせ

■IPアドレス設定について

- 本機に接続されたルーターのDHCP機能(IPアドレスを自動的に割り当てる機能)がONのときは、「自動取得」を「する」「しない」のどちらでも設定できます。
(通常は、「する」に設定します。「しない」に設定した場合は手動での設定が必要です)
- ルーターのDHCP機能がOFFのときは、「自動取得」を「しない」にして、手動で設定します。
- 手動で設定する際は、他の接続機器とIPアドレスが重複しないように設定します。設定する固定IPアドレスはプライベートアドレスでなければなりません。
- 設定終了後、本機に設定されたIPアドレスとルーターのローカル側に設定されたIPアドレスのネットワークID部分がそれぞれ同じであることを確認します。(詳しくは、ルーターの取扱説明書をご覧ください)

■DNS設定について

- 本機に接続されたルーターのDHCP機能がONのときは、DNSアドレスの「自動取得」を「する」「しない」のどちらでも設定できます。(通常は、「する」に設定します。「しない」に設定した場合は手動での設定が必要です)
- 本機に接続されたルーターのDHCP機能がOFFのときは、DNSアドレスの「自動取得」を「しない」にして、プロバイダーから指定されたものを手動で設定します。(プロバイダーによって設定方法が異なります。プロバイダーとの契約内容に沿った設定をしてください)

■PPPoE設定について

- 本機ではPPPoEの設定はできません。PPPoEはルーター側に設定してください。(設定にはパソコンが必要です)

用語

■IPアドレス

インターネットに接続する場合に、端末に割り当てられる固有の番号です。形式は、最大3ケタの数字4組を点で区切った形になっています。(例：111.112.xxx.xxx)

■DNSサーバー

ドメイン名(xxx.co.jpなど)をIPアドレスに置き換える機能を持つサーバーで、本機では自動的に取得されます。自動で取得できない場合は、手動で、プロバイダーからの資料で指定されたDNSアドレスを「プライマリ」に入力します。二つある場合は、もう一方を「セカンダリ」に入力します(例：111.112.xxx.xxx)。ご契約のプロバイダーによっては、「ネームサーバー」、「DNS1/DNS2サーバー」、「ドメインサーバー」などと呼ばれることがあります。

■サブネットマスク

ネットワークを区切るために、端末に割り当てられるIPアドレスの範囲を限定するためのものです。(例：255.255.xxx.xxx)

■デフォルトゲートウェイ

ネットワーク外のサーバーにアクセスする際に、使用するルーターなどの機器を指定するためのものです。IPアドレスで特定されています。(例：111.112.xxx.xxx)

■プロキシ

ご契約のプロバイダーから指定があるときだけ設定してください。(例：proxy.xxx.xxx.xxx)
この設定をすると、HTTPプロキシサーバーからファイアウォール(外部からの不正侵入防護壁)を越えて通信先のブラウザにデータを高速で送ることができます。

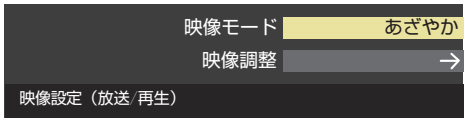
■MACアドレス

ネットワーク上に接続されている機器の識別のために、機器ごとに割り当てられる固有の番号です。

お好みの映像モードを選ぶ

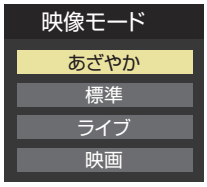
- 見る映像の種類に応じて、お好みの映像モードを選ぶことができます。
- 映像モードは、放送/再生の映像や各入力端子の映像などでそれぞれ記憶させることができます。

1 設定 を押し、▲·▼と 決定 で「映像設定」⇨「映像モード」の順に進む



2 お好みの映像モードを▲·▼で選び、決定 を押す

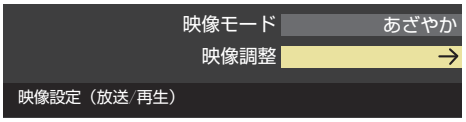
- 選択できる映像モードは、視聴している映像の種類によって異なり、選択できない映像モードは表示されません。



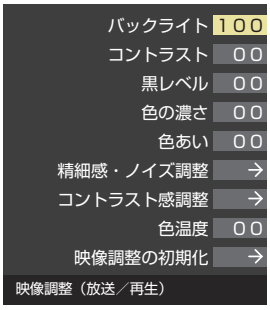
映像モード	内　容
あざやか	日中の明るいリビングで、迫力ある映像を楽しむときに適した設定です。
標準	室内で落ち着いた雰囲気で楽しむときに適した設定です。（日常、ご家庭で使用するときの推奨設定です）
ライブ	暗くした部屋でテレビ番組を見るときに適した設定です。
映画	暗くした部屋で映画を見るときに適した設定です。（暖か味のある色あいが再現されます）
ゲーム	ゲームのレスポンスを重視した、ゲームをするのに適した設定です。（HDMI入力、ビデオ入力のときに選択できます）
PC	パソコンの画面を表示するのに適した設定です。（HDMI入力のときに選択できます）

お好みの映像に調整する

1 設定 を押し、▲·▼と 決定 で「映像設定」⇨「映像調整」の順に進む



2 調整する項目を▲·▼で選び、決定 を押す

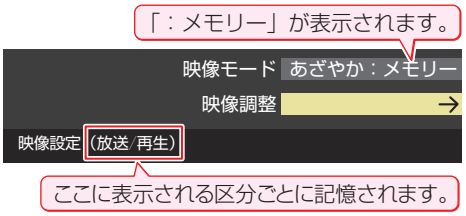


3 以降の手順（80ページまで）でお好みの映像に調整する

- 他の項目を調整するときは、手順2から繰り返します。（「黒レベル」、「色の濃さ」、「色あい」などのように、調整時に▲·▼で調整項目を切り換えられる項目もあります）

「映像調整」をした場合

- 映像を調整すると、そのときに選択していた「映像モード」に調整状態が記憶され、「映像モード」の表示に「：メモリー」が加わります。
- 調整状態は、放送/再生や各入力端子などの区分ごとに記憶されます。たとえば、（放送/再生）の「あざやか：メモリー」と（HDMI1）の「あざやか：メモリー」は、異なる調整をして記憶させることができます。



バックライト

● お好みの見やすい画面の明るさに調整できます。

❶ ◀·▶でお好みの明るさに調整し、決定を押す

● 「00」～「100」の範囲で調整できます。(調整値が大きくなるほど画面が明るくなります)

コントラスト

● 映像のコントラスト、明るさ、色の濃さをバランスよく同時に調整します。

❶ ◀·▶でお好みの映像に調整し、決定を押す

● 「00」～「100」の範囲で調整できます。(数値が大きくなるほど映像のコントラストが強くなります)

黒レベル

● 映像の暗い部分(黒)の再現性(明るさ)を調整します。

❶ ◀·▶でお好みの明るさに調整し、決定を押す

● 「−50」(暗く)～「+50」(明るく)の範囲で調整できます。

色の濃さ

● 映像の色の濃さを調整します。

❶ ◀·▶でお好みの濃さに調整し、決定を押す

● 「−50」(淡く)～「+50」(濃く)の範囲で調整できます。

色あい

● 肌の色に注目して、色あいを調整します。

❶ ◀·▶でお好みの色あいに調整し、決定を押す

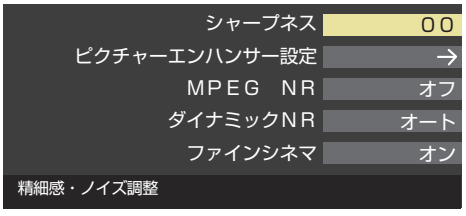
● 「−50」(紫を強く)～「+50」(緑を強く)の範囲で調整できます。

精細感・ノイズ調整

● 「精細感・ノイズ調整」を選択して決定を押すと、精細感・ノイズ調整のメニューが表示されます。

❶ 調整する項目を▲·▼で選び、決定を押す

● 視聴する映像の種類および「映像モード」の設定によっては調整や設定ができない項目があります。



❷ 以降の手順で調整する

● 他の項目を調整する場合は、手順❶から繰り返します。

シャープネス

● 映像の鮮明さを調整します。

① ◀·▶でお好みの映像に調整し、決定を押す

● 「−50」(やわらか)～「+50」(くっきり)の範囲で調整できます。

ピクチャーエンハンサー設定

● 緻密で精細感のある映像を表示します。

● 「ピクチャーエンハンサー設定」を選択して決定を押すと、「ピクチャーエンハンサー」、「ゲイン調整」の選択メニューが表示されます。それぞれ以下の要領で設定します。

※ 映像によっては、効果がわかりにくい場合があります。

ピクチャーエンハンサー

● ピクチャーエンハンサーの機能を使うかどうかを設定します。「オフ」に設定した場合は、「ゲイン調整」は機能しません。

※ ピクチャーエンハンサーと同じ高画質処理機能を持った機器を接続した場合、画面のノイズが目立つことがあります。その場合には、本機のピクチャーエンハンサー、または、接続した機器の高画質処理機能をオフにしてください。

① ▲·▼で「ピクチャーエンハンサー」を選び、決定を押す

② ▲·▼で以下から選び、決定を押す

- **オート**……映像の種類に応じて自動的にピクチャーエンハンサーの機能が働きます。
- **オフ**……この機能は働きません。

ゲイン調整

● ピクチャーエンハンサーの効果(強さ)を調整します。

① ▲·▼で「ゲイン調整」を選び、決定を押す

② ◀·▶で調整し、決定を押す

調整範囲	
01 ～ 05	数値が大きくなるほど、映像の精細感が強調されます。

MPEG(エムペグ) NR

● デジタル放送やDVDなどの動きの速い映像のブロックノイズ(モザイク状のノイズ)と、モスキートノイズ(輪郭のまわりにつく、ちらつきノイズ)を減らす機能です。

① ▲·▼でお好みの設定を選び、決定を押す

- **強、中、弱**‥MPEG NRの効果が切り換わります。強くするほどノイズをより抑える方向に働きます。
- **オフ**……この機能は働きません。

※ 効果を強くすると精細感を損なうことがあります。

お好みの映像に調整する つづき

ダイナミックNR

● 映像のざらつきやちらつきを減らす機能です。

① ▲·▼でお好みの設定を選び、決定を押す

- **オート**…… 映像の種類に応じて自動的に制御されます。
- **強、中、弱**‥ ダイナミックNRの効果が切り換わります。
- **オフ**…… この機能は働きません。

※ 通常は「オート」に設定してください。効果を強くすると残像が目立つことがあります。

ファインシネマ

● 映画ソフト（フィルム映像）のもつスムーズな映像の動きと画質を再現します。

※ 映像によっては、効果がわかりにくい場合があります。

※ 映像に違和感がある場合は、「オフ」に設定してください。

① ▲·▼で以下から選び、決定を押す

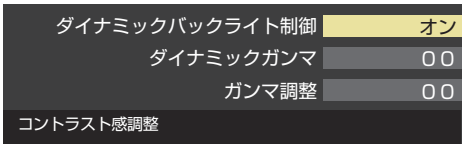
- **オン**…… ファインシネマの機能が働きます。
- **オフ**…… この機能は働きません。

コントラスト感調整

● 「コントラスト感調整」を選択して決定を押すと、コントラスト感調整のメニューが表示されます。

❶ 調整する項目を▲·▼で選び、決定を押す

● 視聴する映像の種類および「映像モード」の設定によっては調整や設定ができない項目があります。



❷ 以降の手順で調整する

● 他の項目を調整する場合は、手順❶から繰り返します。

ダイナミックバックライト制御

● 映像の明るさに応じてバックライトの明るさを自動調整し、メリハリのある映像にします。

① ▲·▼で以下から選び、決定を押す

- **オン**……ダイナミックバックライト制御の機能が働きます。
- **オフ**……この機能は働きません。

ダイナミックガンマ

● 映像の内容に応じて、暗い部分から明るい部分にかけての階調が自動的に調整されます。

① ◀·▶で調整し、決定を押す

調整レベル	数値が大きくなるほどメリハリが強調されます。
00 ～ 10	

ガンマ調整

● 映像の暗い部分と明るい部分の階調のバランスを調整することができます。

① ◀·▶で調整し、決定を押す

調整範囲	調整値が大きくなるほど画面全体が明るくなります。
−04 ～ +04	

色温度

● 画面全体の色味を調整します。

① ◀·▶で調整し、決定を押す

調整範囲	調整値が小さくなるほど暖色系、大きくなるほど寒色系になります。
00 ～ 10	

映像調整の初期化

● 「映像調整」の内容を、お買い上げ時の設定·調整に戻します。

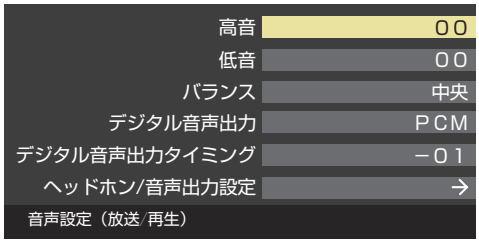
❶ ◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

お好みの音声に調整する

● 見る番組や映像に応じて、お好みの音声に調整することができます。

1 設定を押し、▲·▼で「音声設定」を選び、決定を押す

2 調整する項目を▲·▼で選び、決定を押す



3 以降の手順でお好みの音声に調整する

高音

● 高音の強さを調整します。

❶ ▲·▼で「高音」を選び、決定を押す

❷ ◀·▶で調整し、決定を押す

● 「−20」(弱く)〜「+20」(強く)の範囲で調整できます。

低音

● 低音の強さを調整します。

❶ ▲·▼で「低音」を選び、決定を押す

❷ ◀·▶で調整し、決定を押す

● 「−20」(弱く)〜「+20」(強く)の範囲で調整できます。

バランス

● 左右のスピーカーの音量バランスを調整します。

❶ ◀·▶で調整し、決定を押す

● 「左20」(右を弱く)〜「中央」(左右同じ)〜「右20」(左を弱く)の範囲で調整できます。

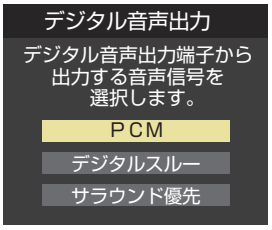
デジタル音声出力

● 光デジタル音声出力端子またはHDMI入力1(ARC)端子から出力する音声信号の設定です。

● オーディオ機器が対応している音声信号については、オーディオ機器の取扱説明書でご確認ください。

● オーディオ機器から音声が出ない場合は、「PCM」に設定してください。

❶ ▲·▼で信号を選び、決定を押す



- **PCM**……
  常にリニアPCM信号が出力されます。
  オーディオ機器がリニアPCM信号のみに対応している場合は、この設定にします。
- **デジタルスルー** ····
  AAC（ビットスルー）がそのまま出力されます。
- **サラウンド優先** ····
  コンテンツの音声信号がサラウンド音声(5.1chや4.1chサラウンド音声など)の場合にそれらの信号が出力されます。それ以外の場合はリニアPCM信号が出力されます。オーディオ機器がAACのサラウンド音声に対応している場合は、この設定にすることでサラウンド音声が楽しめます。

ご注意

● **本機から出力されるデジタル音声は、デジタル音声出力を「PCM」以外に設定するとコンテンツによってはオーディオ機器(AVアンプなど)で正常に再生できない形式があります。**

お知らせ

● デジタル音声出力が「PCM」以外に設定されている場合で、MPEG-2 AAC音声の場合には、データ放送の一部の音声(効果音など)が光デジタル音声出力端子またはHDMI入力1(ARC)端子から出力されないことがあります。

● 外部入力としてビデオ入力を選択しているときは、光デジタル音声出力端子およびHDMI入力1(ARC)端子からは設定にかかわらずリニアPCM信号が出力されます。

● HDMI入力の選択時に、HDMI入力端子が対応していない音声信号が入力された場合は、設定にかかわらず光デジタル音声出力端子またはHDMI入力1(ARC)端子から信号は出力されません。(HDMI入力端子が対応している音声信号については、67 をご覧ください)

お好みの音声に調整する つづき

デジタル音声出力タイミング

● 光デジタル音声出力端子またはHDMI入力1(ARC)端子から出力するデジタル音声信号のタイミングを設定することができます。

❶ ◀·▶でお好みのタイミングに調整し、決定を押す

● 「−3」～「0」の範囲で調整できます。
● 数値が小さくなるほど、音声を出力するタイミングが早くなります。

お知らせ

● 映像の遅延が小さい場合、設定を変えても音声のタイミングは変わりません。

ヘッドホン／音声出力設定

● ヘッドホン／音声出力端子の設定をします。

❶ ▲·▼で「ヘッドホン／音声出力設定」を選び、決定を押す

● 以下、「出力設定」、「ヘッドホンモード」、「外部スピーカー出力設定」を設定します。

出力設定

● ヘッドホン／音声出力端子に接続する機器にあわせて設定します。

※ ヘッドホンで聴くときは、必ず「ヘッドホン」に設定してください。

❶ ▲·▼で以下から選び、決定を押す

- **ヘッドホン：**
  ヘッドホン／音声出力端子にヘッドホンを接続する場合に選択します。
- **外部スピーカー：**
  ヘッドホン／音声出力端子にAVアンプやミニコンポなどを接続する場合に選択します。

ヘッドホンモード

● 「出力設定」で「ヘッドホン」を選んだときに設定します。

❶ ▲·▼で以下から選び、決定を押す

- **通常モード**……ヘッドホン／音声出力端子にヘッドホンを接続すると、テレビのスピーカーからの音が消え、ヘッドホンから音が聞こえます。
- **親切モード**……ヘッドホン／音声出力端子にヘッドホンを接続すると、テレビのスピーカーとヘッドホンの両方から音が聞こえます。

外部スピーカー出力設定

● 「出力設定」で「外部スピーカー」を選んだときに設定します。

❶ ▲·▼で以下から選び、決定を押す

- **固定**……ヘッドホン／音声出力端子から一定の音量レベルで音声が出力されます。外部接続機器で音量を調節してください。
- **可変**……ヘッドホン／音声出力端子からの音量を本機のリモコンで調節することができます。

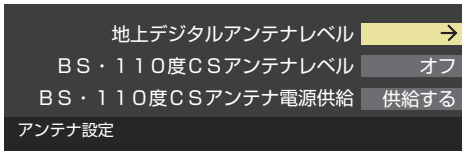
アンテナを調整する

電波の強さ(信号強度)を確認する

● テレビが全く映らない、または画面が乱れるなどの場合は、以下の手順でアンテナレベルを確認します。

地上デジタル用アンテナの場合

1 設定 を押し、▲·▼と 決定 で「初期設定」⇨「アンテナ設定」⇨「地上デジタルアンテナレベル」の順に進む

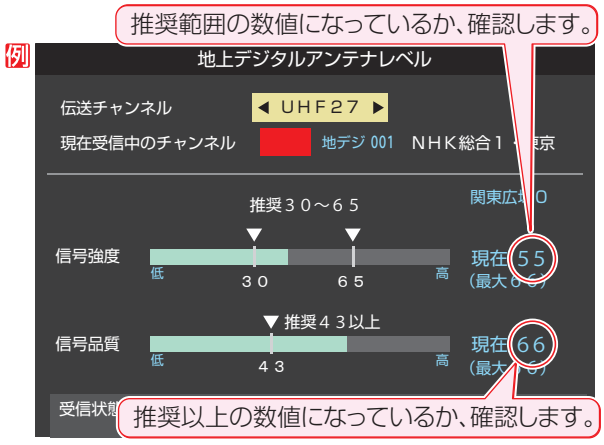


2 ◀·▶で「伝送チャンネル」を選ぶ

● お住まいの地域の地上デジタル放送に使用されている伝送チャンネルを選びます。(お買い上げの販売店などにお聞きください)

● ◀·▶を押すたびに以下のように切り換わります。
VHF1~VHF12 ↔ UHF13~UHF62 ↔ CATV13~CATV63

● 信号強度(○印の数値)が推奨範囲内になっているか、信号品質(○印の数値)が推奨の数値以上になっているかを確認します。



BS・110度CS用アンテナの場合

1 設定 を押し、▲·▼と 決定 で「初期設定」⇨「アンテナ設定」⇨「BS・110度CSアンテナレベル」の順に進む

2 BS または CS で放送の種類を選ぶ

3 予約 でチャンネルを選ぶ

● 無料チャンネルまたは契約済チャンネルを選びます。

● アンテナレベルの数値が推奨の数値以上になっているか確認します。

アンテナを調整する

● アンテナレベルが不足している場合は、「アンテナレベル」の画面を確認しながらアンテナの調整をします。

※ 高所での作業は危険です。アンテナの調整については、販売店にご相談ください。

1 アンテナをゆっくり動かして、アンテナレベルの数値が最大となるように調整する

● 画面のアンテナレベルの最大値を参考に、アンテナを固定したあとにレベル値が下がっていないことを確認します。

2 アンテナを固定して、決定 を押す

お知らせ

● 地上デジタルアンテナレベルの信号強度の数値は、受信入力電力を換算したものです。

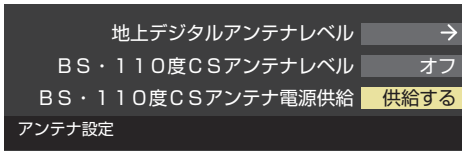
● 地上デジタルアンテナレベルの信号品質の数値は、受信C/Nを換算したものです。(「受信C/N」とは放送電波と雑音電波の比を表すもので、電波の品質を知るときの目安となります)

アンテナを調整する つづき

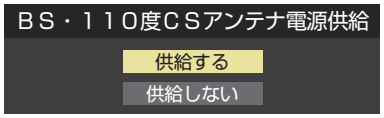
BS・110度CS用アンテナの電源供給の設定を変更する

- BS・110度CS用アンテナは電源を必要とします。
- お買い上げ時は、「供給する」に設定されています。
  マンションなどで、他の機器からアンテナに電源が供給されているときは、「供給しない」に設定します。

1 設定を押し、▲・▼と決定で「初期設定」⇨「アンテナ設定」⇨「BS・110度CSアンテナ電源供給」の順に進む



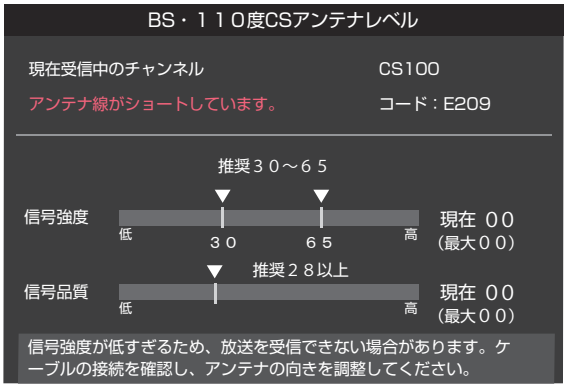
2 ▲・▼で「供給する」または「供給しない」を選び、決定を押す



アンテナ線がショートしたとき

- BS・110度CS用アンテナのレベル表示画面に「アンテナ線がショートしています。」のメッセージが表示された場合は、電源を切ってから電源プラグを抜き、ショートの原因を取り除いてからもう一度電源を入れてアンテナレベル表示の操作をしてください。
- マンションなどの共聴アンテナを使用しているときは、以下のエラーメッセージは表示されず、「BS・110度CSアンテナ電源供給」の設定が「供給しない」に切り換わります。

例



お知らせ

- 「BS・110度CSアンテナ電源供給」を「供給する」に設定した場合でも、本機の電源が「切」または「待機」のときは、番組情報の取得中や予約した番組の録画中、およびダウンロード中などの場合以外はアンテナ電源が供給されません。(BS・110度CSデジタル放送を録画機器単独で録画するときなどは、録画機器からアンテナ電源を供給する必要があります)

チャンネルを追加したり設定を変更したりするとき

地上デジタルチャンネルを自動で設定する

● 地上デジタル放送には以下の3種類のチャンネル自動設定機能があります。
- **初期スキャン**……「はじめての設定」の「① 地上デジタルチャンネル設定」で行われる「初期スキャン」だけをやり直すことができます。
- **再スキャン**……放送局が増えたなど、放送チャンネルに変更があったときに、ワンタッチ選局ボタンに設定できます。
- **自動スキャン**……本機の電源が「切」や「待機」のときに自動的に探し、変更されたチャンネルがあればワンタッチ選局ボタンに自動で設定されます。

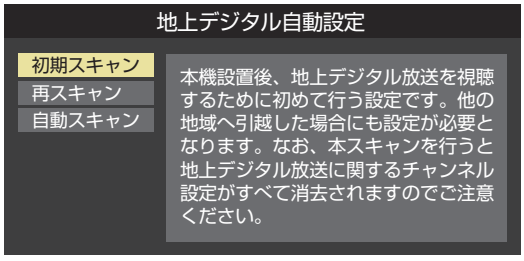
※ 初期スキャンをしていないと、再スキャンや自動スキャンはできません。

初期スキャンをするとき

● 受信可能なチャンネルを本機が探し、ワンタッチ選局ボタン(1～12)に放送の運用規定に基づいて設定します。

1 設定を押し、▲·▼と決定で「初期設定」⇨「チャンネル設定」⇨「地上デジタル自動設定」⇨「初期スキャン」の順に進む

● 画面の説明をよくお読みください。

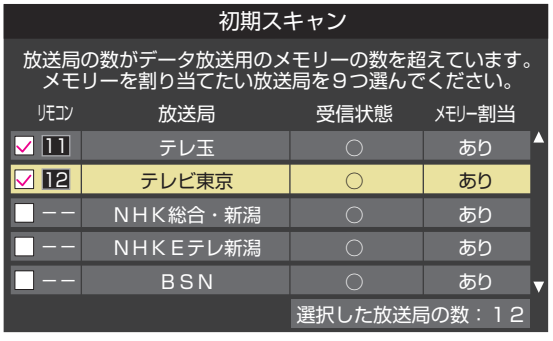


2 お住まいの地方を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

3 お住まいの都道府県または地域を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

● 下図の画面が表示された場合は「データ放送用メモリーの割り当て」89をしてください。

例



4 初期スキャン終了の画面が表示されたら、◀·▶で「はい」を選んで決定を押す

5 設定内容を確認したら、決定を押す

再スキャンをするとき

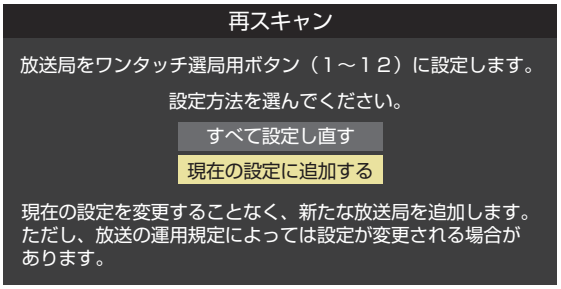
● 新たに放送局が開局してチャンネルが増えた場合など、放送に変更があった場合は、「再スキャン」をすればチャンネルを追加設定することができます。

1 設定を押し、▲·▼と決定で「初期設定」⇨「チャンネル設定」⇨「地上デジタル自動設定」⇨「再スキャン」の順に進む

● データ放送用のメモリー割当画面(左記手順3参照)が表示された場合は89をご覧ください。

2 下図の画面が表示されたら、▲·▼でどちらかを選び、決定を押す

● 画面の説明を読んで、1～12への設定方法を選びます。



3 再スキャン終了の画面が表示されたら、◀·▶で「はい」を選んで決定を押す

4 設定内容を確認したら、決定を押す

自動スキャンの設定を変えるとき

● お買い上げ時は「自動スキャンする」に設定されています。チャンネル設定の内容が自動変更されないようにする場合は、「自動スキャンしない」に設定してください。

1 設定を押し、▲·▼と決定で「初期設定」⇨「チャンネル設定」⇨「地上デジタル自動設定」⇨「自動スキャン」の順に進む

2 ▲·▼で「自動スキャンする」または「自動スキャンしない」を選び、決定を押す

チャンネルを追加したり設定を変更したりするとき つづき

チャンネルをお好みに手動で設定する

- お好みで、リモコンのワンタッチ選局ボタン(1～12)で選局するチャンネルを変更したり、空いているワンタッチ選局ボタンに設定を追加したりすることができます。
- はじめて地上デジタル放送のチャンネル設定をする場合は、前ページの「初期スキャン」をしてください。「初期スキャン」をしていない状態では「手動設定」はできません。

1 設定を押し、▲·▼と決定で「初期設定」⇨「チャンネル設定」⇨「手動設定」の順に進む

- 放送の種類を選択する画面が表示されます。

2 設定するデジタル放送の種類を▲·▼で選び、決定を押す

3 設定するボタン(1～12)の番号を▲·▼で選び、決定を押す

- 図は手順2で「地上デジタル」を選んだ場合の例です。

例



4 ▲·▼で「チャンネル」を選び、◀·▶で受信チャンネルなどを選ぶ

例



- ◀·▶を押すと次のように切り換わります。
  - 「地上デジタル」の場合
    「テレビ」↔「データ」
    地デジのチャンネルを順に選択
  - 「BS」の場合
    「テレビ」↔「ラジオ」↔「データ」
    BSデジタルのチャンネルを順に選択
  - 「110度CS」の場合は放送メディア(テレビ/ラジオ/データ)の指定はできません。
  - ◀·▶を押し続ければ、チャンネルを速く切り換えることができます。

放送メディアを選んだ場合

- 放送メディア(テレビまたはデータ)を選んだ場合は、同じ放送局の複数のテレビ放送チャンネルまたは複数のデータ放送チャンネルが、手順3で選んだ番号のボタンにまとめて設定されます。
- 以下の操作で放送局名を設定します。

❶ ▲·▼で「放送局」を選ぶ

❷ 設定したい放送局名を◀·▶で選ぶ

例 手順3で「6」を選び、ここで「テレビ」を選んで「放送局」を「TBS」に設定すると、地上デジタル放送視聴時の操作で6を押すたびに、「TBS」の「テレビ」チャンネルが順次に選局できます。

チャンネルを選んだ場合

- 手順3で選んだ番号のボタンに、ここで選んだチャンネルだけが設定されます。

※「放送局」の欄には選んだチャンネルの放送局名が表示されます(放送局名を変えることはできません)。

例 手順3で「6」を選び、ここで「地デジ061」を選ぶと、地上デジタル放送視聴時の操作で6を押したときに061チャンネルだけが選局できます。

5 設定が終わったら▲·▼·◀·▶で「設定完了」を選び、決定を押す

※「設定削除」を選ぶと、そのボタンの設定を削除することができます。(「チャンネル」の欄が「ーーー」の表示になります)

- 他のボタンの設定も変更する場合は、手順3～5を繰り返します。

お知らせ
- 手動設定をしたあとで、「初期スキャン」や「はじめての設定」をすると、設定をした内容が消えますので再度設定をしてください。

視聴しないチャンネルをスキップする

- チャンネル で選局するときに、視聴しないチャンネルを飛ばすことができます。
- 「スキップ」に設定したチャンネルは番組表 33 に表示されません。また、番組検索 37 の対象になりません。

1 設定 を押し、▲·▼と 決定 で「初期設定」⇨「チャンネル設定」⇨「チャンネルスキップ設定」の順に進む

- 放送の種類を選択する画面が表示されます。

2 設定する放送の種類を▲·▼で選び、決定 を押す

3 スキップ設定を変更したいチャンネルを▲·▼で選び、決定 を押す

例

チャンネルスキップ設定　地上デジタル

	チャンネル	放送局	スキップ
	地デジ011	NHK総合1・東京	受信
	地デジ012	NHK総合2・東京	受信
	地デジ021	NHKEテレ1東京	受信
	地デジ022	NHKEテレ2東京	スキップ
	地デジ023	NHKEテレ3東京	スキップ
	地デジ031	テレ玉1	受信

手順2で「地上デジタル」を選んだ場合

- 決定 を押すたびに「受信」⇔「スキップ」と交互に切り換わります。
- 放送メディア(テレビ/ラジオ/データ)を変えるときは 青 を押します。
- 他のチャンネルの設定をする場合は、手順3の操作を繰り返します。(違う放送のチャンネルを設定する場合は 戻る を押し、手順2からの操作を繰り返します)

チャンネル設定を最初の状態に戻すには

- すべてのチャンネル設定をお買い上げ時の状態に戻すことができます。
- チャンネル設定をお買い上げ時の状態に戻すと、地上デジタル放送は受信できません。受信するには、「初期スキャン」 85 をしてください。
- この操作をしても、「データ放送用メモリーの割り当て」 89 や、双方向サービスの利用で本機に記憶された住所·氏名、ポイント数などの利用者個人の情報はそのままです。

1 設定 を押し、▲·▼と 決定 で「初期設定」⇨「チャンネル設定」⇨「チャンネル設定の初期化」の順に進む

- 確認画面が表示されます。

2 ◀·▶で「はい」を選び、決定 を押す

お知らせ

■ チャンネルスキップ設定について

- 「手動設定」をしたチャンネルは、自動的に「受信」に設定されます。
- 放送局の代表チャンネルを「スキップ」に設定すると、その放送局の代表チャンネル以外のチャンネルもスキップされます。代表チャンネル以外のチャンネルを「スキップ」に設定した場合は、代表チャンネルは選局できます。

データ放送の設定をする

郵便番号と地域を設定する

- お住まいの地域に応じたデータ放送や緊急警報放送などを視聴するための設定です。
- 「はじめての設定」で設定した状態から変更したいときに以下の操作をします。

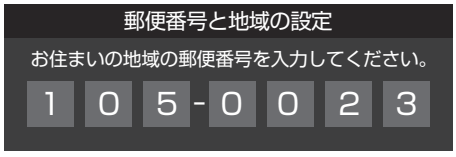
1 設定を押し、▲·▼と決定で「初期設定」⇨「データ放送設定」⇨「郵便番号と地域の設定」の順に進む

- 郵便番号の入力画面が表示されます。

2 お住まいの地域の郵便番号を1～10(0)で入力し、決定を押す

- 上3ケタを入力して決定を押すと、残り4ケタは自動的に「0」が入力されます。

例



3 該当する地方を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

- 「設定しない」を選んだ場合は、これで終わりです。

4 該当する地域を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

- 伊豆、小笠原諸島地域の方は「東京都島部」を選んでください。
- 南西諸島の鹿児島県地域の方は「鹿児島県島部」を選んでください。

災害発生時に文字情報を表示させる

- デジタル放送には文字スーパー表示機能があり、災害時の速報などに使用されます。複数言語の文字スーパーに対応した番組の場合には、表示する言語を選択することができます。
- お買い上げ時は、文字スーパーが日本語優先で表示されるように設定されています。

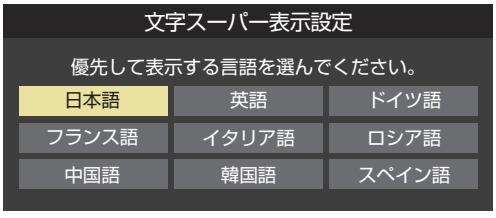
1 設定を押し、▲·▼と決定で「初期設定」⇨「データ放送設定」⇨「文字スーパー表示設定」の順に進む

- 「文字スーパー表示設定」の画面が表示されます。

2 ▲·▼で「表示する」を選び、決定を押す

- 「表示しない」を選んだ場合、操作はこれで終わりです。

3 優先する言語を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す



お知らせ

■ **郵便番号と地域の設定について**
- データ放送を視聴している状態で設定を変更した場合、放送によっては、設定終了後そのままの状態では設定内容は反映されません。設定終了後にデータ放送を選局し直してください。

■ **文字スーパー表示の設定について**
- 設定した言語の文字スーパーがあるときは、その言語で表示されます。設定した言語が視聴している放送にない場合は、その放送に従って表示されます。
- 「表示しない」を選択した場合でも、災害時などの速報は、放送局指定によって放送受信時に強制表示することがあります。

データ放送用メモリーの割当画面が表示されたら

● 「はじめての設定」の「地上デジタルチャンネル設定」や、「初期スキャン」85の手順3、「再スキャン」85の手順1でデータ放送用メモリーの割当画面が表示された場合は、以下の手順で設定します。

■ 個人の情報とデータ放送用メモリーの割り当てについて

● 地上デジタル放送では、放送局ごとに視聴者個人の情報（たとえば、視聴ポイント数など）を利用したサービスが行われる場合があり、本機はその情報を放送局ごとに本機内のデータ放送用メモリーに記憶しています。
通常、メモリーは足りていますが、たとえば、引越しをした場合で、以前受信していた放送局の設定が残っていたときなどには、放送局の数が本機のメモリーの数を超えてしまうことがあります。
その場合には、初期スキャン時などに、データ放送用メモリーの割当画面（下の手順1の画面）が表示されますので、以下の操作でメモリーを割り当てる放送局を設定してください。

● **メモリーを割り当てなかった放送局については、個人の情報がすべて消去されますのでご注意ください。**

1 メモリーを割り当てる放送局を▲·▼で選び、決定を押す

● 選んだ放送局にチェックマーク☑がつきます。
もう一度決定を押すと、指定が取り消されます。

● ワンタッチ選局ボタン（1～12）に設定されている放送局については、メモリーが割り当てられるように自動的に設定されています。設定を取り消すことはできません。

● **このあと、手順2～4の操作をすると、メモリー割り当ての指定をしなかった放送局の個人の情報はすべて消去されます。**
消去された情報は元に戻すことはできませんのでご注意ください。

設定の場面によって名称が変わります。

例

初期スキャン

放送局の数がデータ放送用のメモリーの数を超えています。
メモリーを割り当てたい放送局を９つ選んでください。

リモコン	放送局	受信状態	メモリー割当
☑ 11	テレ玉	○	あり
☑ 12	テレビ東京	○	あり
☐ －－	NHK総合・新潟	○	あり
☐ －－	NHKEテレ新潟	○	あり
☐ －－	BSN	○	あり

選択した放送局の数：１２

2 手順1を繰り返し、九つの指定をする

● 1～12については自動的に設定されます。それらを除いた九つを指定します。

3 ▶を押す

● 手順4の画面になります。（確認メッセージが表示されます）

● 九つよりも多い場合や少ない場合には、その旨のメッセージが表示されます。
決定を押したあと、手順1～2の操作で九つの指定をしてください。

4 ◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

● 指定した放送局についてデータ放送用メモリーが割り当てられ、ここでの設定をする前の場面に自動的に戻ります。
指定以外放送局の個人情報はすべて消去されます。

例

初期スキャン

リモコン	放送局	受信状態	メモリー割当
5	TOKYO MX	○	あり
6	TBS	○	あり
7	tvk	○	あり

メモリーを割り当てる放送局は上記でよろしいですか？

はい　いいえ

メモリーを割り当てなかった放送局に関するデータはすべて消去されます。消去されたデータは元に戻すことができませんのでご注意ください。

5 このページの設定をする前の操作を続ける

● **「初期スキャン」の場合**
「初期スキャン」85の手順4へ

● **「再スキャン」の場合**
「再スキャン」85の手順2へ

視聴できる番組を制限する

制限するために暗証番号を設定する

- 暗証番号は、視聴年齢制限のある番組を見たりするときに必要です。
- 暗証番号を設定した場合には、暗証番号の変更・削除および「設定の初期化」91をするときにも暗証番号の入力が必要になります。

ご注意

- 暗証番号を忘れないようにご注意ください。暗証番号を忘れた場合は、裏表紙に記載の「東芝テレビご相談センター」にご連絡ください。

※ 必要としない場合は、登録しないことをおすすめします。

1 設定 を押し、▲・▼と 決定 で「機能設定」⇨「視聴制限設定」⇨「暗証番号設定」の順に進む

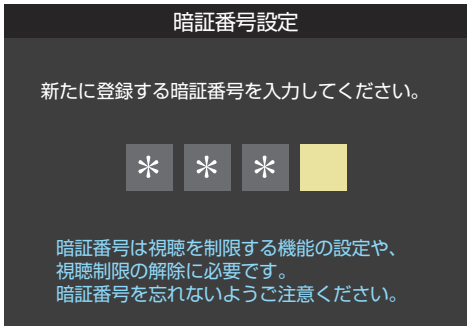
- 暗証番号の入力画面が表示されます。

2 暗証番号を変更する場合は、変更前の暗証番号を 1 ～ 10(0) で入力する

- 新規設定の場合、この手順はありません。

3 登録したい暗証番号を 1 ～ 10(0) で入力する

- 間違えて入力した場合は、◀を押し、もう一度入力します。
- 入力した数字は画面には「＊」で表示されます。



重要
登録した暗証番号はメモするなどして、なくさないように保管してください。

4 1 ～ 10(0) でもう一度同じ暗証番号を入力する

5 確認画面で 決定 を押す

暗証番号を削除するとき

1 設定 を押し、▲・▼と 決定 で「機能設定」⇨「視聴制限設定」⇨「暗証番号削除」の順に進む

- 暗証番号の入力画面になります。

2 1 ～ 10(0) で暗証番号を入力する

3 確認画面で、◀・▶で「はい」を選び、決定 を押す

番組の視聴を制限する

- デジタル放送では番組ごとに視聴年齢が設定されている場合があります。視聴年齢制限のある番組を見るには設定が必要です。
- お買い上げ時には、番組の視聴制限は設定されていません。
- 暗証番号を設定していない場合は、先に暗証番号を設定します。

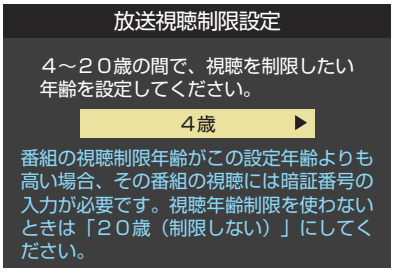
1 設定 を押し、▲・▼と 決定 で「機能設定」⇨「視聴制限設定」⇨「放送視聴制限設定」の順に進む

- 暗証番号の入力画面になります。

2 1 ～ 10(0) で暗証番号を入力する

3 ◀・▶で年齢を設定し、決定 を押す

- 設定できる年齢は、4歳から20歳までです。
- 視聴年齢制限機能を使わない場合は、「20歳（制限しない）」に設定します。



- 視聴時の動作および必要な操作は以下のとおりです。

番組の制限年齢が設定した年齢よりも上の場合

- メッセージが表示されます。
- 決定 を押し、1 ～ 10(0) で暗証番号を入力します。

視聴年齢制限が設定されていない場合

- 視聴年齢制限のある番組を見ることはできません。
- 決定 を押し、設定が必要な項目を設定します。

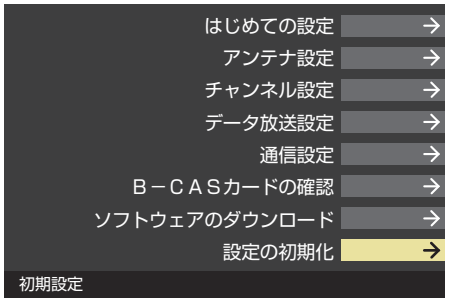
お買い上げ時の設定に戻すには（設定内容を初期化するには）

- お買い上げ時の設定（工場出荷設定）に戻します。
- 本機に設定されたすべての内容がお買い上げ時の状態に戻ります。

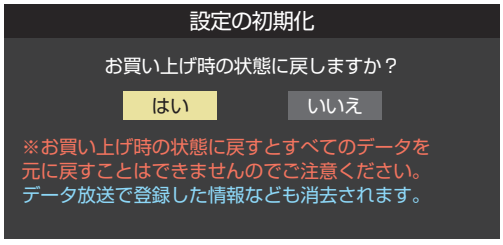
※ **データ放送の個人情報（住所、氏名、視聴ポイント数など）などについてもすべて初期化されますので、本機を廃棄処分する場合や他の人に譲り渡す場合に行ってください。**

ご注意 ※ 初期化をすると初期化前の状態に戻すことはできませんのでご注意ください。

1 設定を押し、▲·▼と決定で「初期設定」⇨「設定の初期化」の順に進む



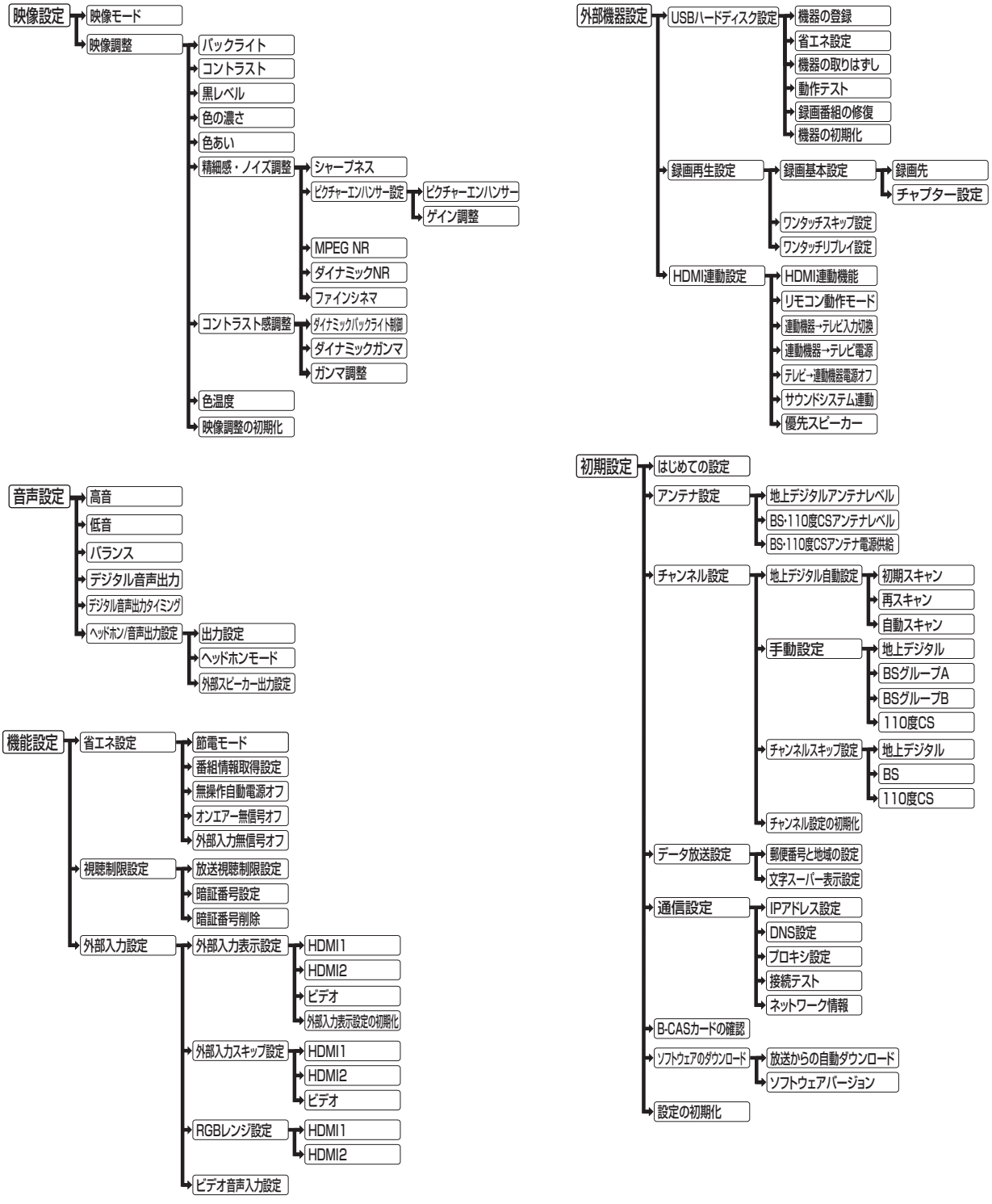
2 初期化する場合は◀·▶で「はい」を選び、決定を押す



3 初期化終了の画面が表示されたら、電源を切る

設定メニュー 一覧

- 設定メニュー 一覧を下図に示します。
- メニューに表示される項目や項目名、選択できる項目などは、設定状態や接続機器の有無などによって変わり、選択できない項目はメニュー画面で薄くなって表示されます。
- 「映像設定」のメニューは、「映像モード」で「あざやか」を選んでいる場合の内容です。



ソフトウェアを更新する

ソフトウェアの更新機能について

- 本機は、内部に組み込まれたソフトウェア（制御プログラム）で動作するようになっています。
- お買い上げ後、より快適な環境でお使いいただくために、ソフトウェアを更新する場合があります。
- 更新用のソフトウェアはBSデジタルや地上デジタルの放送電波で送られてきます。本機は、放送電波で送られてくる更新用のソフトウェアを自動的にダウンロードし、内部ソフトウェアを自動的に更新する機能を備えています。
- ソフトウェアダウンロード情報をホームページ（http://www.toshiba.co.jp/regza/support/）でお知らせしています。
  - 放送電波を利用したソフトウェアのダウンロードは、都度、限られた日時に行われます。
- ソフトウェアの更新中は電源プラグを抜かないでください。ソフトウェアの更新が正常に行われず、本機が起動しなくなるおそれがあります。
  - ソフトウェアの更新中は「電源」表示が緑色と赤色に交互に点灯します。

ソフトウェアの自動ダウンロードについて

- 「放送からの自動ダウンロード」の設定を「する」（お買い上げ時の設定）にしておき、日常的にデジタル放送を視聴し、視聴しないときにも電源プラグをコンセントに差し込んだままにしておけば、特別に意識する必要はありません。
  常に最新のソフトウェアで使用することができます。更新用のソフトウェアがある場合は、ダウンロード情報が放送電波で送られます。本機は、地上デジタル放送またはBSデジタル放送を視聴しているときにダウンロード情報を取得します。（情報を確認する操作はありません）
- 「放送からの自動ダウンロード」は、地上デジタルまたはBSデジタル放送電波からのダウンロードに対応します。ご使用の環境に合わせてソフトウェアの更新を行います。
- 更新用ソフトウェアの自動ダウンロードと自動更新は、本機の電源が「待機」（リモコンで電源を切った状態）のときに、放送電波で行われます。

自動ダウンロードの設定を変更する

1 設定 を押し、▲·▼と 決定 で「初期設定」⇨「ソフトウェアのダウンロード」⇨「放送からの自動ダウンロード」の順に進む

2 ▲·▼で「する」または「しない」を選び、決定 を押す

- 青 を押すと、放送電波でのダウンロード予定を一覧で確認することができます。

ソフトウェアのバージョンを確認するには

1 サブメニュー を押し、▲·▼と 決定 で「その他の操作」⇨「ソフトウェアバージョン」の順に進む

- 設定 ⇨「初期設定」⇨「ソフトウェアのダウンロード」⇨「ソフトウェアバージョン」でも確認できます。
- ソフトウェアのバージョンが表示されます。

例



お知らせ

- 電源プラグがコンセントから抜かれていると、自動ダウンロードができないため、ソフトウェアの自動更新は行われません。
- ダウンロードによって、一部の設定内容がお買い上げ時の状態に戻ったり、予約やお知らせが削除されたりする場合があります。
- 悪天候などでダウンロードが取り消された場合は、「本機に関するお知らせ」でお知らせします。
- テレビの状態によっては、ソフトウェアの更新が行われない場合があります。

用語

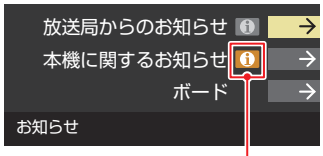
■ **ダウンロード**
放送波を使って、ソフトウェアなどを端末（この場合は本機）に転送することです。

お知らせを見る

- お知らせには、「放送局からのお知らせ」、「本機に関するお知らせ」、「ボード」の3種類があります。
- 未読のお知らせ（「ボード」を除きます）があると、画面表示を押したときに、画面に「お知らせアイコン」が表示されます。96

1 サブメニューを押し、▲·▼と決定で「その他の操作」⇨「お知らせ」の順に進む

2 ▲·▼でお知らせの種類を選び、決定を押す



未読のお知らせはオレンジ色で表示されます。

- **放送局からのお知らせ**…デジタル放送局からのお知らせです。
- **本機に関するお知らせ**…本機が発行したお知らせです。
- **ボード**……110度CSデジタル放送の視聴者に向けたお知らせです。

3 読みたいお知らせを▲·▼で選び、決定を押す

- 選択したお知らせの内容が表示されます。

画面に「本機のお知らせを確認」が表示されたときは



❶ 青を押す

- 「本機に関するお知らせ」が表示されます。
- お知らせが複数件ある場合は、「本機に関するお知らせ」一覧が表示されます。▲·▼で確認するお知らせを選び、決定を押して表示させます。

「本機に関するお知らせ」を削除するには

※ 削除できるのは「本機に関するお知らせ」だけです。

❶「本機に関するお知らせ」の画面で、青を押す

❷ ◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

※ 本機に関するお知らせがすべて削除されます。

お知らせ

■「お知らせ」について

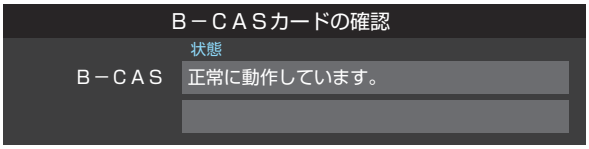
- 「放送局からのお知らせ」は、地上デジタル放送が7通まで記憶され、BSデジタル放送と110度CSデジタル放送は、合わせて24通まで記憶されます。放送局の運用によっては、それより少ない場合もあります。記憶できる数を超えて受信した場合は、古いものから順に削除されます。
- 「本機に関するお知らせ」は、既読の古いものから順に削除される場合があります。
- 「お知らせアイコン」は、未読のお知らせが1件でも残っていると表示されます。
- 「ボード」は110度CSデジタル放送のそれぞれに対し、今送信されているものが50通まで表示されます。

B-CASカード情報を確認する

- B-CASカードの状態やID番号などをテレビ画面で確認することができます。

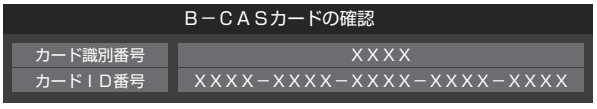
1 設定を押し、▲·▼と決定で「初期設定」⇨「B-CASカードの確認」の順に進む

- B-CASカードの状態確認結果が表示されます。



2 決定を押す

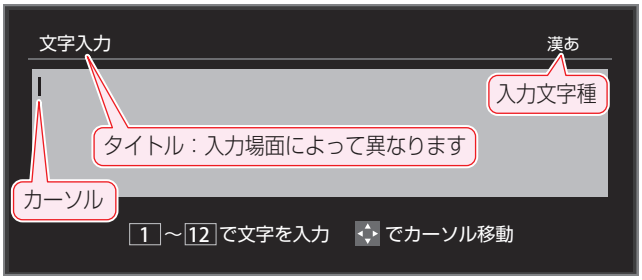
- B-CASカードの情報が表示されます。



3 情報を確認したら、戻るを押す

文字を入力する

● 番組検索のキーワード指定で、新しいキーワードを登録する場面などで文字入力画面が表示されます。



1 1～12で文字を入力する

● 携帯電話と同様の操作で文字を入力します。

入力例：がっこう

➡ 2、10、4(6回)、2(5回)、1(3回)
が　っ　こ　う

「っ」の別の入力方法➡ 4(3回)、10(2回)
っ

● 文字に続けて10を押せば、濁点(゛)や半濁点(゜)の入力および小文字変換ができます。

● 同じボタンに割り当てられた文字を続けて入力する場合は、次の文字の前に▶を押します。

入力例：あい ➡ 1、▶、1(2回)
あ　い

● 入力文字の種類を変えるときは、青(文字切換)を押します

● 文字を挿入するには、挿入する場所を▲・▼・◀・▶で選んで入力します。

● スペースを入力するときは、緑を押します。

文字を削除するには

● 1文字を削除するには、赤を短く押します。
カーソルの右に文字がない場合は、カーソルの左の1文字が削除されます。カーソルの右に文字がある場合は、カーソルの右の1文字が削除されます。

● 文字をまとめて削除するには、赤を押し続けます。
カーソルの右に文字列がない場合は、文字がすべて削除されます。カーソルの右に文字列がある場合は、カーソルより右の文字がすべて削除されます。

2 以下の操作で文字を確定する

● 漢字に変換しないときは、決定を押す

● 漢字に変換するときは、▼を繰り返し押し、希望の漢字が見つかったら決定を押す

- 希望する漢字に変換されない場合は、変換する範囲を◀・▶で変え、▲・▼で再度変換します。

3 すべての入力が終わったら、決定を押す

● 文字入力画面が表示される前の操作場面に戻ります。

文字切換(入力文字種の切り換え)

「漢あ」	漢字変換	ひらがなや漢字を入力できます。
「カナ」	全角カナ	カタカナを入力できます。
「ａＡ」	全角英字	全角の英字を入力できます。
「abAB」	半角英字	半角の英字を入力できます。
「１２」	全角数字	全角の数字を入力できます。
「1234」	半角数字	半角の数字を入力できます。
「全角記号」	全角記号	全角の記号を入力できます。
「半角記号」	半角記号	半角の記号を入力できます。

● 文字入力の場面によっては、使用できる入力文字種が少なかったり、切り換えられなかったりすることがあります。

● 入力文字種が「全角記号」、「半角記号」のときには、入力したい記号を文字入力画面から選びます。

入力文字一覧

リモコン	入力文字種			
	漢字変換	全角カナ	英字	数字
1	あ→い→う→え→お→あ→い→う→え→お	ア→イ→ウ→エ→オ→ア→イ→ウ→エ→オ	1→2→3→4→5→6→7→8→9→0	1
2	か→き→く→け→こ	カ→キ→ク→ケ→コ→カ→ケ	a→b→c→A→B→C	2
3	さ→し→す→せ→そ	サ→シ→ス→セ→ソ	d→e→f→D→E→F	3
4	た→ち→つ→て→と→っ	タ→チ→ツ→テ→ト→ッ	g→h→i→G→H→I	4
5	な→に→ぬ→ね→の	ナ→ニ→ヌ→ネ→ノ	j→k→l→J→K→L	5
6	は→ひ→ふ→へ→ほ	ハ→ヒ→フ→ヘ→ホ	m→n→o→M→N→O	6
7	ま→み→む→め→も	マ→ミ→ム→メ→モ	p→q→r→s→P→Q→R→S	7
8	や→ゆ→よ→や→ゆ→よ	ヤ→ユ→ヨ→ヤ→ユ→ヨ	t→u→v→T→U→V	8
9	ら→り→る→れ→ろ	ラ→リ→ル→レ→ロ	w→x→y→z→W→X→Y→Z	9
10	゛→゜→小文字変換	゛→゜→小文字変換	小文字変換	0
11	わ→を→ん→わ→、→。→ー	ワ→ヲ→ン→ワ→、→。→ー	※1	*
12	※2 逆方向へ入力	※2 逆方向へ入力	※2 逆方向へ入力	#

● 最後の候補まで行くと、次は最初の候補に戻ります。

※1 全角英字の場合……。→／→：→ー→＿→～→@
半角英字の場合……. → / → : → - → _ → ~ → @

※2 文字入力変換中に文字を通り過ぎたときに、逆方向へ戻します。

お知らせ

● 入力した文字は、次のように表示されます。
入力中の文字：黄色背景／未確定の文字：白色背景／漢字変換候補選択中の文字：黒色背景／確定した文字：背景なし

● 確定せずに変換できるのは4文節までです。4文節以上のときは、確定してから残りを変換してください。

● 漢字候補選択時に戻るを押せば、その文節を未変換状態に戻すことができます。

アイコン一覧

番組についてのアイコン

アイコン	説　明	アイコン	説　明
テレビ	テレビ放送	SD:480p	放送フォーマットが480pのデジタル標準テレビ放送
ラジオ	ラジオ放送	信号切換	複数の映像、または音声またはデータがある番組
データ	データ放送	年齢	視聴年齢制限が設定されている番組。
16:9	画面の横と縦の比が16：9の番組の放送	ダビング	録画回数が制限されている番組
4:3	画面の横と縦の比が4：3の番組の放送	デジタルコピー可	デジタル録画ができる番組
ステレオ	ステレオ音声放送	デジタルコピー¥	有料でデジタル録画ができる番組
サラウンド	サラウンドステレオ放送	デジタルコピーX	デジタル録画ができない番組
二重音声	二重音声放送	光デジタルコピー可	光デジタル録音ができる番組
字	字幕放送	光デジタルコピー1	1回だけ光デジタル録音ができる番組
MV	マルチビューサービス（複数の映像・音声があり、映像・音声が連動して切り換わる番組）	光デジタルコピー¥	有料で光デジタル録音ができる番組
HD	デジタルハイビジョン放送	光デジタルコピーX	光デジタル録音ができない番組
HD:1080i	放送フォーマットが1080iのデジタルハイビジョン放送	アナログコピー可	アナログ録画ができる番組
HD:720p	放送フォーマットが720pのデジタルハイビジョン放送	アナログコピー¥	有料でアナログ録画ができる番組
SD	デジタル標準テレビ放送	アナログコピーX	アナログ録画ができない番組
SD:480i	放送フォーマットが480iのデジタル標準テレビ放送		

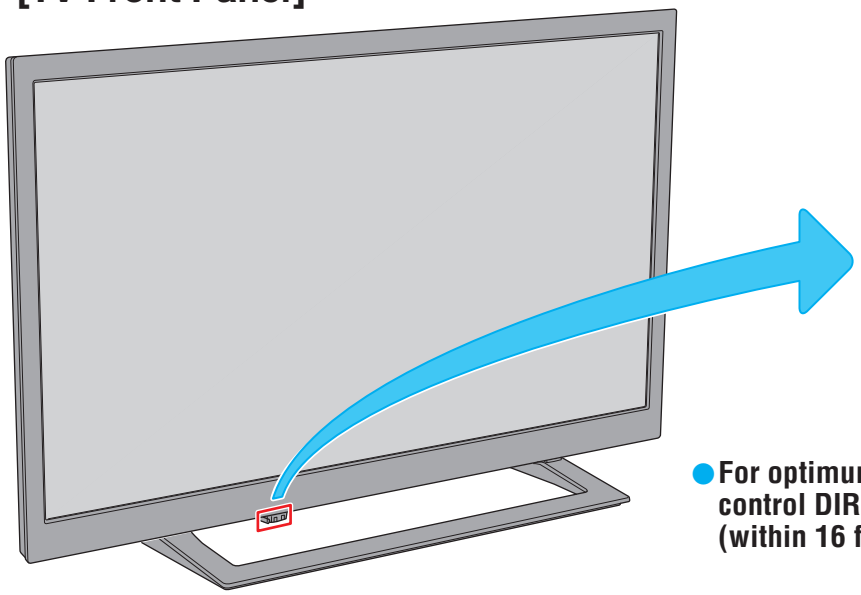
● ダビング・コピー関係のアイコンの中には、本機の機能とは無関係に番組の情報として表示されるものがあります。

お知らせ、予約、その他についてのアイコン

アイコン	説　明	アイコン	説　明
	録画予約		録画番組が「保護」対象
	連ドラ予約		録画番組が「上書き」対象
	視聴予約		未読の「お知らせ」
	録画中		既読の「お知らせ」
	録画準備中 録画の約1分前に表示されます。	データ取得中	データの取得中です。
	録画確認中 前番組の放送延長などで録画番組の放送時間が変更されたときなどに表示されます。		非リンク型サービス（通信番組）39
	連ドラ予約番組の追跡結果や放送時間変更で、予約が重なったときなどに表示されます。		SSLなどの暗号通信をしている場合39

Basic Operations

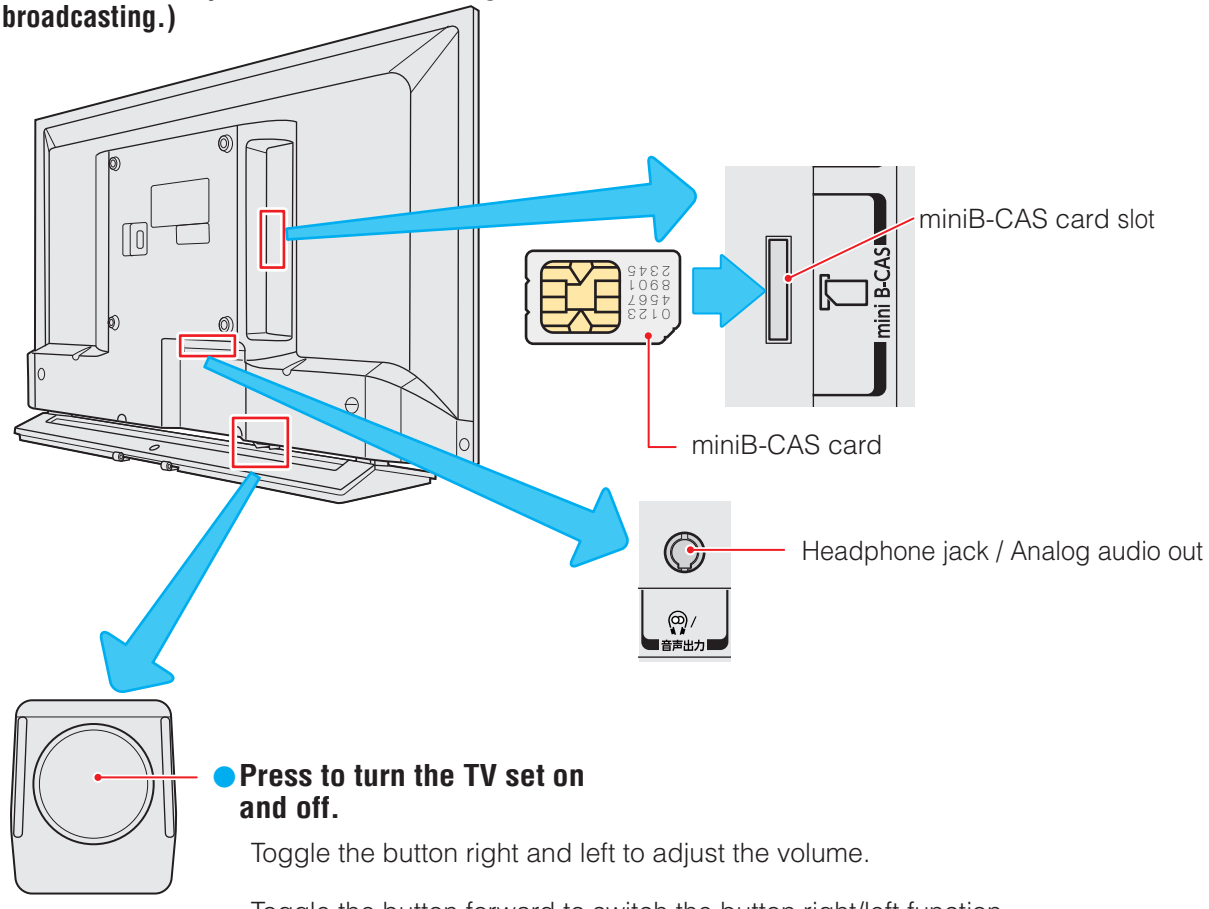
[TV Front Panel]



- **For optimum performance, aim the remote control DIRECTLY at the TV remote sensor. (within 16 ft from the TV set)**

[TV Rear Panel]

- **To view digital broadcasting programs, insert the miniB-CAS card into the card slot. (Without miniB-CAS card, you CANNOT receive digital broadcasting.)**



- **Press to turn the TV set on and off.**

  Toggle the button right and left to adjust the volume.

  Toggle the button forward to switch the button right/left function.

- For more information on operations, safety instructions, maintenance, etc, please contact your local dealer.

Basic Operations つづき

[Remote controller]

Input selection button

● **For selecting Digital terrestrial broadcasting programs.**

● **For selecting program channels.**

Channels sequential access button (Up / Down)

● **For exiting menus or EPG mode.**

● **For returning to the previous screen when in menu or EPG mode.**



Power button (ON/STANDBY)

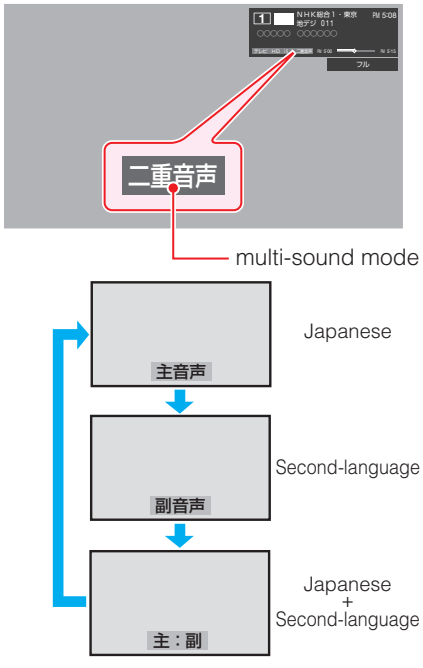
● **For selecting Digital satellite broadcasting programs.**

Sound volume adjustment button

EPG button

● **For accessing to the Electronic Program Guide (EPG).**
EPG provides you with a chart of the schedule of all available digital channels.

Multi-sound mode selection button



画面サイズについて

- 選択できる画面サイズは下表のとおりです。
- 信号フォーマットについては、「本機で対応している HDMI入力信号フォーマット」101 をご覧ください。

放送番組やビデオ入力端子からの映像を見ているとき

映像の種類	選択できる画面サイズ
デジタル放送の4：3の映像(480p、480i)、映像入力端子	ワイド、ズーム、映画字幕、フル、ノーマル
デジタル放送の16：9の映像	ワイド、ズーム、フル • 画面サイズを変更した番組の放送中は、選んだ画面サイズが保持されます。番組終了後、選局操作をすると「フル」に戻ります。 • 電源入／切で「フル」に戻ります。

HDMI入力端子からの映像を見ているとき

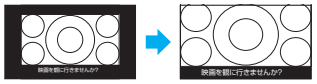
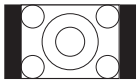
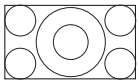
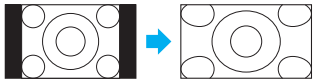
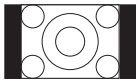
映像や信号フォーマットの種類	選択できる画面サイズ
480i、480p	ワイド、ズーム、映画字幕、フル、ノーマル、Dot By Dot
VGA、SVGA、720p	ワイド、ズーム、フル、ノーマル、Dot By Dot
XGA、WXGA	ワイド、ズーム、フル、Dot By Dot
SXGA、1080i、1080p	ワイド、ズーム、フル、ノーマル

映像モードを「ゲーム」にしているとき

入力端子	選択できる画面サイズ
映像入力端子、HDMI入力端子(SXGA、1080i、1080p)	ゲームフル、ゲームノーマル
HDMI入力端子(480i、480p、VGA、SVGA、720p)	ゲームフル、ゲームノーマル、Dot By Dot
HDMI入力端子(XGA、WXGA)	ゲームフル、Dot By Dot

画面サイズについて つづき

画面の見えかたについて

入力	画面サイズのモード	画面の見えかた	説　　明
4:3	ワイド	※1 	4:3の映像をワイド画面で楽しむモードです。画面左右の端にいくほど映像が引き伸ばされます。
	ズーム	※1 	上下が黒い帯になっている映画などのワイド映像（レターボックス「LB」）を拡大して楽しむモードです。
	映画字幕	※1 	レターボックスのワイド映像の下に字幕がはいっている場合に、字幕を隠れにくくするモードです。
	フル	※1 	DVDソフトなどのスクイーズ映像（縦に伸びて見える映像）を、ワイド映像で表示するモードです。
	ノーマル		4:3の映像をそのままの横と縦の比で表示するモードです。
16:9	フル		16:9の映像を画面いっぱいに表示するモードです。
	ワイド※2	※3 	左右に帯（黒や模様など）のある16:9の映像をワイド画面で楽しむモードです。画面左右の端にいくほど映像が引き伸ばされます。
	ズーム※2	※3 	上下左右に帯（帯も映像として送られています）のある16:9の映像をワイド画面で楽しむモードです。
ゲーム	ゲームフル	※4 	ゲーム映像をテレビ画面いっぱいに拡大して表示するモードです。
	ゲームノーマル		ゲーム映像をそのままの横と縦の比で表示するモードです。 （図は4:3の例です）
HDMI	Dot By Dot		入力信号の解像度のまま画面に表示するモードです。映像のない部分は黒く表示されます。

※1 左側の図は画面サイズのモードを「ノーマル」にした場合の見えかたです。
※2 デジタル放送のハイビジョン放送と標準画質放送の16:9の映像で切り換えることができます。
※3 左側の図は画面サイズのモードを「フル」にした場合の見えかたです。
※4 左側の図は画面サイズのモードを「ゲームノーマル」にした場合の見えかたです。

お知らせ

- 本機は、各種の画面サイズのモード切換機能を備えています。テレビ番組等のソフトの映像比率と異なるモードを選択すると、本来の映像とは見えかたが異なります。
- 視聴する映像のフォーマットと画面サイズの組み合わせによっては、周囲の映像が隠れたり、画面の周囲が黒で表示されたり、左右の端がちらついたりすることがあります。また、放送画面に表示される選択項目を選ぶ際に枠がずれて表示されることがあります。
- 4:3の映像を「ワイド」などを利用して画面いっぱいに表示させると、周辺画像が一部見えなくなったり、変形して見えたりします。制作者の意図を尊重した本来の映像は、「Dot By Dot」、「ノーマル」（16：9映像の場合は「フル」）でご覧になれます。
- テレビを公衆に視聴させることを目的として、喫茶店、ホテル等に置いて、画面サイズの切換機能を利用して画面の圧縮や引き伸ばしなどすると、著作権法上で保護されている権利を侵害するおそれがありますので、ご注意ください。

対応フォーマット

本機で対応しているHDMI入力信号フォーマット

- 「VESA規格」の欄に「○」が記載されている信号フォーマットは、本機のHDMI入力端子ではVESA規格に準拠する信号フォーマットにだけ対応しています。機器によっては本機の画面に映像が表示されないか、または正しく表示されないことがあります。その場合は下表に示した入力信号のどれかに合うようにパソコンや映像機器の設定を変更してください。一部のパソコンでは有効画面領域を「解像度」と表記する場合があり、その場合は本機が表示する解像度と異なることがあります。
- 下表すべての信号に対応していますが、パソコンを接続する場合はリフレッシュレートが60Hzの信号を推奨します。

フォーマット名	表示解像度	リフレッシュレート	水平周波数	ピクセルクロック	VESA規格
480i	720×480	59.94 / 60Hz	15.734 / 15.750kHz	27.000 / 27.027MHz	
480p	720×480	59.94 / 60Hz	31.469 / 31.500kHz	27.000 / 27.027MHz	
1080i	1920×1080	59.94 / 60Hz	33.716 / 33.750kHz	74.176 / 74.250MHz	
720p	1280×720	59.94 / 60Hz	44.955 / 45.000kHz	74.176 / 74.250MHz	
1080p	1920×1080	59.94 / 60Hz	67.433 / 67.500kHz	148.352 / 148.500MHz	
		23.98 / 24Hz	26.973 / 27.000kHz	74.176 / 74.250MHz	
		29.97 / 30Hz	33.716 / 33.750kHz	74.176 / 74.250MHz	
VGA	640×480	59.94 / 60Hz	31.469 / 31.500kHz	25.175 / 25.200MHz	○
SVGA	800×600	60Hz	37.879kHz	40.000MHz	○
XGA	1024×768	60Hz	48.363kHz	65.000MHz	○
WXGA	1280×768	60Hz	47.776kHz	79.500MHz	○
	1360×768	60Hz	47.712kHz	85.500MHz	○
SXGA	1280×1024	60Hz	63.981kHz	108.000MHz	○

ライセンスおよび商標などについて

- HDMI、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または、登録商標です。
- 本製品は、株式会社ACCESSのNetFront Browserを搭載しています。
  ACCESS、NetFrontは、日本国およびその他の国における株式会社ACCESSの商標または登録商標です。
  © 2009 ACCESS CO., LTD. All rights reserved.
- トスリンクは株式会社東芝の登録商標です。
- Blu-ray Disc™(ブルーレイディスク)、Blu-ray™(ブルーレイ)はブルーレイディスク アソシエーションの商標です。
- 本製品の一部分に Independent JPEG Groupが開発したモジュールが含まれています。
- この製品に含まれているソフトウェアをリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル、分解またはその他の方法で解析、及び変更することは禁止されています。
- **AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE**

  THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON COMMERCIAL USE OF A CONSUMER TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA,L.L.C. SEE HTTP://WWW.MPEGLA.COM
- This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)

本機で使われるソフトウェアのライセンス情報

本機に組み込まれたソフトウェアは、複数の独立したソフトウェアコンポーネントで構成され、個々のソフトウェアコンポーネントは、それぞれに当社または第三者の著作権が存在します。

本機は、第三者が規定したエンドユーザーライセンスアグリーメントあるいは著作権通知(以下「EULA」といいます)に基づきフリーソフトウェアとして配布されるソフトウェアコンポーネントを使用しております。

「EULA」の中には、実行形式のソフトウェアコンポーネントを配布する条件として、当該コンポーネントのソースコードの入手を可能にするよう求めているものがあります。当該「EULA」の対象となるソフトウェアコンポーネントに関しては、以下のホームページをご覧いただくようお願いいたします。

ホームページアドレス
http://www.toshiba.co.jp/regza/LZ1/eula/

また、本機のソフトウェアコンポーネントには、当社自身が開発もしくは作成したソフトウェアも含まれており、これらソフトウェア及びそれに付帯したドキュメント類には、当社の所有権が存在し、著作権法、国際条約条項及び他の準拠法によって保護されています。「EULA」の適用を受けない当社自身が開発もしくは作成したソフトウェアコンポーネントは、ソースコード提供の対象とはなりませんのでご了承ください。

ご購入いただいた本機は、製品として、弊社所定の保証をいたします。

ただし、「EULA」に基づいて配布されるソフトウェアコンポーネントには、著作権者または弊社を含む第三者の保証がないことを前提に、お客様がご自身でご利用になることが認められるものがあります。この場合、当該ソフトウェアコンポーネントは無償でお客様に使用許諾されますので、適用法令の範囲内で、当該ソフトウェアコンポーネントの保証は一切ありません。著作権やその他の第三者の権利等については、一切の保証がなく、"as is" (現状)の状態で、かつ、明示か黙示であるかを問わず一切の保証をつけないで、当該ソフトウェアコンポーネントが提供されます。ここでいう保証とは、市場性や特定目的適合性についての黙示の保証も含まれますが、それに限定されるものではありません。当該ソフトウェアコンポーネントの品質や性能に関するすべてのリスクはお客様が負うものとします。また、当該ソフトウェアコンポーネントに欠陥があるとわかった場合、それに伴う一切の派生費用や修理・訂正に要する費用は、当社は一切の責任を負いません。適用法令の定め、又は書面による合意がある場合を除き、著作権者や上記許諾を受けて当該ソフトウェアコンポーネントの変更・再配布を為し得る者は、当該ソフトウェアコンポーネントを使用したこと、又は使用できないことに起因する一切の損害についてなんらの責任も負いません。著作権者や第三者が、そのような損害の発生する可能性について知らされていた場合でも同様です。なお、ここでいう損害には、通常損害、特別損害、偶発損害、間接損害が含まれます(データの消失、又はその正確さの喪失、お客様や第三者が被った損失、他のソフトウェアとのインタフェースの不適合化等も含まれますが、これに限定されるものではありません)。当該ソフトウェアコンポーネントの使用条件や遵守いただかなければならない事項等の詳細は、各「EULA」をお読みください。

本機に組み込まれた「EULA」の対象となるソフトウェアコンポーネントは、以下のとおりです。これらソフトウェアコンポーネントをお客様自身でご利用いただく場合は、対応する「EULA」をよく読んでから、ご利用くださるようお願いいたします。
なお、各「EULA」は当社以外の第三者による規定であるため、原文(英文)を記載します。

対応ソフトウェアモジュール	
Linux Kernel busybox parted xfsprogs u-boot cryptsetup	Exhibit A
glibc Cairo libwebsockets gcc DirectFB libgpg-error libgcrypt LVM2	Exhibit B
fuse	Exhibit C
OpenSSL	Exhibit D
dtoa	Exhibit E

対応ソフトウェアモジュール	
MALI GPUS LINUX KERNEL DEVICE DRIVERS	Exhibit F
popt	Exhibit G
libuuid	Exhibit H
libjpeg	Exhibit I
libpng	Exhibit J
libfreetype	Exhibit K
Zlib	Exhibit L
libevent	Exhibit M
pixman	Exhibit N
cJSON	Exhibit O
icu	Exhibit P
Backbone.js	Exhibit Q

対応ソフトウェアモジュール	
Underscore.js	Exhibit R
libcurl	Exhibit S

本機で使われるフリーソフトウェアコンポーネントに関するエンドユーザーライセンスアグリーメント原文(英文)

Exhibit A

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2, June 1991

Copyright © 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.,
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit tousing it.(Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Lesser General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, notprice. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

本機で使われるフリーソフトウェアコンポーネントに関するエンドユーザーライセンスアグリーメント原文(英文) つづき

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the program's name and a brief idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>
This program is free software; you can redistribute it and/or modifyit under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.
This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.
You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc.,
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.
<signature of Ty Coon>, 1 April 1989
Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Lesser General Public License instead of this License.

Exhibit B

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1, February 1999

Copyright © 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc. 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software – to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages – typically libraries – of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite dierent from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fi ts its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in nonfree programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modifi ed version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modifi cation follow. Pay close attention to the dierence between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term

"modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making

modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modication are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) The modified work must itself be a software library.
b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.
(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modied work as a whole. If identiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machinereadable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by oering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source

along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a “work that uses the Library”. Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a “work that uses the Library” with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a “work that uses the library”. The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables..

When a “work that uses the Library” uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object le uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a “work that uses the Library” with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer’s own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable “work that uses the Library”, as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user’s computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.

c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the “work that uses the Library” must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library”, the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients’ exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns. Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and “any later version”, you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/ OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY “AS IS” WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most eectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the “copyright” line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library’s name and a brief idea of what it does.>
Copyright © <year> <name of author>
This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.
This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.
You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation,Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a “copyright disclaimer” for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names: Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob’ (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>,1 April 1990
Ty Coon,President of Vice

That’s all there is to it!

Exhibit C

GNU LIBRARY GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991
Copyright (C) 1991 Free Software Foundation, Inc.
59 Temple Place - Suite 330, Boston, MA 02111-1307, USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed. [This is the first released version of the library GPL. It is numbered 2 because it goes with version 2 of the ordinary GPL.]

本機で使われるフリーソフトウェアコンポーネントに関する エンドユーザーライセンスアグリーメント原文(英文) つづき

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Library General Public License, applies to some specially designated Free Software Foundation software, and to any other libraries whose authors decide to use it. You can use it for your libraries, too. When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things. To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights.

These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library, or if you modify it. For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link a program with the library, you must provide complete object files to the recipients so that they can relink them with the library, after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights. Our method of protecting your rights has two steps: (1) copyright the library, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library. Also, for each distributor's protection, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free library. If the library is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original version, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that companies distributing free software will individually obtain patent licenses, thus in effect transforming the program into proprietary software. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all. Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License, which was designed for utility programs. This license, the GNU Library General Public License, applies to certain designated libraries. This license is quite different from the ordinary one; be sure to read it in full, and don't assume that anything in it is the same as in the ordinary license.

The reason we have a separate public license for some libraries is that they blur the distinction we usually make between modifying or adding to a program and simply using it. Linking a program with a library, without changing the library, is in some sense simply using the library, and is analogous to running a utility program or application program. However, in a textual and legal sense, the linked executable is a combined work, a derivative of the original library, and the ordinary General Public License treats it as such.

Because of this blurred distinction, using the ordinary General Public License for libraries did not effectively promote software sharing, because most developers did not use the libraries. We concluded that weaker conditions might promote sharing better.

However, unrestricted linking of non-free programs would deprive the users of those programs of all benefit from the free status of the libraries themselves. This Library General Public License is intended to permit developers of non-free programs to use free libraries, while preserving your freedom as a user of such programs to change the free libraries that are incorporated in them. (We have not seen how to achieve this as regards changes in header files, but we have achieved it as regards changes in the actual functions of the Library.) The hope is that this will lead to faster development of free libraries.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, while the latter only works together with the library.

Note that it is possible for a library to be covered by the ordinary General Public License rather than by this special one.

GNU LIBRARY GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Library General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you". A "library" means a collection of software functions and/ or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables. The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) "Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library. Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library. You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) The modified work must itself be a software library.
b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful. (For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application.

Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.) These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library. In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices. Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy. This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange. If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables. When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.) Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also compile or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications. You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
b) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
c) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
d) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable. It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not cover ed by this License, and distribute such a combined library, provided th at the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works.

These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library. If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances. It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice. This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Library General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns. Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES. END OF TERMS AND CONDITIONS

Exhibit D

LICENSE ISSUES

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit. See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL License

Copyright (c) 1998-2011 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"

4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.

5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.

6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License ----------

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).

The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package. Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)" he word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).

4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

Exhibit E

Copyright (C) 1998, 1999 by Lucent Technologies

All Rights Reserved

Permission to use, copy, modify, and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that the copyright notice and this permission notice and warranty disclaimer appear in supporting documentation, and that the name of Lucent or any of its entities not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission.

LUCENT DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS. IN NO EVENT SHALL LUCENT OR ANY OF ITS ENTITIES BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

Exhibit F

GPLV2 LICENCE AGREEMENT FOR MALI GPUS LINUX KERNEL DEVICE DRIVERS SOURCE CODE

THE USE OF THE SOFTWARE ACCOMPANYING THIS DOCUMENT IS EXPRESSLY SUBJECT TO THE TERMS OF THE GNU GENERAL PUBLIC LICENSE VERSION 2 AS PUBLISHED BY THE FREE SOFTWARE FOUNDATION AND SET OUT BELOW FOR REFERENCE ("GPL LICENCE"). ARM IS ONLY WILLING TO DISTRIBUTE THE SOFTWARE TO YOU ON CONDITION THAT YOU ACCEPT ALL OF THE TERMS IN THE GPL LICENCE PRIOR TO MODIFYING OR DISTRIBUTING THE SOFTWARE.

Further for the period of three (3) years, ARM hereby offers to make available the source code of any part of the software program that is supplied as object code or in executable form.

GPL Licence

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA. Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

本機で使われるフリーソフトウェアコンポーネントに関するエンドユーザーライセンスアグリーメント原文(英文) つづき

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software–to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Lesser General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modication are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program).

Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein.

You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Exhibit G

Copyright (c) 1998 Red Hat Software

Permission is hereby granted, free of charge, to "any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software""), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS”, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE X CONSORTIUM BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of the X Consortium shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization from the X Consortium.

Exhibit H

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, and the entire permission notice in its entirety, including the disclaimer of warranties.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, ALL OF WHICH ARE HEREBY DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF NOT ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Exhibit I

The Independent JPEG Group’s JPEG software

README for release 6b of 27-Mar-1998

This distribution contains the sixth public release of the Independent JPEG Group’s free JPEG software. You are welcome to redistribute this software and to use it for any purpose, subject to the conditions under LEGAL ISSUES, below.

Serious users of this software (particularly those incorporating it into larger programs) should contact IJG at jpeg-info@uunet.uu.net to be added to our electronic mailing list. Mailing list members are notified of updates and have a chance to participate in technical discussions, etc.

This software is the work of Tom Lane, Philip Gladstone, Jim Boucher, Lee Crocker, Julian Minguillon, Luis Ortiz, George Phillips, Davide Rossi, Guido Vollbeding, Ge’ Weijers, and other members of the Independent JPEG Group.

IJG is not affiliated with the official ISO JPEG standards committee.

DOCUMENTATION ROADMAP

This file contains the following sections:

OVERVIEW	General description of JPEG and the IJG software.
LEGAL ISSUES	Copyright, lack of warranty, terms of distribution.
REFERENCES	Where to learn more about JPEG.
ARCHIVE LOCATIONS	Where to find newer versions of this software.
RELATED SOFTWARE	Other stuff you should get.
FILE FORMAT WARS	Software *not* to get.
TO DO	Plans for future IJG releases.

Other documentation files in the distribution are:

User documentation:

install.doc	How to configure and install the IJG software.
usage.doc	Usage instructions for cjpeg, djpeg, jpegtran, rdjpgcom, and wrjpgcom.
*.1	Unix-style man pages for programs (same info as usage.doc).
wizard.doc	Advanced usage instructions for JPEG wizards only.
change.log	Version-to-version change highlights.

Programmer and internal documentation:

libjpeg.doc	How to use the JPEG library in your own programs.
example.c	Sample code for calling the JPEG library.
structure.doc	Overview of the JPEG library’s internal structure.
filelist.doc	Road map of IJG files.
coderules.doc	Coding style rules --- please read if you contribute code.

Please read at least the files install.doc and usage.doc. Useful information can also be found in the JPEG FAQ (Frequently Asked Questions) article. See ARCHIVE LOCATIONS below to find out where to obtain the FAQ article.

If you want to understand how the JPEG code works, we suggest reading one or more of the REFERENCES, then looking at the documentation files (in roughly the order listed) before diving into the code.

OVERVIEW

This package contains C software to implement JPEG image compression and decompression. JPEG (pronounced “jay-peg”) is a standardized compression method for full-color and gray-scale images. JPEG is intended for compressing “real-world” scenes; line drawings, cartoons and other non-realistic images are not its strong suit. JPEG is lossy, meaning that the output image is not exactly identical to the input image. Hence you must not use JPEG if you have to have identical output bits. However, on typical photographic images, very good compression levels can be obtained with no visible change, and remarkably high compression levels are possible if you can tolerate a low-quality image. For more details, see the references, or just experiment with various compression settings.

This software implements JPEG baseline, extended-sequential, and progressive compression processes. Provision is made for supporting all variants of these processes, although some uncommon parameter settings aren’t implemented yet. For legal reasons, we are not distributing code for the arithmetic-coding variants of JPEG; see LEGAL ISSUES. We have made no provision for supporting the hierarchical or lossless processes defined in the standard.

We provide a set of library routines for reading and writing JPEG image files, plus two sample applications “cjpeg” and “djpeg”, which use the library to perform conversion between JPEG and some other popular image file formats. The library is intended to be reused in other applications.

In order to support file conversion and viewing software, we have included considerable functionality beyond the bare JPEG coding/decoding capability; for example, the color quantization modules are not strictly part of JPEG decoding, but they are essential for output to colormapped file formats or colormapped displays. These extra functions can be compiled out of the library if not required for a particular application. We have also included “jpegtran”, a utility for lossless transcoding between different JPEG processes, and “rdjpgcom” and “wrjpgcom”, two simple applications for inserting and extracting textual comments in JFIF files.

The emphasis in designing this software has been on achieving portability and flexibility, while also making it fast enough to be useful. In particular, the software is not intended to be read as a tutorial on JPEG. (See the REFERENCES section for introductory material.) Rather, it is intended to be reliable, portable, industrial-strength code. We do not claim to have achieved that goal in every aspect of the software, but we strive for it.

We welcome the use of this software as a component of commercial products. No royalty is required, but we do ask for an acknowledgement in product documentation, as described under LEGAL ISSUES.

LEGAL ISSUES

In plain English:

1. We don’t promise that this software works. (But if you find any bugs, please let us know!)

2. You can use this software for whatever you want. You don’t have to pay us.

3. You may not pretend that you wrote this software. If you use it in a program, you must acknowledge somewhere in your documentation that you’ve used the IJG code.

In legalese:

The authors make NO WARRANTY or representation, either express or implied, with respect to this software, its quality, accuracy, merchantability, or fitness for a particular purpose. This software is provided “AS IS”, and you, its user, assume the entire risk as to its quality and accuracy.

This software is copyright (C) 1991-1998, Thomas G. Lane. All Rights Reserved except as specified below.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this software (or portions thereof) for any purpose, without fee, subject to these conditions:

(1) If any part of the source code for this software is distributed, then this README file must be included, with this copyright and no-warranty notice unaltered; and any additions, deletions, or changes to the original files must be clearly indicated in accompanying documentation.

(2) If only executable code is distributed, then the accompanying documentation must state that “this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group”.

(3) Permission for use of this software is granted only if the user accepts full responsibility for any undesirable consequences; the authors accept NO LIABILITY for damages of any kind.

These conditions apply to any software derived from or based on the IJG code, not just to the unmodified library. If you use our work, you ought to acknowledge us.

Permission is NOT granted for the use of any IJG author’s name or company name in advertising or publicity relating to this software or products derived from it. This software may be referred to only as “the Independent JPEG Group’s software”.

We specifically permit and encourage the use of this software as the basis of commercial products, provided that all warranty or liability claims are assumed by the product vendor.

ansi2knr.c is included in this distribution by permission of L. Peter Deutsch, sole proprietor of its copyright holder, Aladdin Enterprises of Menlo Park, CA. ansi2knr.c is NOT covered by the above copyright and conditions, but instead by the usual distribution terms of the Free Software Foundation; principally, that you must include source code if you redistribute it. (See the file ansi2knr.c for full details.) However, since ansi2knr.c is not needed as part of any program generated from the IJG code, this does not limit you more than the foregoing paragraphs do.

The Unix configuration script “configure” was produced with GNU Autoconf.

It is copyright by the Free Software Foundation but is freely distributable.

The same holds for its supporting scripts (config.guess, config.sub, ltconfig, ltmain.sh). Another support script, install-sh, is copyright by M.I.T. but is also freely distributable.

It appears that the arithmetic coding option of the JPEG spec is covered by patents owned by IBM, AT&T, and Mitsubishi. Hence arithmetic coding cannot legally be used without obtaining one or more licenses. For this reason, support for arithmetic coding has been removed from the free JPEG software. (Since arithmetic coding provides only a marginal gain over the unpatented Huffman mode, it is unlikely that very many implementations will support it.) So far as we are aware, there are no patent restrictions on the remaining code.

The IJG distribution formerly included code to read and write GIF files.

To avoid entanglement with the Unisys LZW patent, GIF reading support has been removed altogether, and the GIF writer has been simplified to produce “uncompressed GIFs”. This technique does not use the LZW algorithm; the resulting GIF files are larger than usual, but are readable by all standard GIF decoders.

We are required to state that

“The Graphics Interchange Format(c) is the Copyright property of CompuServe Incorporated. GIF(sm) is a Service Mark property of CompuServe Incorporated.”

REFERENCES

We highly recommend reading one or more of these references before trying to understand the innards of the JPEG software.

The best short technical introduction to the JPEG compression algorithm is Wallace, Gregory K. “The JPEG Still Picture Compression Standard”, Communications of the ACM, April 1991 (vol. 34 no. 4), pp. 30-44.

(Adjacent articles in that issue discuss MPEG motion picture compression, applications of JPEG, and related topics.) If you don’t have the CACM issue handy, a PostScript file containing a revised version of Wallace’s article is available at ftp://ftp.uu.net/graphics/jpeg/wallace.ps.gz. The file (actually a preprint for an article that appeared in IEEE Trans. Consumer Electronics) omits the sample images that appeared in CACM, but it includes corrections and some added material. Note: the Wallace article is copyright ACM and IEEE, and it may not be used for commercial purposes.

A somewhat less technical, more leisurely introduction to JPEG can be found in “The Data Compression Book” by Mark Nelson and Jean-loup Gailly, published by M&T Books (New York), 2nd ed. 1996, ISBN 1-55851-434-1. This book provides good explanations and example C code for a multitude of compression methods including JPEG. It is an excellent source if you are comfortable reading C code but don’t know much about data compression in general. The book’s JPEG sample code is far from industrial-strength, but when you are ready to look at a full implementation, you’ve got one here...

The best full description of JPEG is the textbook “JPEG Still Image Data Compression Standard” by William B. Pennebaker and Joan L. Mitchell, published by Van Nostrand Reinhold, 1993, ISBN 0-442-01272-1. Price US$59.95, 638 pp. The book includes the complete text of the ISO JPEG standards (DIS 10918-1 and draft DIS 10918-2). This is by far the most complete exposition of JPEG in existence, and we highly recommend it.

The JPEG standard itself is not available electronically; you must order a paper copy through ISO or ITU. (Unless you feel a need to own a certified official copy, we recommend buying the Pennebaker and Mitchell book instead; it’s much cheaper and includes a great deal of useful explanatory material.) In the USA, copies of the standard may be ordered from ANSI Sales at (212) 642-4900, or from Global Engineering Documents at (800) 854-7179. (ANSI doesn’t take credit card orders, but Global does.) It’s not cheap: as of 1992, ANSI was charging $95 for Part 1 and $47 for Part 2, plus 7% shipping/handling. The standard is divided into two parts, Part 1 being the actual specification, while Part 2 covers compliance testing methods. Part 1 is titled “Digital Compression and Coding of Continuous-tone Still Images, Part 1: Requirements and guidelines” and has document numbers ISO/IEC IS 10918-1, ITU-T T.81. Part 2 is titled “Digital Compression and Coding of Continuous-tone Still Images, Part 2: Compliance testing” and has document numbers ISO/IEC IS 10918-2, ITU-T T.83.

本機で使われるフリーソフトウェアコンポーネントに関する エンドユーザーライセンスアグリーメント原文(英文) つづき

Some extensions to the original JPEG standard are defined in JPEG Part 3, a newer ISO standard numbered ISO/IEC IS 10918-3 and ITU-T T.84. IJG currently does not support any Part 3 extensions.

The JPEG standard does not specify all details of an interchangeable file format. For the omitted details we follow the "JFIF" conventions, revision 1.02. A copy of the JFIF spec is available from:

Literature Department
C-Cube Microsystems, Inc.
1778 McCarthy Blvd.
Milpitas, CA 95035
phone (408) 944-6300, fax (408) 944-6314

A PostScript version of this document is available by FTP at ftp://ftp.uu.net/graphics/jpeg/jfif.ps.gz. There is also a plain text version at ftp://ftp.uu.net/graphics/jpeg/jfif.txt.gz, but it is missing the figures.

The TIFF 6.0 file format specification can be obtained by FTP from ftp://ftp.sgi.com/graphics/tiff/TIFF6.ps.gz. The JPEG incorporation scheme found in the TIFF 6.0 spec of 3-June-92 has a number of serious problems. IJG does not recommend use of the TIFF 6.0 design (TIFF Compression tag 6). Instead, we recommend the JPEG design proposed by TIFF Technical Note #2 (Compression tag 7). Copies of this Note can be obtained from ftp.sgi.com or from ftp://ftp.uu.net/graphics/jpeg/. It is expected that the next revision of the TIFF spec will replace the 6.0 JPEG design with the Note's design. Although IJG's own code does not support TIFF/JPEG, the free libtiff library uses our library to implement TIFF/JPEG per the Note. libtiff is available from ftp://ftp.sgi.com/graphics/tiff/.

ARCHIVE LOCATIONS

The "official" archive site for this software is ftp.uu.net (Internet address 192.48.96.9). The most recent released version can always be found there in directory graphics/jpeg. This particular version will be archived as ftp://ftp.uu.net/graphics/jpeg/jpegsrc.v6b.tar.gz. If you don't have direct Internet access, UUNET's archives are also available via UUCP; contact help@uunet.uu.net for information on retrieving files that way.

Numerous Internet sites maintain copies of the UUNET files. However, only ftp.uu.net is guaranteed to have the latest official version.

You can also obtain this software in DOS-compatible "zip" archive format from the SimTel archives (ftp://ftp.simtel.net/pub/simtelnet/msdos/graphics/), or on CompuServe in the Graphics Support forum (GO CIS:GRAPHSUP), library 12 "JPEG Tools". Again, these versions may sometimes lag behind the ftp.uu.net release.

The JPEG FAQ (Frequently Asked Questions) article is a useful source of general information about JPEG. It is updated constantly and therefore is not included in this distribution. The FAQ is posted every two weeks to Usenet newsgroups comp.graphics. misc, news.answers, and other groups.

It is available on the World Wide Web at http://www.faqs.org/faqs/jpeg-faq/ and other news.answers archive sites, including the official news.answers archive at rtfm.mit.edu: ftp://rtfm.mit.edu/pub/usenet/news.answers/jpeg-faq/.

If you don't have Web or FTP access, send e-mail to mail-server@rtfm.mit.edu with body
send usenet/news.answers/jpeg-faq/part1
send usenet/news.answers/jpeg-faq/part2

RELATED SOFTWARE

Numerous viewing and image manipulation programs now support JPEG. (Quite a few of them use this library to do so.) The JPEG FAQ described above lists some of the more popular free and shareware viewers, and tells where to obtain them on Internet.

If you are on a Unix machine, we highly recommend Jef Poskanzer's free PBMPLUS software, which provides many useful operations on PPM-format image files. In particular, it can convert PPM images to and from a wide range of other formats, thus making cjpeg/djpeg considerably more useful. The latest version is distributed by the NetPBM group, and is available from numerous sites, notably ftp://wuarchive.wustl.edu/graphics/graphics/packages/NetPBM/. Unfortunately PBMPLUS/NETPBM is not nearly as portable as the IJG software is; you are likely to have difficulty making it work on any non-Unix machine.

A dierent free JPEG implementation, written by the PVRG group at Stanford, is available from ftp://havefun.stanford.edu/pub/jpeg/. This program is designed for research and experimentation rather than production use; it is slower, harder to use, and less portable than the IJG code, but it is easier to read and modify. Also, the PVRG code supports lossless JPEG, which we do not. (On the other hand, it doesn't do progressive JPEG.)

FILE FORMAT WARS

Some JPEG programs produce files that are not compatible with our library. The root of the problem is that the ISO JPEG committee failed to specify a concrete file format. Some vendors "filled in the blanks" on their own, creating proprietary formats that no one else could read. (For example, none of the early commercial JPEG implementations for the Macintosh were able to exchange compressed files.)

The file format we have adopted is called JFIF (see REFERENCES). This format has been agreed to by a number of major commercial JPEG vendors, and it has become the de facto standard. JFIF is a minimal or "low end" representation. We recommend the use of TIFF/JPEG (TIFF revision 6.0 as modified by TIFF Technical Note #2) for "high end" applications that need to record a lot of additional data about an image. TIFF/JPEG is fairly new and not yet widely supported, unfortunately.

The upcoming JPEG Part 3 standard defines a file format called SPIFF.

SPIFF is interoperable with JFIF, in the sense that most JFIF decoders should be able to read the most common variant of SPIFF. SPIFF has some technical advantages over JFIF, but its major claim to fame is simply that it is an official standard rather than an informal one. At this point it is unclear whether SPIFF will supersede JFIF or whether JFIF will remain the de-facto standard. IJG intends to support SPIFF once the standard is frozen, but we have not decided whether it should become our default output format or not. (In any case, our decoder will remain capable of reading JFIF indefinitely.)

Various proprietary file formats incorporating JPEG compression also exist. We have little or no sympathy for the existence of these formats. Indeed, one of the original reasons for developing this free software was to help force convergence on common, open format standards for JPEG files. Don't use a proprietary file format!

TO DO

The major thrust for v7 will probably be improvement of visual quality. The current method for scaling the quantization tables is known not to be very good at low Q values. We also intend to investigate block boundary smoothing, "poor man's variable quantization", and other means of improving quality-vs-file-size performance without sacrificing compatibility.

In future versions, we are considering supporting some of the upcoming JPEG Part 3 extensions --- principally, variable quantization and the SPIFF file format.

As always, speeding things up is of great interest.

Please send bug reports, offers of help, etc. to jpeg-info@uunet.uu.net.

TO DO

The major thrust for v7 will probably be improvement of visual quality. The current method for scaling the quantization tables is known not to be very good at low Q values. We also intend to investigate block boundary smoothing, "poor man's variable quantization", and other means of improving quality-vs-file-size performance without sacrificing compatibility.

In future versions, we are considering supporting some of the upcoming JPEG Part 3 extensions --- principally, variable quantization and the SPIFF file format.

As always, speeding things up is of great interest.

Please send bug reports, offers of help, etc. to jpeg-info@uunet.uu.net.

Exhibit J

This copy of the libpng notices is provided for your convenience. In case of any discrepancy between this copy and the notices in the file png.h that is included in the libpng distribution, the latter shall prevail.

COPYRIGHT NOTICE, DISCLAIMER, and LICENSE:

If you modify libpng you may insert additional notices immediately following this sentence.

libpng versions 1.2.6, August 15, 2004, through 1.2.32, September 18, 2008, are Copyright (c) 2004, 2006-2008 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-1.2.5 with the following individual added to the list of Contributing Authors

Cosmin Truta

libpng versions 1.0.7, July 1, 2000, through 1.2.5 - October 3, 2002, are Copyright (c) 2000-2002 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-1.0.6 with the following individuals added to the list of Contributing Authors

Simon-Pierre Cadieux
Eric S. Raymond
Gilles Vollant

and with the following additions to the disclaimer:

There is no warranty against interference with your enjoyment of the library or against infringement. There is no warranty that our efforts or the library will fulfill any of your particular purposes or needs. This library is provided with all faults, and the entire risk of satisfactory quality, performance, accuracy, and effort is with the user.

libpng versions 0.97, January 1998, through 1.0.6, March 20, 2000, are Copyright (c) 1998, 1999 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-0.96, with the following individuals added to the list of Contributing Authors:

Tom Lane
Glenn Randers-Pehrson
Willem van Schaik

libpng versions 0.89, June 1996, through 0.96, May 1997, are Copyright (c) 1996, 1997 Andreas Dilger Distributed according to the same disclaimer and license as libpng-0.88, with the following individuals added to the list of Contributing Authors:

John Bowler
Kevin Bracey
Sam Bushell
Magnus Holmgren
Greg Roelofs
Tom Tanner

libpng versions 0.5, May 1995, through 0.88, January 1996, are Copyright (c) 1995-1996 Guy Eric Schalnat, Group 42, Inc.

For the purposes of this copyright and license, "Contributing Authors" is defined as the following set of individuals:

Andreas Dilger
Dave Martindale
Guy Eric Schalnat
Paul Schmidt
Tim Wegner

libpng versions 0.5, May 1995, through 0.88, January 1996, are Copyright (c) 1995, 1996 Guy Eric Schalnat, Group 42, Inc.

For the purposes of this copyright and license, "Contributing Authors" is defined as the following set of individuals:

Andreas Dilger
Dave Martindale
Guy Eric Schalnat
Paul Schmidt
Tim Wegner

The PNG Reference Library is supplied "AS IS". The Contributing Authors and Group 42, Inc. disclaim all warranties, expressed or implied, including, without limitation, the warranties of merchantability and of fitness for any purpose. The Contributing Authors and Group 42, Inc. assume no liability for direct, indirect, incidental, special, exemplary, or consequential damages, which may result from the use of the PNG Reference Library, even if advised of the possibility of such damage.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this source code, or portions hereof, for any purpose, without fee, subject to the following restrictions:

1. The origin of this source code must not be misrepresented.

2. Altered versions must be plainly marked as such and must not be misrepresented as being the original source.

3. This Copyright notice may not be removed or altered from any source or altered source distribution.

The Contributing Authors and Group 42, Inc. specifically permit, without fee, and encourage the use of this source code as a component to supporting the PNG file format in commercial products. If you use this source code in a product, acknowledgment is not required but would be appreciated.

A "png_get_copyright" function is available, for convenient use in "about" boxes and the like:

printf("%s",png_get_copyright(NULL));

Also, the PNG logo (in PNG format, of course) is supplied in the files "pngbar.png" and "pngbar.jpg (88x31) and "pngnow.png" (98x31).

Libpng is OSI Certified Open Source Software. OSI Certified Open Source is a certification mark of the Open Source Initiative.

Glenn Randers-Pehrson
glennrp at users.sourceforge.net
September 18, 2008

Exhibit K

The FreeType Project LICENSE
2006-Jan-27
Copyright 1996-2002, 2006 by David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg
Introduction

The FreeType Project is distributed in several archive packages; some of them may contain, in addition to the FreeType font engine, various tools and contributions which rely on, or relate to, the FreeType Project.

This license applies to all files found in such packages, and which do not fall under their own explicit license. The license affects thus the FreeType font engine, the test programs, documentation and makefiles, at the very least.

This license was inspired by the BSD, Artistic, and IJG (Independent JPEG Group) licenses, which all encourage inclusion and use of free software in commercial and freeware products alike. As a consequence, its main points are that:

o We don't promise that this software works. However, we will be interested in any kind of bug reports. ('as is' distribution)

o You can use this software for whatever you want, in parts or full form, without having to pay us. ('royalty-free' usage)

o You may not pretend that you wrote this software. If you use it, or only parts of it, in a program, you must acknowledge somewhere in your documentation that you have used the FreeType code. ('credits')

We specifically permit and encourage the inclusion of this software, with or without modifications, in commercial products.

We disclaim all warranties covering The FreeType Project and assume no liability related to The FreeType Project.

Finally, many people asked us for a preferred form for a credit/disclaimer to use in compliance with this license. We thus encourage you to use the following text:

""

Portions of this software are copyright (C) <year> The FreeType Project (www.freetype. org). All rights reserved.

""

Please replace <year> with the value from the FreeType version you actually use.

Legal Terms

0. Definitions

Throughout this license, the terms 'package', 'FreeType Project', and 'FreeType archive' refer to the set of files originally distributed by the authors (David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg) as the 'FreeType Project', be they named as alpha, beta or final release. 'You' refers to the licensee, or person using the project, where 'using' is a generic term including compiling the project's source code as well as linking it to form a 'program' or 'executable'. This program is referred to as 'a program using the FreeType engine'.

This license applies to all files distributed in the original FreeType Project, including all source code, binaries and documentation, unless otherwise stated in the file in its original, unmodified form as distributed in the original archive. If you are unsure whether or not a particular file is covered by this license, you must contact us to verify this.

The FreeType Project is copyright (C) 1996-2000 by David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg. All rights reserved except as specified below.

1. No Warranty

THE FREETYPE PROJECT IS PROVIDED 'AS IS' WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. IN NO EVENT WILL ANY OF THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY DAMAGES CAUSED BY THE USE OR THE INABILITY TO USE, OF THE FREETYPE PROJECT.

2. Redistribution

This license grants a worldwide, royalty-free, perpetual and irrevocable right and license to use, execute, perform, compile, display, copy, create derivative works of, distribute and sublicense the FreeType Project (in both source and object code forms) and derivative works thereof for any purpose; and to authorize others to exercise some or all of the rights granted herein, subject to the following conditions:

o Redistribution of source code must retain this license file ('FTL.TXT') unaltered; any additions, deletions or changes to the original files must be clearly indicated in accompanying documentation. The copyright notices of the unaltered, original files must be preserved in all copies of source files.

o Redistribution in binary form must provide a disclaimer that states that the software is based in part of the work of the FreeType Team, in the distribution documentation. We also encourage you to put an URL to the FreeType web page in your documentation, though this isn't mandatory.

These conditions apply to any software derived from or based on the FreeType Project, not just the unmodified files. If you use our work, you must acknowledge us. However, no fee need be paid to us.

3. Advertising

Neither the FreeType authors and contributors nor you shall use the name of the other for commercial, advertising, or promotional purposes without specific prior written permission. We suggest, but do not require, that you use one or more of the following phrases to refer to this software in your documentation or advertising materials: 'FreeType Project', 'FreeType Engine', 'FreeType library', or 'FreeType Distribution'.

As you have not signed this license, you are not required to accept it. However, as the FreeType Project is copyrighted material, only this license, or another one contracted with the authors, grants you the right to use, distribute, and modify it. Therefore, by using, distributing, or modifying the FreeType Project, you indicate that you understand and accept all the terms of this license.

4. Contacts

There are two mailing lists related to FreeType:

o freetype@nongnu.org

Discusses general use and applications of FreeType, as well as future and wanted additions to the library and distribution. If you are looking for support, start in this list if you haven't found anything to help you in the documentation.

o freetype-devel@nongnu.org

Discusses bugs, as well as engine internals, design issues, specific licenses, porting, etc.

Our home page can be found at http://www.freetype.org

Exhibit L

(C) 1995-2013 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.

2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.

3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly jloup@gzip.org
Mark Adler madler@alumni.caltech.edu

If you use the zlib library in a product, we would appreciate *not* receiving lengthy legal documents to sign. The sources are provided for free but without warranty of any kind. The library has been entirely written by Jean-loup Gailly and Mark Adler; it does not include third-party code.

If you redistribute modified sources, we would appreciate that you include in the file ChangeLog history information documenting your changes. Please read the FAQ for more information on the distribution of modified source versions.

Exhibit M

Libevent is available for use under the following license, commonly known as the 3-clause (or "modified") BSD license:

Copyright (c) 2000-2007 Niels Provos <provos@citi.umich.edu>
Copyright (c) 2007-2012 Niels Provos and Nick Mathewson

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.
IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Portions of Libevent are based on works by others, also made available by them under the three-clause BSD license above. The copyright notices are available in the corresponding source files; the license is as above. Here's a list:

log.c:
Copyright (c) 2000 Dug Song <dugsong@monkey.org>
Copyright (c) 1993 The Regents of the University of California.
strlcpy.c:
Copyright (c) 1998 Todd C. Miller <Todd.Miller@courtesan.com>
win32select.c:
Copyright (c) 2003 Michael A. Davis <mike@datanerds.net>
evport.c:
Copyright (c) 2007 Sun Microsystems
ht-internal.h:
Copyright (c) 2002 Christopher Clark
minheap-internal.h:
Copyright (c) 2006 Maxim Yegorushkin <maxim.yegorushkin@gmail.com>

The arc4module is available under the following, sometimes called the "OpenBSD" license:

Copyright (c) 1996, David Mazieres <dm@uun.org>
Copyright (c) 2008, Damien Miller <djm@openbsd.org>

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND THE AUTHOR DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, DIRECT, INDIRECT, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

Exhibit N

Copyright 1987, 1988, 1989, 1998 The Open Group
Copyright 1987, 1988, 1989 Digital Equipment Corporation
Copyright 1999, 2004, 2008 Keith Packard
Copyright 2000 SuSE, Inc.
Copyright 2000 Keith Packard, member of The XFree86 Project, Inc.
Copyright 2004, 2005, 2007, 2008, 2009, 2010 Red Hat, Inc.
Copyright 2004 Nicholas Miell
Copyright 2005 Lars Knoll & Zack Rusin, Trolltech
Copyright 2005 Trolltech AS
Copyright 2007 Luca Barbato
Copyright 2008 Aaron Plattner, NVIDIA Corporation
Copyright 2008 Rodrigo Kumpera
Copyright 2008 André Tupinambá
Copyright 2008 Mozilla Corporation
Copyright 2008 Frederic Plourde
Copyright 2009, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.
Copyright 2009, 2010 Nokia Corporation

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice (including the next paragraph) shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

本機で使われるフリーソフトウェアコンポーネントに関するエンドユーザーライセンスアグリーメント原文(英文) つづき

Exhibit O

Copyright (c) 2009 Dave Gamble

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the “Software”), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS”, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Exhibit P

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright (c) 1995-2014 International Business Machines Corporation and others

All rights reserved.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the “Software”), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, provided that the above copyright notice(s) and this permission notice appear in all copies of the Software and that both the above copyright notice(s) and this permission notice appear in supporting documentation.

THE SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS”, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization of the copyright holder.

Exhibit Q

Copyright (c) 2010-2012 Jeremy Ashkenas, DocumentCloud

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the “Software”), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS”, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Exhibit R

Copyright (c) 2009-2012 Jeremy Ashkenas, DocumentCloud

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the “Software”), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS”, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Exhibit S

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright (c) 1996 - 2015, Daniel Stenberg, daniel@haxx.se. All rights reserved.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies.

THE SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS”, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization of the copyright holder.

NetFront Browser NX v3.0 のOSSコピーライト文(英文)

OSS Copyright of NetFront Browser NX v3.0

==========
This product may include derivative work of all or part of Webkit core Revision 149069 which is governed by the following license terms and conditions:

Copyright (C) 2005, 2006, 2007, 2008, 2009 Apple Inc. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY APPLE INC. AND ITS CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL APPLE INC. OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

GNU LIBRARY GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Copyright (C) 1991 Free Software Foundation, Inc.
51 Franklin St, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301, USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies
of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the library GPL. It is
numbered 2 because it goes with version 2 of the ordinary GPL.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Library General Public License, applies to some specially designated Free Software Foundation software, and to any other libraries whose authors decide to use it. You can use it for your libraries, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link a program with the library, you must provide complete object files to the recipients so that they can relink them with the library, after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

Our method of protecting your rights has two steps: (1) copyright the library, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

Also, for each distributor's protection, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free library. If the library is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original version, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that companies distributing free software will individually obtain patent licenses, thus in effect transforming the program into proprietary software. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License, which was designed for utility programs. This license, the GNU Library General Public License, applies to certain designated libraries. This license is quite different from the ordinary one; be sure to read it in full, and don't assume that anything in it is the same as in the ordinary license.

The reason we have a separate public license for some libraries is that they blur the distinction we usually make between modifying or adding to a program and simply using it. Linking a program with a library, without changing the library, is in some sense simply using the library, and is analogous to running a utility program or application program. However, in a textual and legal sense, the linked executable is a combined work, a derivative of the original library, and the ordinary General Public License treats it as such.

Because of this blurred distinction, using the ordinary General Public License for libraries did not effectively promote software sharing, because most developers did not use the libraries. We concluded that weaker conditions might promote sharing better.

However, unrestricted linking of non-free programs would deprive the users of those programs of all benefit from the free status of the libraries themselves. This Library General Public License is intended to permit developers of non-free programs to use free libraries, while preserving your freedom as a user of such programs to change the free libraries that are incorporated in them. (We have not seen how to achieve this as regards changes in header files, but we have achieved it as regards changes in the actual functions of the Library.) The hope is that this will lead to faster development of free libraries.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, while the latter only works together with the library.

Note that it is possible for a library to be covered by the ordinary General Public License rather than by this special one.
TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Library General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) The modified work must itself be a software library.

b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.

d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful. (For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

NetFront Browser NX v3.0 のOSSコピーライト文(英文) つづき

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a “work that uses the Library”. Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a “work that uses the Library” with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a “work that uses the library”. The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a “work that uses the Library” uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also compile or link a “work that uses the Library” with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer’s own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License.
You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable “work that uses the Library”, as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

b) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

c) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

d) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the “work that uses the Library” must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Library General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and “any later version”, you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY “AS IS” WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS
How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the “copyright” line and a pointer to where the full notice is found.

one line to give the library’s name and an idea of what it does.
Copyright (C) year name of author

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Library General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Library General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Library General Public License along with this library; if not, write to the
Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin St, Fifth Floor,
Boston, MA 02110-1301, USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a “copyright disclaimer” for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob’ (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

signature of Ty Coon, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice

That’s all there is to it!

BSD License

Copyright (C) 2009 Apple Inc. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY APPLE INC. AND ITS CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL APPLE INC. OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

==
This product may include derivative work of all or part of

FastMalloc.cpp

revision 87411 which is governed by the following license terms and conditions:

Copyright (c) 2005, 2007, Google Inc. All rights reserved.
Copyright (C) 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, 2011 Apple Inc. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
* Neither the name of Google Inc. nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

==
This product may include derivative work of all or part of

libpng version 1.5.17

which is governed by the following license terms and conditions:

This copy of the libpng notices is provided for your convenience. In case of any discrepancy between this copy and the notices in the file png.h that is included in the libpng distribution, the latter shall prevail.

COPYRIGHT NOTICE, DISCLAIMER, and LICENSE:

If you modify libpng you may insert additional notices immediately following this sentence.

This code is released under the libpng license.

libpng versions 1.2.6, August 15, 2004, through 1.6.3, July 18, 2013, are Copyright (c) 2004, 2006-2013 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-1.2.5 with the following individual added to the list of Contributing Authors

Cosmin Truta

libpng versions 1.0.7, July 1, 2000, through 1.2.5 - October 3, 2002, are Copyright (c) 2000-2002 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-1.0.6 with the following individuals added to the list of Contributing Authors

Simon-Pierre Cadieux
Eric S. Raymond
Gilles Vollant

and with the following additions to the disclaimer:

There is no warranty against interference with your enjoyment of the library or against infringement. There is no warranty that our efforts or the library will fulfill any of your particular purposes or needs. This library is provided with all faults, and the entire risk of satisfactory quality, performance, accuracy, and effort is with the user.

libpng versions 0.97, January 1998, through 1.0.6, March 20, 2000, are Copyright (c) 1998, 1999 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-0.96, with the following individuals added to the list of Contributing Authors:

Tom Lane
Glenn Randers-Pehrson
Willem van Schaik

libpng versions 0.89, June 1996, through 0.96, May 1997, are Copyright (c) 1996, 1997 Andreas Dilger
Distributed according to the same disclaimer and license as libpng-0.88, with the following individuals added to the list of Contributing Authors:

John Bowler
Kevin Bracey
Sam Bushell
Magnus Holmgren
Greg Roelofs
Tom Tanner

libpng versions 0.5, May 1995, through 0.88, January 1996, are Copyright (c) 1995, 1996 Guy Eric Schalnat, Group 42, Inc.

For the purposes of this copyright and license, “Contributing Authors” is defined as the following set of individuals:

Andreas Dilger
Dave Martindale
Guy Eric Schalnat
Paul Schmidt
Tim Wegner

NetFront Browser NX v3.0 のOSSコピーライト文(英文) つづき

The PNG Reference Library is supplied “AS IS”. The Contributing Authors and Group 42, Inc. disclaim all warranties, expressed or implied, including, without limitation, the warranties of merchantability and of fitness for any purpose. The Contributing Authors and Group 42, Inc. assume no liability for direct, indirect, incidental, special, exemplary, or consequential damages, which may result from the use of the PNG Reference Library, even if advised of the possibility of such damage.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this source code, or portions hereof, for any purpose, without fee, subject to the following restrictions:

1. The origin of this source code must not be misrepresented.

2. Altered versions must be plainly marked as such and must not be misrepresented as being the original source.

3. This Copyright notice may not be removed or altered from any source or altered source distribution.

The Contributing Authors and Group 42, Inc. specifically permit, without fee, and encourage the use of this source code as a component to supporting the PNG file format in commercial products. If you use this source code in a product, acknowledgment is not required but would be appreciated.

A “png_get_copyright” function is available, for convenient use in “about” boxes and the like:

```
printf("%s",png_get_copyright(NULL));
```

Also, the PNG logo (in PNG format, of course) is supplied in the files “pngbar.png” and “pngbar.jpg (88x31) and “pngnow.png” (98x31).

Libpng is OSI Certified Open Source Software. OSI Certified Open Source is a certification mark of the Open Source Initiative.

Glenn Randers-Pehrson
glennrp at users.sourceforge.net
July 18, 2013

README for libpng version 1.5.17 - June 27, 2013 (shared library 15.0)
See the note about version numbers near the top of png.h

See INSTALL for instructions on how to install libpng.

Libpng comes in several distribution formats. Get libpng-*.tar.gz, libpng-*.tar.xz or libpng-*.tar.bz2 if you want UNIX-style line endings in the text files, or lpng*.7z or lpng*.zip if you want DOS-style line endings.

Version 0.89 was the first official release of libpng. Don’t let the fact that it’s the first release fool you. The libpng library has been in extensive use and testing since mid-1995. By late 1997 it had finally gotten to the stage where there hadn’t been significant changes to the API in some time, and people have a bad feeling about libraries with versions < 1.0. Version 1.0.0 was released in March 1998.

****
Note that some of the changes to the png_info structure render this version of the library binary incompatible with libpng-0.89 or earlier versions if you are using a shared library. The type of the “filler” parameter for png_set_filler() has changed from png_byte to png_uint_32, which will affect shared-library applications that use this function.

To avoid problems with changes to the internals of png_info_struct, new APIs have been made available in 0.95 to avoid direct application access to info_ptr. These functions are the png_set_<chunk> and png_get_<chunk> functions. These functions should be used when accessing/storing the info_struct data, rather than manipulating it directly, to avoid such problems in the future.

It is important to note that the APIs do not make current programs that access the info struct directly incompatible with the new library. However, it is strongly suggested that new programs use the new APIs (as shown in example.c and pngtest.c), and older programs be converted to the new format, to facilitate upgrades in the future.
****

Additions since 0.90 include the ability to compile libpng as a Windows DLL, and new APIs for accessing data in the info struct. Experimental functions include the ability to set weighting and cost factors for row filter selection, direct reads of integers from buffers on big-endian processors that support misaligned data access, faster methods of doing alpha composition, and more accurate 16->8 bit color conversion.

The additions since 0.89 include the ability to read from a PNG stream which has had some (or all) of the signature bytes read by the calling application. This also allows the reading of embedded PNG streams that do not have the PNG file signature. As well, it is now possible to set the library action on the detection of chunk CRC errors. It is possible to set different actions based on whether the CRC error occurred in a critical or an ancillary chunk.

The changes made to the library, and bugs fixed are based on discussions on the PNG-implement mailing list and not on material submitted privately to Guy, Andreas, or Glenn. They will forward any good suggestions to the list.

For a detailed description on using libpng, read libpng-manual.txt. For examples of libpng in a program, see example.c and pngtest.c. For usage information and restrictions (what little they are) on libpng, see png.h. For a description on using zlib (the compression library used by libpng) and zlib's restrictions, see zlib.h

I have included a general makefile, as well as several machine and compiler specific ones, but you may have to modify one for your own needs.

You should use zlib 1.0.4 or later to run this, but it MAY work with versions as old as zlib 0.95. Even so, there are bugs in older zlib versions which can cause the output of invalid compression streams for some images. You will definitely need zlib 1.0.4 or later if you are taking advantage of the MS-DOS “far” structure allocation for the small and medium memory models. You should also note that zlib is a compression library that is useful for more things than just PNG files. You can use zlib as a drop-in replacement for fread() and fwrite() if you are so inclined.

zlib should be available at the same place that libpng is, or at zlib.net.

You may also want a copy of the PNG specification. It is available as an RFC, a W3C Recommendation, and an ISO/IEC Standard. You can find these at http://www.libpng.org/pub/png/documents/

This code is currently being archived at libpng.sf.net in the [DOWNLOAD] area, and at ftp://ftp.simplesystems.org. If you can’t find it in any of those places, e-mail me, and I’ll help you find it.

If you have any code changes, requests, problems, etc., please e-mail them to me. Also, I’d appreciate any make files or project files, and any modifications you needed to make to get libpng to compile, along with a #define variable to tell what compiler/system you are on.
If you needed to add transformations to libpng, or wish libpng would provide the image in a different way, drop me a note (and code, if possible), so I can consider supporting the transformation.
Finally, if you get any warning messages when compiling libpng (note: not zlib), and they are easy to fix, I’d appreciate thefix. Please mention “libpng” somewhere in the subject line. Thanks.

This release was created and will be supported by myself (of course based in a large way on Guy’s and Andreas’ earlier work), and the PNG development group.

Send comments/corrections/commendations to png-mng-implement at lists.sourceforge.net (subscription required; visit https://lists.sourceforge.net/lists/listinfo/png-mng-implement to subscribe) or to glennrp at users.sourceforge.net

You can’t reach Guy, the original libpng author, at the addresses given in previous versions of this document. He and Andreas will read mail addressed to the png-implement list, however.

Please do not send general questions about PNG. Send them to png-mng-misc at lists.sf.net (subscription required; visit https://lists.sourceforge.net/lists/listinfo/png-mng-misc to subscribe). If you have a question about something in the PNG specification that is related to using libpng, send it to me. Send me any questions that start with “I was using libpng, and ...”. If in doubt, send questions to me. I’ll bounce them to others, if necessary.

Please do not send suggestions on how to change PNG. We have been discussing PNG for eighteen years now, and it is official and finished. If you have suggestions for libpng, however, I’ll gladly listen. Even if your suggestion is not used immediately, it may be used later.

Files in this distribution:

```
ANNOUNCE        => Announcement of this version, with recent changes
CHANGES         => Description of changes between libpng versions
KNOWNBUG        => List of known bugs and deficiencies
LICENSE         => License to use and redistribute libpng
README          => This file
TODO            => Things not implemented in the current library
Y2KINFO         => Statement of Y2K compliance
example.c       => Example code for using libpng functions
libpng.3        => manual page for libpng (includes libpng-manual.txt)
libpng-manual.txt=> Description of libpng and its functions
libpngpf.3      => manual page for libpng's private functions
png.5           => manual page for the PNG format
png.c           => Basic interface functions common to library
png.h           => Library function and interface declarations (public)
pngpriv.h       => Library function and interface declarations (private)
pngconf.h       => System specific library configuration (public)
pngstruct.h     => png_struct declaration (private)
pnginfo.h       => png_info struct declaration (private)
pngdebug.h      => debugging macros (private)
pngerror.c      => Error/warning message I/O functions
pngget.c        => Functions for retrieving info from struct
pngmem.c        => Memory handling functions
pngbar.png      => PNG logo, 88x31
pngnow.png      => PNG logo, 98x31
pngpread.c      => Progressive reading functions
pngread.c       => Read data/helper high-level functions
pngrio.c        => Lowest-level data read I/O functions
pngrtran.c      => Read data transformation functions
pngrutil.c      => Read data utility functions
pngset.c        => Functions for storing data into the info_struct
pngtest.c       => Library test program
pngtest.png     => Library test sample image
pngtrans.c      => Common data transformation functions
pngwio.c        => Lowest-level write I/O functions
pngwrite.c      => High-level write functions
pngwtran.c      => Write data transformations
pngwutil.c      => Write utility functions
arm             => Contains optimized code for the ARM platform
contrib         => Contributions
  gregbook          => source code for PNG reading and writing, from Greg
                       Roelofs' “PNG: The Definitive Guide”, O'Reilly, 1999
  libtests          => Contains the pngvalid.c test program
  pngminim          => Minimal decoder, encoder, and progressive decoder
                       programs demonstrating use of pngusr.dfa
  pngminus          => Simple pnm2png and png2pnm programs
```

```
  pngsuite          => Test images
  visupng           => Contains a MSVC workspace for VisualPng
projects        => Contains project files and workspaces for building a DLL
  owatcom           => Contains a WATCOM project for building libpng
  visualc71         => Contains a Microsoft Visual C++ (MSVC) workspace for
                       building libpng and zlib
  vstudio           => Contains a Microsoft Visual C++ (MSVC) workspace for
                       building libpng and zlib
scripts         => Directory containing scripts for building libpng:
                   (see scripts/README.txt for the list of scripts)
```

Good luck, and happy coding.

-Glenn Randers-Pehrson (current maintainer, since 1998)
Internet: glennrp at users.sourceforge.net

-Andreas Eric Dilger (former maintainer, 1996-1997)
Internet: adilger at enel.ucalgary.ca
Web: http://www-mddsp.enel.ucalgary.ca/People/adilger/

-Guy Eric Schalnat (original author and former maintainer, 1995-1996)
(formerly of Group 42, Inc)
Internet: gschal at infinet.com

==========

This product may include derivative work of all or part of

zlib version 1.2.8

which is governed by the following license terms and conditions:

ZLIB DATA COMPRESSION LIBRARY

zlib 1.2.8 is a general purpose data compression library. All the code is thread safe. The data format used by the zlib library is described by RFCs (Request for Comments) 1950 to 1952 in the files http://tools.ietf.org/html/rfc1950 (zlib format), rfc1951 (deflate format) and rfc1952 (gzip format).

All functions of the compression library are documented in the file zlib.h (volunteer to write man pages welcome, contact zlib@gzip.org). A usage example of the library is given in the file test/example.c which also tests that the library is working correctly. Another example is given in the file test/minigzip.c. The compression library itself is composed of all source files in the root directory.

To compile all files and run the test program, follow the instructions given at the top of Makefile.in. In short "./configure; make test", and if that goes well, "make install" should work for most flavors of Unix. For Windows, use one of the special makefiles in win32/ or contrib/vstudio/ . For VMS, use make_vms.com.

Questions about zlib should be sent to <zlib@gzip.org>, or to Gilles Vollant <info@winimage.com> for the Windows DLL version.
The zlib home page is http://zlib.net/ .
Before reporting a problem, please check this site to verify that you have the latest version of zlib; otherwise get the latest version and check whether the problem still exists or not.

PLEASE read the zlib FAQ http://zlib.net/zlib_faq.html before asking for help.

Mark Nelson <markn@ieee.org> wrote an article about zlib for the Jan. 1997 issue of Dr. Dobb's Journal; a copy of the article is available at http://marknelson.us/1997/01/01/zlib-engine/ .

The changes made in version 1.2.8 are documented in the file ChangeLog.

Unsupported third party contributions are provided in directory contrib/ .

zlib is available in Java using the java.util.zip package, documented at http://java.sun.com/developer/technicalArticles/Programming/compression/ .

A Perl interface to zlib written by Paul Marquess <pmqs@cpan.org> is available at CPAN (Comprehensive Perl Archive Network) sites, including http://search.cpan.org/~pmqs/IO-Compress-Zlib/ .

A Python interface to zlib written by A.M. Kuchling <amk@amk.ca> is available in Python 1.5 and later versions, see http://docs.python.org/library/zlib.html .

zlib is built into tcl: http://wiki.tcl.tk/4610 .

An experimental package to read and write files in .zip format, written on top of zlib by Gilles Vollant <info@winimage.com>, is available in the contrib/minizip directory of zlib.

Notes for some targets:

- For Windows DLL versions, please see win32/DLL_FAQ.txt

- For 64-bit Irix, deflate.c must be compiled without any optimization. With-O, one libpng test fails. The test works in 32 bit mode (with the -n32 compiler flag). The compiler bug has been reported to SGI.

- zlib doesn't work with gcc 2.6.3 on a DEC 3000/300LX under OSF/1 2.1 it works when compiled with cc.

- On Digital Unix 4.0D (formely OSF/1) on AlphaServer, the cc option -std1 is necessary to get gzprintf working correctly. This is done by configure.

- zlib doesn't work on HP-UX 9.05 with some versions of /bin/cc. It works with other compilers. Use "make test" to check your compiler.

- gzdopen is not supported on RISCOS or BEOS.

- For PalmOs, see http://palmzlib.sourceforge.net/

Acknowledgments:

The deflate format used by zlib was defined by Phil Katz. The deflate and zlib specifications were written by L. Peter Deutsch. Thanks to all the people who reported problems and suggested various improvements in zlib; they are too numerous to cite here.

Copyright notice:

(C) 1995-2013 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly Mark Adler
jloup@gzip.org madler@alumni.caltech.edu

If you use the zlib library in a product, we would appreciate *not* receiving lengthy legal documents to sign. The sources are provided for free but without warranty of any kind. The library has been entirely written by Jean-loup Gailly and Mark Adler; it does not include third-party code.

If you redistribute modified sources, we would appreciate that you include in the file ChangeLog history information documenting your changes. Please read the FAQ for more information on the distribution of modified source versions.

==========

This product may include derivative work of all or part of

libxml2 version 2.9.1

which is governed by the following license terms and conditions:

Except where otherwise noted in the source code (e.g. the files hash.c, list.c and the trio files, which are covered by a similar licence but with different Copyright notices) all the files are:

Copyright (C) 1998-2012 Daniel Veillard. All Rights Reserved.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

XML toolkit from the GNOME project

Full documentation is available on-line at
http://xmlsoft.org/

This code is released under the MIT Licence see the Copyright file.

To build on an Unixised setup:
./configure ; make ; make install
To build on Windows:
see instructions on win32/Readme.txt

To assert build quality:
on an Unixised setup:
run make tests
otherwise:

NetFront Browser NX v3.0 のOSSコピーライト文(英文) つづき

There is 3 standalone tools runtest.c runsuite.c testapi.c, which should compile as part of the build or as any application would.
Launch them from this directory to get results, runtest checks the proper functionning of libxml2 main APIs while testapi does a full coverage check. Report failures to the list.

To report bugs, follow the instructions at:
http://xmlsoft.org/bugs.html

A mailing-list xml@gnome.org is available, to subscribe:
http://mail.gnome.org/mailman/listinfo/xml

The list archive is at:
http://mail.gnome.org/archives/xml/

All technical answers asked privately will be automatically answered on the list and archived for public access unless privacy is explicitly required and justified.

Daniel Veillard

Id

==========
This product may include derivative work of all or part of

libcurl version 7.28.0

which is governed by the following license terms and conditions:

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright (c) 1996 - 2012, Daniel Stenberg, <daniel@haxx.se>.

All rights reserved.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies.

THE SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS”, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization of the copyright holder.



README

Curl is a command line tool for transferring data specified with URL syntax. Find out how to use curl by reading the curl.1 man page or the MANUAL document. Find out how to install Curl by reading the INSTALL document.

libcurl is the library curl is using to do its job. It is readily available to be used by your software. Read the libcurl.3 man page to learn how!

You find answers to the most frequent questions we get in the FAQ document.

Study the COPYING file for distribution terms and similar. If you distribute curl binaries or other binaries that involve libcurl, you might enjoy the LICENSE-MIXING document.

CONTACT

If you have problems, questions, ideas or suggestions, please contact us by posting to a suitable mailing list. See http://curl.haxx.se/mail/

All contributors to the project are listed in the THANKS document.

WEB SITE

Visit the curl web site for the latest news and downloads:

http://curl.haxx.se/

GIT

To download the very latest source off the GIT server do this:

git clone git://github.com/bagder/curl.git

(you'll get a directory named curl created, filled with the source code)

NOTICE

Curl contains pieces of source code that is Copyright (c) 1998, 1999 Kungliga Tekniska Hogskolan. This notice is included here to comply with the distribution terms.

==========
This product may include derivative work of all or part of

OpenSSL version 1.0.1e

which is governed by the following license terms and conditions:

LICENSE ISSUES
==========

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit.
See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL License

```
/* ====================================================
 * Copyright (c) 1998-2011 The OpenSSL Project.  All rights reserved.
 *
 * Redistribution and use in source and binary forms, with or without
 * modification, are permitted provided that the following conditions
 * are met:
 *
 * 1. Redistributions of source code must retain the above copyright
 *    notice, this list of conditions and the following disclaimer.
 *
 * 2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
 *    notice, this list of conditions and the following disclaimer in
 *    the documentation and/or other materials provided with the
 *    distribution.
 *
 * 3. All advertising materials mentioning features or use of this
 *    software must display the following acknowledgment:
 *    “This product includes software developed by the OpenSSL Project
 *    for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)”
 *
 * 4. The names “OpenSSL Toolkit” and “OpenSSL Project” must not be used to
 *    endorse or promote products derived from this software without
 *    prior written permission. For written permission, please contact
 *    openssl-core@openssl.org.
 *
 * 5. Products derived from this software may not be called “OpenSSL”
 *    nor may “OpenSSL” appear in their names without prior written
 *    permission of the OpenSSL Project.
 *
 * 6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following
 *    acknowledgment:
 *    “This product includes software developed by the OpenSSL Project
 *    for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)”
 *
 * THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS'' AND ANY
 * EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
 * IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR
 * PURPOSE ARE DISCLAIMED.  IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR
 * ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
 * SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT
 * NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES;
 * LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
 * HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT,
 * STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE)
 * ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED
 * OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.
 * ====================================================
 *
 * This product includes cryptographic software written by Eric Young
 * (eay@cryptsoft.com).  This product includes software written by Tim
 * Hudson (tjh@cryptsoft.com).
 *
 */
```

Original SSLeay License

```
/* Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)
 * All rights reserved.
 *
 * This package is an SSL implementation written
 * by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
 * The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.
 *
 * This library is free for commercial and non-commercial use as long as
 * the following conditions are aheared to.  The following conditions
 * apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA,
 * lhash, DES, etc., code; not just the SSL code.  The SSL documentation
```

* included with this distribution is covered by the same copyright terms
* except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).
*
* Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in
* the code are not to be removed.
* If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution
* as the author of the parts of the library used.
* This can be in the form of a textual message at program startup or
* in documentation (online or textual) provided with the package.
*
* Redistribution and use in source and binary forms, with or without
* modification, are permitted provided that the following conditions
* are met:
* 1. Redistributions of source code must retain the copyright
*   notice, this list of conditions and the following disclaimer.
* 2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
*   notice, this list of conditions and the following disclaimer in the
*   documentation and/or other materials provided with the distribution.
* 3. All advertising materials mentioning features or use of this software
*   must display the following acknowledgement:
*   "This product includes cryptographic software written by
*   Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
*   The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library
*   being used are not cryptographic related :-).
* 4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from
*   the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
*   "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"
*
* THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG ``AS IS'' AND
* ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
* IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
* ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE
* FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
* DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS
* OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
* HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT
* LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY
* OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF
* SUCH DAMAGE.
*
* The licence and distribution terms for any publically available version or
* derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be
* copied and put under another distribution licence
* [including the GNU Public Licence.]
*/

OpenSSL 1.0.1e 11 Feb 2013

Copyright (c) 1998-2011 The OpenSSL Project
Copyright (c) 1995-1998 Eric A. Young, Tim J. Hudson
All rights reserved.

DESCRIPTION

The OpenSSL Project is a collaborative effort to develop a robust, commercial-grade, fully featured, and Open Source toolkit implementing the Secure Sockets Layer (SSL v2/v3) and Transport Layer Security (TLS v1) protocols as well as a full-strength general purpose cryptography library. The project is managed by a worldwide community of volunteers that use the Internet to communicate, plan, and develop the OpenSSL toolkit and its related documentation.

OpenSSL is based on the excellent SSLeay library developed from Eric A. Young and Tim J. Hudson. The OpenSSL toolkit is licensed under a dual-license (the OpenSSL license plus the SSLeay license) situation, which basically means that you are free to get and use it for commercial and non-commercial purposes as long as you fulfill the conditions of both licenses.

OVERVIEW

The OpenSSL toolkit includes:

libssl.a:
  Implementation of SSLv2, SSLv3, TLSv1 and the required code to support both SSLv2, SSLv3 and TLSv1 in the one server and client.

libcrypto.a:
  General encryption and X.509 v1/v3 stuff needed by SSL/TLS but not actually logically part of it. It includes routines for the following:

  Ciphers
    libdes - EAY's libdes DES encryption package which was floating around the net for a few years, and was then relicensed by him as part of SSLeay. It includes 15 'modes/variations' of DES (1, 2 and 3 key versions of ecb, cbc, cfb and ofb; pcbc and a more general form of cfb and ofb) including desx in cbc mode, a fast crypt(3), and routines to read passwords from the keyboard.
    RC4 encryption,
    RC2 encryption   - 4 different modes, ecb, cbc, cfb and ofb.
    Blowfish encryption - 4 different modes, ecb, cbc, cfb and ofb.
    IDEA encryption   - 4 different modes, ecb, cbc, cfb and ofb.

  Digests
    MD5 and MD2 message digest algorithms, fast implementations,
    SHA (SHA-0) and SHA-1 message digest algorithms,
    MDC2 message digest. A DES based hash that is popular on smart cards.

  Public Key
    RSA encryption/decryption/generation.
         There is no limit on the number of bits.
    DSA encryption/decryption/generation.
         There is no limit on the number of bits.
    Diffie-Hellman key-exchange/key generation.
         There is no limit on the number of bits.

  X.509v3 certificates
    X509 encoding/decoding into/from binary ASN1 and a PEM based ASCII-binary encoding which supports encryption with a private key. Program to generate RSA and DSA certificate requests and to generate RSA and DSA certificates.

  Systems
    The normal digital envelope routines and base64 encoding. Higher level access to ciphers and digests by name. New ciphers can be loaded at run time. The BIO io system which is a simple non-blocking IO abstraction. Current methods supported are file descriptors, sockets, socket accept, socket connect, memory buffer, buffering, SSL client/server, file pointer, encryption, digest, non-blocking testing and null.

  Data structures
    A dynamically growing hashing system
    A simple stack.
    A Configuration loader that uses a format similar to MS .ini files.

openssl:
  A command line tool that can be used for:
    Creation of RSA, DH and DSA key parameters
    Creation of X.509 certificates, CSRs and CRLs
    Calculation of Message Digests
    Encryption and Decryption with Ciphers
    SSL/TLS Client and Server Tests
    Handling of S/MIME signed or encrypted mail

PATENTS

Various companies hold various patents for various algorithms in various locations around the world. _YOU_ are responsible for ensuring that your use of any algorithms is legal by checking if there are any patents in your country. The file contains some of the patents that we know about or are rumored to exist. This is not a definitive list.

RSA Security holds software patents on the RC5 algorithm. If you intend to use this cipher, you must contact RSA Security for licensing conditions. Their web page is http://www.rsasecurity.com/.

RC4 is a trademark of RSA Security, so use of this label should perhaps only be used with RSA Security's permission.

The IDEA algorithm is patented by Ascom in Austria, France, Germany, Italy, Japan, the Netherlands, Spain, Sweden, Switzerland, UK and the USA. They should be contacted if that algorithm is to be used; their web page is http://www.ascom.ch/.

NTT and Mitsubishi have patents and pending patents on the Camellia algorithm, but allow use at no charge without requiring an explicit licensing agreement: http://info.isl.ntt.co.jp/crypt/eng/info/chiteki.html

INSTALLATION

To install this package under a Unix derivative, read the INSTALL file. For a Win32 platform, read the INSTALL.W32 file. For OpenVMS systems, read INSTALL.VMS.

Read the documentation in the doc/ directory. It is quite rough, but it lists the functions; you will probably have to look at the code to work out how to use them. Look at the example programs.

PROBLEMS

For some platforms, there are some known problems that may affect the user or application author. We try to collect those in doc/PROBLEMS, with current thoughts on how they should be solved in a future of OpenSSL.

SUPPORT

See the OpenSSL website www.openssl.org for details of how to obtain commercial technical support.

If you have any problems with OpenSSL then please take the following steps first:

- Download the current snapshot from ftp://ftp.openssl.org/snapshot/ to see if the problem has already been addressed
- Remove ASM versions of libraries
- Remove compiler optimisation flags

If you wish to report a bug then please include the following information in any bug report:

- On Unix systems:
  Self-test report generated by 'make report'

NetFront Browser NX v3.0 のOSSコピーライト文(英文) つづき

- On other systems:
  OpenSSL version: output of 'openssl version -a'
  OS Name, Version, Hardware platform
  Compiler Details (name, version)
- Application Details (name, version)
- Problem Description (steps that will reproduce the problem, if known)
- Stack Traceback (if the application dumps core)

Report the bug to the OpenSSL project via the Request Tracker
(http://www.openssl.org/support/rt.html) by mail to:

openssl-bugs@openssl.org

Note that the request tracker should NOT be used for general assistance
or support queries. Just because something doesn't work the way you expect
does not mean it is necessarily a bug in OpenSSL.

Note that mail to openssl-bugs@openssl.org is recorded in the publicly
readable request tracker database and is forwarded to a public
mailing list. Confidential mail may be sent to openssl-security@openssl.org
(PGP key available from the key servers).

HOW TO CONTRIBUTE TO OpenSSL

Development is coordinated on the openssl-dev mailing list (see
http://www.openssl.org for information on subscribing). If you would like to submit a
patch, send it to openssl-bugs@openssl.org with the string "[PATCH]" in the subject.
Please be sure to include a textual explanation of what your patch does.

If you are unsure as to whether a feature will be useful for the general OpenSSL
community please discuss it on the openssl-dev mailing list first. Someone may be
already working on the same thing or there may be a good reason as to why that
feature isn't implemented.

Patches should be as up to date as possible, preferably relative to the current Git
or the last snapshot. They should follow the coding style of OpenSSL and compile
without warnings. Some of the core team developer targets can be used for testing
purposes, (debug-steve64, debug-geoff etc). OpenSSL compiles on many varied
platforms: try to ensure you only use portable features.

Note: For legal reasons, contributions from the US can be accepted only if a TSU
notification and a copy of the patch are sent to crypt@bis.doc.gov (formerly BXA) with
a copy to the ENC Encryption Request Coordinator; please take some time to look at
 http://www.bis.doc.gov/Encryption/PubAvailEncSourceCodeNofify.html [sic]
and
 http://w3.access.gpo.gov/bis/ear/pdf/740.pdf (EAR Section 740.13(e))
for the details. If "your encryption source code is too large to serve as an email
attachment", they are glad to receive it by fax instead; hope you have a cheap long-
distance plan.

Our preferred format for changes is "diff -u" output. You might
generate it like this:

```
# cd openssl-work
# [your changes]
# ./Configure dist; make clean
# cd ..
# diff -ur openssl-orig openssl-work > mydiffs.patch
```

==========

This product may include derivative work of all or part of

 libjpeg version 6b +patch(6b-13)

which is governed by the following license terms and conditions:

The Independent JPEG Group's JPEG software
==========

README for release 6b of 27-Mar-1998
==========

This distribution contains the sixth public release of the Independent JPEG Group's
free JPEG software. You are welcome to redistribute this software and to use it for any
purpose, subject to the conditions under LEGAL ISSUES, below.

Serious users of this software (particularly those incorporating it into larger programs)
should contact IJG at jpeg-info@uunet.uu.net to be added to our electronic mailing
list. Mailing list members are notified of updates and have a chance to participate in
technical discussions, etc.

This software is the work of Tom Lane, Philip Gladstone, Jim Boucher,
Lee Crocker, Julian Minguillon, Luis Ortiz, George Phillips, Davide Rossi,
Guido Vollbeding, Ge' Weijers, and other members of the Independent JPEG
Group.

IJG is not affiliated with the official ISO JPEG standards committee.

DOCUMENTATION ROADMAP
==========

This file contains the following sections:

OVERVIEW	General description of JPEG and the IJG software.
LEGAL ISSUES	Copyright, lack of warranty, terms of distribution.
REFERENCES	Where to learn more about JPEG.
ARCHIVE LOCATIONS	Where to find newer versions of this software.
RELATED SOFTWARE	Other stuff you should get.
FILE FORMAT WARS	Software *not* to get.
TO DO	Plans for future IJG releases.

Other documentation files in the distribution are:

User documentation:	
install.doc	How to configure and install the IJG software.
usage.doc	Usage instructions for cjpeg, djpeg, jpegtran, rdjpgcom, and wrjpgcom.
*.1	Unix-style man pages for programs (same info as usage.doc).
wizard.doc	Advanced usage instructions for JPEG wizards only.
change.log	Version-to-version change highlights.
Programmer and internal documentation:	
libjpeg.doc	How to use the JPEG library in your own programs.
example.c	Sample code for calling the JPEG library.
structure.doc	Overview of the JPEG library's internal structure.
filelist.doc	Road map of IJG files.
coderules.doc	Coding style rules --- please read if you contribute code.

Please read at least the files install.doc and usage.doc. Useful information can also
be found in the JPEG FAQ (Frequently Asked Questions) article. See ARCHIVE
LOCATIONS below to find out where to obtain the FAQ article.

If you want to understand how the JPEG code works, we suggest reading one or more
of the REFERENCES, then looking at the documentation files (in roughly the order
listed) before diving into the code.

OVERVIEW
==========

This package contains C software to implement JPEG image compression and
decompression. JPEG (pronounced "jay-peg") is a standardized compression
method for full-color and gray-scale images. JPEG is intended for compressing "real-
world" scenes; line drawings, cartoons and other non-realistic images are not its
strong suit. JPEG is lossy, meaning that the output image is not exactly identical to
the input image. Hence you must not use JPEG if you have to have identical output
bits. However, on typical photographic images, very good compression levels can be
obtained with no visible change, and remarkably high compression levels are possible
if you can tolerate a low-quality image. For more details, see the references, or just
experiment with various compression settings.

This software implements JPEG baseline, extended-sequential, and progressive
compression processes. Provision is made for supporting all variants of these
processes, although some uncommon parameter settings aren't implemented yet. For
legal reasons, we are not distributing code for the arithmetic-coding variants of JPEG;
see LEGAL ISSUES. We have made no provision for supporting the hierarchical or
lossless processes defined in the standard.

We provide a set of library routines for reading and writing JPEG image files, plus two
sample applications "cjpeg" and "djpeg", which use the library to perform conversion
between JPEG and some other popular image file formats. The library is intended to
be reused in other applications.

In order to support file conversion and viewing software, we have included
considerable functionality beyond the bare JPEG coding/decoding capability; for
example, the color quantization modules are not strictly part of JPEG decoding, but
they are essential for output to colormapped file formats or colormapped displays.
These extra functions can be compiled out of the library if not required for a particular
application. We have also included "jpegtran", a utility for lossless transcoding
between different JPEG processes, and "rdjpgcom" and "wrjpgcom", two simple
applications for inserting and extracting textual comments in JFIF files.

The emphasis in designing this software has been on achieving portability and
flexibility, while also making it fast enough to be useful. In particular, the software is
not intended to be read as a tutorial on JPEG. (See the REFERENCES section for
introductory material.) Rather, it is intended to be reliable, portable, industrial-strength
code. We do not claim to have achieved that goal in every aspect of the software, but
we strive for it.

We welcome the use of this software as a component of commercial products.
No royalty is required, but we do ask for an acknowledgement in product
documentation, as described under LEGAL ISSUES.

LEGAL ISSUES
==========

In plain English:

1. We don't promise that this software works. (But if you find any bugs, please let us
   know!)
2. You can use this software for whatever you want. You don't have to pay us.
3. You may not pretend that you wrote this software. If you use it in a program, you
   must acknowledge somewhere in your documentation that you've used the IJG
   code.

In legalese:

The authors make NO WARRANTY or representation, either express or implied, with respect to this software, its quality, accuracy, merchantability, or fitness for a particular purpose. This software is provided "AS IS", and you, its user, assume the entire risk as to its quality and accuracy.

This software is copyright (C) 1991-1998, Thomas G. Lane.
All Rights Reserved except as specified below.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this software (or portions thereof) for any purpose, without fee, subject to these conditions:
(1) If any part of the source code for this software is distributed, then this README file must be included, with this copyright and no-warranty notice unaltered; and any additions, deletions, or changes to the original files must be clearly indicated in accompanying documentation.
(2) If only executable code is distributed, then the accompanying documentation must state that "this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group".
(3) Permission for use of this software is granted only if the user accepts full responsibility for any undesirable consequences; the authors accept NO LIABILITY for damages of any kind.

These conditions apply to any software derived from or based on the IJG code, not just to the unmodified library. If you use our work, you ought to acknowledge us.

Permission is NOT granted for the use of any IJG author's name or company name in advertising or publicity relating to this software or products derived from it. This software may be referred to only as "the Independent JPEG Group's software".

We specifically permit and encourage the use of this software as the basis of commercial products, provided that all warranty or liability claims are assumed by the product vendor.

ansi2knr.c is included in this distribution by permission of L. Peter Deutsch, sole proprietor of its copyright holder, Aladdin Enterprises of Menlo Park, CA. ansi2knr.c is NOT covered by the above copyright and conditions, but instead by the usual distribution terms of the Free Software Foundation; principally, that you must include source code if you redistribute it. (See the file ansi2knr.c for full details.) However, since ansi2knr.c is not needed as part of any program generated from the IJG code, this does not limit you more than the foregoing paragraphs do.

The Unix configuration script "configure" was produced with GNU Autoconf. It is copyright by the Free Software Foundation but is freely distributable. The same holds for its supporting scripts (config.guess, config.sub, ltconfig, ltmain.sh). Another support script, install-sh, is copyright by M.I.T. but is also freely distributable.

It appears that the arithmetic coding option of the JPEG spec is covered by patents owned by IBM, AT&T, and Mitsubishi. Hence arithmetic coding cannot legally be used without obtaining one or more licenses. For this reason, support for arithmetic coding has been removed from the free JPEG software. (Since arithmetic coding provides only a marginal gain over the unpatented Huffman mode, it is unlikely that very many implementations will support it.) So far as we are aware, there are no patent restrictions on the remaining code.

The IJG distribution formerly included code to read and write GIF files.
To avoid entanglement with the Unisys LZW patent, GIF reading support has been removed altogether, and the GIF writer has been simplified to produce "uncompressed GIFs". This technique does not use the LZW algorithm; the resulting GIF files are larger than usual, but are readable by all standard GIF decoders.

We are required to state that
"The Graphics Interchange Format(c) is the Copyright property of CompuServe Incorporated. GIF(sm) is a Service Mark property of CompuServe Incorporated."

REFERENCES

We highly recommend reading one or more of these references before trying to understand the innards of the JPEG software.

The best short technical introduction to the JPEG compression algorithm is
Wallace, Gregory K. "The JPEG Still Picture Compression Standard",
Communications of the ACM, April 1991 (vol. 34 no. 4), pp. 30-44.
(Adjacent articles in that issue discuss MPEG motion picture compression, applications of JPEG, and related topics.) If you don't have the CACM issue handy, a PostScript file containing a revised version of Wallace's article is available at ftp://ftp.uu.net/graphics/jpeg/wallace.ps.gz. The file (actually a preprint for an article that appeared in IEEE Trans. Consumer Electronics) omits the sample images that appeared in CACM, but it includes corrections and some added material. Note: the Wallace article is copyright ACM and IEEE, and it may not be used for commercial purposes.

A somewhat less technical, more leisurely introduction to JPEG can be found in "The Data Compression Book" by Mark Nelson and Jean-loup Gailly, published by M&T Books (New York), 2nd ed. 1996, ISBN 1-55851-434-1. This book provides good explanations and example C code for a multitude of compression methods including JPEG. It is an excellent source if you are comfortable reading C code but don't know much about data compression in general. The book's JPEG sample code is far from industrial-strength, but when you are ready to look at a full implementation, you've got one here...

The best full description of JPEG is the textbook "JPEG Still Image Data Compression Standard" by William B. Pennebaker and Joan L. Mitchell, published by Van Nostrand Reinhold, 1993, ISBN 0-442-01272-1. Price US$59.95, 638 pp.
The book includes the complete text of the ISO JPEG standards (DIS 10918-1 and draft DIS 10918-2). This is by far the most complete exposition of JPEG in existence, and we highly recommend it.

The JPEG standard itself is not available electronically; you must order a paper copy through ISO or ITU. (Unless you feel a need to own a certified official copy, we recommend buying the Pennebaker and Mitchell book instead; it's much cheaper and includes a great deal of useful explanatory material.) In the USA, copies of the standard may be ordered from ANSI Sales at (212) 642-4900, or from Global Engineering Documents at (800) 854-7179. (ANSI doesn't take credit card orders, but Global does.) It's not cheap: as of 1992, ANSI was charging $95 for Part 1 and $47 for Part 2, plus 7% shipping/handling. The standard is divided into two parts, Part 1 being the actual specification, while Part 2 covers compliance testing methods. Part 1 is titled "Digital Compression and Coding of Continuous-tone Still Images, Part 1: Requirements and guidelines" and has document numbers ISO/IEC IS 10918-1, ITU-T T.81. Part 2 is titled "Digital Compression and Coding of Continuous-tone Still Images, Part 2: Compliance testing" and has document numbers ISO/IEC IS 10918-2, ITU-T T.83.

Some extensions to the original JPEG standard are defined in JPEG Part 3, a newer ISO standard numbered ISO/IEC IS 10918-3 and ITU-T T.84. IJG currently does not support any Part 3 extensions.

The JPEG standard does not specify all details of an interchangeable file format. For the omitted details we follow the "JFIF" conventions, revision 1.02. A copy of the JFIF spec is available from:
Literature Department
C-Cube Microsystems, Inc.
1778 McCarthy Blvd.
Milpitas, CA 95035
phone (408) 944-6300, fax (408) 944-6314
A PostScript version of this document is available by FTP at ftp://ftp.uu.net/graphics/jpeg/jfif.ps.gz. There is also a plain text version at ftp://ftp.uu.net/graphics/jpeg/jfif.txt.gz, but it is missing the figures.

The TIFF 6.0 file format specification can be obtained by FTP from ftp://ftp.sgi.com/graphics/tiff/TIFF6.ps.gz. The JPEG incorporation scheme found in the TIFF 6.0 spec of 3-June-92 has a number of serious problems. IJG does not recommend use of the TIFF 6.0 design (TIFF Compression tag 6). Instead, we recommend the JPEG design proposed by TIFF Technical Note #2 (Compression tag 7). Copies of this Note can be obtained from ftp.sgi.com or from ftp://ftp.uu.net/graphics/jpeg/. It is expected that the next revision of the TIFF spec will replace the 6.0 JPEG design with the Note's design. Although IJG's own code does not support TIFF/JPEG, the free libtiff library uses our library to implement TIFF/JPEG per the Note. libtiff is available from ftp://ftp.sgi.com/graphics/tiff/.

ARCHIVE LOCATIONS

The "official" archive site for this software is ftp.uu.net (Internet address 192.48.96.9). The most recent released version can always be found there in directory graphics/jpeg. This particular version will be archived as ftp://ftp.uu.net/graphics/jpeg/jpegsrc.v6b.tar.gz. If you don't have direct Internet access, UUNET's archives are also available via UUCP; contact help@uunet.uu.net for information on retrieving files that way.

Numerous Internet sites maintain copies of the UUNET files. However, only ftp.uu.net is guaranteed to have the latest official version.

You can also obtain this software in DOS-compatible "zip" archive format from the SimTel archives (ftp://ftp.simtel.net/pub/simtelnet/msdos/graphics/), or on CompuServe in the Graphics Support forum (GO CIS:GRAPHSUP), library 12 "JPEG Tools". Again, these versions may sometimes lag behind the ftp.uu.net release.

The JPEG FAQ (Frequently Asked Questions) article is a useful source of general information about JPEG. It is updated constantly and therefore is not included in this distribution. The FAQ is posted every two weeks to Usenet newsgroups comp.graphics.misc, news.answers, and other groups. It is available on the World Wide Web at http://www.faqs.org/faqs/jpeg-faq/ and other news.answers archive sites, including the official news.answers
archive at rtfm.mit.edu: ftp://rtfm.mit.edu/pub/usenet/news.answers/jpeg-faq/.
If you don't have Web or FTP access, send e-mail to mail-server@rtfm.mit.edu with body
send usenet/news.answers/jpeg-faq/part1
send usenet/news.answers/jpeg-faq/part2

RELATED SOFTWARE

Numerous viewing and image manipulation programs now support JPEG. (Quite a few of them use this library to do so.) The JPEG FAQ described above lists some of the more popular free and shareware viewers, and tells where to obtain them on Internet.

If you are on a Unix machine, we highly recommend Jef Poskanzer's free PBMPLUS software, which provides many useful operations on PPM-format image files. In particular, it can convert PPM images to and from a wide range of other formats, thus making cjpeg/djpeg considerably more useful. The latest version is distributed by the NetPBM group, and is available from numerous sites, notably ftp://wuarchive.wustl.edu/graphics/graphics/packages/NetPBM/.
Unfortunately PBMPLUS/NETPBM is not nearly as portable as the IJG software is; you are likely to have difficulty making it work on any non-Unix machine.

A different free JPEG implementation, written by the PVRG group at Stanford, is available from ftp://havefun.stanford.edu/pub/jpeg/. This program is designed for research and experimentation rather than production use; it is slower, harder to use, and less portable than the IJG code, but it is easier to read and modify. Also, the PVRG code supports lossless JPEG, which we do not. (On the other hand, it doesn't do progressive JPEG.)

NetFront Browser NX v3.0 のOSSコピーライト文(英文) つづき

FILE FORMAT WARS
==========

Some JPEG programs produce files that are not compatible with our library.
The root of the problem is that the ISO JPEG committee failed to specify a concrete file format. Some vendors "filled in the blanks" on their own, creating proprietary formats that no one else could read. (For example, none of the early commercial JPEG implementations for the Macintosh were able to exchange compressed files.)

The file format we have adopted is called JFIF (see REFERENCES). This format has been agreed to by a number of major commercial JPEG vendors, and it has become the de facto standard. JFIF is a minimal or "low end" representation. We recommend the use of TIFF/JPEG (TIFF revision 6.0 as modified by TIFF Technical Note #2) for "high end" applications that need to record a lot of additional data about an image. TIFF/JPEG is fairly new and not yet widely supported, unfortunately.

The upcoming JPEG Part 3 standard defines a file format called SPIFF. SPIFF is interoperable with JFIF, in the sense that most JFIF decoders should be able to read the most common variant of SPIFF. SPIFF has some technical advantages over JFIF, but its major claim to fame is simply that it is an official standard rather than an informal one. At this point it is unclear whether SPIFF will supersede JFIF or whether JFIF will remain the de-facto standard. IJG intends to support SPIFF once the standard is frozen, but we have not decided whether it should become our default output format or not. (In any case, our decoder will remain capable of reading JFIF indefinitely.)

Various proprietary file formats incorporating JPEG compression also exist. We have little or no sympathy for the existence of these formats. Indeed, one of the original reasons for developing this free software was to help force convergence on common, open format standards for JPEG files. Don't use a proprietary file format!

TO DO
=====

The major thrust for v7 will probably be improvement of visual quality. The current method for scaling the quantization tables is known not to be very good at low Q values. We also intend to investigate block boundary smoothing, "poor man's variable quantization", and other means of improving quality-vs-file-size performance without sacrificing compatibility.

In future versions, we are considering supporting some of the upcoming JPEG Part 3 extensions --- principally, variable quantization and the SPIFF file format.

As always, speeding things up is of great interest.

Please send bug reports, offers of help, etc. to jpeg-info@uunet.net.

==========

This product may include derivative work of all or part of

libxslt version 1.1.28

which is governed by the following license terms and conditions:

Licence for libxslt except libexslt

Copyright (C) 2001-2002 Daniel Veillard. All Rights Reserved.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included inall copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE DANIEL VEILLARD BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of Daniel Veillard shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization from him.

Licence for libexslt

Copyright (C) 2001-2002 Thomas Broyer, Charlie Bozeman and Daniel Veillard.
All Rights Reserved.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of the authors shall notbe used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization from him.

XSLT support for libxml2 (XML toolkit from the GNOME project)

Full documentation is available on-line at
http://xmlsoft.org/XSLT/

This code is released under the MIT Licence see the Copyright file.

To report bugs, follow the instructions at:
http://xmlsoft.org/XSLT/bugs.html

A mailing-list xslt@gnome.org is available, to subscribe:
http://mail.gnome.org/mailman/listinfo/xslt

The list archive is at:
http://mail.gnome.org/archives/xslt/

All technical answers asked privately will be automatically answered on the list and archived for public access unless pricacy is explicitely required and justified.

Daniel Veillard

Id

==========
This product may include derivative work of all or part of

ICU Unicode librairies version 4.8.1

which is governed by the following license terms and conditions:

ICU License - ICU 1.8.1 and later

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright (c) 1995-2011 International Business Machines Corporation and others

All rights reserved.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, provided that the above copyright notice(s) and this permission notice appear in all copies of the Software and that both the above copyright notice(s) and this permission notice appear in supporting documentation.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization of the copyright holder.

UNICODE, INC. LICENSE AGREEMENT - DATA FILES AND SOFTWARE

Unicode Data Files include all data files under the directories http://www.unicode.org/Public/, http://www.unicode.org/reports/, and http://www.unicode.org/cldr/data/. Unicode Data Files do not include PDF online code charts under the directory http://www.unicode.org/Public/.
Software includes any source code published in the Unicode Standard or under the directories http://www.unicode.org/Public/, http://www.unicode.org/reports/, and http://www.unicode.org/cldr/data/.

NOTICE TO USER: Carefully read the following legal agreement. BY DOWNLOADING, INSTALLING, COPYING OR OTHERWISE USING UNICODE INC.'S DATA FILES ("DATA FILES"), AND/OR SOFTWARE ("SOFTWARE"), YOU UNEQUIVOCALLY ACCEPT, AND AGREE TO BE BOUND BY, ALL OF THE

TERMS AND CONDITIONS OF THIS AGREEMENT. IF YOU DO NOT AGREE, DO NOT DOWNLOAD, INSTALL, COPY, DISTRIBUTE OR USE THE DATA FILES OR SOFTWARE.

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright (c) 1991-2011 Unicode, Inc. All rights reserved. Distributed under the Terms of Use in http://www.unicode.org/copyright.html.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Unicode data files and any associated documentation (the "Data Files") or Unicode software and any associated documentation (the "Software") to deal in the Data Files or Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Data Files or Software, and to permit persons to whom the Data Files or Software are furnished to do so, provided that (a) the above copyright notice(s) and this permission notice appear with all copies of the Data Files or Software, (b) both the above copyright notice(s) and this permission notice appear in associated documentation, and (c) there is clear notice in each modified Data File or in the Software as well as in the documentation associated with the Data File(s) or Software that the data or software has been modified.

THE DATA FILES AND SOFTWARE ARE PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THE DATA FILES OR SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in these Data Files or Software without prior written authorization of the copyright holder.

This product includes modified work of Unicode Character Databases listed below.
- BidiMirroring.txt
- CaseFolding.txt
- LineBreak.txt
- UnicodeData.txt

==========

This product may include derivative work of all or part of

Unicode 6.0.0

which is governed by the following license terms and conditions:

UNICODE, INC. LICENSE AGREEMENT - DATA FILES AND SOFTWARE

Unicode Data Files include all data files under the directories http://www.unicode.org/Public/, http://www.unicode.org/reports/, and http://www.unicode.org/cldr/data/. Unicode Data Files do not include PDF online code charts under the directory http://www.unicode.org/Public/.
Software includes any source code published in the Unicode Standard or under the directories http://www.unicode.org/Public/, http://www.unicode.org/reports/, and http://www.unicode.org/cldr/data/.

NOTICE TO USER: Carefully read the following legal agreement. BY DOWNLOADING, INSTALLING, COPYING OR OTHERWISE USING UNICODE INC.'S DATA FILES ("DATA FILES"), AND/OR SOFTWARE ("SOFTWARE"), YOU UNEQUIVOCALLY ACCEPT, AND AGREE TO BE BOUND BY, ALL OF THE TERMS AND CONDITIONS OF THIS AGREEMENT. IF YOU DO NOT AGREE, DO NOT DOWNLOAD, INSTALL, COPY, DISTRIBUTE OR USE THE DATA FILES OR SOFTWARE.

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright (c) 1991-2011 Unicode, Inc. All rights reserved. Distributed under the Terms of Use in http://www.unicode.org/copyright.html.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Unicode data files and any associated documentation (the "Data Files") or Unicode software and any associated documentation (the "Software") to deal in the Data Files or Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Data Files or Software, and to permit persons to whom the Data Files or Software are furnished to do so, provided that (a) the above copyright notice(s) and this permission notice appear with all copies of the Data Files or Software, (b) both the above copyright notice(s) and this permission notice appear in associated documentation, and (c) there is clear notice in each modified Data File or in the Software as well as in the documentation associated with the Data File(s) or Software that the data or software has been modified.

THE DATA FILES AND SOFTWARE ARE PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THE DATA FILES OR SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in these Data Files or Software without prior written authorization of the copyright holder.

==========

This product may include derivative work of all or part of

SQLite version 3.7.14.1

which is governed by the following license terms and conditions:

```
** This file is an amalgamation of many separate C source files from SQLite
** version 3.7.14.1.  By combining all the individual C code files into this
** single large file, the entire code can be compiled as a single translation
** unit.  This allows many compilers to do optimizations that would not be
** possible if the files were compiled separately.  Performance improvements
** of 5% or more are commonly seen when SQLite is compiled as a single
** translation unit.
**
** This file is all you need to compile SQLite.  To use SQLite in other
** programs, you need this file and the "sqlite3.h" header file that defines
** the programming interface to the SQLite library.  (If you do not have
** the "sqlite3.h" header file at hand, you will find a copy embedded within
** the text of this file.  Search for "Begin file sqlite3.h" to find the start
** of the embedded sqlite3.h header file.) Additional code files may be needed
** if you want a wrapper to interface SQLite with your choice of programming
** language. The code for the "sqlite3" command-line shell is also in a
** separate file. This file contains only code for the core SQLite library.
```

==========

This product may include derivative work of all or part of

Public Suffix List

which is governed by the following license terms and conditions:

This Source Code Form is subject to the terms of the Mozilla Public License, v. 2.0. If a copy of the MPL was not distributed with this file, You can obtain one at http://mozilla.org/MPL/2.0/.

==========

This product may include derivative work of all or part of

CertList 1.85

which is governed by the following license terms and conditions:

This Source Code Form is subject to the terms of the Mozilla Public License, v. 2.0. If a copy of the MPL was not distributed with this file, You can obtain one at http://mozilla.org/MPL/2.0/.

==========

This product may include derivative work of all or part of

c-ares version 1.10.0

which is governed by the following license terms and conditions:

---

c-ares license

Copyright 1998 by the Massachusetts Institute of Technology.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of M.I.T. not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission. M.I.T. makes no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.

---

c-ares version 1.10.0

Changes:

o Added ares_create_query(), to be used instead of ares_mkquery()
o ares_inet_ntop() and ares_inet_pton() are now recognized c-ares functions

Bug fixes:

o include the ares_parse_soa_reply.* files in the tarball
o read_udp_packets: bail out loop on bad sockets
o get_DNS_AdaptersAddresses: fix IPv6 parsing
o adig: perror() doesn't work for socket errors on windows
o ares_parse_aaaa_reply: fix memory leak
o setup_once.h: HP-UX <sys/socket.h> issue workaround
o configure: several fixes
o config-dos.h: define strerror() to strerror_s_() for High-C
o config-dos.h: define HAVE_CLOSE_S for MSDOS/Watt-32
o ares_build.h.dist: enhance non-configure GCC ABI detection logic
o ares.h: stricter CARES_EXTERN linkage decorations logic
o ares_cancel(): cancel requests safely

NetFront Browser NX v3.0 のOSSコピーライト文(英文) つづき

o protocol parsing: check input data stricter
o library init: be recursive, reference count inits/cleanups
o ares_parse_txt_reply: return a ares_txt_reply node for each sub-string
o ares_set_servers_csv: fixed IPv6 address parsing
o build: fix build on msvc11

Thanks go to these friendly people for their efforts and contributions:

Eugeny Gladkih, Yang Tse, Gisle Vanem, Guenter Knauf, Horatiu Popescu,
Alexander Klauer, Patrick Valsecchi, Paul Saab, Keith Shaw,
Alex Loukissas

Have fun!

==========
This product may include derivative work of all or part of

SQLite version 3.7.6.3

which is governed by the following license terms and conditions:

** This file is an amalgamation of many separate C source files from SQLite
** version 3.7.6.3. By combining all the individual C code files into this
** single large file, the entire code can be compiled as a single translation
** unit. This allows many compilers to do optimizations that would not be
** possible if the files were compiled separately. Performance improvements
** of 5% or more are commonly seen when SQLite is compiled as a single
** translation unit.
**
** This file is all you need to compile SQLite. To use SQLite in other
** programs, you need this file and the "sqlite3.h" header file that defines
** the programming interface to the SQLite library. (If you do not have
** the "sqlite3.h" header file at hand, you will find a copy embedded within
** the text of this file. Search for "Begin file sqlite3.h" to find the start
** of the embedded sqlite3.h header file.) Additional code files may be needed
** if you want a wrapper to interface SQLite with your choice of programming
** language. The code for the "sqlite3" command-line shell is also in a
** separate file. This file contains only code for the core SQLite library.

==========
This product may include derivative work of all or part of

Backbone v0.9.2

which is governed by the following license terms and conditions:

Copyright (c) 2010-2012 Jeremy Ashkenas, DocumentCloud

Permission is hereby granted, free of charge, to any person
obtaining a copy of this software and associated documentation
files (the "Software"), to deal in the Software without
restriction, including without limitation the rights to use,
copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell
copies of the Software, and to permit persons to whom the
Software is furnished to do so, subject to the following
conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be
included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND,
EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES
OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND
NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT
HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER
IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR
IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE
SOFTWARE.

==========
This product may include derivative work of all or part of

Bootstrap v2.0.4

which is governed by the following license terms and conditions:

Apache License
Version 2.0, January 2004
http://www.apache.org/licenses/

TERMS AND CONDITIONS FOR USE, REPRODUCTION, AND DISTRIBUTION

1. Definitions.

"License" shall mean the terms and conditions for use, reproduction, and distribution as defined by Sections 1 through 9 of this document.

"Licensor" shall mean the copyright owner or entity authorized by the copyright owner that is granting the License.

"Legal Entity" shall mean the union of the acting entity and all other entities that control, are controlled by, or are under common control with that entity. For the purposes of this definition, "control" means (i) the power, direct or indirect, to cause the direction or management of such entity, whether by contract or otherwise, or (ii) ownership of fifty percent (50%) or more of the outstanding shares, or (iii) beneficial ownership of such entity.

"You" (or "Your") shall mean an individual or Legal Entity exercising permissions granted by this License.

"Source" form shall mean the preferred form for making modifications, including but not limited to software source code, documentation source, and configuration files.

"Object" form shall mean any form resulting from mechanical transformation or translation of a Source form, including but not limited to compiled object code, generated documentation, and conversions to other media types.

"Work" shall mean the work of authorship, whether in Source or Object form, made available under the License, as indicated by a copyright notice that is included in or attached to the work (an example is provided in the Appendix below).

"Derivative Works" shall mean any work, whether in Source or Object form, that is based on (or derived from) the Work and for which the editorial revisions, annotations, elaborations, or other modifications represent, as a whole, an original work of authorship. For the purposes of this License, Derivative Works shall not include works that remain separable from, or merely link (or bind by name) to the interfaces of, the Work and Derivative Works thereof.

"Contribution" shall mean any work of authorship, including the original version of the Work and any modifications or additions to that Work or Derivative Works thereof, that is intentionally submitted to Licensor for inclusion in the Work by the copyright owner or by an individual or Legal Entity authorized to submit on behalf of the copyright owner. For the purposes of this definition, "submitted" means any form of electronic, verbal, or written communication sent to the Licensor or its representatives, including but not limited to communication on electronic mailing lists, source code control systems, and issue tracking systems that are managed by, or on behalf of, the Licensor for the purpose of discussing and improving the Work, but excluding communication that is conspicuously marked or otherwise designated in writing by the copyright owner as "Not a Contribution."

"Contributor" shall mean Licensor and any individual or Legal Entity on behalf of whom a Contribution has been received by Licensor and subsequently incorporated within the Work.

2. Grant of Copyright License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable copyright license to reproduce, prepare Derivative Works of, publicly display, publicly perform, sublicense, and distribute the Work and such Derivative Works in Source or Object form.

3. Grant of Patent License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable (except as stated in this section) patent license to make, have made, use, offer to sell, sell, import, and otherwise transfer the Work, where such license applies only to those patent claims licensable by such Contributor that are necessarily infringed by their Contribution(s) alone or by combination of their Contribution(s) with the Work to which such Contribution(s) was submitted. If You institute patent litigation against any entity (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that the Work or a Contribution incorporated within the Work constitutes direct or contributory patent infringement, then any patent licenses granted to You under this License for that Work shall terminate as of the date such litigation is filed.

4. Redistribution. You may reproduce and distribute copies of the Work or Derivative Works thereof in any medium, with or without modifications, and in Source or Object form, provided that You meet the following conditions:

(a) You must give any other recipients of the Work or Derivative Works a copy of this License; and

(b) You must cause any modified files to carry prominent notices stating that You changed the files; and

(c) You must retain, in the Source form of any Derivative Works that You distribute, all copyright, patent, trademark, and attribution notices from the Source form of the Work, excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works; and

(d) If the Work includes a "NOTICE" text file as part of its distribution, then any Derivative Works that You distribute must include a readable copy of the attribution notices contained within such NOTICE file, excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works, in at least one of the following places: within a NOTICE text file distributed as part of the Derivative Works; within the Source form or documentation, if provided along with the Derivative Works; or, within a display generated by the Derivative Works, if and wherever such third-party notices normally appear. The contents of the NOTICE file are for informational purposes only and do not modify the License. You may add Your own attribution notices within Derivative Works that You distribute, alongside or as an addendum to the NOTICE text from the Work, provided that such additional attribution notices cannot be construed as modifying the License.

You may add Your own copyright statement to Your modifications and may provide additional or different license terms and conditions for use, reproduction, or distribution of Your modifications, or for any such Derivative Works as a whole, provided Your use, reproduction, and distribution of the Work otherwise complies with the conditions stated in this License.

5. Submission of Contributions. Unless You explicitly state otherwise, any Contribution intentionally submitted for inclusion in the Work by You to the Licensor shall be under the terms and conditions of this License, without any additional terms or conditions. Notwithstanding the above, nothing herein shall supersede or modify the terms of any separate license agreement you may have executed with Licensor regarding such Contributions.

6. Trademarks. This License does not grant permission to use the trade names, trademarks, service marks, or product names of the Licensor, except as required for reasonable and customary use in describing the origin of the Work and reproducing the content of the NOTICE file.

7. Disclaimer of Warranty. Unless required by applicable law or agreed to in writing, Licensor provides the Work (and each Contributor provides its Contributions) on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied, including, without limitation, any warranties or conditions of TITLE, NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY, or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. You are solely responsible for determining the appropriateness of using or redistributing the Work and assume any risks associated with Your exercise of permissions under this License.

8. Limitation of Liability. In no event and under no legal theory, whether in tort (including negligence), contract, or otherwise, unless required by applicable law (such as deliberate and grossly negligent acts) or agreed to in writing, shall any Contributor be liable to You for damages, including any direct, indirect, special, incidental, or consequential damages of any character arising as a result of this License or out of the use or inability to use the Work (including but not limited to damages for loss of goodwill, work stoppage, computer failure or malfunction, or any and all other commercial damages or losses), even if such Contributor has been advised of the possibility of such damages.

9. Accepting Warranty or Additional Liability. While redistributing the Work or Derivative Works thereof, You may choose to offer, and charge a fee for, acceptance of support, warranty, indemnity, or other liability obligations and/or rights consistent with this License. However, in accepting such obligations, You may act only on Your own behalf and on Your sole responsibility, not on behalf of any other Contributor, and only if You agree to indemnify, defend, and hold each Contributor harmless for any liability incurred by, or claims asserted against, such Contributor by reason of your accepting any such warranty or additional liability.

END OF TERMS AND CONDITIONS

==========
This product may include derivative work of all or part of

Glyphicons v1.7

which is governed by the following license terms and conditions:

Copyright 2012 Jan Kovarik

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License"); you may not use this file except in compliance with the License. You may obtain a copy of the License at
http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0
Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied. See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

==========
This product may include derivative work of all or part of

jQuery v1.9.0

which is governed by the following license terms and conditions:

Copyright 2013 jQuery Foundation and other contributors
http://jquery.com/

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be
included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

==========
This product may include derivative work of all or part of

jGrowl v1.2.6

which is governed by the following license terms and conditions:

MIT License

Copyright (c) 2011 Stan Lemon

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

==========
This product may include derivative work of all or part of

RequireJS v2.1.4

which is governed by the following license terms and conditions:

MIT License

Copyright (c) 2010-2011, The Dojo Foundation

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

==========
This product may include derivative work of all or part of

Underscore v1.4.4

which is governed by the following license terms and conditions:

Copyright (c) 2009-2012 Jeremy Ashkenas, DocumentCloud

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

こんな場合は故障ではありません

悪天候でのBS・110度CSデジタル放送の受信障害

- 降雨や降雪などで電波が弱くなったときには、映像にノイズが多くなったり、映らなくなったりすることがあります。
- 天候が回復すれば正常に映るようになります。

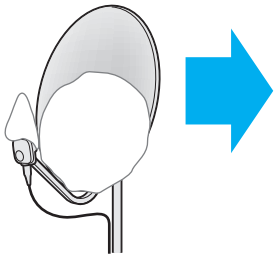
大雨が降っている

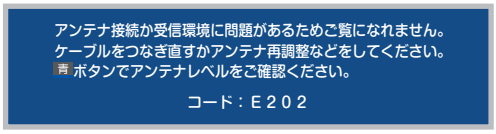


大雪が降っている



アンテナに雪が積もっている





本機内部からの動作音

- 電源待機時に番組情報取得などの動作を開始する際、「カチッ」という音が聞こえることがあります。
- 「ジー」という液晶パネルの駆動音が聞こえることがあります。

キャビネットからの「ピシッ」というきしみ音

- 「ピシッ」というきしみ音は、部屋の温度変化でキャビネットが伸縮するときに発生する音です。画面や音声などに異常がなければ心配ありません。

使用していないのに温まる

- 使用していない場合でも、番組情報取得などの動作をしているときなどは、本機の温度が多少上昇します。

症状に合わせて解決法を調べる

- テレビが正しく動作しないなどの症状があるときは、以降の記載内容から解決法をお調べください。
- 解決法の対処をしても症状が改善されない場合は、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店にご相談ください。
- 表の「ページ」の欄は関連事項が記載されているページです。

テレビが操作できなくなったときーテレビをリセットする

- リモコンでも本体ボタンでも操作できなくなった場合は、以下の操作をしてみてください。

電源プラグを抜いてリセットする

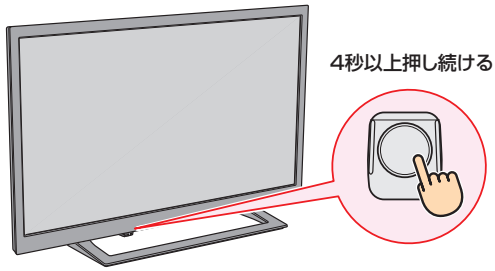
❶電源プラグをコンセントから抜く

❷1分間以上待つ

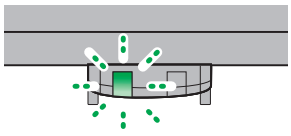
❸電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れる

本体ボタンの中央部を長押ししてリセットする

❶本体ボタンの中央を押し続ける



❷本体前面の「電源」の表示ランプが点滅したら、本体ボタンから手を離す



- しばらくすると電源が「入」になり、画面に「リセット機能により、再起動しました。」が表示されます。

操作

電源がはいらない

確認すること	解決法・その他	ページ
電源プラグが抜けていませんか。	• 電源プラグをコンセントに差し込みます。	–
電源コードが本体から抜けていませんか。	• 電源コードのコネクターを本機背面のAC INPUT端子に接続します。	26
「電源」表示が消えていませんか。	• 本体ボタンの中央部を押して電源を入れます。 ※「電源」表示が消えているときは、リモコンで電源を入れることはできません。	26
「電源」表示が赤色に点滅していますか。	• 電源プラグをコンセントから抜き、一分以上たってからもう一度コンセントに差し込みます。	–

リモコンで操作ができない

確認すること	解決法・その他	ページ
リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がありませんか。	• 障害物を取り除きます。 リモコン受光部の位置は、右記のページでご確認ください。	25
リモコンの乾電池が消耗していませんか。	• 新しい乾電池に交換します。	25
リモコンの乾電池の向き(＋、－)が合っていますか。	• 向き(＋、－)を確認し、正しく入れてください。	25
本体ボタンでは操作ができますか。	• 上記の対処をした上で、なおもリモコンだけで操作ができない場合は、リモコンの故障が考えられます。	–

映像

放送の映像が出ない、またはきれいに映らない

確認すること	解決法・その他	ページ
アンテナ線がはずれていたり、切れていたり、ショートしたりしていませんか。	• アンテナ線を確認して正しく接続します。 ※ 屋外の接続については、販売店にご相談ください。	23
アンテナ線プラグの芯線が曲がっていませんか。	• 確認して、まっすぐにします。(折らないようにご注意ください)	–
アンテナ線プラグの芯線が折れたり、短くなっていたりしていませんか。	• アンテナ線を交換します。	–
レコーダーなどを経由してアンテナ線を接続していませんか。	• アンテナ線を本機に直接接続して映像が出る場合は、本機の故障ではありません。 • アンテナ線を分配して接続します。	–
電波が弱くありませんか	• アンテナレベルを確認します。 • アンテナの向きを調整してみます。(販売店にご相談ください)	83
アンテナ線の差し込みがゆるんでいたり、接触不良になっていたりしていませんか。	• 確認して、しっかりと接続します。	23
アンテナ線(端子)がさびていませんか。	• 販売店にご相談ください。	–

症状に合わせて解決法を調べる つづき

接続した機器の映像が出ない、またはきれいに映らない

確認すること	解決法・その他	ページ
機器が正しく接続されていますか。	• 確認して正しく接続します。	66
機器の電源がはいっていますか。	• 機器の電源を入れます。	–
接続した機器の入力に切り換えましたか。	• リモコンの入力切換で、外部機器を接続した入力端子を選びます。	72

画面が暗い、または暗くなるときがある

確認すること	解決法・その他	ページ
部屋の明るさに合った適切な映像モードや調整になっていますか。	• 明るい部屋では、「あざやか」を選択してみます。 • 「バックライト」で適切な明るさに調整します。	78 79

色がおかしい

確認すること	解決法・その他	ページ
お好みの映像モードや映像調整になっていますか。	• 視聴している番組や映像に合わせて、お好みの映像モードを選択します。 • お好みの映像に調整することもできます。	78

音声

音声が出ない

確認すること	解決法・その他	ページ
音量が最小になっていませんか。	• 音量＋／－で音量を上げます。	29
画面に 消音 マークが表示されていませんか。	• 消音を押すと消音を解除できます。 （音量＋／－でも解除されます）	29
「サウンドシステムスピーカー」になっていませんか。	• サブメニューの「スピーカー切換」で「テレビスピーカー」に設定します。	74

地上デジタル放送

地上デジタル放送が映らない、または映像が乱れる、または引越しをしたら地上デジタル放送が映らなくなった

確認すること	解決法・その他	ページ
アンテナレベルが推奨値以下ではありませんか。	• サブメニューの「その他の操作」の「アンテナレベル表示」でアンテナレベルを確認します。 ※ 推奨値よりも低い場合は、放送を受信できないことがあります。お買い上げの販売店にご相談のうえ、アンテナの向きを確認・調整してください。	83
「初期スキャン」をしましたか。	• 「初期スキャン」をします。	85
お住まいの地域は地上デジタル放送の受信可能エリアですか。	• 一般社団法人 放送サービス高度化推進協会のホームページ（http://www.apab.or.jp/）で確認することができます。	–
共聴システムやCATVをご利用の場合、地上デジタル放送のパススルー方式に対応していますか。	• CATVの場合はご契約のCATV会社に、その他の場合は共聴システムの管理者にお問い合わせください。（CATVがパススルー方式でない場合はCATV用チューナーが必要な場合があります）	–

BS・110度CSデジタル放送

BS・110度CSデジタル放送が映らない、または映像が乱れる

確認すること	解決法・その他	ページ
アンテナ接続に分配器を使用していますか。	• 分配器は「全端子通電型」のものを使用します。	–
有料放送ではありませんか。	• 有料放送を視聴するには契約が必要です。視聴の申し込みや視聴料金などについては、放送事業者にご相談ください。	–
マンションなどで、壁のアンテナ端子が一つだけになっていますか。	• 視聴できる放送の種類についてマンションなどの管理会社にご確認ください。 • ご自身で確認する場合は、アンテナ線を本機のBS・110度CSアンテナ入力端子に直接接続してみます。(地上デジタル放送を確認する場合は、地上デジタルアンテナ入力端子へ) • BS・110度CSデジタル放送と地上デジタル放送の両方が受信できる場合は、分波器を使用してアンテナ線をBS・110度CSアンテナ入力端子と地上デジタルアンテナ入力端子に接続します。	24
テレビまたはアンテナ線の近くで携帯電話、スマートフォン、コードレス電話、Wi-Fi機器(アクセスポイントを含む)などの無線機器を使用していませんか。	• 左記の機器は、テレビまたはアンテナ線から離れて使用してください。映像・音声が乱れることがあります。	–
「衛星アンテナ電源供給」設定が「供給しない」に設定されていませんか。	• BS・110度CS共用アンテナを、ご自身で設置して利用している場合、BS・110度CS共用アンテナへの電源供給が必要となります。「衛星アンテナ電源供給」設定が「供給する」に設定されていることを確認してください。 ※ アンテナショートを検出した場合、「衛星アンテナ電源供給」設定を自動的に「供給しない」に変更する場合があります。	84

番組表

番組表に内容が表示されない

確認すること	解決法・その他	ページ
電源プラグを抜いていませんでしたか。	• 電源プラグをコンセントに差し込んでおきます。 • 「番組表を更新する」の操作をします。	– 34
電源コードが本体から抜けていませんか。	• 電源コードのコネクターを本機背面のAC INPUT端子に接続します。	26

番組表の文字が小さい

確認すること	解決法・その他	ページ
–	• 番組表を表示中に赤を押して、文字の大きさを変更することができます。	35

放送局のすべてのチャンネルが表示されない

確認すること	解決法・その他	ページ
「1チャンネル表示」にしていませんか。	• 番組表のサブメニューで「マルチ表示」を選択します。	35
「チャンネルスキップ設定」で「スキップ」に設定していませんか。	• 「チャンネルスキップ設定」で「受信」に設定します。	87

お知らせアイコン ⓘ が何度も表示される

確認すること	解決法・その他	ページ
「お知らせ」の内容を確認しましたか。	• サブメニューの「その他の操作」⇨「お知らせ」で内容を確認します。 ※ 未読のお知らせが1件でも残っていると、画面表示を押したときにアイコンが表示されます	94

症状に合わせて解決法を調べる つづき

録画・再生

USBハードディスクが使用できない(認識されない)

確認すること	解決法・その他	ページ
本機で接続確認済のUSBハードディスクですか。	• 本機で接続確認済のUSBハードディスクはホームページ（http://www.toshiba.co.jp/regza/）でお知らせしています。 ※ 本機で接続確認済の機器でない場合は、使用できないことがあります。	−
機器が正しく接続されていますか。	• 「USBハードディスクを接続する」に従って、正しく接続します。	46
機器の電源がはいっていますか。	• USBハードディスクの電源を入れます。 ※ USBハードディスクは専用のACアダプターを接続してご使用ください。	−
機器が本機に登録されていますか。	• USBハードディスクを本機に登録します。	47
USBハブを使用している場合、本機で使用できるようになっていますか。	• ホームページ(http://www.toshiba.co.jp/regza/)でUSBハブが推奨機器であることを確認します。 ※ 推奨機器でない場合は使用できないことがあります。「USBハードディスクを接続する」の「お知らせ」をご覧ください。 ※ USBハードディスクは専用のACアダプターを接続してご使用ください。	−

録画ができない、または録画されなかった

確認すること	解決法・その他	ページ
USBハードディスクの残量が足りていますか。	• 残量を確認する。 • 不要な番組を削除する。 • 「自動削除設定」を「削除する」に変更する。	61 62
コピー禁止の番組ではありませんか	• 録画はできません。	−
外部入力からの番組、独立データ放送番組、外部機器からの映像、ネットワークからの映像などではありませんか。	• 本機は左記の番組や映像の録画には対応しておりません。	−
予約した番組の放送時間が繰り上げられませんでしたか。	• 本機は放送時間が繰り上げられた番組の録画はできません。 ※ 「詳細設定」の「放送時間」を「連動する」に設定した場合でも、放送時間の繰り上げには対応できません。	54
連ドラ予約の場合、「追跡基準」、「追跡キーワード」は正しく設定されていますか。	• 「詳細設定」で「追跡キーワード」を正しく設定します。 ※ 1回限りのキーワード(「第○○話」や出演者名など)を削除します。	54
「お知らせ」のアイコンが表示されていませんか。	• サブメニューの「その他の操作」⇨「お知らせ」で内容を確認します。 ※ 番組の重複や、放送時間の変更などで録画できなかった場合は、「本機に関するお知らせ」が発行されます。	94

録画した番組が消えた

確認すること	解決法・その他	ページ
「自動削除設定」が「削除する」になっていませんか。	• 「自動削除設定」を「削除しない」に設定する。 • または、消したくない番組を保護する。	62
録画中に電源プラグや接続ケーブルを抜きませんでしたか。	• 録画中や録画設定をしたときは電源プラグを抜かない。 ※ 左記の場合、録画中の番組は残りません。また、録画したすべての番組が消えることがあります。 • 「録画番組を修復する」の操作をすれば、録画された内容を再生できるようになることがあります。	− 59
録画リストの分類タブが「すべて」以外になっていませんか。	• 録画リストの分類タブを «10秒戻し・30秒送り» で「すべて」に変更する。 ※ 分類タブが「未視聴」の場合、一度でも再生した録画番組は、リストに表示されません。	57

ほかのレグザで再生できない

確認すること	解決法・その他	ページ
–	• USBハードディスクに録画した番組は、録画したテレビでしか再生できません。(同じ形名のほかのテレビでも再生できません)	–

HDMI連動機能

機器を接続しても連動動作ができない

確認すること	解決法・その他	ページ
接続は正しいですか。	• HDMIロゴ表示のついた規格に合ったHDMIケーブルで正しく接続します。 ※ はじめてHDMI連動機器を接続したときや、接続を変更したときには、すべての機器が連動しているか確認してください。	66
推奨機器(対応機器)ですか。	• ホームページ http://www.toshiba.co.jp/regza/ でお知らせしています。 ※ 推奨機器の場合でもすべての操作ができるわけではありません。本機のリモコンで操作できないときは、機器のリモコンで操作してください。	–
本機と接続機器の設定は正しいですか。	• 接続機器側の連動設定を確認します。(機器の取扱説明書を参照してください) • 本機の「外部機器設定」にある「HDMI連動機能」を確認します。	– 71

オーディオ機器(サウンドシステム)に接続されているスピーカーから音が出ない

確認すること	解決法・その他	ページ
接続は正しいですか。	• HDMIケーブルで接続する場合は、HDMIロゴ表示のついた規格に合ったHDMIケーブルで正しく接続します。接続するオーディオ機器の端子については、オーディオ機器の取扱説明書を参照してください。 • レグザサウンドシステムやARC対応のオーディオ機器はHDMI入力1(ARC)端子に接続してください。 • ARC対応していないオーディオ機器をHDMIケーブルで接続する場合は、オーディオ用光デジタルケーブルも接続してください。	66 68
接続機器側の設定は正しいですか。	• オーディオ機器側の連動設定を確認します。(機器の取扱説明書を参照してください)	–
本機の設定やスピーカーの選択は正しいですか。	• 「HDMI連動設定」の「サウンドシステム連動」を「使用する」に設定します。また、「HDMI連動設定」の「優先スピーカー」を「サウンドシステムスピーカー」に設定しておくと、オーディオ機器の電源が「入」のときは、オーディオ機器のスピーカーから音声が出ます。 • サブメニューの「スピーカー切換」で「サウンドシステムスピーカー」に切り換えます。	71 74

ネットワークが利用できない

確認すること	解決法・その他	ページ
プロバイダーなどとのインターネット利用契約はお済みですか。	• 契約、費用などについては、プロバイダーまたはお買い上げの販売店にご相談ください。	–
接続や設定は正しいですか。	• 確認して、正しく接続・設定します。	75 〜 77
ルーターから機器に対してプライベートアドレスが割り当てられるようになっていますか。	• ルーターの取扱説明書を参照し、プライベートアドレスが機器と本機に割り当てられるように設定します。	–
本機の通信設定はIPアドレスを自動取得する設定になっていますか。	• 「IPアドレス自動取得」を「する」に設定します。	76

症状に合わせて解決法を調べる つづき

PPPoE設定ができない

確認すること	解決法・その他	ページ
–	• 本機ではPPPoEの設定はできません。PPPoEはルーター側に設定してください。(設定にはパソコンが必要です)。	77

IPアドレスが取得できない

確認すること	解決法・その他	ページ
IPアドレスの表示が空欄ですか。	• 「通信設定」の「IPアドレス設定」を確認します。 • 上記の確認でIPアドレスが取得できていない場合(すべて空欄になっている場合)は以下を確認します。 ① 本機とルーターが接続されているか確認する ② ルーターのアクセスランプ(ルーターのLANポートにある小さなランプ)が点滅しているか確認する(正常に通信できていればランプが点滅します) ③ ルーターに他のネットワーク機器(パソコンなど)があるときは、機器からインターネット接続が可能か確認する • 可能であれば、以下のテストをします 機器に接続されているLANケーブルを本機に接続し、接続テストをする **接続できたとき** 最初に本機と接続されていたLANケーブルまたはルーターの不具合の可能性が高いです。 **接続できなかったとき** ルーター、LANケーブルに問題がある可能性は低いです。 ④ インターネット接続可能なその他の機器(パソコンなど)のIPアドレスを確認し、本機のIPアドレスを手動で設定する • 上記の確認をしても接続できない場合は、本機をリセットします。 **リセットのしかた**: ① 電源プラグをコンセントから抜く ② 1分間以上待つ ③ 電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れる **操作で対処したいとき**: ① 本体ボタンの中央部を押し続ける ② 本体前面の「電源」の表示ランプが点滅したら、本体ボタンから手を離す ③ しばらくすると電源が「入」になり、画面に「リセット機能により、再起動しました。」が表示されます。 • リセットをしても接続できない場合は、本機の初期化をします。 • 上記の確認をすべてしても接続できないときは、東芝テレビご相談センター(裏表紙参照)にお問い合わせください。	76 126 91

IPアドレスが取得できているのに接続できない

確認すること	解決法・その他	ページ
取得しているIPアドレスが「192.168.～」から始まっていますか。	• お使いのルーターは、ブロードバンドルーターか確認します。 • 「通信設定」の「IPアドレス設定」を確認します。 • 取得しているIPアドレスが「192.168.～」から始まっていればルーターから正常にアドレスを取得できています。エラーメッセージで「DNSからの応答がありません」と表示されるときは、ルーターにPPPoE設定が必要なため、ご契約の回線事業者(NTT東日本、NTT西日本など)にご相談ください。 • 「169.254.～」から始まっているときは、本機がルーターからのIPアドレスの取得に失敗しています。その場合は、以下の操作をしてみてください。 • ルーターを再起動する。 • 本機をリセットする **リセットのしかた**: ① 電源プラグをコンセントから抜く ② 1分間以上待つ ③ 電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れる **操作で対処したいとき**: ① 本体ボタンの中央部を押し続ける ② 本体前面の「電源」の表示ランプが点滅したら、本体ボタンから手を離す ③ しばらくすると電源が「入」になり、画面に「リセット機能により、再起動しました。」が表示されます。 • 本機のIPアドレスを確認する	76 126 76

エラーメッセージが表示されたとき

● 代表的なエラーメッセージについて説明しています。

全般

画面に出るエラー表示	考えられる原因など	対処のしかた・その他	ページ
「電波の受信状態が良くありません。サブメニューから降雨対応放送に切り換えられます。コード：Ｅ２０１」	気象条件などによって信号レベルが下がり、降雨対応放送切換が可能な状態になった。	降雨対応放送に切り換えることができます。	40
「アンテナ接続か受信環境に問題があるためご覧になれません。ケーブルをつなぎ直すかアンテナ再調整などをしてください。青ボタンでアンテナレベルをご確認ください。 コード：Ｅ２０２」	• アンテナが放送に適合していない。 • アンテナ線がはずれたり、切れたりしている。 • BS・110度CSアンテナの場合、アンテナ電源が供給されていない。 • アンテナの方向ずれや故障。 • 電波が弱くて視聴できない。 • 雨や雷、雪などの気象条件によって一時的に受信できない。 ※ 放送が休止中の場合も表示されることがあります。	• 放送に適合したデジタル放送用アンテナであることを確認します。 • アンテナとアンテナ線の状態や接続を確認します。（販売店にご相談ください） • BS・110度CSアンテナに電源が供給されるようにします。	23〜24 84
「現在放送されていません。 コード：Ｅ２０３」	選局したチャンネルでの放送が休止中、または放送が終了している。 ※ 雨や雷、雪などの気象条件によって一時的に受信できない場合も表示されることがあります。	番組表などで放送時間を確認します。	−
「該当するチャンネルはありません。 コード：Ｅ２０４」	放送のないチャンネルを選局した。	番組表などでチャンネルを確認します。	−
「Ｂ－ＣＡＳカードが挿入されていません。カードを挿入している場合には向きと裏表を確認して、もう一度奥まで入れ直してください。」	• miniB-CASカードが挿入されていない。 • miniB-CASカードが正しく挿入されていない。 • miniB-CASカードが抜けている。	miniB-CASカードを正しく挿入します。	22
「Ｂ－ＣＡＳカードが認識できません。カードの金属端子部に汚れがある場合には、きれいな柔らかい布で汚れをふき取ってください。」 または 「このＢ－ＣＡＳカードはご使用になれません。カードをご確認ください。」	miniB-CASカードが接触不良を起こしている。	miniB-CASカードを取り出し、金色端子部に汚れがないか確認し、乾いた布でふき取り、入れ直します。	22
	• 無効なminiB-CASカードが挿入されている。 • miniB-CASカードが破損している	付属のminiB-CASカードの所有権は、ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ社にあります。 認識しないなど、破損した場合の再発行については、付属のminiB-CASカード台紙に記載されている、ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ社にお問い合わせください。	−

エラーメッセージが表示されたとき つづき

USBハードディスクに関するエラー表示

画面に出るエラー表示	考えられる原因など	対処のしかた・その他	ページ
「機器に接続できません。」	接続ケーブルがはずれている。	接続を確認します。	−
	USBハードディスクの電源が切れている。	USBハードディスクの電源を入れます。	−
	USBハードディスクにエラーが発生した。	USBハードディスクの電源を入れ直してみます。	−
「再生できません。」	視聴制限のある番組を録画した。	「視聴制限設定」で、録画した番組が視聴できる設定にします。	90
	録画中になんらかの原因でコピーワンスなどの情報が破損した。	再生できません。	−
	再生時にテレビとUSBハードディスクと通信に障害があった。または、接続ケーブルがはずれてしまった。	テレビとUSBハードディスクの電源を入れ直してみます。また、接続を確認します。	−
「録画機器のエラーにより録画を中止しました。」	テレビとUSBハードディスクと通信に障害があった。	テレビとUSBハードディスクの電源を入れ直してみます。	−
「情報取得中にエラーが発生しました。」	録画した番組が正常に保存されなかった。	「録画番組を修復する」の操作をしてみます。	59
「USB端子の電源容量をこえました。接続機器をはずし、本体ボタンで電源を切り、もう一度電源を入れてください。」	USBバスパワーで動作するUSBハードディスクを本機に接続し、使用電力が本機の供給限界を超えた。	以下の手順で復帰させます。 ① 本体ボタンの中央部を押して電源を切る ② USBハードディスクの接続ケーブルを抜く ③ 本機の電源プラグをコンセントから抜き、約10秒後に差し込む ④ 本機の電源を入れる ⑤ USBハードディスクを接続する ※ 再び同じエラーメッセージが表示される場合は、USBハードディスクにACアダプターを接続してください。	−

LAN端子を使った通信に関するエラー表示

画面に出るエラー表示	考えられる原因など	対処のしかた・その他	ページ
「サーバーと通信できませんでした。」	サーバーとの接続に失敗した。	接続・設定の状態を確認します。	75〜77
	回線が混みあっている。	しばらくたってから、もう一度操作します。	−
「サーバーの証明書の有効期限が切れているため、接続できません。」	接続先の証明書が有効期限切れになっている。	接続先の安全性に問題があります。本機は、一部の接続先については、安全性の確認ができない場合、接続は行われません。（本機の動作は正常です）	−
「サーバーの証明書には表示するページの名前が含まれていないため、接続できません。」	サーバー証明書に表示しようとしているページの名前がない。		
「サーバーの証明書の不正が検出されたため、接続を中断します。」	接続先の証明書が改ざんされている。		
「サーバーの証明書に問題があるため、接続を中断します。」	認証エラーが発生した。		

これらの症状で訪問修理を依頼され、テレビに原因がないと判明した場合は、保証期間中であっても出張料などを申し受けますので、あらかじめご承知おきください。

■それでも解決しない場合のご確認

下記ホームページの故障診断ＦＡＱで、関連のある箇所をご覧ください。
http://www.toshiba.co.jp/regza/support/index.html

※上記アドレスおよびQRコードは予告なく変更される場合があります。
その場合は、東芝総合ホームページ(http://www.toshiba.co.jp/)をご確認ください。

電話でのご相談は「東芝テレビご相談センター」：
0120-97-9674(無料)、0570-05-5100（携帯から、有料）

使用上のお願いとご注意

取り扱いについて

- 本機をご使用中、製品本体で熱くなる部分がありますので、ご注意ください。
- 引越しなど、遠くへ運ぶときは、傷がつかないように毛布などでくるんでください。また、衝撃・振動を与えないでください。
- 本機に殺虫剤など、揮発性のものをかけないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 電源プラグは非常時と長期間ご使用にならないとき以外は、常時コンセントに接続してください。(番組情報を取得するためです)
- 畳の上に置かないでください。金属部が直接畳に触れていると、さびが出たり、畳表に穴が開いたりしてしまう可能性があります。
- 本機の近くにキャッシュカードなどの磁気カードやビデオテープなどを置かないでください。本機から出る磁気の影響でデータや録画内容などが損なわれる可能性があります。
- 本機から「ジー」という液晶パネルの駆動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
- 外部入力(ビデオ入力、HDMI入力1～2)の映像や音声には若干の遅れが生じます。以下の場合にはこの遅れによる違和感があることがあります。
  - ゲーム、カラオケなどを接続して楽しむ場合
  - 外部機器の音声を直接オーディオ機器に接続して視聴する場合

電源プラグをコンセントから抜く際のご注意

- 電源プラグをコンセントから抜いたり、コンセントの元につながっているブレーカーを落としたりする際は、以下の手順で行ってください。

❶本機に接続したUSBハードディスクで録画やムーブをしている場合は終了させる

- 「録画を中止するとき」50や「ムーブを中止するとき」65の手順で確認してください。

❷録画予約が設定されていないか確認する

- 「予約の確認・変更・取り消しをする」55の手順で、電源プラグを抜いている間に始まる予約がないか確認してください。電源プラグが抜かれていると、予約した番組は録画されません。

❸本体ボタンの中央部を押して電源を切る

❹電源プラグをコンセントから抜く

録画・録音について

- 本機に接続した機器に録画･録音する際は、事前に試し録画･録音をして、正しくできることを確かめておいてください。
- 本機に接続した機器に録画・録音した内容の長期保存は保証できません。あくまでも一時的な保存・再生機能としてご使用ください。
- 著作権保護のため、コピーが禁止されている番組は録画をすることはできません。また、著作権保護のため、1回だけ録画が許された番組は、録画した番組をさらにコピーすることはできません。
- あなたが録画・録音したものは、個人的にまたは家庭内その他これに準ずる限られた範囲内で楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断では使用できません。録画・録音したものを個人的にまたは家庭内その他これに準ずる限られた範囲内で楽しむ以外に権利者の許諾なく、複製・改変したり、インターネットなどで送信・掲示したりすることは著作権法上禁止されています。以下の行為なども、原則として著作権法上保護された権利を侵害することになりますのでご注意ください。
  - 録画した番組を自分のホームページで見られるようにする。
  - 録画した番組をメールやメッセンジャーサービスなどで他の人に送る。
  - 番組を録画したビデオテープやディスクなどの媒体を営利の目的で、または不特定もしくは多数の人に貸す。

著作権法に違反すると刑事処罰を受ける場合もありますので自己責任の基でご利用ください。なお、著作権法違反によって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。

本機を廃棄、または他の人に譲渡するとき

- 「設定の初期化」91で、暗証番号や双方向サービスの情報(住所・氏名、ポイント数などの利用者個人の情報)なども含めて、初期化してください。
- **廃棄時にご注意ください**
  家電リサイクル法では、ご使用済の液晶テレビを廃棄する場合は、収集・運搬料金、再商品化等料金(リサイクル料金)をお支払いの上、対象品を販売店や市町村に適正に引き渡すことが求められています。

免責事項について

- 地震・雷などの自然災害、火災、第三者による行為、その他の事故、使用者の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用によって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品の使用または使用不能から生じる付随的な損害(事業利益の損害、事業の中断、視聴料金の損失など)に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 取扱説明書の記載内容を守らないことによって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本機に接続した機器に正しく記録(録画、録音など)できなかった内容または変化・消失した内容の補償、および付随的な損害に関して、当社は一切の責任を負いません。大切な番組の録画・録音には、本機との組み合わせによらない録画・録音機器を併用することをおすすめします。
- 他の接続機器との組み合わせによる誤動作や動作不能、誤操作などから生じた損害(録画機器などの故障、録画内容の変化・消失など)に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 誤操作や、静電気などのノイズによって本機に記憶されたデータなどが変化・消失することがあります。これらの場合について、当社は一切の責任を負いません。
- 故障・修理のときなどに、データ放送の双方向サービスなどで本機に記憶された利用者の登録情報やポイント情報などの一部あるいはすべてが変化・消失した場合の損害や不利益について、当社は責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

お手入れについて

⚠注意

■お手入れのときは、電源プラグをコンセントから抜く
感電の原因となることがあります。

お手入れの際のご注意

ベンジン・アルコールなどは使わない

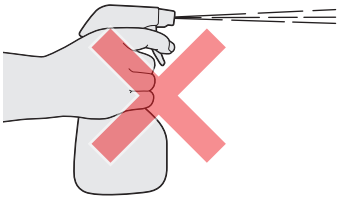
- ベンジン・アルコールなどの揮発性のもののほか、アセトンなどケトン類やキシレン、トルエンなどの溶剤は使わないでください。キャビネットや画面（液晶パネル）が溶けたり、破損したりするおそれがあります。
- クレンザーなど、研磨剤が含まれた洗剤は使わないでください。表面が傷つきます。

化学ぞうきんやウェットタイプのクリーニングクロス/クリーニングペーパーなどは使わない

- 含まれている成分によっては、キャビネットや画面の表面が溶けたり、破損したりするおそれがあります。

水やスプレータイプの洗剤などを直接かけない

- 洗剤などの液体がテレビの内部に垂れたり、しみこんだりすると、故障の原因になります。



ぬれた手でお手入れをしない

- ぬらした布などを絞ってお手入れをするときは、手についた水滴をよくふき取ってください。水滴がテレビの内部に垂れたり、しみこんだりすると、故障の原因になります。



画面のお手入れは特にやさしく

- 画面の表面は樹脂でできています。固い布や紙でふいたり、強くこすったりすると表面が傷つき、映像の品位が低下します。やさしくふくようにしてください。
- 画面の内面はガラスでできています。たたいたり、押したりして力を加えると、画面が割れてテレビが見られなくなってしまいます。やさしく取り扱ってください。

※ ふだん、小さなお子様などが画面に触れたり、たたいたりしないようにご注意ください。

キャビネットと画面のお手入れ

1 キャビネットや画面に付着しているゴミ、ホコリを払う

- 柄つきの柔らかいモップなどで、やさしく払ってください。

※ ゴミやホコリがついたままでふいたり、こすったりすると、表面が傷ついてしまいます。

2 乾いた脱脂綿または柔らかい布（綿、ガーゼなど）でやさしくふき取る

汚れが落ちにくいときは

- 水で1000倍程度に薄めた中性洗剤（中性洗剤1ミリリットルあたり1リットルの水で薄める）に脱脂綿または柔らかい布を浸してから固く絞り、汚れをやさしくふき取ってください。そのあと、乾いた脱脂綿または柔らかい布で水分をふき取ってください。



※ 手に水滴がついているときは、テレビに触れる前にふき取ってください。

※ 洗剤が濃いと画面などに残ってしまいます。その場合は、水だけで固く絞った脱脂綿または柔らかい布でやさしくふき取ってください。

※ 画面をぬらしたまま放置しないでください。吸湿劣化やシミの原因になることがあります。水分が残っているときは、乾いた脱脂綿または柔らかい布でやさしくふき取ってください。

仕様

種類		液晶テレビ	
形名		32S22H	43S22H
受信機型サイズ		32V	43V
電源		AC 100V 50/60Hz共用	
消費電力		52W 電源「待機」時0.4W、 電源「切」時0.4W、 (機能動作時8W)※1	74W 電源「待機」時0.4W、 電源「切」時0.4W、 (機能動作時8W)※1
年間消費電力量［標準］時		48kWh/年	66kWh/年
区分名		DN1 (FHD以外、液晶ノーマル、付加機能1)	DF1 (FHD、液晶ノーマル、付加機能1)
スタンドを含む外形寸法 ( )は本体のみ	幅	73.4(73.4) cm	97.0(97.0) cm
	高さ	46.6(44.0) cm	60.8(57.3) cm
	奥行	15.9(7.6) cm	21.3(7.7) cm
スタンドを含む質量 ( )は本体のみ		5.0(4.6) kg	8.0(7.9) kg
壁取付金具の取付寸法		幅20cm×高さ20cm、M6ネジ	幅20cm×高さ20cm、M6ネジ
液晶画面	画面寸法	幅69.8cm、高さ39.2cm、対角80.0cm	幅94.1cm、高さ52.9cm、対角108.0cm
	駆動方式	TFTアクティブマトリクス	
	画素数	水平1366×垂直768	水平1920×垂直1080
受信チャンネル		地上デジタル：VHF(1～12)、UHF(13～62)、CATV(C13～C63) BSデジタル：BS000～BS999、110度CSデジタル：CS000～CS999	
スピーカー		2.5cm×9.0cm 2個	
音声出力		実用最大出力 6W+6W (総合音声出力 12W)(JEITA)	実用最大出力 7W+7W (総合音声出力 14W)(JEITA)
入力・出力端子	HDMI入力1～2	HDMI（Lip Sync、ARC※2）	
	ビデオ入力	RCAピンジャック×3、 映像:1V（p-p）、75Ω、同期負 音声:200mV（rms）、22kΩ以上	
	USB(録画専用)端子	USB2.0	
	光デジタル音声出力	トスリンク	
	ヘッドホン／音声出力端子	口径3.5mmステレオミニジャック、音声出力：最大2V（rms）、2.2kΩ以下	
	LAN端子	RJ-45	
使用環境条件		温度：0℃～35℃、相対湿度：20%～80%（結露のないこと）	
付属品		「付属品を確認する」14をご覧ください。	

※1：電源「待機」時または電源「切」時に以下の動作をしているときの消費電力です。
- 番組情報などを取得しているとき

※2：ARC機能はHDMI入力1端子だけ対応しています。

- 意匠・仕様・ソフトウェアは製品改良のため予告なく変更する場合があります。
- 受信機型サイズは、有効画面の対角寸法を基準とした大きさの目安です。
- 本機を使用できるのは日本国内だけで、外国では放送方式、電源電圧が異なるため使用できません。
  (This television set is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.)
- 本商品は、ご愛用終了時に再資源化の一助としておもなプラスチック部品に材質名表示をしています。
- 本商品の改造は感電、火災などのおそれがありますので行わないでください。
- イラスト、画面表示などは、見やすくするために誇張や省略などで実際とは多少異なります。
- 省エネルギーのため長時間テレビを見ないときは電源プラグを抜いてください。
- 区分名：「エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)」では、テレビの画素数、表示素子、動画表示および付加機能の有無等に基づいた区分を行っています。その区分名称をいいます。

- 年間消費電力量：年間消費電力量とは、省エネ法に基づいて、1日あたり4.5時間の動作時間/19.5時間の待機時間（電子番組表取得時間を含む）で算出した、1年間に使用する電力量です。
- 「JIS C 61000-3-2 適合品」- JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性一第3-2部：限度値一高調波電流発生限度値（1相当たりの入力電流が20A以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。
- 液晶画面は非常に精密度の高い技術で作られており、微細な画素の集合で表示しています。99.99%以上の有効画素があり、ごく一部（0.01%以下）に光らない画素や、常時点灯する画素などがありますが、故障ではありませんので、ご了承ください。
- 静止画をしばらく表示したあとで映像内容が変わった時に、前の静止画が残像として見えることがありますが、自然に回復します。（故障ではありません。）

※ 国外で本品を使用して有料放送サービスを享受することは有料放送契約上禁止されています。
(It is strictly prohibited, as outlined in the subscription contract, for any party to receive the services of scrambled broadcasting through use of this television set in any country other than Japan and its geographic territory as defined by international Law.)

グリーンマークは、「JIS C0950電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法」（通常J-Moss）での、特定の化学物質の含有率が基準値以下であることを表すマークです。

USBハードディスクに録画できる時間の目安

- USBハードディスクで録画できる時間の目安は以下のようになります。

※ 「自動削除設定」が「削除する」に設定されている場合、約2時間分の録画領域を確保するために、録画できる時間が下表よりも少なくなることがあります。

例 1TBのハードディスクの場合

放送番組の種類	録画できる時間の目安
地上デジタルハイビジョン放送番組（HD 最大17Mbps）だけを録画する場合	約125時間
BS・110度CSデジタルハイビジョン放送番組（HD 最大24Mbps）だけを録画する場合	約88時間

- 放送番組の種類は、サブメニューを押し、▲·▼で「番組説明」を選び決定を押して番組説明画面に表示されるアイコンで確認することができます。
- ハードディスクの残量（録画設定画面に表示される「録画可能時間」および、録画リストのサブメニューの「ハードディスク残量表示」61ページ）は、BSデジタルハイビジョン放送（24Mbps）を基準に算出しています。そのため、地上デジタルハイビジョン放送（約17Mbps）の録画番組などを削除した場合、残量の増加分は削除した番組の時間よりも少なくなります。

対応機器について

- 接続できる機器については、ホームページで順次公開する予定です。（http://www.toshiba.co.jp/regza/）

さくいん

数字

1件ムーブ 65

アルファベット

A

ARC 66, 68, 74

B

Basic Operations 97
B-CASカードの確認 94
BS・110度CSアンテナ電源供給 84
BS・110度CSアンテナレベル 83

D

DNS設定 76
Dot By Dot 99

H

HDMI連動機能 70, 71
HDMI連動設定 71

I

IPアドレス設定 76

M

MPEG NR 79

P

PC 78

R

RGBレンジ設定 69

U

USBハードディスクが使用できない 130
USBハードディスクの設定をする 47
USBハードディスクを接続する 46
USBハードディスクを本機に登録する 47

かな

あ

アイコン一覧 96
あざやか 78
頭出し再生 57
暗証番号削除 90
暗証番号設定 90
アンテナを接続する 23
アンテナを調整する 83

い

色あい 79
色がおかしい 128
色の濃さ 79

う

上書き録画 54

え

映画字幕 99
映画 78
映像、音声、データを切り換える 41
映像が出ない 127
映像信号切換 41
映像モード 78
映像を静止させる 42
エラーメッセージ 133

お

オーディオ機器(サウンドシステム)で聴く 74
オーディオ用光デジタルケーブル 67
お好みの映像モードを選ぶ 78
お好みの音声に調整する 81
お知らせアイコンが何度も表示される 129
お知らせを見る 94
追っかけ再生 57
お手入れについて 137
音を一時的に消す 29
オフタイマーを使う 44
音声が出ない 128
音声信号切換 41
音多切換 41
音量を調節する 29

か

外部機器を接続する 66
外部スピーカー 43
外部スピーカー出力設定 82
外部入力 72
外部入力スキップ設定 69
外部入力設定 69
外部入力の機能を設定する 69
外部入力表示設定 69
各部のなまえ-前面 15
各部のなまえ-背面 15
各部のなまえ-リモコン 17
画面が暗い 128
画面サイズ切換 40
画面サイズについて 99, 100
乾電池を入れる 25
ガンマ調整 80

く

黒レベル 79

け

ゲイン調整 79
ゲーム 78

こ

降雨対応放送 40
高音 81
コントラスト 79
コントラスト感調整 80
こんな場合は故障ではありません 126

さ

再スキャン 85
再生タイムバー 59
再生中にできるリモコン操作 58
サウンドシステムスピーカー 71, 74
サウンドシステム連動 71

し

システムスタンバイ 70
視聴予約 51

指定した日時の番組表を表示させる....34
自動削除設定....62
自動スキャン....85
字幕を表示させる....29
シャープネス....79
週間番組表....34
仕様....138
省エネ設定をする....42
詳細設定....54
症状に合わせて解決法を調べる....126
消費電力....138
商標....101
初期スキャン....85
親切ヘッドホン音量....43
親切モード....42

す

ズーム....99
スピーカー切換....43, 74

せ

精細感・ノイズ調整....79
接続ケーブルの種類と画質・音質の関係....67
設定の初期化....91
設定メニュー 一覧....92

そ

操作ガイドについて....30
双方向サービス....39
ソフトウェアの自動ダウンロード....93
ソフトウェアのバージョン....93
ソフトウェアを更新する....93

た

対応機器について....139
ダイナミックNR....80
ダイナミックガンマ....80
ダイナミックバックライト制御....80

ち

地上デジタルアンテナレベル....83
地上デジタルチャンネルを自動で設定する....85
地上デジタル放送が映らない....128
地デジ表示....36
チャプター設定....49, 54
チャンネルスキップ設定....87
チャンネル設定の初期化....87
チャンネル並び順....36
チャンネルをお好みに手動で設定する....86

つ

追跡キーワード....54
追跡基準....54
通常モード....42
通信設定....76

て

低音....81
データ信号切換....41
データ放送終了....39
データ放送の設定をする....88
データ放送やラジオ放送を楽しむ....39
データ放送用メモリーの割当画面....89
デジタル音声出力....81
デジタル音声出力タイミング....82
デジタル放送の種類と特徴....23
テレビが操作できなくなったとき....126
テレビスピーカー....71
テレビ番組を楽しむ....28
テレビ→連動機器電源オフ....71
テレビを設置する....20
電源がはいらない....127
電源を入れる....26
転倒・落下防止のしかた....20

と

独立データ放送....39

に

日時を指定して予約をする....53
入力切換....72
入力文字一覧....95
入力文字種....95

ね

ネットワーク情報....77
年間消費電力量....138

の

ノーマル....99

は

「はじめての設定」....27
「はじめての設定」をやり直すとき....27
バックライト....79
早送り再生....58, 73
早見早聞....58
早戻し再生....58, 73
バランス....81
番組概要表示....36
番組検索....60
番組検索(番組を探す)....37
番組情報を見る....32
番組説明を見る....32
番組表....33
番組表-1チャンネル表示とマルチ表示....35
番組表-ジャンル色分け....35
番組表-週間番組表....34
番組表で予約をする....51
番組表-日時切換....34
番組表に内容が表示されない....129
番組表の文字が小さい....129
番組表-番組記号一覧....36
番組表-番組情報の取得....34
番組表-放送メディア切換....36
番組表-文字サイズ変更....35
番組表を更新する....34
番組表を便利に使う....34
番組を検索して録画・予約をする....53
番組を並べ替える....61

さくいん つづき

ひ
ピクチャーエンハンサー設定 79
ビデオ音声入力設定 69
表示チャンネル数 36
標準 78

ふ
ファインシネマ 80
複数ムーブ 65
付属品を確認する 14
フル 100
プロキシ設定 76

へ
ヘッドホン／音声出力設定 82
ヘッドホンモード 82
ヘッドホンで聴く 42

ほ
放送局からのお知らせ 94
放送時間（連動） 54
放送視聴制限設定 90
ボード 94
ほかのグループに移動する 64
ほかのレグザで再生できない（USBハードディスク） 131
保護 54, 62
本機に関するお知らせ 94
本機の特長 2
本機の入出力対応信号 67
本機のリモコンで対応機器を操作する 73
本機を廃棄、または他の人に譲渡するとき 136

ま
マイフォルダ 54
マイフォルダの変更 64
マイフォルダ別 63
マイフォルダ名の変更 63

み
ミニ番組表 34

む
ムーブ 65

め
免責事項について 136

も
文字切換 95
文字スーパー表示設定 88
文字を入力する 95

ゆ
優先スピーカー 71
郵便番号と地域の設定 88

よ
予約の確認 55
予約の動作 56
予約の取り消し 55
予約の変更 55
予約・録画の優先順位について 56

ら
ライセンス 101
ライブ 78
ラジオ放送 39

り
リピート再生 61
リモコンで操作ができない 127
リモコンで番組を選ぶ 28
リモコン動作モード 71
リモコンの準備をする 25
リモコンの使用範囲について 25

れ
レジューム再生 57
連続ドラマを予約する 52
連動機器→テレビ電源 71
連動機器→テレビ入力切換 71
連動データ放送 39
連ドラ 54
連ドラグループ名の変更 63
連ドラ予約 52

ろ
録画ができない、または録画されなかった 130
録画基本設定 49
録画再生設定 49, 58
録画先 54
録画した番組が消えた 130
録画した番組を再生する 57
録画できる機器と番組 45
録画できる時間の目安 139
録画番組の修復 59
録画番組を消す 62
録画番組を保護する 62
録画予約 51
録画・予約機能について 45
録画・録音について 136
録画を中止するとき 50

わ
ワイド 99
ワンタッチスキップ 58
ワンタッチスキップ設定 58
ワンタッチプレイ 70
ワンタッチリプレイ 58
ワンタッチリプレイ設定 58

保証とアフターサービス

必ずお読みください

❶ 基本的な取扱方法、故障と思われる場合のご確認

ホームページの<お客様サポート>に、ご確認いただきたい情報を掲載しておりますので、ご覧ください。

http://www.toshiba.co.jp/regza/support/index.html

※上記のアドレスは予告なく変更される場合があります。
その場合は、お手数ですが、東芝総合ホームページ（http://www.toshiba.co.jp/）をご参照ください。

❷ 商品選びのご相談、お買い上げ後の基本的な取扱方法、故障と思われる場合のご相談

「東芝テレビご相談センター」

メモ　形名　　製造番号

形名と製造番号は、保証書および本体背面に表示されています。

【一般回線・PHSからのご利用は】（通話料：無料）
フリーダイヤル 0120-97（クナン）-9674（クローナシ）

●IP電話などでフリーダイヤルサービスをご利用になれない場合は、
03-6830-1048（通話料：有料）

【携帯電話からのご利用は】（通話料：有料）
ナビダイヤル 0570-05-5100

【FAXからのご利用は】（通信料：有料）
03-3258-0470

- お客様からご提供いただいた個人情報は、修理やご相談への回答、カタログ発送などの情報提供に利用いたします。
- 利用目的の範囲内で、当該製品に関連する当社グループ会社、東芝家電製品関連各社や協力会社にお客様の個人情報を提供する場合があります。

修理・お取り扱いについてご不明な点は

お買い上げの販売店または、「東芝テレビご相談センター」（上記）にご相談ください。

保証期間（ご購入後一年間）を過ぎた故障で、販売店の延長保証に加入されている場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

保証書（別添）

●保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。

保証期間……お買い上げの日から1年間です。
miniB-CASカードは、保証の対象から除きます。

●保証期間中の故障は、保証書の内容に基づき無料修理となります。無償商品交換ではありません。
●訪問修理を依頼され、テレビに原因がないと判明した場合は、保証期間中であっても出張料などを申し受けますので、あらかじめご承知おきください。

補修用性能部品の保有期間

●液晶テレビの補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後8年です。ただし、場合により、補修に代えて補修額に相当する金額にて他のテレビに交換をお願いする場合がありますので、ご了承願います。
●補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

部品について

●修理のために取りはずした部品は、特段のお申し出がない場合は当社で引き取らせていただきます。
●修理の際、当社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。

修理を依頼されるときは～出張修理

●「困ったときには」に従って調べていただき、なお異常があるときは本体の電源を切り、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げ日と下記の内容をご連絡ください。

■保証期間中は

修理に関しては保証書をご覧ください。保証書の規定に従って修理させていただきます。

■保証期間が過ぎているとき

修理すれば使用できる場合には、ご希望によって有料で修理させていただきます。

■修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。	
技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の料金です。

■ご連絡いただきたい内容

品名	液晶テレビ
形名	32S22H、43S22H
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所 お名前	付近の目印等もあわせてお知らせください。
電話番号	
訪問ご希望日	
お買い上げ店名	おぼえのため、ご購入年月日、ご購入店名を記入しておくと便利です。 TEL（　　）　　—

❶ 基本的な取扱方法、故障と思われる場合のご確認

ホームページの<お客様サポート>に、ご確認いただきたい情報を掲載しておりますので、ご覧ください。

http://www.toshiba.co.jp/regza/support/index.html

※上記のアドレスは予告なく変更される場合があります。
その場合は、お手数ですが、東芝総合ホームページ（http://www.toshiba.co.jp/）をご参照ください。

❷ 商品選びのご相談、お買い上げ後の基本的な取扱方法、故障と思われる場合のご相談

「東芝テレビご相談センター」

メモ　形名　　製造番号

形名と製造番号は、保証書および本体背面に表示されています。

【一般回線・PHSからのご利用は】（通話料：無料）
フリーダイヤル 0120-97-9674（クナン　クローナシ）

●IP電話などでフリーダイヤルサービスをご利用になれない場合は、
03-6830-1048（通話料：有料）

【携帯電話からのご利用は】（通話料：有料）
ナビダイヤル 0570-05-5100

【FAXからのご利用は】（通信料：有料）
03-3258-0470

- お客様からご提供いただいた個人情報は、修理やご相談への回答、カタログ発送などの情報提供に利用いたします。
- 利用目的の範囲内で、当該製品に関連する当社グループ会社、東芝家電製品関連各社や協力会社にお客様の個人情報を提供する場合があります。

廃棄時にご注意願います

●家電リサイクル法では、ご使用済の液晶テレビを廃棄する場合は、収集・運搬料金、再商品化等料金（リサイクル料金）をお支払いの上、対象品を販売店や市町村に適正に引き渡すことが求められています。

愛情点検

長年ご使用のテレビの点検をぜひ！　熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合いによって部品が劣化し、故障したり、ときには安全性を損なって事故につながったりすることもあります。

ご使用の際このような症状はありませんか?

- ●電源を入れても映像や音が出ない。
- ●映像が時々、消えることがある。
- ●変なにおいがしたり、煙が出たりする。
- ●電源を切っても、映像や音が消えない。
- ●内部に水や異物がはいった。

ご使用中止　このような場合、故障や事故防止のため、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、必ずお買い上げの販売店に点検・修理をご相談ください。
ご自分での修理は危険ですので、絶対にしないでください。

東芝映像ソリューション株式会社
〒212−0058　神奈川県川崎市幸区鹿島田1−1−2
※所在地は変更になることがありますのでご了承ください。

●製品に付属されている取扱説明書はモノクロ印刷です。

TV/O RSAG2.025.5973SS A

© TOSHIBA VISUAL SOLUTIONS CORPORATION 2018